茨城県教育財団文化財調査報告第395集

新田遺跡
上原遺跡
殿山塚

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

平成27年3月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第395集

新田遺跡
上原遺跡
殿山遺跡

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第395集

新田遺跡
上原遺跡
殿山塚

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

平成27年3月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

国土交通省では，安全・環境・活力の三つを基本方針に，「信頼感ある安全で安心できる国土の形成」「自然と調和した健康な暮らしと健全な環境の創設」「個性あふれる活力ある地域社会の形成」を目指し各種政策を展開しています。

その一環として，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所は，茨城県猿島郡五霞町において，首都圏並びに地域住民の生命と財産を守ることを目的として，首都圏氾濫区域堤防強化対策事業を計画しました。しかしながら，その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である新田遺跡，上原遺跡，殿山塚が所在し，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から委託を受け，平成25年4月から10月までの7か月間にわたり新田遺跡，上原遺跡，殿山塚の発掘調査を実施しました。

本書は，新田遺跡，上原遺跡，殿山塚の調査成果を収録したもので，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，五霞町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成27年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長　鈴木欣一

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成25年度に発掘調査を実施した，茨城県猿島郡五霞町大字山王山字新田361－1番地ほかに所在する新田遺跡，茨城県猿島郡五霞町大字小手指字上原2141－1番地ほかに所在する上原遺跡，茨城県猿島郡五霞町大字大福田字殿山837－1番地ほかに所在する殿山塚の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成25年4月1日～10月31日

整理　平成26年8月1日～平成27年3月31日

3　発掘調査は，調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　酒井　雄一

調　　査　　員　　江原美奈子

調　　査　　員　　佐藤　一也

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長後藤一成のもと，調査員佐藤一也が担当した。

5　本書の作成にあたり，上原遺跡の粘土貼土坑の寄生虫卵分析及びリン酸・カルシウム分析，新田遺跡の堀跡の火山灰分析については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し，考察は付章として巻末に掲載した。上原遺跡の第1号掘込地業遺構から出土した鎌と不明鉄製品，及び第115号土坑から出土した銭貨の保存処理については武蔵野文化財修復研究所に，殿山塚の塚から出土した銭貨の保存処理についてはパリノ・サーヴェイ株式会社にそれぞれ委託した。

凡　　例

1　各遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，新田遺跡はX＝＋12,320 m，Y＝－6,360 mの交点を，上原遺跡はX＝＋14,320 m，Y＝－8,800 mの交点を，殿山塚はX＝＋14,000 m，Y＝－7,640 mの交点をそれぞれ基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　HG－整地層　PG－ピット群　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SE－井戸跡　SI－竪穴建物跡　SK－土坑　SN－粘土採土坑　TM－木塚・塚　UP－竈下式坑

遺物　DP－土製品　M－金属製品　Q－石器・石製品　TP－拓本記録土器

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・貝層範囲　炉　粘土・炭化物範囲　柱痕跡・柱あたり・煤

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　－－－－－硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

新田遺跡　変更　SD 7→第1号掘跡　SK 3→SN 8　SK 4→SN 7　SK16→SN 2　SK26→SN 3　SK46・55→第4号方形竪穴遺構　SK49・56→第6号方形竪穴遺構　SK58・111→第8号方形竪穴遺構　SK61・73→第7号方形竪穴遺構　SK68→第5号方形竪穴遺構　SK92・112→第2号方形竪穴遺構　SK113・114→UP 1　SK115→第1号方形竪穴遺構　SK121→SN 6　SK137→第3号方形竪穴遺構　焼土跡1・2→SB 1・SB 2　焼土跡3→炉跡1　焼土跡4→SK216　焼土跡5→炉跡2

欠番　SD 1，SK11・27～30・32～34・37・43・50・51・87・95・96・107・130・138・141・154～156・158・159・169・172・182・186・203・209・214，SN 1・4・5・9・10

上原遺跡　変更　SK88→SN 1　SK87→SN 2　SK110→SN 4　SK111→SN 5　SK133→SN 6　SK141→SN 7　SK153→SE 1　SX 1→第1号掘込地業遺構

欠番　SK15・40，SN 3，PG 2

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
新田遺跡，上原遺跡，殿山塚の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 4
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　位置と地形 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　新田遺跡 …… 13
　第１節　調査の概要 …… 13
　第２節　基本層序 …… 13
　第３節　遺構と遺物 …… 14
　　１　室町時代の遺構と遺物 …… 14
　　(1)　方形竪穴遺構 …… 14
　　(2)　地下式坑 …… 22
　　(3)　堀跡 …… 27
　　２　江戸時代の遺構と遺物 …… 30
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 30
　　(2)　井戸跡 …… 35
　　(3)　水塚 …… 38
　　(4)　炉跡 …… 45
　　(5)　粘土貼土坑 …… 46
　　(6)　土坑 …… 50
　　(7)　溝跡 …… 80
　　(8)　整地層 …… 84
　　３　その他の遺構と遺物 …… 86
　　(1)　土坑 …… 86
　　(2)　溝跡 …… 89
　　(3)　ピット群 …… 90
　第４節　まとめ …… 95
第４章　上原遺跡 …… 103
　第１節　調査の概要 …… 103
　第２節　基本層序 …… 103

第３節　遺構と遺物 …… 104
1　縄文時代の遺構と遺物 …… 104
(1)　竪穴建物跡 …… 104
(2)　土坑 …… 112
2　江戸時代の遺構と遺物 …… 124
(1)　掘立柱建物跡 …… 124
(2)　井戸跡 …… 128
(3)　掘込地業遺構 …… 130
(4)　粘土貼土坑 …… 134
(5)　土坑 …… 139
(6)　溝跡 …… 142
3　その他の遺構と遺物 …… 146
(1)　土坑 …… 146
(2)　溝跡 …… 155
(3)　ピット群 …… 157
(4)　遺構外出土遺物 …… 159
第４節　まとめ …… 161
第５章　殿山塚 …… 165
第１節　調査の概要 …… 165
第２節　基本層序 …… 165
第３節　遺構と遺物 …… 166
1　江戸時代の遺構と遺物 …… 166
(1)　塚 …… 166
(2)　土坑 …… 172
(3)　溝跡 …… 173
2　その他の遺構と遺物 …… 174
遺構外出土遺物 …… 174
第４節　まとめ …… 175
付　章 …… 177
写真図版 …… PL 1 ～ PL20
抄　録

新田遺跡，上原遺跡，殿山塚の概要

遺跡の位置と調査の目的

新田遺跡，上原遺跡，殿山塚は，五霞町の北東部に位置し，利根川右岸の標高 11 ～ 13 mの台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，茨城県教育財団が平成 25 年度に発掘調査を行いました。

1　新田遺跡の調査と成果

今回の調査により，室町時代の方形竪穴遺構８基，地下式坑３基，堀跡１条，江戸時代の掘立柱建物跡２棟，井戸跡３基，水塚１基，炉跡２基，粘土貼土坑５基，土坑 121 基，溝跡４条，整地層１か所などを確認しました。江戸時代の掘立柱建物跡の柱穴や土坑からは，瀬戸・美濃産の陶器碗や肥前産の磁器皿など，様々な産地の食器が多量に出土しました。

新田遺跡で確認できた江戸時代の掘立柱建物跡と水塚

水塚とは，土盛りをした上に上屋を建てる江戸時代から近代にかけての利根川流域における特徴的な構築物で，利根川の氾濫の際の避難場所となります。今回確認できた水塚は土盛り部分で，黒色土や黄色土を約２mの高さに積み上げている状況が確認できました。出土遺物から，水塚は江戸時代後半には築かれ，その後の昭和時代に至るまで緊急避難場所として使用されていたようです。

今回の調査によって，水害の多い地域での先人達の知恵を垣間見ることができました。

２　上原遺跡の調査と成果

今回の調査で，縄文時代中期の竪穴建物跡５棟，土坑13基，江戸時代の掘立柱建物跡３棟，井戸跡２基，掘込地業遺構１基，粘土貼土坑６基，溝跡４条などを確認しました。縄文時代の竪穴建物跡や周囲の貯蔵用と考えられる土坑からは，狩猟で使われた石鏃のほか，煮炊き用の深鉢が見つかっています。

掘込地業遺構では，地鎮具である輪宝墨書土器が出土しました。仏教の法具である輪宝は，土師質土器小皿の内面に墨で描かれており，その性格から埋納されたものと考えられます。これにより，江戸時代における地鎮祭（とこしずめのまつり）の方法の一端について，知ることができました。

３　殿山塚の調査と成果

今回の調査により，江戸時代の塚１基のほか，土坑９基や溝跡１条を確認しました。塚からは，40枚ほどの寛永通寶を紐で結んだ緡銭が出土しました。

確認できた塚は，昔の堤防の斜面地の上に築かれていることがわかりました。緡銭は，その出土状況から塚が築かれる直前に置かれたものと考えられ，塚を築く際の儀式に使われた可能性があります。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成16年12月15日，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成17年2月28日に現地踏査を実施し，新田遺跡は平成24年6月20日及び7月11日に，上原遺跡は平成24年1月5・10・11・27・31日に，殿山塚は平成24年11月9日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。

茨城県教育委員会教育長は，新田遺跡については平成24年7月23日に，上原遺跡については平成24年2月28日に，殿山塚については平成24年11月22日に，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに，事業地内に遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

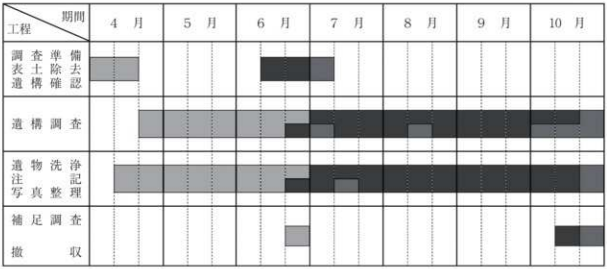
平成25年1月7日，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第94条に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成25年1月30日，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成25年2月15日，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに，首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成25年2月20日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに，新田遺跡，上原遺跡，殿山塚について発掘調査の範囲及び面積について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，上原遺跡は平成25年4月1日から6月30日まで，新田遺跡及び殿山塚は平成25年7月1日から10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調 査 経 過

新田遺跡，上原遺跡，殿山塚の調査は，平成25年4月1日から10月31日までの7か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

新田遺跡は茨城県猿島郡五霞町大字山王山字新田 361 － 1 番地ほか，上原遺跡は茨城県猿島郡五霞町大字小手指字上原 2141 － 1 番地ほか，殿山塚は茨城県猿島郡五霞町大字大福田字殿山 837 － 1 番地ほかの，五霞町北部から東部にかけてそれぞれ所在している。

五霞町は，茨城県南西部の利根川以南に位置しており，北を利根川，東を江戸川，西から南にかけて権現堂川によって南北約 4.3km，東西約 5.0kmに区画されている。当町の地形は，利根川及び中・小河川によって開析された低地と，五霞台地と呼ばれる低位段丘群（低台地）によって構成されており，町内の最高標高は 17.5 m，最低標高 9 mで，平均標高は約 12 mである。

利根川流域に広がる低台地は，地質的には新生代第四紀沖積層が中心で，約 1 万年以降までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また，この沖積層の下には第四紀洪積層（奥東京湾時代）後期に形成された洪積層が堆積しており，下層から竜ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層に分層される[1]。

利根川左岸は，利根川支流によって開析された谷津が広がり，谷津から洪積層の低台地にかけて遺跡が存在し，当遺跡群もこの低台地上に立地している。

当遺跡群の現況は，宅地・雑種地である。

第2節　歴　史　的　環　境

新田遺跡，上原遺跡，殿山塚周辺には，大小の河川，低地，低台地と変化に富んだ自然環境の中で昔から人々が生活を営み，その痕跡が数多くの遺跡として残っている。ここでは，本報告の 3 遺跡に関連する縄文時代，及び中近世の遺跡を中心に概観する。

縄文時代では，五霞町南東部の山王浦（さんのうらん）B 遺跡[2] で前期の竪穴建物跡 5 棟，釈迦新田（しゃかしんでん）遺跡[3]〈9〉で中期後葉の竪穴建物跡 2 棟と土坑 2 基がそれぞれ調査されている。また，上原遺跡から西へ 2 kmほどのところに所在する宿北（しゅくきた）遺跡では前期から後期の集落跡が，近接する宿東（しゅくひが）遺跡〈23〉では前期の集落跡がそれぞれ調査されている[4]。縄文時代の人骨が出土したことで知られる冬木（ふゆき）A 貝塚〈59〉では，後期の竪穴建物跡 29 棟，冬木（ふゆき）B 貝塚〈56〉でも後期から晩期にかけての竪穴建物跡 10 棟が，それぞれ調査されている[5]。石畑（いしばた）遺跡[6]〈76〉では，前期から晩期の竪穴建物跡が調査され，縄文土器のほか，土偶や土版などの土製品が出土している。また，土塔（ど）貝塚（江川（えがわ）貝塚）〈53〉と五霞町南東部の瀬沼（せぬま）遺跡では，土塔貝塚で 49 棟の竪穴建物跡，瀬沼遺跡で 1 棟の竪穴建物跡がそれぞれ調査され，土塔貝塚の竪穴建物跡 1 棟の建物内には貝を廃棄した地点貝塚が確認されている[7]。新田遺跡から北東へ 2.7kmほどの利根川左岸での境町本田（ほんでん）遺跡[8] では，後期から晩期の竪穴建物跡群や遺物包含層が確認され，当期の拠点的集落として注目されている。

中世には，当遺跡周辺では古河公方足利氏と関連のある城館が設けられる。河川に囲まれたこの地域を治める重要性は高く，古河市（旧総和町）には簗田氏一族の城下である水海城跡（みずうみじょうあと）〈35〉，五霞町には野田氏の居城であった城山城跡（しろやまじょうあと）（栗橋城跡（くりはしじょうあと））〈66〉，千葉県野田市には簗田氏嫡流家の居城として発展した関宿城跡（せきやどじょうあと），埼玉県幸手市には，一色氏と考えられている陣屋（じんや）（幸手市№ 3 遺跡）などが知られている。また，新田遺跡を含む五

霞町北東部に所在する山王山では，永禄11年（1568年）の関宿合戦の際に北条氏照による砦が築かれ，上原遺跡を含む五霞町北部に所在する小手指では，16世紀後葉に関宿と古河を結ぶ陸路の要所としての新宿が設置されていたことが，それぞれ古文書などから明らかとなっている[9]。他に城館跡の存在を伺わせる遺跡として，羽黒遺跡[10]〈30〉では15世紀初頭を下限とする堀跡1条が，宿北遺跡[11]では16世紀前葉に一度埋没し，17世紀後半に完全に埋没した堀跡1条が確認されている。羽黒遺跡[12]では他に，中世以降の方形竪穴遺構から河川工事の工事分担を示した表示札と考えられる木簡が出土し，宿北遺跡[13]では火葬施設3基，地下式坑5基，井戸跡2基が見つかっている。他に五霞町内での中世の遺構が確認された遺跡として，釈迦新田遺跡[14]で火葬施設4基や方形竪穴遺構8基，井戸跡12基などが，石畑遺跡[15]では方形竪穴遺構14基や墓坑1基，井戸跡7基などが見つかっており，集落以外に墓域としても利用されていたことが明らかとなっている。また，殿山塚から北に4kmほどに位置する旧総和町香取東遺跡[16]で中世から近世初頭の墓坑と考えられる土坑群が，新田遺跡から南に2.6kmほどに位置する瀬沼遺跡[17]で骨片や銭貨が出土した墓坑11基や火葬施設41基が，新田遺跡から南に1.5kmほどに位置する桜井前遺跡[18]で火葬施設4基や方形竪穴遺構9基，地下式坑4基などがそれぞれ確認されており，近年の調査によって中世の集落跡や墓域が次第に明らかになってきている。

江戸時代初頭には，江戸幕府による「利根川東遷」と呼ばれる大規模な河川改修事業が始まり，それまでは東京湾に注いでいた利根川の本流を，銚子へと流す河川の付け替え工事が行われた。まず，文禄三年（1594年）に，古利根川筋を下り東京湾に注いでいた「会の川」を締め切り，その後の元和7年（1621年）に浅間川と渡良瀬川とを結ぶ新川通と，渡良瀬川と常陸川とを結ぶ赤堀川が相次いで開削されることにより常陸川へと連結し，さらにその後の寛永18年（1641年）に関宿を分岐点として利根川から東京湾に注ぐ江戸川の流路が開削されている[19]。なお，新田遺跡・上原遺跡・殿山塚と接する五霞町北部から北東部の利根川は，旧赤堀川である。これにより，利根川の氾濫による江戸への災害を防ぐと共に，奥州から鬼怒川を下り，さらに利根川や江戸川を下って江戸へ至る流通ルートが成立した。また，結城と関宿を結ぶ街道の渡し場として始まった境河岸は，寛永年間に大きく繁栄し，江戸と各河岸とを結ぶ中継河岸として重要な役割を担い，河岸町として河岸問屋や旅籠屋が建てられていた[20]。

江戸時代の遺跡としては，五霞町北部の宿東遺跡[21]で17世紀前半と考えられる掘立柱建物跡2棟が確認され，近くの寺山遺跡では江戸時代後期の利根川氾濫によって埋没した道路跡1条が見つかっている。また，釈迦新田遺跡[22]では利根川への排水路と想定される堀跡1条が見つかっており，利根川と関連する遺構が散見される。新田遺跡の北西500mほどの同所新田遺跡[23]〈45〉では，18世紀後半と考えられる掘立柱建物跡4棟と19世紀前半と考えられる掘立柱建物跡3棟，19世紀後半と考えられる掘立柱建物跡1棟がそれぞれ確認され，江戸時代後半を通して人々が住んでいたことが伺える。また，多量の陶磁器とともに羽口や椀形鍛冶滓が出土した18世紀後半の鉄生産関連遺構1基が確認されている。これについては，遺跡内から多量の釘が出土し，古文書に古鉄紙屑買商を営む者の存在が記されていることなどから，鉄製品の補修や廃材を再加工する工人集団の存在が想定されている。ほかに，廃棄土坑としても使用された「まいまいず井戸跡」1基が確認されるなど，江戸時代の様々な遺構について調査が行われている。五霞町南東部に位置する瀬沼遺跡[24]では，19世紀代の運河跡が見つかっている。五霞町外では，境町本田遺跡[25]で2棟の掘立柱建物跡や18世紀代の道路跡のほか，板材と半割竹材による枠を残した井戸跡が確認され，古河市（旧総和町）の釈迦才仏遺跡[26]では銭貨や焙烙が出土した塚1基が確認されている。

註

1）成島一也 「石畑遺跡 12号単道改第12－03－261－0－052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第192集 2002年3月

2）佐々木守・小村正之 「山王浦B遺跡 町道55号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」五霞町教育委員会 2003年9月

3）坂本勝彦 「釈迦新田遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第352集 2012年3月

4）近江屋成陽 「宿北遺跡 宿東遺跡 寺山遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第383集 2014年3月

5）高村勇 根本康弘 「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 冬木A貝塚・冬木B貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅸ 1981年3月

6）a 瓦吹堅・橋本勉・藤原均 「石畑遺跡 －Ⅰ地区発掘調査報告－」茨城県猿島郡五霞村教育委員会 1977年3月

b 註1に同じ

7）須藤正美 「土塔貝塚 瀬沼遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第289集 2008年3月

8）江原美奈子・大関武 「本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第313集 2009年3月

9）五霞町史編さん委員会 『町史 五霞の生活史 水と五霞』 2010年3月

10）五十嵐隆・藤田実・村上慈朗 「羽黒・日下部遺跡発掘調査報告書」羽黒・日下部遺跡発掘調査団 1999年2月

11）註3に同じ

12）駒澤悦郎 「羽黒遺跡 一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集 2003年3月

13）註4に同じ

14）註3に同じ

15）註1に同じ

16）郡山雅友・奥山和久・松井泉・石井亜也子・本山洋子・山村貴輝・檜山智 「茨城県猿島郡総和町 都市計画道路東牛谷・釈迦線道路（町道9号線）改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 香取東遺跡・釈迦才仏遺跡」 2001年3月

17）本橋弘巳 「同所新田遺跡2 瀬沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集 2009年3月

18）桑村裕 「桜井前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第288集 2008年3月

19）千葉県立関宿城博物館 「千葉県立関宿城博物館 常設展示図録」 1996年3月

20）境町史編さん委員会 「下総 境の生活史 図説・境の歴史」 2005年3月

21）註4に同じ

22）註3に同じ

23）a 桑村裕 「清水遺跡 同所新田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第290集 2008年3月

b 註16に同じ

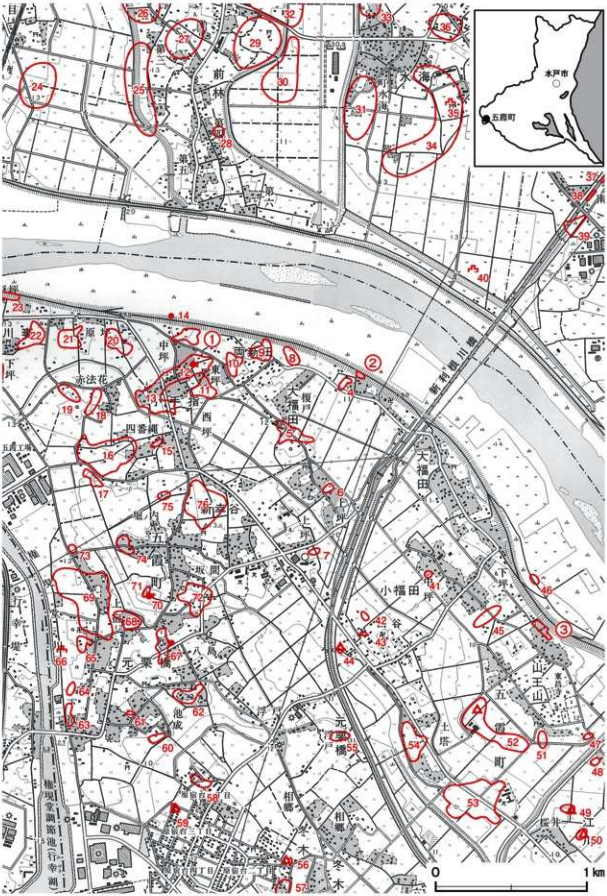
24）註17に同じ

25）註8に同じ

26）川津法伸 「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡・釈迦才仏遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第131集 1998年3月

参考文献

・総和町史編さん委員会 「総和町史 通史編 原始・古代・中世」 2005年7月



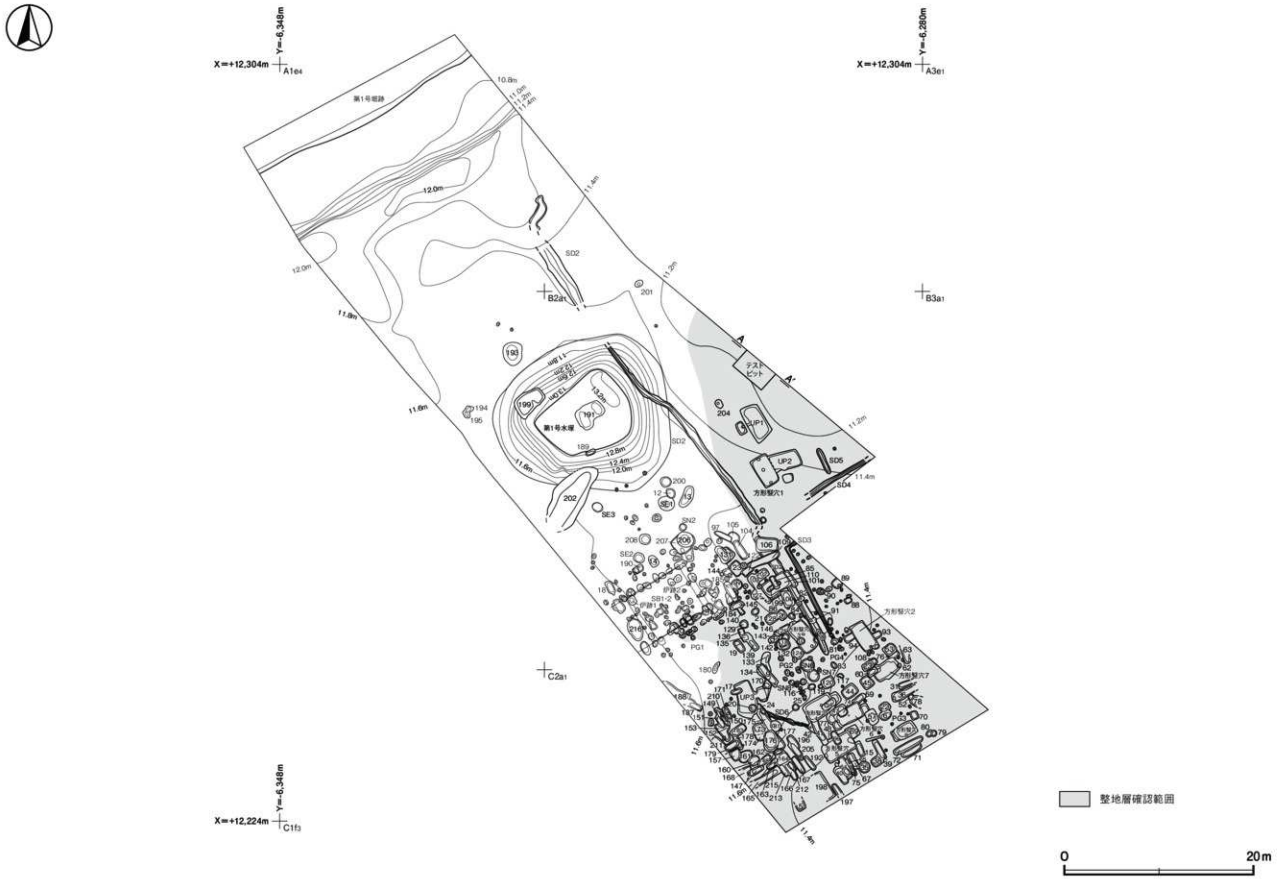
第 1 図　新田遺跡・上原遺跡・殿山塚周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「水海道」「鴻巣」）

表1　新田遺跡・上原遺跡・殿山塚周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	上原遺跡		○					○
②	殿山塚							○
③	新田遺跡		○				○	○
4	殿山遺跡		○		○			○
5	稲荷原遺跡		○					
6	東中村遺跡		○					
7	福田遺跡		○					
8	榎戸遺跡		○					
9	釈迦新田遺跡		○				○	○
10	元宿遺跡		○			○		
11	台遺跡		○		○	○	○	
12	伊勢塚古墳				○			
13	小手指上宿		○			○		
14	上原古墳				○			
15	小手指下宿		○		○			
16	小手指貝塚		○					
17	内肥土遺跡		○					
18	赤法花遺跡		○					
19	新久遺跡		○					
20	寺山遺跡		○		○			○
21	大崎遺跡		○					○
22	大崎穴薬師遺跡		○					○
23	宿東遺跡		○				○	○
24	出口南貝塚		○					
25	小台山遺跡		○	○	○	○		
26	磯ノ井遺跡		○		○	○		
27	大道北遺跡				○	○		
28	台古墳群				○			
29	笹山遺跡		○	○	○	○		
30	羽黒遺跡		○		○	○	○	
31	三島前遺跡			○	○	○		
32	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	
33	住吉遺跡		○		○	○		
34	神明西遺跡				○	○		
35	水海城遺跡					○	○	
36	白山台遺跡				○	○		
37	南坪B遺跡		○					○
38	南坪A遺跡		○		○	○		

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
39	南坪遺跡		○		○	○		
40	伝水海城跡						○	
41	西上手遺跡							○
42	八幡西遺跡		○					
43	土塔塚遺跡						○	
44	診療所前貝塚		○					
45	同所新田遺跡		○		○	○	○	○
46	原山遺跡		○					
47	前原遺跡		○					
48	勘座下遺跡		○					
49	川岸貝塚		○					
50	桜井貝塚		○					
51	西新畑遺跡		○					○
52	山王山貝塚		○					
53	土塔貝塚（江川貝塚）	○	○			○		
54	土塔遺跡		○					
55	浮戸遺跡		○					
56	冬木B貝塚		○					
57	殿の内遺跡		○		○			
58	丸池台遺跡		○					
59	冬木A貝塚		○					
60	池成遺跡		○			○		
61	池成塚		○		○		○	
62	田端遺跡					○	○	
63	元栗橋下宿遺跡		○		○	○		○
64	仲町遺跡				○	○		
65	城山遺跡					○		
66	城山城跡						○	
67	三島神社古墳				○			
68	切通遺跡		○		○			
69	上船戸遺跡		○		○	○		
70	瘝泉塚古墳				○			
71	坂間遺跡		○		○	○		
72	橋向遺跡		○			○	○	
73	古樋遺跡		○		○	○	○	
74	堀の内遺跡						○	
75	猪塚遺跡		○					
76	石畑遺跡		○					

第２図　新田遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の１から作成）



第3図　新田遺跡遺構全体図

第3章　新　田　遺　跡

第1節 調 査 の 概 要

新田遺跡は，猿島郡五霞町の東部に位置し，利根川右岸の標高約11ｍの台地上に立地している。調査面積は2,461㎡で，調査前の現況は宅地・雑種地である。調査区の北東方面は，利根川によって分断された台地が広がっており，中世での集落が展開していたものと考えられる。

調査の結果，掘立柱建物跡２棟（江戸時代），井戸跡３基（江戸時代），水塚１基（江戸時代），方形竪穴遺構８基（室町時代），地下式坑３基（室町時代），炉跡２基（江戸時代），粘土貼土坑５基（江戸時代），土坑165基（江戸時代121・時期不明44），堀跡１条（室町時代），溝跡５条（江戸時代４・時期不明１），ピット群４か所（時期不明），整地層１か所（江戸時代）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に26箱出土している。主な遺物は，土師質土器（小皿・焙烙），瓦質土器（焙烙），陶器（小坏・天目茶碗・灯明皿・擂鉢・片口鉢・中瓶・土瓶・甕），磁器（中碗・擂鉢・小皿・土瓶・仏飯器・紅猪口），青磁（碗・花瓶），石器（砥石），金属製品（釘・煙管・銭貨・包丁・釣針）などである。

第2節 基 本 層 序

調査区中央部（Ｂ２b6区）の台地平坦部にテストピットを設定し，基本土層（第４図）の観察を行った。

第１層は，黒褐色を呈する表土層で，層厚は９～17cmである。

第２層は，灰白色を呈する江戸時代の整地層である。粘土ブロックを多量，焼土ブロックを少量含み，締まりが強く，層厚は９～24cmである。

第３層は，暗褐色を呈する旧表土層である。炭化粒子を少量含み，層厚は７～26cmである。

第４層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は11～34cmである。

第５層は，褐色を呈するハードローム層との漸移層である。粘性・締まりともに強く，層厚は21～41cmである。

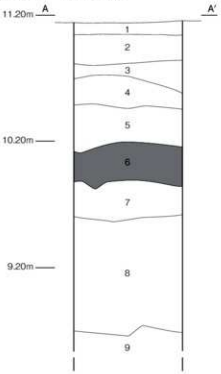
第６層は，暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は24～36cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第７層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は24～31cmである。

第８層は，黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は85～91cmである。

第９層は，明黄褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘土粒子を少量含み，粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため，層厚は不明である。

江戸時代の一部の遺構は第２層上面で確認でき，他の江戸時代及び中世の遺構は第４層上面で確認している。



第４図　基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

1　室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，方形竪穴遺構８基，地下式坑３基，堀跡１条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　方形竪穴遺構

第１号方形竪穴遺構（第５図）

位置　調査区中央部のＢ２e6区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第２号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.22ｍ，短軸1.92ｍの長方形で，長軸方向はＮ－30°－Ｗである。壁は高さ57～60cmで，直立している。東コーナー部に幅53cm，奥行き77cmほどの，長方形に地山を掘り残した部分があり，出入り口施設の足場と考えられる。

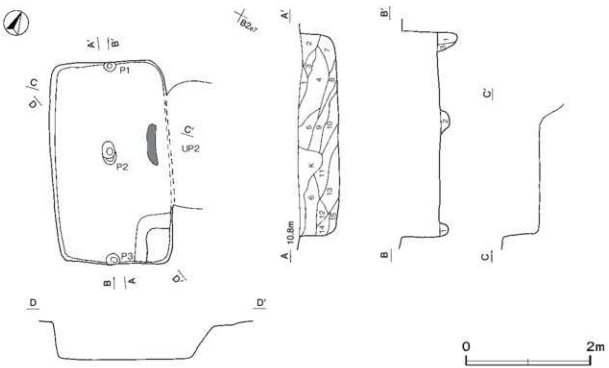
床　平坦である。北東壁際で炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲を確認した。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ14～33cmで，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。第１・２層は柱抜き取り後の堆積層で，第３層は掘方への埋土である。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

覆土　15層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。



第５図　第１号方形竪穴遺構実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
8　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子中量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
11　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　礫1点が出土している。

所見　時期は，伴う土器が出土していないが，重複関係及び遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。

第２号方形竪穴遺構（第６図）

位置　調査区南東部のＢ２i9区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

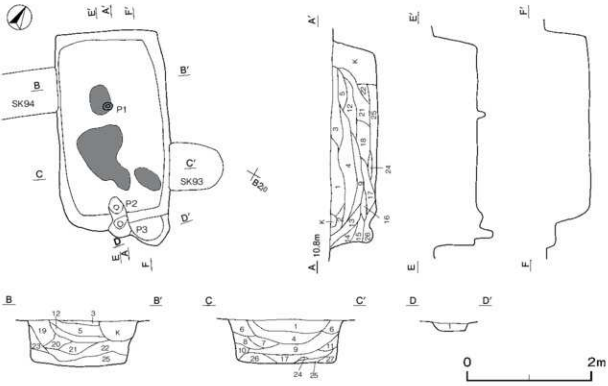
重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第93・94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.19ｍ，短軸1.76ｍの長方形で，長軸方向はＮ－31°－Ｗである。壁は高さ62～70㎝で，ほぼ直立している。南東コーナー部に幅61㎝，奥行き45㎝ほどの，半円形状に張り出した段差があり，出入り口施設の足場と考えられる。

床　平坦である。中央部から東部にかけての３か所で，炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲を確認した。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ13～31㎝で，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。

覆土　27層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。



第６図　第２号方形竪穴遺構実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック微量
4　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　極 暗 褐 色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量
16　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ローム粒子中量
18　暗　褐　色　ロームブロック中量
19　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
20　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
21　黒　褐　色　ローム粒子少量
22　暗　褐　色　ローム粒子少量
23　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
24　黒　褐　色　炭化粒子多量
25　黒　　色　炭化物少量，ロームブロック微量
26　極暗赤褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
27　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

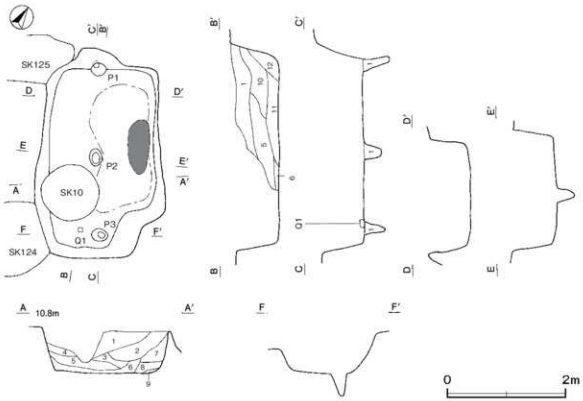
遺物出土状況　土師質土器片２点（甕類），陶器片２点（小皿，甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から16世紀後半と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。

第３号方形竪穴遺構（第７・８図）

位置　調査区南東部のＢ２i7区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第10・124・125号土坑に掘り込まれている。



第７図　第３号方形竪穴遺構実測図

規模と形状　長軸3.51 m，短軸1.96 mの不整長方形で，長軸方向はN－35°－Wである。壁は高さ63～80㎝で，ほぼ直立している。東コーナー部に幅78㎝，奥行き60㎝ほどの，長方形状に地山を掘り残した部分があり，出入り口施設の足場と考えられる。

床　平坦で，南東半部が壁際を除いて踏み固められている。東壁際で，炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲を確認した。

ピット　3か所。P 1～P 3は深さ31～48㎝で，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。

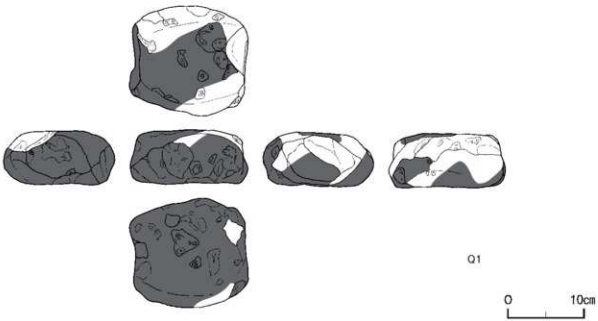
ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　12層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化粒子が含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　灰　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
11　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　石器1点（台石$_a$）が出土している。Q 1は南部の床面に置かれた状態で出土している。

所見　時期は，伴う土器が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。



第8図　第3号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第8図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	台石$_a$	14.8	15.8	7.4	1316.0	角閃石デイサイト	全体に煤付着	床面	

第４号方形竪穴遺構（第９図）

位置　調査区南東部のＣ２a7区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第41・42・47・54・77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.62ｍ，短軸1.94ｍの長方形で，長軸方向はＮ－52°－Ｅである。壁は高さ67～77cmで，ほぼ直立している。北東部に幅139cm，奥行き67cmほどの，長方形状に張り出したスロープ状の段差があり，出入り口施設の足場と考えられる。

床　平坦である。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ36～56cmで，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

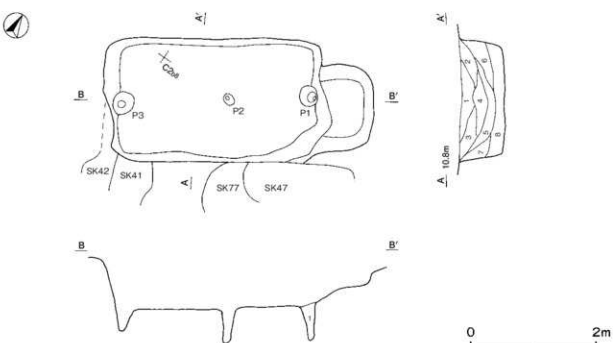
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片３点（不明）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。



第９図　第４号方形竪穴遺構実測図

第５号方形竪穴遺構（第10図）

位置　調査区南東部のＣ２b8区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第15・41・64・66・69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.54 m，短軸2.18 mの長方形で，長軸方向はN－88°－Eである。壁は高さ57～71cmで，直立している。西コーナー部は幅115cm，奥行き75cmほどのスロープで，出入り口施設と考えられる。

床　平坦で，中央部から西半部にかけて踏み固められている。北西壁際で炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲を確認した。

ピット　3か所。P 1～P 3は深さ26～38cmで，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。

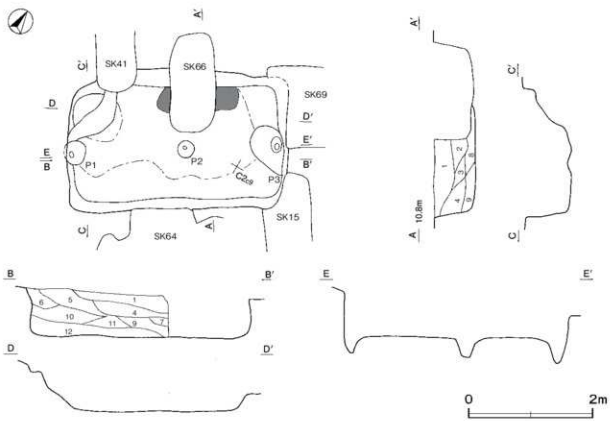
覆土　12層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量	7	褐	色	ロームブロック少量
2	極暗褐色			ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	9	褐		色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック少量	10	暗	褐	色	ロームブロック・粘土粒子微量
5	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	暗	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12	黒		色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片1点（内耳鍋），陶器片1点（碗），礫2点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。



第10図　第5号方形竪穴遺構実測図

第6号方形竪穴遺構（第11図）

位置　調査区南東部のC 2 b8区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第1号整地層の掘削後に確認した。第47・48・57・59・74・77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.97ｍ，短軸1.71ｍの長方形で，長軸方向はＮ－60°－Ｅである。壁は高さ65～73cmで，ほぼ直立している。東コーナー部に幅111cm，奥行き71cmほどの，長方形に張り出した段差があり，出入り口施設の足場と考えられる。

床　平坦で，北壁際及び西壁際，南壁際を除いて踏み固められている。中央部西寄りで焼土範囲を，南東壁際で炭化物及び炭化粒子が散乱した範囲をそれぞれ確認した。

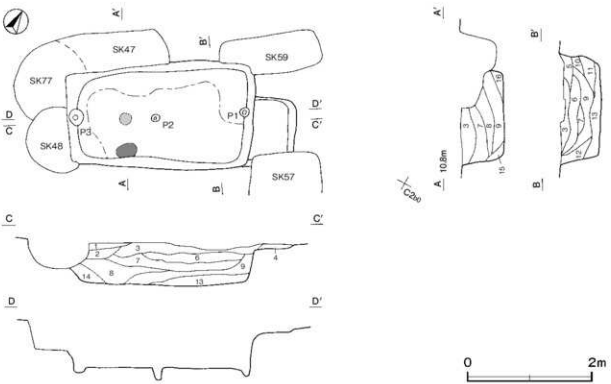
ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ９～19cmで，長軸に並ぶ配置から主柱穴である。

覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・炭化物微量	9	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	10	暗　褐　色	ローム粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	11	暗　褐　色	ロームブロック微量
4	褐　　色	ローム粒子・炭化粒子少量	12	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化物微量
5	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	13	暗　褐　色	ロームブロック少量
6	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物微量	14	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	15	褐　　色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	褐　　色	ローム粒子少量	16	褐　　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。中央部西寄りで確認した焼土は，焼土層が非常に薄く，赤変や硬化が弱いことから，一時的に使用されていた炉跡と判断したが，詳細は不明である。



第11図　第６号方形竪穴遺構実測図

第７号方形竪穴遺構（第12図）

位置　調査区南東部のＢ２j9区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第60・76号土坑，第３号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸293 m，短軸1.87 mの不整長方形で，長軸方向はN－53°－Eである。壁は高さ19～34cmで，外傾している。北コーナー部に幅42cm，奥行き65cmほどの長方形状の，西コーナー部に第60号土坑に掘り込まれた幅83cmほどの地山を掘り残した部分があり，それぞれ出入り口施設と考えられるが，詳細は不明である。

床　平坦である。

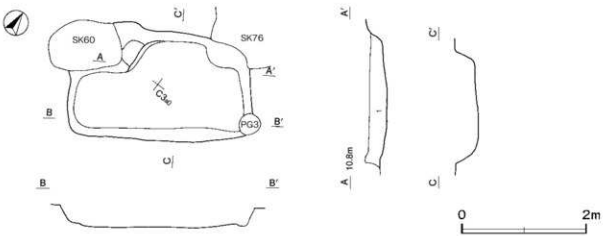
覆土　単一層である。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　灰　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片6点（小皿2，内耳鍋4），陶器片1点（皿類）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業小屋と考えられる。



第12図　第7号方形竪穴遺構実測図

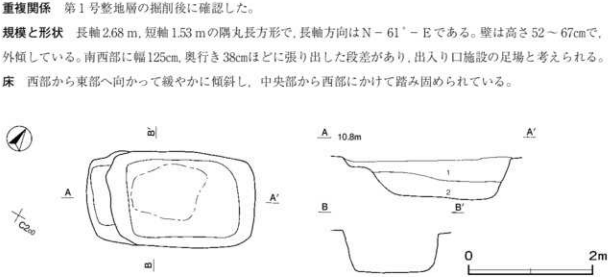
第8号方形竪穴遺構（第13図）

位置　調査区南東部のC 2b0区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第1号整地層の掘削後に確認した。

規模と形状　長軸2.68 m，短軸1.53 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－61°－Eである。壁は高さ52～67cmで，外傾している。南西部に幅125cm，奥行き38cmほどに張り出した段差があり，出入り口施設の足場と考えられる。

床　西部から東部へ向かって緩やかに傾斜し，中央部から西部にかけて踏み固められている。



第13図　第8号方形竪穴遺構実測図

覆土　2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ，水平な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　瓦質土器片1点（不明）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は簡易的な作業場と考えられる。

表2　室町時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	内部施設 主柱穴	内部施設 出入口	内部施設 ピット	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	B 2e6	N－30°－W	長方形	3.22 × 1.92	57 ～ 60	平坦	3	地山 撹り残し	－	人為	礫	室町	UP 2→本跡→HG 1
2	B 2f9	N－31°－W	長方形	3.19 × 1.76	62 ～ 70	平坦	3	半円形状 張り出し	－	人為	土師質土器（煙管），陶器（小皿，甕）	室町	本跡→SK93・94，HG
3	B 2f7	N－35°－W	不整長方形	3.51 × 1.96	63 ～ 80	平坦	3	地山 撹り残し	－	人為	石器（台石$_a$）	室町	本跡→SK10・124・125，HG 1
4	C 2a7	N－52°－E	長方形	3.62 × 1.94	67 ～ 77	平坦	3	長方形状 張り出し	－	人為	土師質土器（不明）	室町	本跡→SK41・42・47・54・77，HG 1
5	C 2b8	N－88°－E	長方形	3.54 × 2.18	57 ～ 71	平坦	3	スロープ	－	人為	土師質土器（内耳鍋），陶器（碗），礫	室町	本跡→SK15・41・64・66・69，HG 1
6	C 2b8	N－60°－E	長方形	2.97 × 1.71	65 ～ 73	平坦	3	長方形 張り出し	－	人為		室町	本跡→SK47・48・57・59・74・77，HG 1
7	B 2g9	N－53°－E	不整長方形	2.93 × 1.87	19 ～ 34	平坦	－	地山 撹り残し	－	人為	土師質土器（小皿，内耳鍋），陶器（黒類）	室町	本跡→SK60・76，FG 3，HG 1
8	C 2b0	N－61°－E	隅丸方形	2.68 × 1.53	52 ～ 67	緩斜	－	張り出し	－	人為	瓦質土器（不明）	室町	本跡→HG 1

(2)　地下式坑

第1号地下式坑（第14図）

位置　調査区中央部のB 2d6区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第1号整地層の掘削後に確認した。

軸長・軸方向　軸長3.22 mで，軸方向はN－63°－Eである。

竪坑　主室の西側に位置し，奥行き0.81 m，横幅1.25 mの長方形である。確認面までの深さは86cmで，壁はほぼ直立している。底面は緩やかに下り，段を有して主室に至っている。主室の底面とは20cmの段差をなしている。主室との連結部は長さ0.11 m，幅0.51 mで，天井部が遺存しており，トンネル状を呈している。床面から天井部までの高さは76cmである。

主室　奥行き2.15 m，横幅3.96 mの隅丸台形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは105cmである。底面は凹凸があり，壁はやや外傾している。

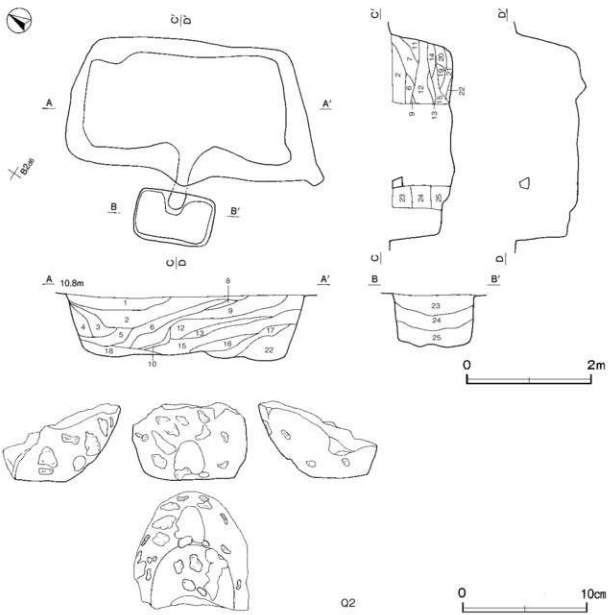
覆土　25層に分層できる。第4・11層は壁の崩落土，第18・22層は天井部の崩落土である。第1・2層は周囲から土砂が流入した堆積状況であることから，自然堆積である。第3・5～10・12～21層は多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，天井部の崩落後に埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　明　褐　色　ロームブロック多量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　黒　褐　色　ロームブロック多量
10　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
11　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
12　極暗褐色　ロームブロック中量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
15　極暗褐色　ローム粒子多量
16　明　褐　色　ローム粒子中量
17　暗　褐　色　ロームブロック中量
18　明　褐　色　ロームブロック多量，炭化物微量

19 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
20 暗 褐 色 ロームブロック少量
21 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
22 明 褐 色 ロームブロック多量，炭化粒子微量
23 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
24 極暗褐色 ローム粒子少量
25 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片２点（不明），陶器片１点（鉢類），石製品１点（不明）が出土している。

所見 時期は，伴う土器が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。倉庫としての機能が想定できるが，詳細は不明である。



第 14 図 第１号地下式坑・出土遺物実測図

第１号地下式坑出土遺物観察表（第 14 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q２	不明	(6.1)	(9.1)	(9.4)	(204.6)	角閃石デイサイト	下部平坦	覆土中	

第２号地下式坑（第15・16図）

位置　調査区中央部のＢ２e6区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第１号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

軸長・軸方向　軸長3.29ｍで，軸方向はＮ－９°－Ｗである。

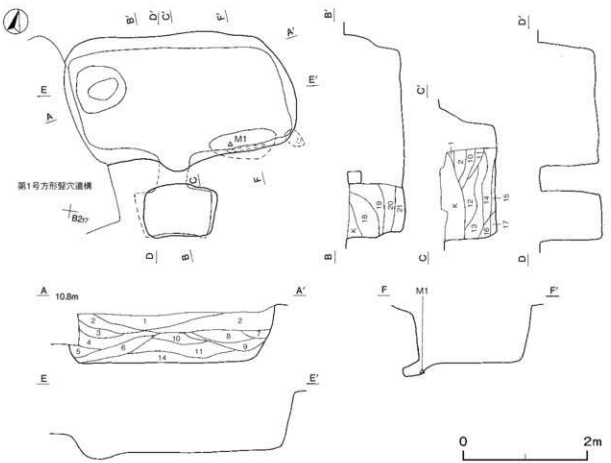
竪坑　主室の南側に位置し，奥行き0.80ｍ，横幅1.34ｍの不整長方形である。深さは90㎝で，壁は直立している。底面は平坦である。主室との連結部は長さ0.21ｍ，幅0.45ｍで，天井部が遺存しており，トンネル状を呈している。床面から天井部までの高さは65㎝である。

主室　奥行き2.00ｍ，横幅3.52ｍの不整長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは91㎝である。底面はやや凹凸があり，北壁はやや外傾，南壁は直立，東壁は内彎している。南東コーナー部でピット状の掘り込み，南東壁際に不整形の抉り込みをそれぞれ確認した。

覆土　21層に分層できる。第９層は天井部の崩落土である。第１～８層は各層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，天井部の崩落後に埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子多量
10　黒　褐　色　ローム粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
12　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量
15　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

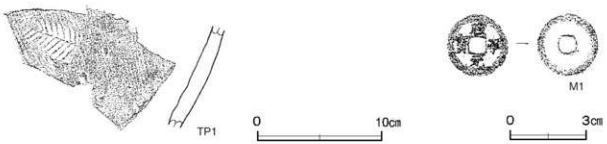


第15図　第２号地下式坑実測図

17　暗　褐　色　ローム粒子中量
18　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
19　暗　褐　色　ロームブロック中量
20　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
21　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿），陶器片１点（甕），銅製品３点（咸平元寶１，不明銭貨２）が出土している。Ｍ１は南東壁際の抉り込み内の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から室町時代と考えられる。倉庫としての機能が想定できるが，詳細は不明である。



第16図　第２号地下式坑出土遺物実測図

第２号地下式坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
TP１	陶器	甕	－	－	－	長石・白色粒子 浅黄	体部外面押印文　自然釉降灰	－	常滑系	覆土中	

番号	銭　種	径	孔幅	厚さ	重量	材　質	初鋳年	特　徴	出土位置	備　考
Ｍ１	咸平元寶	2.46	0.68	0.15	1.99	銅	998	北宋銭　真書	抉り込み内 底面	

第３号地下式坑（第17・18図）

位置　調査区南東部のＣ２a6区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第17・20・24・170号土坑に掘り込まれている。第６号溝跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

軸長・軸方向　軸長3.48ｍで，軸方向はＮ－76°－Ｅである。

竪坑　主室の東側に位置し，奥行き1.22ｍ，横幅1.61ｍの不整長方形である。深さは115㎝で，壁ははぼ直立している。底面はやや凹凸がある。

主室　奥行き2.16ｍ，横幅4.10ｍの不整台形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは124㎝である。底面はやや凹凸があり，壁ははぼ直立している。

覆土　28層に分層できる。第25・26層は天井部の崩落土で，第５・12・16・24層は壁の崩落土である。第１～11・13～15・17～23層は，多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，天井部の崩落後に埋め戻されている。第27・28層は，竪坑から流れ込むように堆積していることから，天井部の崩落前に自然堆積したものと考えられる。

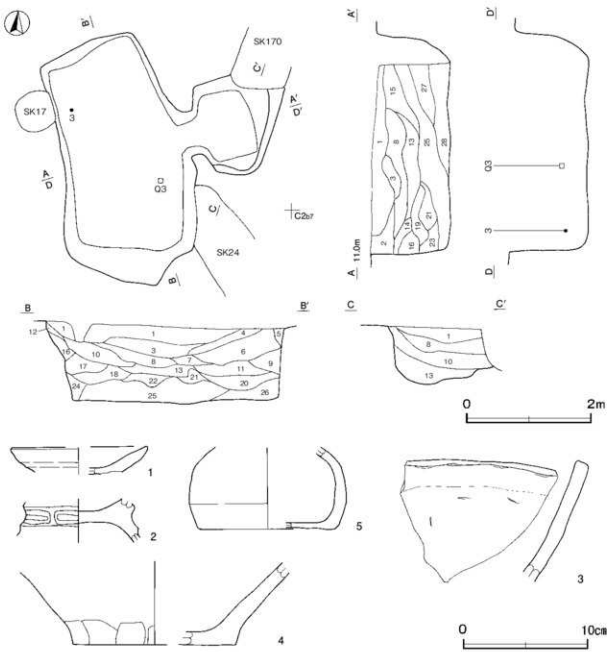
土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　橙　　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
12　橙　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

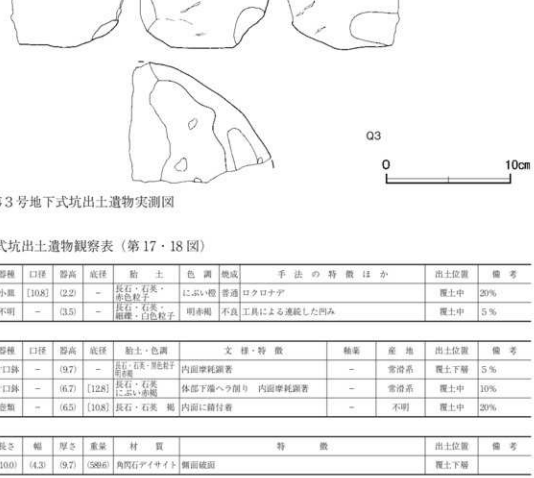
13 褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
14 極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
15 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16 明　褐　色　ロームブロック中量
17 黒　褐　色　ローム粒子少量
18 黒　　色　ロームブロック少量
19 黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
20 黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
21 褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
22 暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
23 暗　褐　色　ロームブロック微量
24 橙　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
25 明　褐　色　ローム粒子多量
26 橙　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
27 極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
28 極暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片4点（小皿2，内耳鍋1，不明1），陶器片6点（片口鉢2，壺類1，甕3），石製品1点（台石$_8$）が出土している。5・Q3は天井部崩落後の覆土中から出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，出土土器から14世紀後半から15世紀後半と考えられる。倉庫としての機能が想定できるが，詳細は不明である。



第17図　第3号地下式坑・出土遺物実測図



第18図　第3号地下式坑出土遺物実測図

第3号地下式坑出土遺物観察表（第17・18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	[10.8]	(2.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
2	土師質土器	不明	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐	不良	工具による連続した凹み	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	片口鉢	－	(9.7)	－	長石・石英・黒色粒子・白色粒	内面摩耗調著		－	常滑系	覆土下層	5%
4	陶器	片口鉢	－	(6.7)	[12.8]	長石・石英・にぶい赤褐	体部下端へラ削り　内面摩耗調著		－	常滑系	覆土中	10%
5	陶器	壺類	－	(6.5)	[10.8]	長石・石英　褐	内面に鐵付着		－	不明	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	台石。	(10.0)	(4.3)	(9.7)	(589.6)	角閃石デイサイト	側面破面	覆土下層	

表3　室町時代地下式坑一覧表

番号	位置	軸方向	平面形 主室	平面形 墜坑	軸長 (m)	主室規模 奥行 (m)	主室規模 横幅 (m)	主室規模 深さ (cm)	墜坑規模 奥行 (m)	墜坑規模 横幅 (m)	墜坑規模 深さ (cm)	覆土	主な出土遺物	備考
1	B 2 e6	N－63°－E	歪丸台形	長方形	3.22	2.15	3.96	105	0.81	1.25	86	自然 人為	土師質土器（不明），陶器（鉢類），石製品（不明）	本跡→HG 1
2	B 2 e6	N－9°－W	不整長方形	不整長方形	3.29	2.00	3.52	91	0.80	1.34	90	人為	土師質土器（小皿），陶器（壺），銭貨（咸平元寶）	本跡→第1号方形墜穴遺構，HG 1
3	C 2 e6	N－76°－E	不整台形	不整長方形	3.48	2.16	4.10	124	1.22	1.61	115	人為 自然	土師質土器（小皿），陶器（片口鉢，壺類），石製品（砥石）	本跡→SE17・30・38・39，HG 1 SD もとの連続関係は不明

(3)　堀跡

第1号堀跡（第19・20図）

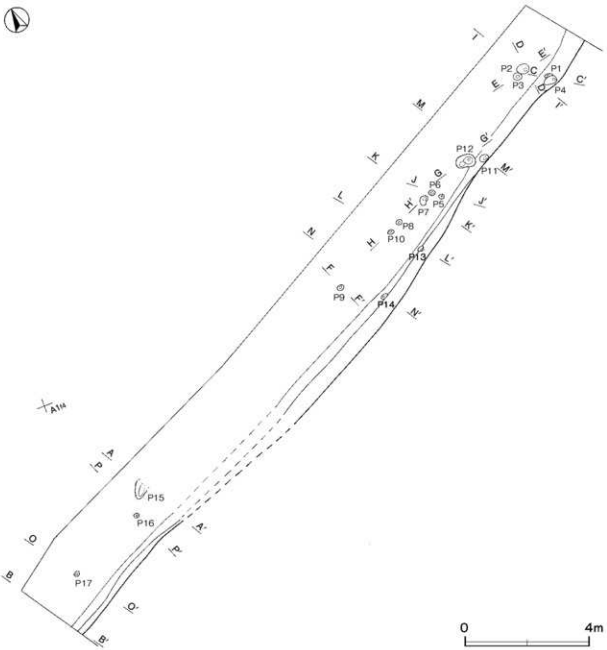
位置　調査区北西部のA 1 g3区～A 1 d9区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北東部及び南西部が，それぞれ調査区域外へ延びているため，長さは25.8 mしか確認できなかった。A 1 g3区から北東方向（N－62°－E）へ直線的に延びている。北側が調査区域外のため，規模は上幅3.02～2.20 m，下幅2.36～1.60 mしか確認できなかった。確認面からの深さは1.31～1.20 mで，北東部と南西部の比高はほぼ認められない。断面は逆台形と推定でき，壁は外傾している。

ピット　17か所。Ｐ１～Ｐ17は深さ６～35cmで，底部や壁際で並列して掘削されていることから，柵や逆茂木などが設けられていた可能性がある。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・砂粒微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック少量，砂粒微量

覆土　17層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれ，一度に埋没した状況を示していることから，埋め戻されている。第３～９層は，黒褐色土が主体で，周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。第10～17層は，褐色土や暗褐色土が主体で，多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

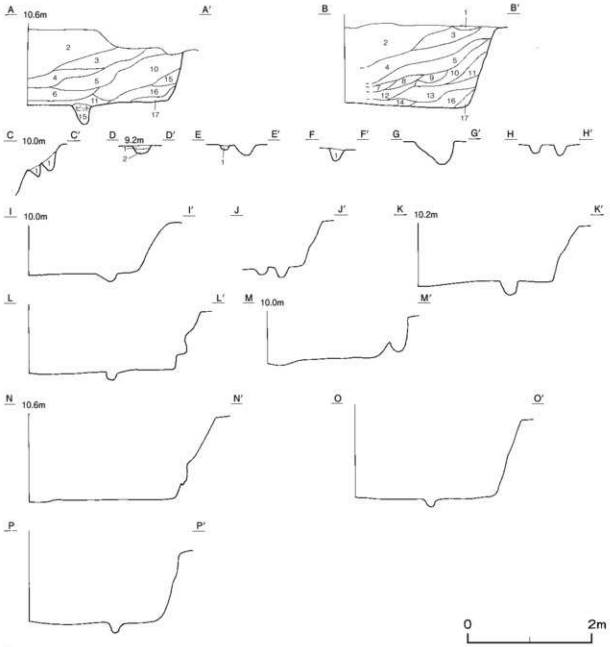


第19図　第１号堀跡実測図（１）

土層解説

1 褐　　色 ロームブロック中量，炭化物微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化物微量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
6 黒　　色 砂粒少量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
7 黒 褐 色 ロームブロック少量
8 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
9 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
10 褐　　色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
11 暗 褐 色 ロームブロック少量
12 黒 褐 色 砂粒少量，ロームブロック・炭化物微量
13 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化物微量
14 褐　　色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
15 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
16 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
17 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

所見　時期は，覆土を土壌分析したところ西暦1108年に浅間山から噴出した浅間Bテフラが含まれていることから，中世と考えられる。性格は，防御的機能を有していた可能性がある。



第20図　第1号堀跡実測図（2）

2　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，掘立柱建物跡２棟，井戸跡３基，水塚１基，炉跡２基，粘土貼土坑５基，土坑121基，溝跡４条，整地層１か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第21・22図）

位置　調査区南東部のＢ２h3区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造　桁行４間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－59°－Ｅの北東・南西棟である。規模は，桁行7.4ｍ，梁行5.3ｍで，面積は39.22㎡である。柱間寸法は，西桁行が北妻から1.8ｍ（６尺），1.6ｍ（5.3尺），1.9ｍ（6.3尺），2.1ｍ（７尺），東桁行が北妻から3.3ｍ（11尺），1.8ｍ（６尺），2.0ｍ（6.7尺）で，梁行が西平から1.9ｍ（6.3尺），1.9ｍ（6.3尺），1.5ｍ（５尺）と間尺にばらつきがあるが，柱筋はほぼ揃っている。Ｐ１～Ｐ２間の１か所，Ｐ４～Ｐ５間の２か所の柱穴は，確認できなかった。

炉　北隅に付設されている。第２号掘立柱建物跡の炉に掘り込まれているため，長径は94㎝で，短径は72㎝しか確認できなかった。楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ15㎝で，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	褐	灰	色	粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量	2	橙	色	灰中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

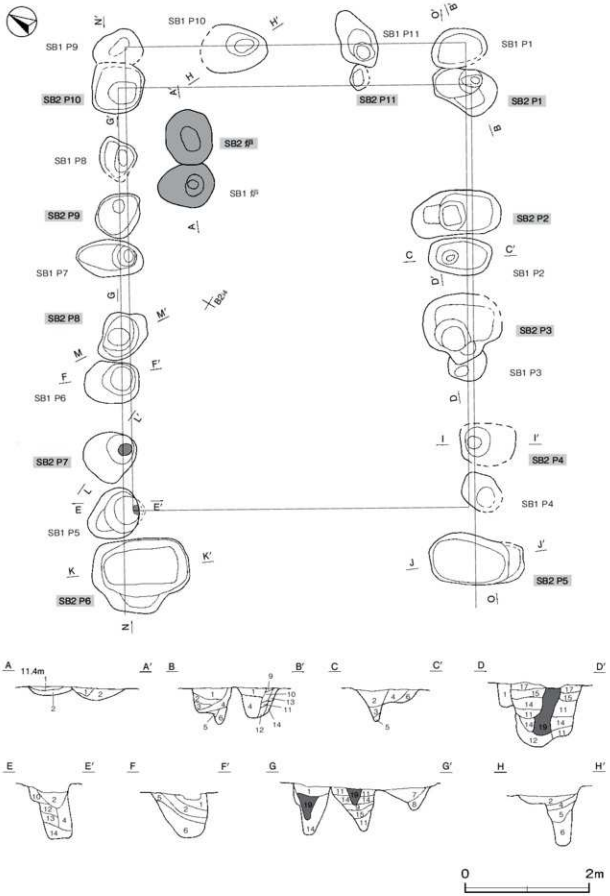
柱穴　11か所。柱穴の平面形は円形または楕円形で，長径61～109㎝，短径55～74㎝である。深さは35～105㎝である。第１～８層は柱抜き取り後の堆積層，第９～14層は掘方への埋土，第19層は柱痕跡である。Ｐ５の底面で，柱の当たりを確認した。

柱穴土層解説（SB１及びSB２各柱穴共通）

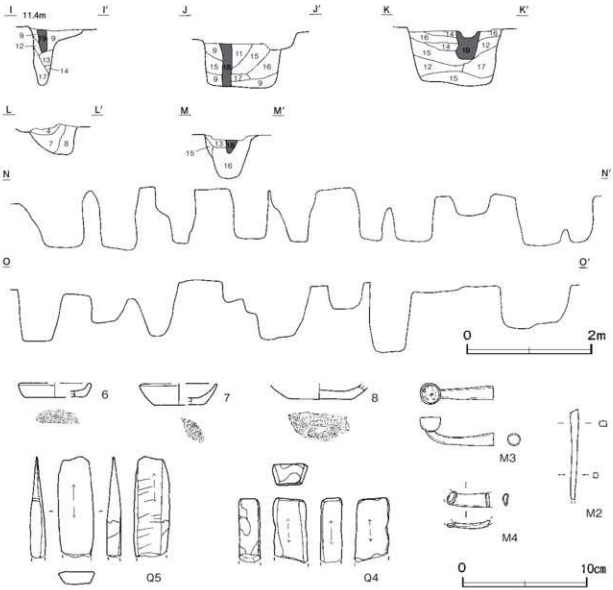
1	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒	褐	色	ロームブロック・粘土粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12	暗	褐	色	ロームブロック微量
3	黒	褐	色	ロームブロック微量	13	暗	褐	色	ローム粒子・粘土粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック微量	14	暗	褐	色	ロームブロック少量，粘土粒子微量
5	黒	褐	色	ロームブロック少量	15	暗	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
6	黒		色	ロームブロック微量	16	暗	褐	色	粘土ブロック微量
7	黒	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	17	褐		色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	暗	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	18	黒	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック微量
9	黒	褐	色	粘土粒子少量，ロームブロック微量	19	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10	黒	褐	色	ロームブロック少量，粘土粒子微量					

遺物出土状況　土師質土器片16点（小皿12，焙烙４），陶器片16点（中碗１，天目茶碗２，碗類７，小皿１，皿類１，擂鉢１，不明３），磁器片１点（不明），青磁片１点（香炉），石器２点（砥石），鉄製品２点（釘，不明），銅製品２点（煙管）が，Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８及び炉の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀後半と考えられる。性格は，炉が付設されることから居宅の可能性がある。第２号掘立柱建物跡と同軸上に柱穴が並ぶことから，本跡から第２号掘立柱建物に建て替えられたと考えられる。炉は，北隅に付設されていることから竈の火床部の可能性があるが，詳細は不明である。



第 21 図　第１・２号掘立柱建物跡実測図



第22図　第１・２号掘立柱建物跡，第１号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師質土器	小皿	[5.5]	1.1	[4.8]	長石・石英・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底面回転糸切り	SB１P５覆土中	30%
7	土師質土器	小皿	[6.0]	1.7	[4.0]	長石・石英・白色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底面ヘラ削り。	SB１P４覆土中	30%
8	土師質土器	小皿	－	(1.3)	[5.0]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底面回転糸切り	SB１P４覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q４	砥石	(5.2)	2.8	1.7	(39.1)	安山岩。	砥面３面	SB１P４覆土中	
Q５	砥石	(8.1)	2.9	1.0	(31.3)	安山岩。	砥面２面	SB１P10覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M２	釘	(7.2)	(0.8)	0.5	(6.5)	鉄	切釘　断面方形　先端部欠損	SB１P４覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	煙管	5.9	1.7	2.3	10.2	銅	雁首部	SB 1炉覆土中	PL11
M4	煙管	(3.5)	(1.3)	(0.7)	(2.1)	銅	雁首部　火皿部欠損	SB 1P 4覆土中	

第２号掘立柱建物跡（第23・24図）

位置　調査区南東部のＢ２h3区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南西部が調査区域外へ延び，P10・P11間の柱穴が確認できなかったため，梁行は２間，桁行は４間しか確認できなかった。側柱建物跡で，桁行方向がN－59°－Eの北東・南西棟と推定できる。確認できた規模は，桁行7.6ｍ，梁行5.5ｍである。柱間寸法は，西桁行が北妻から1.8ｍ（６尺），2.1ｍ（７尺），1.8ｍ（６尺）1.8ｍ（６尺），東桁行が北妻から2.1ｍ（７尺），1.8ｍ（６尺），1.8ｍ（６尺），1.9ｍ（6.3尺）で，梁行が西平から3.8ｍ（127尺），1.7ｍ（5.7尺）と間尺にばらつきがあるが，柱筋はほぼ揃っている。Ｐ５～Ｐ６間及びP10・P11間の柱穴は，確認できなかった。

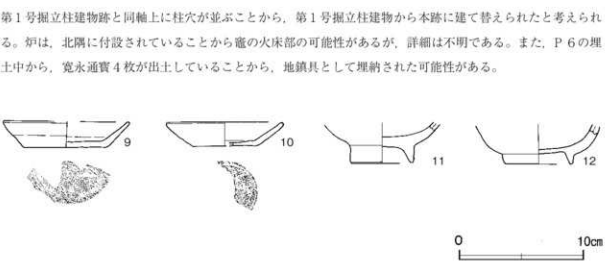
炉　北隅に付設されている。長径94cm，短径78cmで，楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ22cmで，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい橙色　焼土粒子・灰中量，粘土ブロック・炭化物少量　　2　明赤褐色　焼土ブロック・灰中量，炭化物少量

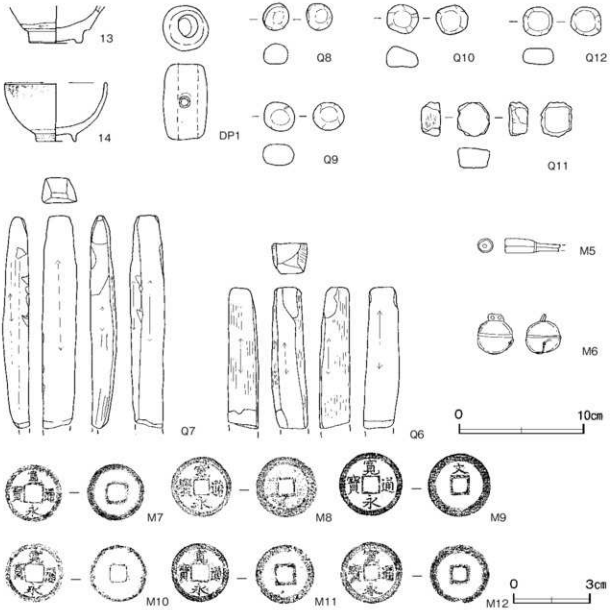
柱穴　11か所。柱穴の平面形は楕円形または隅丸長方形で，長径(軸)41～150cm，短径(軸)32～125cmである。深さは59～88cmである。第１～８層は柱抜き取り後の堆積層，第９・11～17層は掘方への埋土，第18・19層は柱痕跡である。Ｐ７の底面で，柱の当たりを確認した。

遺物出土状況　土師質土器片27点（小皿13，焙烙９，不明５），瓦質土器片１点（焙烙），陶器片29点（小坏１，中碗１，天目茶碗１，碗類６，小皿１，中皿４，皿類１，擂鉢３，鉢類４，甕１，瓶類１，香炉２，仏飯器１，不明２），磁器片３点（瓶類１，不明２），土製品１点（土錘），石器10点（砥石５，不明未製品５），鉄製品５点（不明），銅製品８点（煙管１，銭貨１，寛永通寶６）がＰ１～Ｐ３・Ｐ５～Ｐ８・P10の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀後半と考えられる。性格は，炉が付設されることから居宅の可能性がある。第１号掘立柱建物跡と同軸上に柱穴が並ぶことから，第１号掘立柱建物から本跡に建て替えられたと考えられる。炉は，北隅に付設されていることから竈の火床部の可能性があるが，詳細は不明である。また，Ｐ６の埋土中から，寛永通寶４枚が出土していることから，地鎮具として埋納された可能性がある。



第23図　第２号掘立柱建物跡出土遺物実測図（１）



第24図　第２号掘立柱建物跡出土遺物実測図（２）

第２号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第23・24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
9	土師質土器	小皿	[10.0]	2.1	[6.8]	長石・石英、雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	底面回転糸切り	SB２P６覆土中	40%
10	土師質土器	小皿	[9.2]	1.9	[5.0]	長石・石英、角閃石・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ	底面回転糸切り	SB２P５覆土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
11	陶器	中椀	－	(3.3)	4.9	緻密　にぶい黄	外・内面施釉　高台部内面施釉		灰釉	肥前	SB２P３覆土中	60%
12	陶器	中椀	－	(3.2)	[5.4]	緻密　明褐	外・内面施釉　高台部内面施釉		柿釉	肥前	SB２P３覆土中	20%
13	陶器	中椀	－	(3.0)	4.2	緻密　灰黄	外・内面施釉　体部下端ヘラ削り 削り出し高台		灰釉	不明	SB２P７覆土中	30%
14	磁器	小椀	[8.0]	4.7	3.6	緻密　灰白	雨降文		透明釉	肥前	SB２P５覆土中	50%　PL８

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP１	土錘	5.9	3.6	－	88.0	長石・石英	にぶい赤褐	円形の刻印	SB２P７覆土中	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	(10.2)	2.9	2.4	(111.9)	緑色片岩	砥面4面	SB 2P 1 覆土中	PL.10
Q 7	砥石	(16.9)	2.8	2.1	(144.2)	安山岩	砥面4面	SB 2P 5 覆土中	PL.11
Q 8	石製未製品	2.2	2.0	1.6	8.9	石英片岩。	加工痕有り	SB 2P 3 覆土中	
Q 9	石製未製品	2.3	2.4	1.7	12.9	石英片岩。	加工痕有り	SB 2P 3 覆土中	
Q 10	石製未製品	2.4	2.5	1.7	12.4	流紋岩。	加工痕有り	SB 2P 3 覆土中	
Q 11	石製未製品	2.7	2.5	1.5	16.9	安山岩	加工痕有り	SB 2P 3 覆土中	
Q 12	石製未製品	2.2	2.3	1.2	9.8	安山岩	加工痕有り	SB 2P 3 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	煙管	(4.4)	1.1	1.1	(5.5)	銅	吸口部 羽付	SB 2P 6 覆土中	
M 6	鈴	2.9	2.9	3.2	12.0	鉄	上部に2つの穿孔	SB 2P 5 覆土中	

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 7	寛永通寶	2.30	0.78	0.11	1.86	銅	1668	新寛永 無背銭	SB 2P 6 掘方土中	
M 8	寛永通寶	2.45	0.59	0.20	3.33	銅	1636	古寛永	SB 2P 6 掘方土中	
M 9	寛永通寶	2.53	0.66	0.14	3.02	銅	1668	文銭	SB 2P 7 覆土中	
M 10	寛永通寶	2.35	0.79	0.16	2.76	銅	1668	新寛永 無背銭	SB 2P 6 掘方土中	
M 11	寛永通寶	2.38	0.72	0.12	2.82	銅	1668	新寛永 無背銭	SB 2P 6 掘方土中	
M 12	寛永通寶	2.47	0.57	0.11	2.82	銅	1636	古寛永	SB 2P 7 覆土中	

表4　江戸時代掘立柱建物跡一覧表

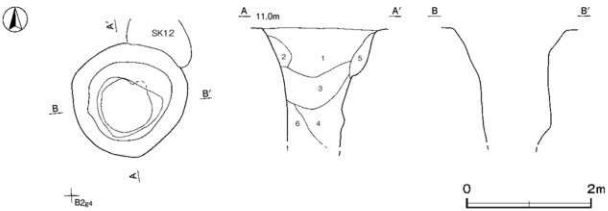
番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法 桁間(m)	柱間寸法 梁間(m)	柱穴 構造	柱穴 柱穴数	柱穴 平面形	柱穴 深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考
1	B 2b3	N－59°－E	4×3	7.4×5.3	39.22	1.6～3.3	1.5～1.9	側柱	11	円形・楕円形	35～105	陶器（中碗）、石器（砥石）	18世紀後半	本跡→SB 2
2	B 2b3	N－59°－E	(4)×2	(7.6)×5.5	(41.80)	1.8～2.1	1.7～3.8	側柱	11	楕円形・隅丸長方形	59～88	陶器（小皿）、土製品（土錘）	18世紀後半	SB 1→本跡

(2)　井戸跡

第1号井戸跡（第25・26図）

位置　調査区中央部のB 2 f4 区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第12号土坑に掘り込まれている。



第25図　第1号井戸跡実測図

規模と形状　確認面の平面形は長径 1.86 m，短径 1.71 m の円形である。確認面から深さ 1.10 m まで漏斗状に掘り込まれ，それ以下は径 0.85 m ほどの円筒状に掘り込まれている。深さ 1.80 m まで掘り下げたが，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土　6 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。第 2・3 層は壁の崩落土である。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・砂粒微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・砂粒微量
6　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片 2 点（鉢類，甕類），磁器片 1 点（碗類），鍛冶関連遺物 1 点（椀形鍛冶滓），礫 1 点が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や江戸時代の掘立柱建物跡に隣接する配置状況から，江戸時代と考えられる。

第 26 図　第 1 号井戸跡出土遺物実測図

第 1 号井戸跡出土遺物観察表（第 26 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	椀形鍛冶滓	(5.7)	(10.0)	4.0	(296.4)	鉄	側面破面　上面浅く窪み，厚く滓化	覆土中	

第 2 号井戸跡（第 27 図）

位置　調査区中央部の B 2 g3 区，標高 11 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認面の平面形は長径 1.26 m，短径 1.10 m の楕円形で，長径方向は N − 76° − W である。形状は円筒形で，深さ 2.00 m まで掘り下げたが，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

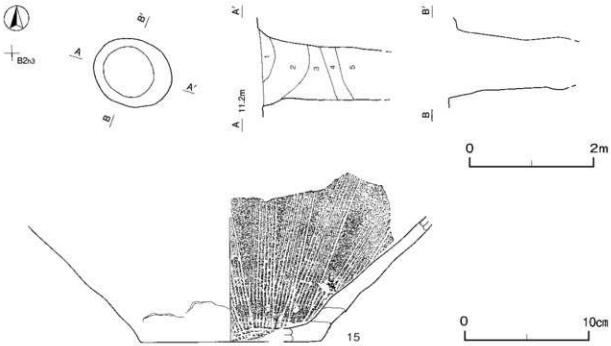
覆土　5 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　陶器片 1 点（擂鉢）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や江戸時代の掘立柱建物跡に隣接する配置状況から 18 世紀代と考えられる。



第27図　第２号井戸跡・出土遺物実測図

第２号井戸跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
15	陶器	擂鉢	－	(9.9)	[14.4]	石英・雲母 にぶい橙	内面櫛目	－	丹波系。	覆土中	20%

第３号井戸跡（第28図）

位置　調査区中央部のＢ２f2区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認面の平面形は長径1.15ｍ，短径0.98ｍの楕円形で，長径方向はＮ－63°－Ｗである。形状は円筒形で，確認面から深さ1.80ｍまで掘り下げたが，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

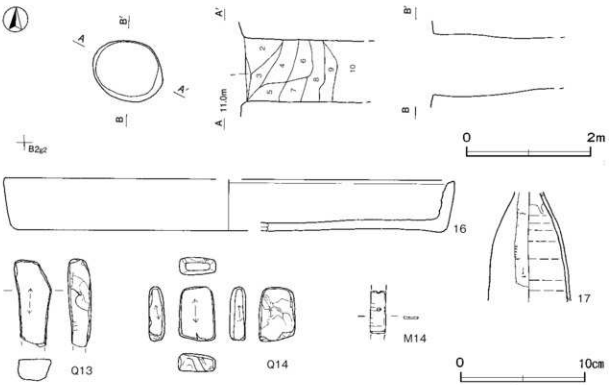
覆土　10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1　橙　　色　ローム粒子多量
2　褐　灰　色　粘土ブロック多量
3　灰　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
4　褐　灰　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
5　灰　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
6　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
8　極暗褐色　ロームブロック中量
9　極暗褐色　ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片６点（小皿２，焙烙４），瓦質土器片２点（焙烙），陶器片５点（甕類４，擂鉢利１），磁器片３点（碗類２，小皿１），石器４点（砥石），鉄製品２点（不明），銅製品１点（物指。）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から19世紀代と考えられる。



第28図　第３号井戸跡・出土遺物実測図

第３号井戸跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
16	瓦質土器	焙烙	[35.8]	4.2	[34.0]	長石・石英・角閃石	黒褐	普通	外・内面横ナデ	底部移目	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
17	陶器	鉢徳利	－	(8.8)	－	緻密　灰白	外面施釉　内面頸部施釉　鉄絵	灰釉	瀬戸・美濃。	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	底石	(7.0)	3.0	1.8	(52.4)	角閃石片岩。	底面１面	覆土中	
Q 14	底石	4.3	2.8	1.4	22.6	安山岩	底面４面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	物指。	(3.3)	1.2	0.1	(2.9)	銅	両端部欠損　穿孔	覆土中	

表５　江戸時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	Ｂ２f4	－	円形	1.86 × 1.71	(180)	－	漏斗状 円筒状	自然	陶器（鉢類、壺類）、磁器（碗類）、極彩絵治郎、煙	本跡→ SK12
2	Ｂ２g3	Ｎ－76°－Ｗ	楕円形	1.26 × 1.10	(200)	－	円筒状	人為	陶器（擂鉢）	
3	Ｂ２g2	Ｎ－63°－Ｗ	楕円形	1.15 × 0.98	(180)	－	円筒状	人為	瓦質土器（焙烙）、陶器（鉢徳利）、石器（底石）、銅製品（物指。）	

(3)　水塚

第１号水塚（第29～33図）

位置　調査区中央部のＢ１b0区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第189・191・199・202号土坑，第2号溝の上部に構築されている。

規模と形状　長軸18.7ｍ，短軸17.2ｍの不整長方形で，長軸方向はＮ－50°－Ｅである。確認面からの高さは199cmである。

構築土　65層に分層できる。粘土粒子を含んだ整地層と考えられる黒褐色土を基部とし，黒褐色土や暗褐色土などの第1～61層を積み上げて構築している。第1～41層は近代以降の水塚の盛土で，第42～61層は江戸時代の水塚構築時の盛土と考えられる。第62・63層は塚構築に伴う整地層と考えられ，第64・65層は旧表土である。

構築土層解説

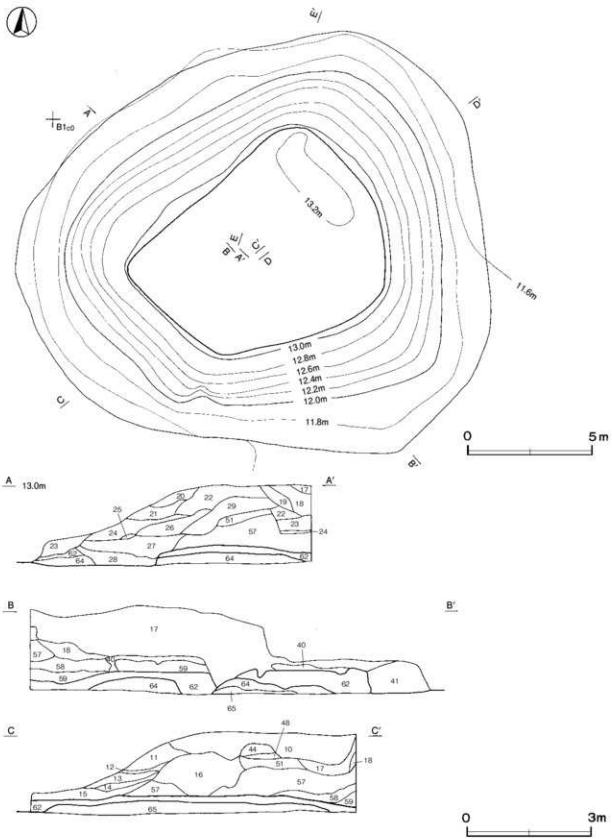
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化材微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　極暗褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
13　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
14　暗　褐　色　ローム粒子中量
15　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
16　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
17　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
18　暗　褐　色　ロームブロック少量
19　暗　褐　色　ローム粒子微量
20　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
21　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
22　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化材微量
23　黒　褐　色　炭化物微量
24　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
25　極暗褐色　ローム粒子微量
26　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
27　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
28　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
29　褐　　色　ロームブロック・炭化物微量
30　暗　褐　色　ローム粒子少量
31　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
32　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
33　にぶい黄褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
34　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
35　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
36　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
37　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
38　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
39　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
40　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
41　黒　　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
42　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子微量
43　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
44　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
45　褐　　色　ロームブロック中量
46　黒　　色　ロームブロック微量
47　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
48　にぶい黄褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
49　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
50　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
51　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
52　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
53　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
54　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
55　灰黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
56　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
57　灰黄褐色　ロームブロック少量
58　黄　褐　色　ロームブロック少量
59　灰黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
60　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
61　黒　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，炭化物・ローム粒子微量
62　黒　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，ロームブロック・炭化物微量
63　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック・炭化粒子微量
64　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
65　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量

建造物確認状況　近代以降の盛土を掘削中，コンクリートブロックや大谷石とみられるブロック，欄と考えられる金属片を確認した。積み上げている状況から，本跡周辺に塀を設置し，土止めを行っていたものと推定できる。

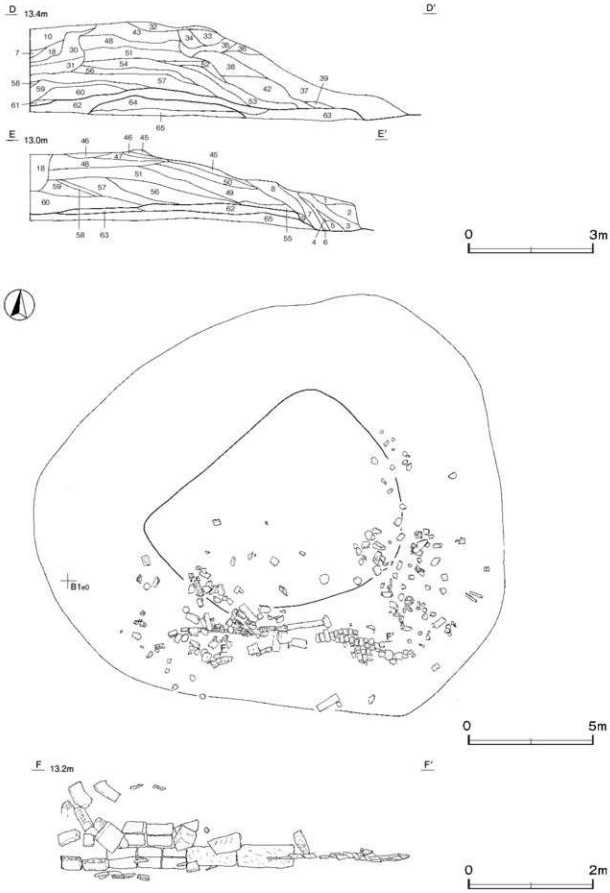
遺物出土状況　土師質土器片34点（小皿3，植木鉢1，大甕1，焙落23，焜炉3，不明3），瓦質土器片10点（火鉢1，火鉢$_{ヵ}$1，火鉢類1，焙落6，不明1），陶器片50点（小坏3，小碗2，中壺蓋$_{ヵ}$1，小皿1，中皿6，灯明皿1，灯明受皿1，捏鉢2，片口鉢1，擂鉢11，中瓶2，土瓶1，瓶類7，小壺1，小甕3，甕類1，不明6），磁器片48点（小碗8，中碗11，大碗2，碗類11，蓋1，蓋類2，小皿3，皿類1，中鉢3，大瓶1，瓶類1，猪口1，紅猪口1，不明2），青磁片1点（小碗），石器14点（石臼1，砥石10，硯1，火打石$_{ヵ}$1，不明1），鉄製品8点（寛永通寶1，不明7），銅製品8点（煙管1，不明銭貨2，寛永通寶4，不明1），瓦82点が構築土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や第191号土坑との重複関係，及び近代以降のブロック塀の確認から，18世紀後半

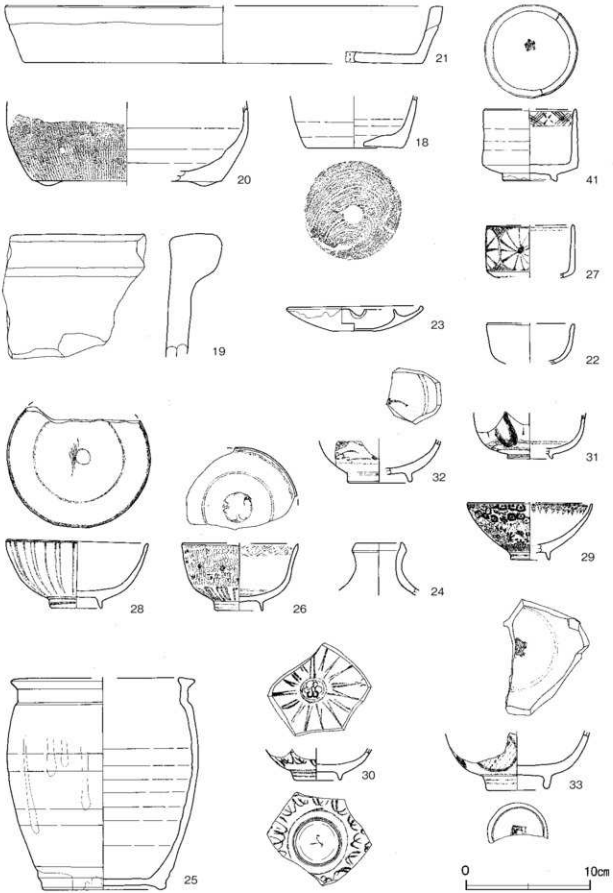
に構築され，昭和時代まで使われていたものと考えられる。また，第１・２号掘立柱建物跡と構築時期が同じことや隣接する配置から，第１・２号掘立柱建物跡と同じ屋敷内に設けられていたものと考えられる。



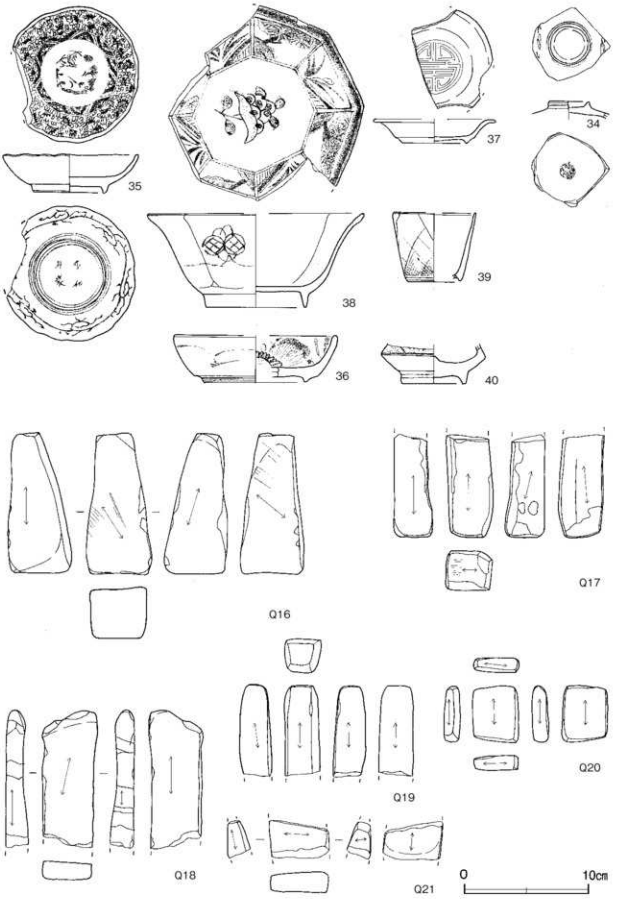
第29図　第１号水塚実測図（１）



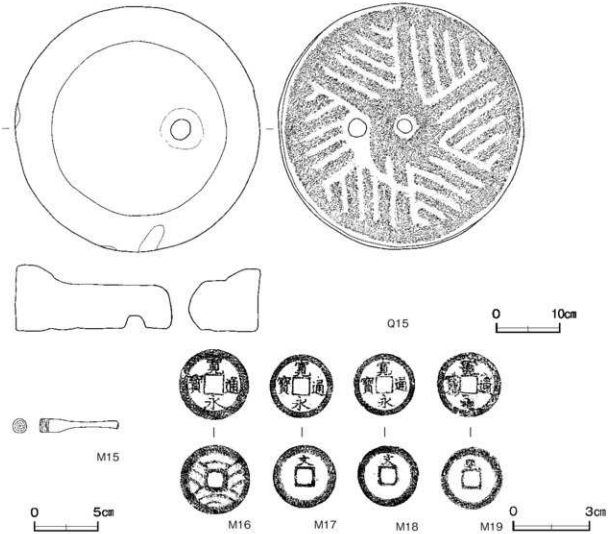
第30図　第1号水塚実測図（2）



第31図　第1号水塚出土遺物実測図（1）



第32図　第1号水塚出土遺物実測図（2）



第33図　第1号水塚出土遺物実測図（3）

第1号水塚出土遺物観察表（第31～33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	土師質土器	植木鉢	－	(6.1)	7.6	長石・石英・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面ロクロナデ　底部回転糸切り　底部焼成前に穿孔	構築土中	10%
19	土師質土器	大皿	－	(9.9)	－	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部面取り	構築土下層	5%
20	瓦質土器	火鉢	－	(6.8)	[15.0]	長石・石英	オリーブ黒	普通	外・内面ロクロナデ　体部外面型押文様（縦筋）三足	構築土中	5%
21	瓦質土器	焙烙	[34.8]	4.6	[31.6]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面横ナデ　体部外面に煤付着　底部砂目　底部に補修痕	構築土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
22	陶器	小坏	[7.0]	(3.2)	－	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	不明	構築土中	20%
23	陶器	灯明受皿	10.6	2.1	3.2	緻密　黄褐	内面施釉　油滴半月状	灰釉	信楽系	構築土中	100% PL 9
24	陶器	中瓶	3.6	(4.2)	－	緻密　オリーブ黄	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	構築土中	20%
25	陶器	小壺	[14.6]	16.9	9.6	緻密　にぶい黄橙	外・内面施釉　黒釉流し	鉄釉	不明	構築土中層	55%
26	磁器	小碗	[9.2]	5.4	3.8	緻密　灰白	染付　唐草文（清薬）四方襷　縞　松竹梅円形文	透明釉	肥前	構築土中	40%　PL 8
27	磁器	小碗	[6.8]	(4.2)	－	緻密　灰白	染付　菊散らし	透明釉	肥前	構築土中	20%
28	磁器	中碗	11.2	5.4	4.0	緻密　明緑灰	染付　変藍手	透明釉	不明	構築土中	70%
29	磁器	中碗	[10.0]	4.6	[3.2]	緻密　灰白	型紙摺または銅版転写	透明釉	瀬戸・美濃。	構築土中	45%
30	磁器	中碗	－	(2.6)	3.7	緻密　明緑灰	染付　二重網目文「大」字　二重輪菊花文	透明釉	肥前	構築土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
31	磁器	中碗	－	(3.7)	[3.6]	緻密　灰白	染付　草花文。	透明釉	肥前	構築土中	10%
32	磁器	中碗	－	(3.5)	[5.0]	緻密　灰白	染付　草花文。	透明釉	肥前。	構築土中	15%
33	磁器	大碗	－	(4.7)	4.8	緻密　明緑灰	染付　丸文　四角内に「曾」。五弁花文　高台部紐目	透明釉	肥前	構築土中	30%
34	磁器	蓋	－	(1.4)	－	緻密　灰白	染付	透明釉	肥前	構築土中	30%
35	磁器	小皿	10.6	3.1	5.6	緻密　明緑灰	型打技法　染付　唐草文　唐草文（渭鄭）「風化雪月」　松竹梅円形文	透明釉	肥前	構築土中	90%　PL 9
36	磁器	小皿	[12.8]	3.8	[8.0]	緻密　明緑灰	染付　唐草文　二方花文	透明釉	肥前	構築土中	30%
37	磁器	小皿	[9.8]	1.9	5.1	緻密　灰白	見込みに「寿」文	透明釉	瀬戸・美濃	構築土中	40%
38	磁器	中鉢	[17.0]	7.5	7.8	緻密　明緑灰	芙蓉手　染付　酉瀬。　岩不。草花文　七宝繋文	透明釉	肥前。	構築土中	60%
39	磁器	猪口	[6.6]	5.5	[4.2]	緻密　灰白	染付　交叉線文	透明釉	肥前	構築土中	20%
40	磁器	不明	－	(3.1)	5.1	緻密　明緑灰	染付　菊花文。　底部内面に突起　高台部紐目	透明釉	肥前	構築土中	40%
41	青磁	小碗	[7.2]	5.7	4.2	緻密　灰白	染付　四方襷文　五弁花文	青磁釉	肥前	構築土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 15	石臼	39.0	39.0	10.5	25100	花崗岩	上臼　供給口・芯受け・ものくぼり残存　6分画　副溝5本　副溝断面U字形　回転方向反時計回り	構築土中層	
Q 16	砥石	11.2	5.2	4.0	397.0	砂岩	砥面4面	構築土中	PL.11
Q 17	砥石	(8.3)	3.7	3.2	(156.8)	砂岩	砥面5面	構築土中	
Q 18	砥石	(11.1)	4.5	1.8	135.0	砂岩。	砥面4面	構築土中	
Q 19	砥石	(7.3)	2.9	2.6	(83.6)	流紋岩。	砥面4面	構築土中	
Q 20	砥石	4.5	3.7	1.2	33.7	不明	砥面6面	構築土中	
Q 21	砥石	(3.0)	(4.8)	1.9	(35.3)	砂岩	砥面4面	構築土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	煙管	(6.3)	1.1	1.1	(8.3)	銅	吸口部　羅宇部残存	構築土中	PL.11

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 16	寛永通寶	2.84	0.64	0.17	6.30	鉄	1769	四文銭　背十一波	構築土中	PL.11
M 17	寛永通寶	2.54	0.67	0.13	3.21	銅	1668	文銭	構築土中	
M 18	寛永通寶	2.48	0.66	0.13	3.00	銅	1668	文銭	構築土中	PL.11
M 19	寛永通寶	2.60	0.65	0.16	3.43	銅	1668。	文銭。	構築土中	

(4) 炉跡

第１号炉跡（第34図）

位置　調査区南東部のＢ２i3区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１・２号掘立柱建物跡，第１号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　径102cmほどの不整円形である。炉床は深さ18cmで，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

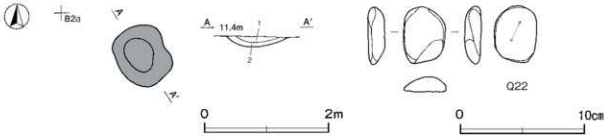
覆土　２層に分層できる。粘土ブロックや焼土ブロックが含まれることから，埋め戻されている。

土層解説

１　にぶい橙色　焼土粒子・灰中量，粘土ブロック・炭化物少量　　２　明赤褐色　焼土ブロック・灰中量，炭化物少量

遺物出土状況　土師質土器片３点（小皿２，焙烙１），陶器片１点（不明），石器１点（砥石$_{R}$）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。性格は，第１・２号掘立柱建物跡に関連する炉跡の可能性があるが，詳細は不明である。



第34図　第１号炉跡・出土遺物実測図

第１号炉跡出土遺物観察表（第34図）

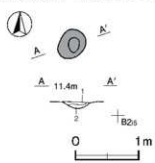
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	砥石。	4.6	3.4	1.2	12.5	角閃石デイサイト	砥面１面。	覆土中	

第２号炉跡（第35図）

位置　調査区南東部のＢ２h4区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１・２号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　径50cmほどの円形である。炉床は深さ10cmで，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第35図　第２号炉跡実測図

覆土　２層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが含まれることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
2　明 赤 褐 色　焼土粒子多量，灰少量，炭化粒子微量

所見　時期は，周辺に江戸時代の第１号炉跡が存在していることから，同時代と考えられる。性格は，第１・２号掘立柱建物跡に関連する炉跡の可能性があるが，詳細は不明である。

表６　江戸時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	Ｂ２i3	－	不整円形	102 × 102	18	皿状	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙）	SB１・２，SG１との新旧関係は不明
2	Ｂ２h4	－	円形	50 × 50	10	皿状	外傾	人為		SB１・２との新旧関係は不明

(5)　粘土貼土坑

第２号粘土貼土坑（第36図）

位置　調査区中央部のＢ２g4区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

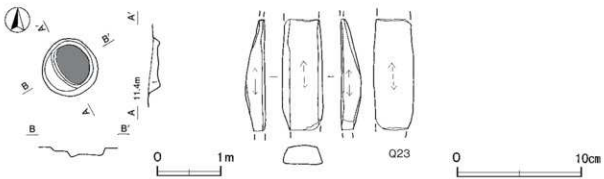
規模と形状　径0.91ｍほどの円形である。深さは19cmで，底面は平坦で粘土が貼り付けられており，硬化している。底面の壁際には，幅３～８cm，深さ３～５cmの溝が環状に巡っている。

覆土　単一層である。ロームブロックや，粘土粒子が中量含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　褐　灰　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片５点（小皿４，焙烙１），陶器片１点（不明），磁器片２点（小碗・碗類），石器１点（砥石）が出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。底面の壁際を巡る溝は，樽などを据えた痕跡と考えられる。粘土を貼った底面は硬化していることから，性格は，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第36図　第２号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第２号粘土貼土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	砥石	(8.8)	3.2	1.5	(58.3)	砂岩。	砥面４面	覆土中	

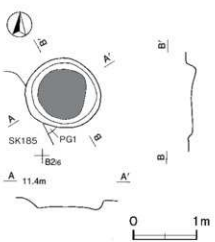
第３号粘土貼土坑（第37図）

位置　調査区南東部のＢ２h5区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第185号土坑，第１号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.22ｍ，短径1.10ｍの楕円形で，長径方向はＮ－83°－Ｗである。深さは12㎝で，底面は平坦で粘土が貼り付けられており，硬化している。底面の壁際は，環状に凹んでいる。

所見　時期は，遺構の形状や周辺の遺構の配置から江戸時代と考えられる。性格は，粘土を貼った底面は硬化していることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第37図　第３号粘土貼土坑実測図

第６号粘土貼土坑（第38図）

位置　調査区南東部のＣ１j7区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第７号粘土貼土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　径1.60 mほどの円形である。深さは23cmで，底面は皿状で粘土が貼り付けられており，硬化している。

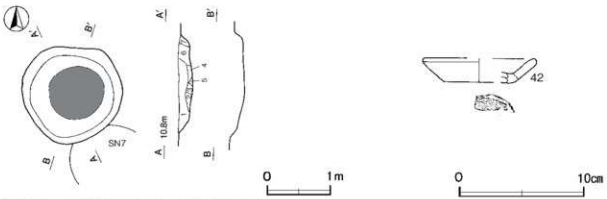
覆土　7層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物微量
2　灰　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　灰　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
4　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　灰　色　粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片1点（小皿），陶器片1点（皿類），礫1点が出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。性格は，粘土を貼った底面は硬化していることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第38図　第6号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第6号粘土貼土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土師質土器	小皿	[8.8]	19	[5.6]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	30%

第7号粘土貼土坑（第39図）

位置　調査区南東部のC2a7区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第1号整地層の掘削後に確認した。第6号粘土貼土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.48 m，短径1.29 mの楕円形で，長径方向はN－33°－Wである。深さは17cmで，底面は平坦である。掘方の底面に厚さ6～9cmの粘土が貼り付けられている。

覆土　4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。第5層は，貼られた粘土層である。

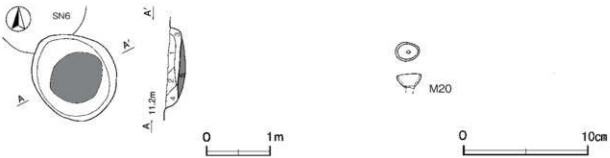
土層解説

1　褐　　色　粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　灰　色　粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
5　灰　白　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片1点（小皿），陶器片1点（碗類），磁器片1点（中碗），土製品1点（不明），鉄

製品１点（銭貨），銅製品１点（煙管），礫１点が出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から江戸時代と考えられる。性格は，底面に粘土が貼り付けられていることから，他の粘土貼土坑と同じく，水甕や樽などを置いていたと考えられる。



第 39 図　第７号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第７号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 39 図）

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 20	煙管	(1.9)	1.6	(1.2)	(2.3)	銅	火皿部	覆土中	

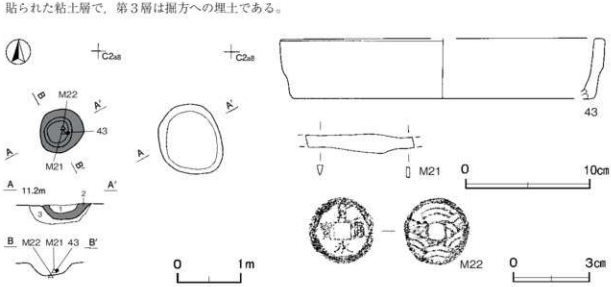
第８号粘土貼土坑（第 40 図）

位置　調査区南東部のＣ２a7 区，標高 11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。

規模と形状　粘土の内側は，長径 0.75 m，短径 0.67 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 41゜－Ｅである。深さは 12cmで，底面は皿状である。掘方は長径 1.18 m，短径 1.00 mの楕円形である。深さは 27cmで，底面は平坦である。掘方の底面と壁面に厚さ４～ 24cmの暗褐色土を埋土した後，厚さ９～ 18cmの粘土を貼り付けている。

覆土　単一層である。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第２層は貼られた粘土層で，第３層は掘方への埋土である。



第 40 図　第８号粘土貼土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

2　灰　白　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量

3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿），瓦質土器片２点（焙烙，不明），陶器片２点（碗類），鋼製品２点（煙管，寛永通寶）が，底面から覆土下層にかけて出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，出土遺物から19世紀後半と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，他の粘土貼土坑と同じく，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。

第８号粘土貼土坑出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	瓦質土器	焙烙	[25.8]	4.8	[24.0]	長石・石英	にぶい黄橙	不良	外・内面横ナデ　底部砂目	覆土下層	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 21	小柄。	(8.8)	1.2	0.5	(12.2)	銅	刃部断面三角形	覆土下層	

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 22	寛永通寶	2.76	0.65	0.16	2.89	真鍮	1768	四文銭　背二十一波	底面	

表７　江戸時代粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
2	B 2 g4	－	円形	0.91 × 0.91	19	平坦	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），磁器（小碗，碗類），石器（砥石）	
3	B 2 i5	N－83°－W	楕円形	1.22 × 1.10	12	平坦	外傾	－		SK185，PG1との新旧関係は不明
6	C 1 j7	－	円形	1.60 × 1.60	23	凹状	外傾	人為	土師質土器（小皿），陶器（碗類），礫	本跡→HG 1 SX 2との新旧関係は不明
7	C 2 a7	N－33°－W	楕円形	1.48 × 1.29	17	平坦	外傾	人為	土師質土器（小皿），磁器（中碗），鉄製品（銭貨），鋼製品（煙管）	本跡→HG 1 SX 6との新旧関係は不明
8	C 2 a7	N－41°－E	楕円形	0.75 × 0.67	12	凹状	外傾	人為	土師質土器（小皿），瓦質土器（焙烙），鋼製品（煙管，銭貨）	本跡→HG 1

(6)　土坑

当時代の土坑118基を確認した。そのうち，第35・48・124・202・208・216土坑からは，良好な一括資料が多量に出土したことから文章で説明し，その他の土坑については，遺構実測図と遺物実測図，土層解説，及び一覧表を掲載する。

第35号土坑（第41図）

位置　調査区南東部のＣ２c9区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層の掘削後に確認した。第67号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　掘方の規模は，径1.50ｍほどの円形である。深さは43cmで，底面は平坦で硬化している。掘方の壁面にロームブロックを主体とした厚さ10～13cmの灰褐～暗褐土を埋土している。

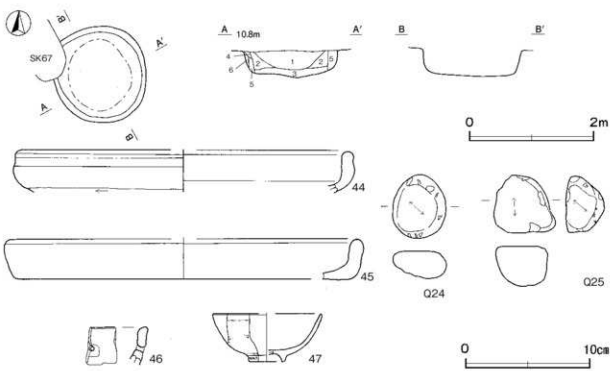
覆土　３層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1 灰 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量，炭化材微量
3 褐 灰 色 砂粒中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 灰 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5 褐 灰 色 ロームブロック少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片7点（焙烙5，不明2），瓦質土器片15点（焙烙），陶器片9点（甕類1，急須1，不明7），磁器片1点（小碗），土製品2点（不明），石器11点（砥石），鉄製品26点（釘$_{B}$，不明），銅製品1点（銅線），瓦片1点，魚骨141.7 g（マグロ類，タイ類，サメ類，不明），礫2点が出土している。

所見 時期は，出土土器から19世紀前半と考えられる。粘土貼土坑と同様に底面が硬化していることから，肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第41図 第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	瓦質土器	焙烙	[26.2]	(3.3)	－	長石・石英・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面横ナデ 体部下端ヘラ削り 底部砂目	覆土中	5％
45	瓦質土器	焙烙	[28.0]	3.2	[26.8]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外・内面横ナデ 底部砂目	覆土中	5％
46	瓦質土器	焙烙	－	(3.0)	－	長石・石英	灰白	普通	外・内面横ナデ 体部に補修痕	覆土中	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
47	磁器	小碗	[8.6]	3.8	[2.8]	緻密 明緑灰	染付	透明釉	肥前	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 24	砥石。	5.0	4.3	2.2	24.3	角閃石デイサイト	砥面1面。	覆土中	
Q 25	砥石	4.5	4.9	3.2	27.7	安山岩。	砥面2面	覆土中	

第48号土坑（第42図）

位置　調査区中央部のＣ２b8区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号方形竪穴遺構，第77号土坑，第１号整地層を掘り込んでいる。

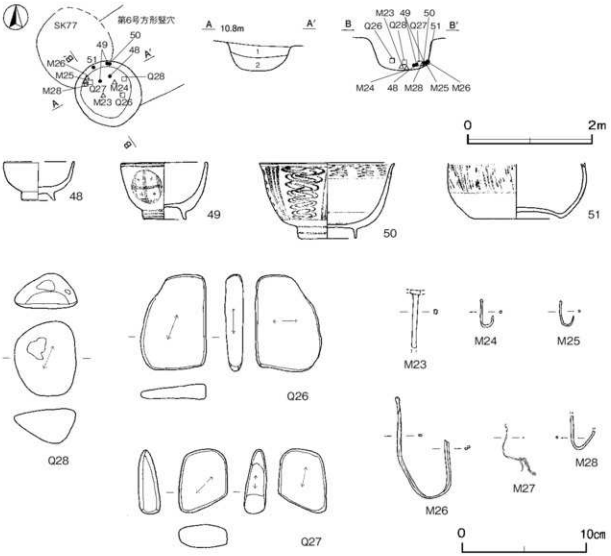
規模と形状　径1.08ｍほどの円形である。深さは51cmで，底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。多量の土器片とともに水平に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂粒微量　　2　暗　褐　色　砂粒中量，炭化物少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片32点（焙烙），瓦質土器片89点（焙烙），陶器片36点（小坏２，灯明皿３，擂鉢１，捏鉢２，火鉢５，甕類２，土瓶14，瓶類７），磁器片22点（小碗５，中碗２，碗類11，皿類１，蓋類１，土瓶１，瓶類１），石器19点（砥石18，砥石。１），鉄製品54点（釘26，不明28），銅製品７点（銅線４，釣針２，釣針。１），瓦片８点，魚骨394.6ｇ（マグロ類），礫３点が，全域の覆土下層から出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，出土土器から19世紀後半と考えられる。図示できる以外にも多くの土器片及び陶磁器片の細片が出土していることから，破損した日常雑器を一括で捨てた廃棄土坑と考えられる。



第42図　第48号土坑・出土遺物実測図

第48号土坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
48	陶器	小坏	[5.6]	3.1	2.6	緻密　浅黄	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃。	覆土下層	65%　PL 8
49	磁器	小碗	6.7	4.6	3.2	緻密　灰白	染付　丸文	透明釉	不明	覆土下層	85%　PL 8
50	磁器	中碗	10.9	6.1	4.6	緻密　灰白	染付　縦位の波線文様	透明釉	瀬戸・美濃	覆土下層	90%　PL 8
51	磁器	土瓶	－	(4.4)	[7.0]	緻密　灰白	染付　縦線文様　底部外面煤付着	透明釉	肥前。	覆土下層	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 26	砥石	7.7	5.3	1.3	70.8	砂岩	砥面3面	覆土下層	
Q 27	砥石	5.1	3.8	1.7	42.8	安山岩	砥面3面	覆土下層	
Q 28	砥石。	5.9	5.0	2.8	28.6	角閃石デイサイト	砥面1面。	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 23	釘	(4.6)	0.9	0.4	(5.7)	鉄	頭巻釘　先端部欠損　断面方形	覆土下層	
M 24	釣針	2.3	1.0	0.2	0.2	銅	断面円形	覆土下層	PL11
M 25	釣針	2.0	1.1	0.1	0.1	銅	断面円形	覆土下層	PL11
M 26	釣針。	8.2	4.5	0.2	22.1	銅	断面楕円形　先端部二股	覆土下層	PL11
M 27	銅線	4.1	－	0.1	(0.2)	銅	端部をねじる	覆土中	
M 28	銅線	(3.8)	(2.0)	0.2	(0.5)	銅	断面円形	覆土下層	

第124号土坑（第43・44図）

位置　調査区南東部のＢ２j7区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第３号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。第１号整地層の掘削後に確認した。第１号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　北東部の範囲が不明瞭であるため，短径は1.23ｍで，長径は1.27ｍしか確認できなかった。楕円形と推定でき，長径方向はＮ－31°－Ｅである。深さは39cmで，底面は平坦で硬化している。

覆土　６層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　灰　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム ブロック微量
3　灰　褐　色　粘土ブロック少量，ローム ブロック・炭化物微量
4　灰　褐　色　ローム ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
5　褐　灰　色　ローム ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片３点（小皿１，焙烙２），陶器片２点（中碗，天目茶碗），磁器片３点（中碗１，碗類２），石器１点（砥石），鉄製品２点（不明），銅製品２点（煙管，銭貨）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀後半と考えられる。粘土貼土坑と同様に底面が硬化していることから，肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。

第43図　第124号土坑実測図

第44図　第124号土坑出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
52	陶器	天目茶碗	－	(1.6)	4.6	緻密　灰白	内面施釉	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土中	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 29	砥石。	5.4	5.2	2.3	18.1	角閃石デイサイト	砥面１面。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 29	煙管	(4.2)	(0.8)	(0.8)	(1.2)	銅	吸口部	覆土中	
M 30	煙管。	(2.3)	1.6	0.4	(1.5)	銅	吸口部。	覆土中	

第202号土坑（第45～50図）

位置　調査区中央部のＢ２f1区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　本跡上面に第１号水塚が構築されている。

規模と形状　南西部が撹乱を受けているため，短径は3.38ｍで，長径は7.10ｍしか確認できなかった。不整形で，長径方向はＮ－33°－Ｅである。深さは133㎝で，底面は北東からスロープ状に南西へ向かって緩やかに傾斜している。壁は外傾している。

覆土　20層に分層できる。第１層は炭化材を廃棄した層である。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

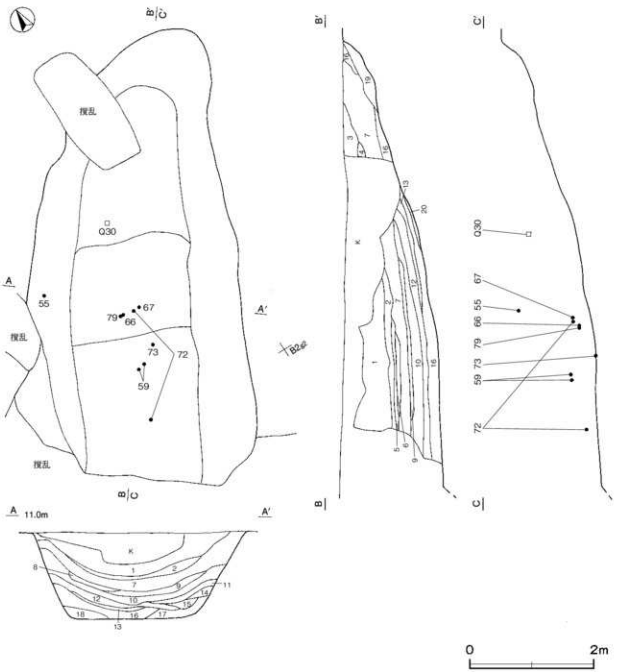
土層解説

1　黒　褐　色　炭化材中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，ロームブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・砂粒微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・砂粒微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
17　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
18　暗　褐　色　ローム粒子中量
19　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
20　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

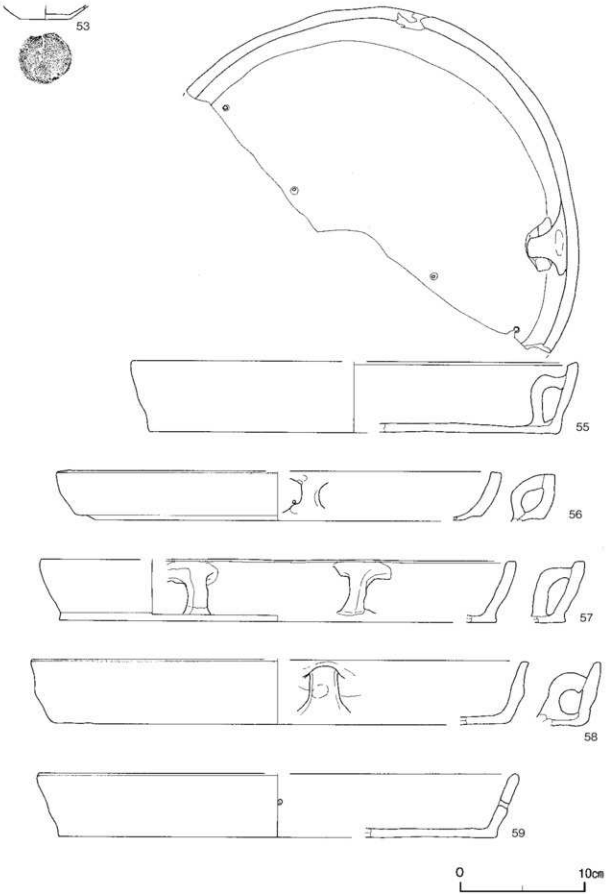
遺物出土状況　土師質土器片68点（小皿21，中甕６，甕１，焙烙31，煤炉類８，不明１），瓦質土器片15点（火鉢１，焙烙12，不明２），陶器片85点（小坏６，小碗１，中碗５，碗類２，小皿１，中皿５，灯明皿７，灯明受皿１，皿類３，片口８，擂鉢６，鉢類１，中瓶10，大瓶８，花瓶１，瓶類６，小壺１，中壺７，仏飯器１，香炉４，不明１），磁器片47点（小坏１，小碗11，中碗５，碗類15，極小皿１，小皿５，皿類４，鐔徳利１，瓶類２，猪口２），青磁片１点（小碗），石器11点（砥石４，石臼７），鉄製品14点（鎌１，包丁１，

不明 12)，銅製品 2 点（煙管，不明），瓦 14 点，被熱した礫 16 点，礫 4 点が，全域の覆土上層から下層にかけて出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

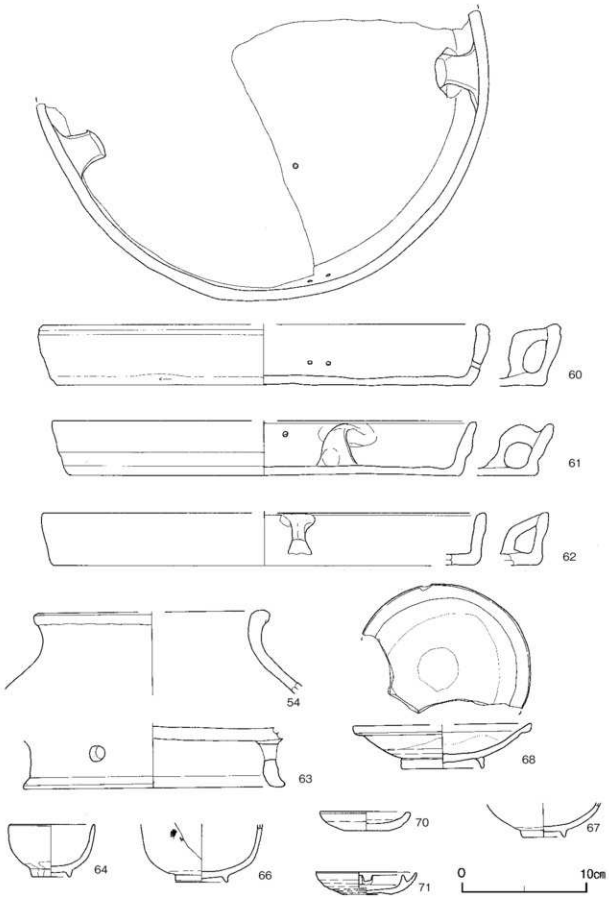
所見　時期は，出土土器から 19 世紀前半と考えられる。本跡の上層で，廃材と考えられる炭化材が多量に出土していることから，建物の廃絶に伴って建築材が廃棄されたものと考えられる。



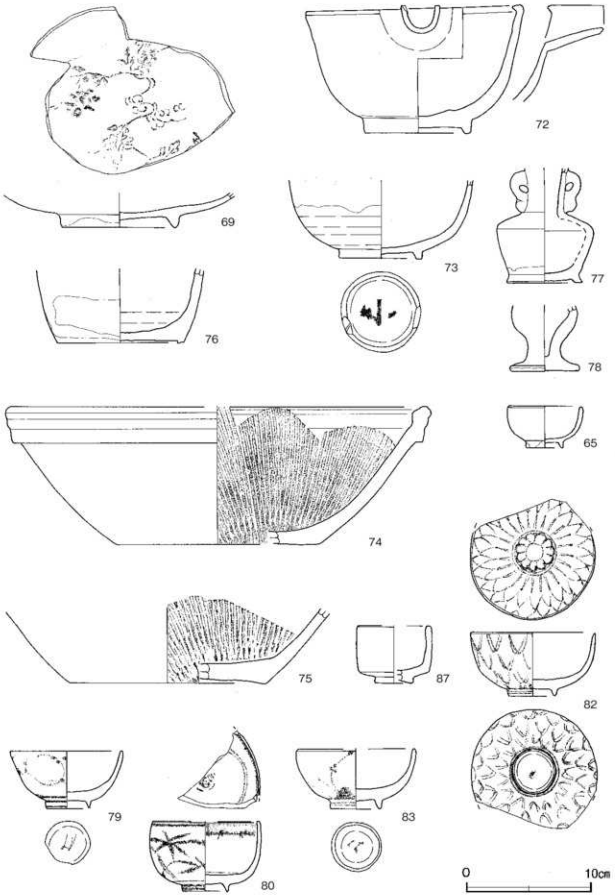
第 45 図　第 202 号土坑実測図



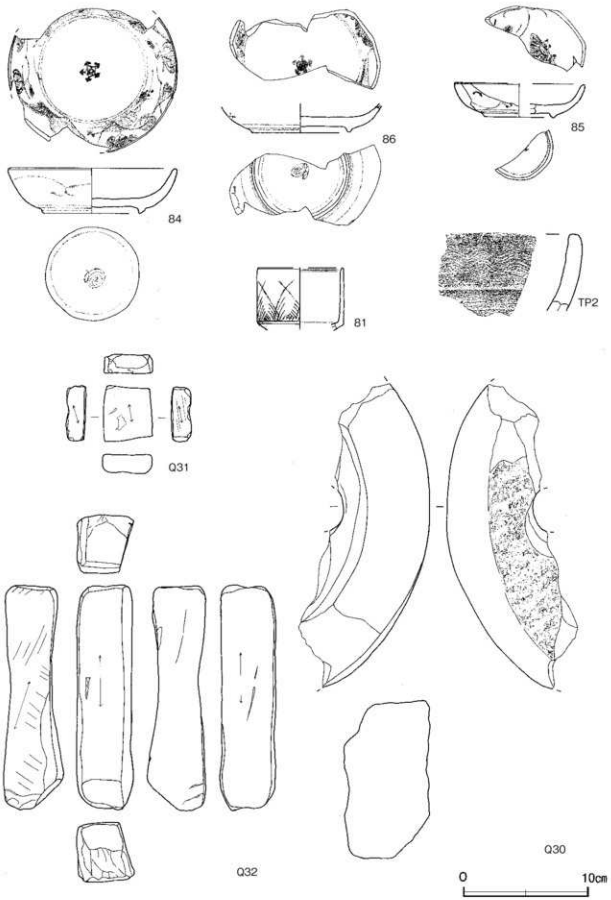
第46図　第202号土坑出土遺物実測図（1）



第 47 図　第 202 号土坑出土遺物実測図（2）



第48図　第202号土坑出土遺物実測図（3）



第49図　第202号土坑出土遺物実測図（4）

第 50 図　第 202 号土坑出土遺物実測図（5）

第 202 号土坑出土遺物観察表（第 46 ～ 50 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師質土器	小皿	－	(1.1)	4.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	40%
54	土師質土器	中甕	[18.0]	(6.6)	－	長石・石英・雲母・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	玉縁口縁。	覆土中	10%
55	土師質土器	焙烙	[35.4]	5.6	[32.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付 底部に4か所の補修痕　底部砂目	覆土層	45%　PL.10
56	土師質土器	焙烙	[35.4]	3.9	[32.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付　体部外面煤付着 体部に補修痕	覆土中	5%
57	土師質土器	焙烙	[37.6]	4.9	[34.8]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付	覆土中	20%
58	土師質土器	焙烙	[39.2]	5.2	[36.0]	長石・石英・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付　体部下端～底部砂目	覆土中	10%
59	瓦質土器	焙烙	[37.8]	5.1	[35.0]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐	普通	外・内面横ナデ　体部外面煤付着 体部に補修痕	覆土下層	40%
60	瓦質土器	焙烙	[35.2]	4.9	[33.0]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐	普通	外・内面横ナデ　体部下端ヘラ削り 体部に補修痕　耳部貼付	覆土中	30%　PL.10
61	瓦質土器	焙烙	[33.8]	4.3	[31.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付　体部に補修痕	覆土中	20%
62	瓦質土器	焙烙	[35.2]	4.2	[33.6]	長石・石英・雲母・白色粒子	黒褐	普通	外・内面横ナデ　耳部貼付	覆土中	10%
63	瓦質土器	低炉脚	－	(4.7)	20.8	長石・石英・角閃石・白色粒子	灰黄	普通	脚部貼付　底部砂目	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
64	陶器	小坏	6.6	4.2	3.0	緻密 明オリーブ灰	外・内面施釉	灰釉	不明	覆土中	80%　PL. 8
65	陶器	小坏	[5.8]	3.3	2.9	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中	50%
66	陶器	中椀	－	(4.7)	4.2	緻密　灰白	鉄絵。外・内面施釉	灰釉	京焼系	覆土下層	45%
67	陶器	中椀	－	(2.7)	3.6	緻密　淡黄	外・内面施釉	灰釉	京焼系	覆土下層	40%
68	陶器	中皿	[14.2]	3.5	6.6	緻密　淡黄	外・内面施釉　体部下端ヘラ削り 見込蛇目	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中	50%　PL. 9
69	陶器	中皿	－	(2.8)	9.2	緻密　灰白	外・内面施釉　鉄絵　花唐草文	灰釉	不明	覆土中	30%
70	陶器	灯明皿	7.1	2.5	3.6	緻密　灰白	内面施釉	灰釉	信楽系	覆土中	100% PL. 9
71	陶器	灯明皿	9.0	1.7	4.0	緻密　暗灰黄	内面施釉　油溝切立状	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土中	95%　PL. 9
72	陶器	片口鉢	17.0	10.3	8.3	緻密　淡黄	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土下層	80%　PL. 9
73	陶器	片口鉢	－	(6.3)	6.4	緻密　灰白	外・内面施釉　底面に墨書「小」	灰釉	瀬戸・美濃系	底面	30%
74	陶器	擂鉢	[33.0]	11.0	[16.2]	石英・雲母・明赤褐	内面櫛目	－	堺・明石系	覆土中	30%
75	陶器	擂鉢	－	(6.0)	[15.6]	石英・雲母　橙	内面櫛目	－	堺・明石系	覆土中	20%
76	陶器	大甕	－	(5.9)	[10.2]	緻密　褐灰	外面施釉	灰釉	不明	覆土中	5%
77	陶器	花瓶	－	(9.2)	5.8	緻密　浅黄橙	外面施釉	黒釉	不明	覆土中	90%　PL. 9
78	陶器	壺燈。	－	(5.3)	5.4	緻密　淡黄	外・内面施釉	鉛釉	瀬戸・美濃	覆土中	75%
79	磁器	小椀	8.7	4.6	3.5	緻密　灰白	染付　草花文 底部に文様有り	透明釉	肥前	覆土下層	75%　PL. 8
80	磁器	小椀	[8.4]	5.6	3.6	緻密　明緑灰	染付　雨降り文　竹笹草文 五弁花文	透明釉	肥前	覆土中	10%
81	磁器	小椀	[6.8]	(4.9)	－	緻密　灰白	交叉線文	透明釉	肥前	覆土中	30%
82	磁器	中椀	9.9	5.2	3.8	緻密　明緑灰	染付　二重網目文　二重輪菊花文	透明釉	肥前	覆土中	80%　PL. 8
83	磁器	中椀	[9.2]	4.8	2.0	緻密　灰白	染付　草花文　底部に文様有り	透明釉	肥前	覆土中	60%　PL. 8
84	磁器	小皿	13.2	3.6	7.6	緻密　灰白	染付　唐草文　草花文　五弁花文 菊し濃淡	透明釉	肥前	覆土中	80%　PL. 9
85	磁器	小皿	[10.2]	2.7	[5.4]	緻密　明緑灰	染付　唐草文　扇。高台部砂目	透明釉	肥前	覆土中	20%
86	磁器	小皿	－	(2.4)	7.8	緻密　灰白	染付　唐草文　草花文　菊し濃淡 五弁花文	透明釉	肥前	覆土中	30%
87	青磁	小椀	[5.8]	4.6	[3.0]	緻密 明オリーブ灰	－	青磁釉	肥前	覆土中	40%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	土師質土器	火鉢	長石・石英・角閃石・赤色粒子	橙	波状文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 30	石臼	(25.8)	(10.8)	12.6	(3541.9)	安山岩	上臼　供給口の一部残存　副溝7本残存　副溝断面丸山型 回転方向反時計回り	覆土上層	
Q 31	砥石	(4.4)	3.9	(1.6)	(42.4)	安山岩。	底面4面	覆土中	
Q 32	砥石	17.9	14.5	14.8	622.2	不明	砥面3面	覆土中	PL.11

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 32	煙管	(5.5)	1.6	1.9	(4.5)	銅	雁首部　羅宇部残存	覆土中	PL.11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 31	鎌	(9.7)	(4.2)	0.3	(41.0)	鉄	先端部欠損　刃部断面逆三角形	覆土中	
M 33	包丁	(12.0)	(2.6)	0.4	(49.9)	鉄	刃部断面逆三角形　把手部欠損	覆土中	

第 208 号土坑（第 51 図）

位置　調査区南東部のＢ２g3区，標高 11 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　径 108cmほどの円形で，深さは 12cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

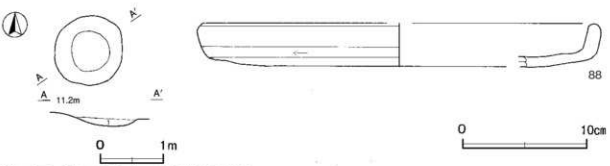
覆土　単一層である。層厚が薄いため，詳細は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙）が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 18 世紀以降と考えられる。



第 51 図　第 208 号土坑・出土遺物実測図

第 208 号土坑出土遺物観察表（第 51 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
88	土師質土器	焙烙	[31.4]	3.4	[30.4]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面横ナデ　体部下端ヘラ削り 体部外面煤付着　底部砂目	覆土中	10%

第 216 号土坑（第 52 図）

位置　調査区南東部のＢ２i3区，標高 11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１・２号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 250cm，短径 166cmの楕円形で，長径方向はＮ－ 28°－ Ｗである。深さは 77cm，底面は凹凸し，

壁は外傾している。

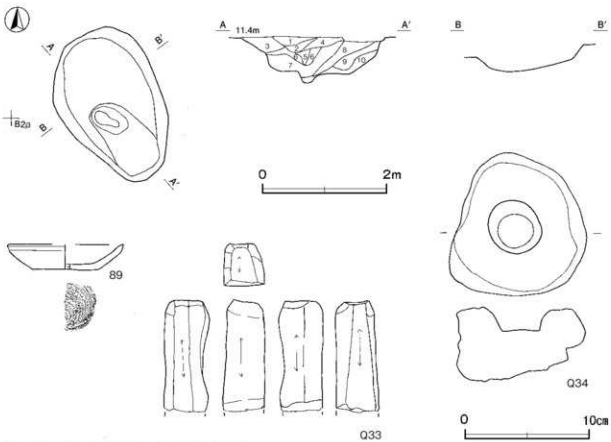
覆土　10層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれ，不規則な堆積状況から，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　明　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片５点（小皿１，甕類１，焙烙３），陶器片２点（天目茶碗，碗類），石器３点（砥石２，不明１），礫１点が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀代と考えられる。

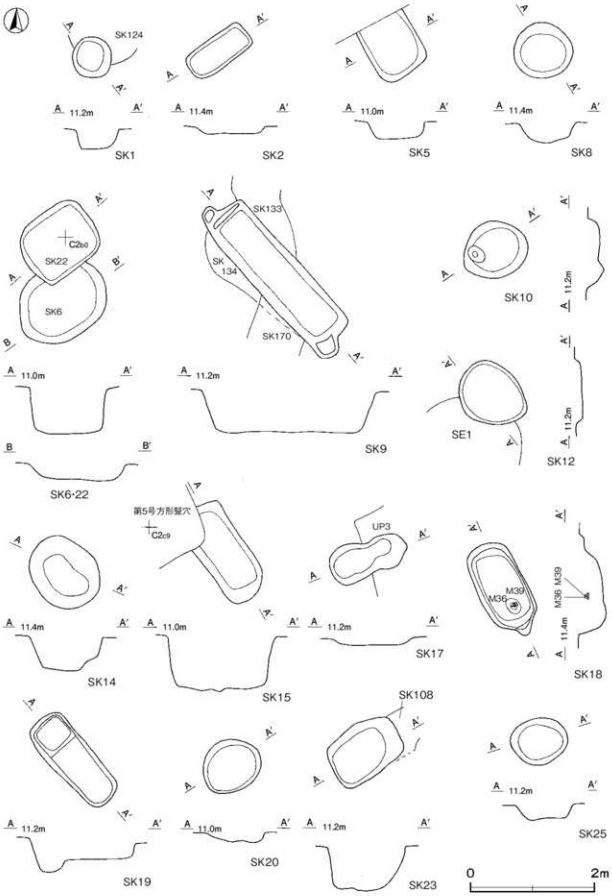


第52図　第216号土坑・出土遺物実測図

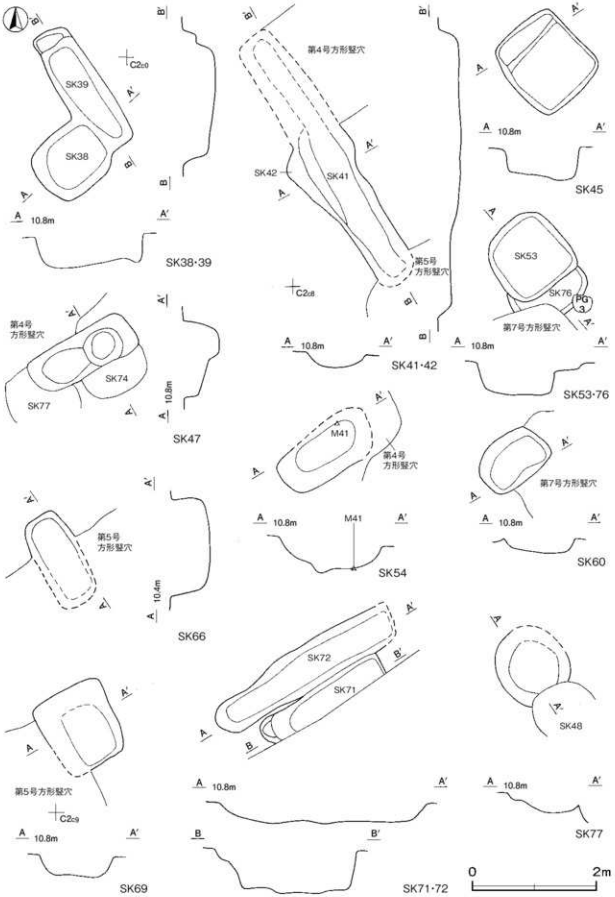
第216号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	土師質土器	小皿	[9.1]	2.0	[5.0]	雲石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	25%

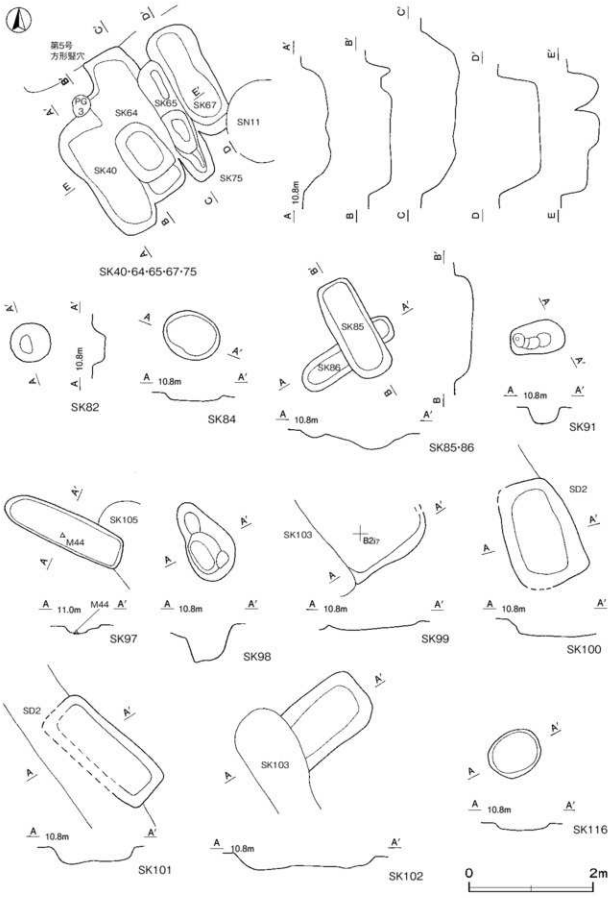
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	砥石	(8.8)	3.3	3.4	(161.8)	安山岩。	砥面５面	覆土中	
Q 34	不明	11.3	11.0	6.0	159.5	角閃石デイサイト	中央に円形の凹み	覆土中	PL10



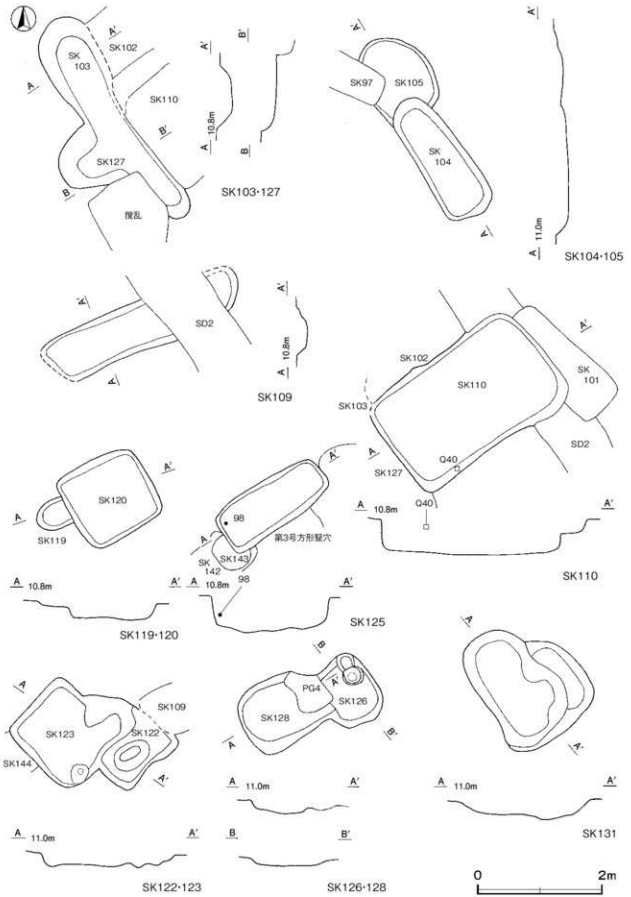
第 53 図　江戸時代の土坑実測図（1）



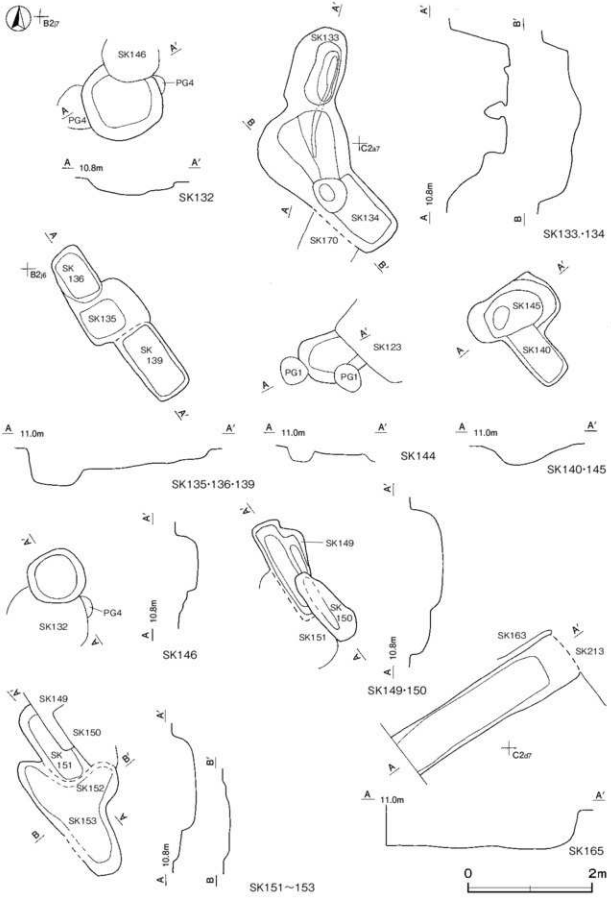
第54図　江戸時代の土坑実測図（2）



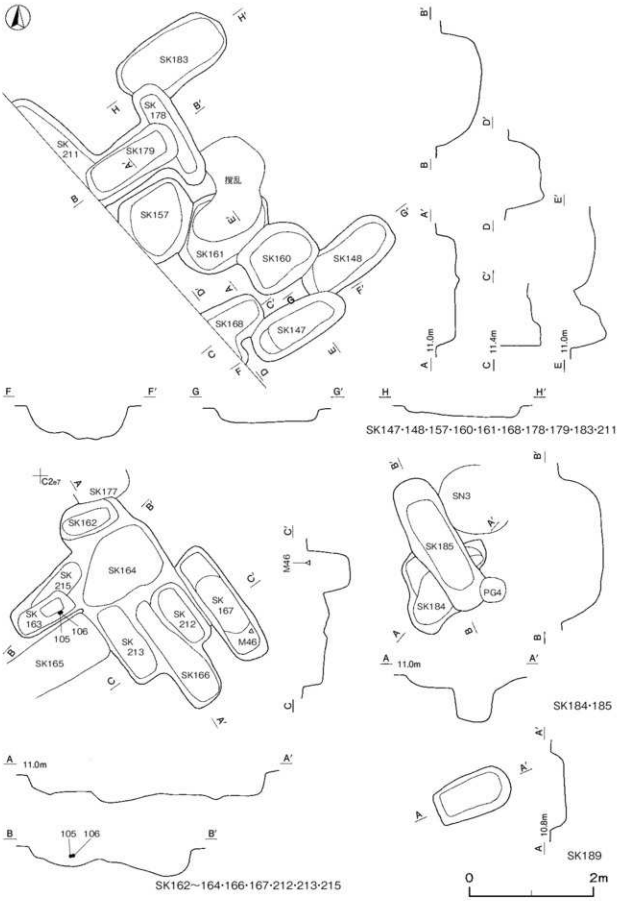
第55図　江戸時代の土坑実測図（3）



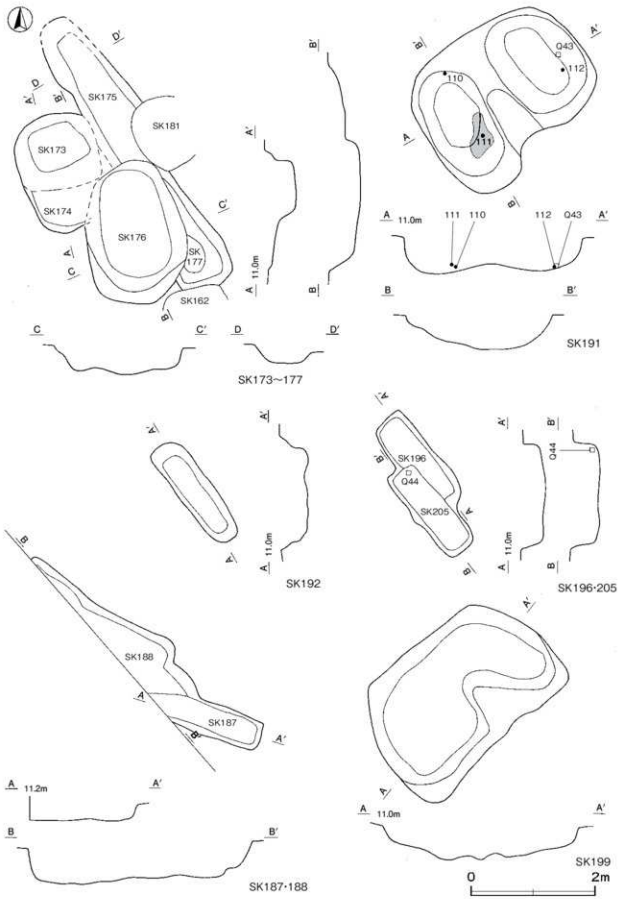
第56図　江戸時代の土坑実測図（4）



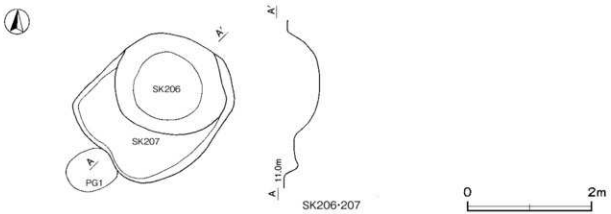
第 57 図　江戸時代の土坑実測図（5）



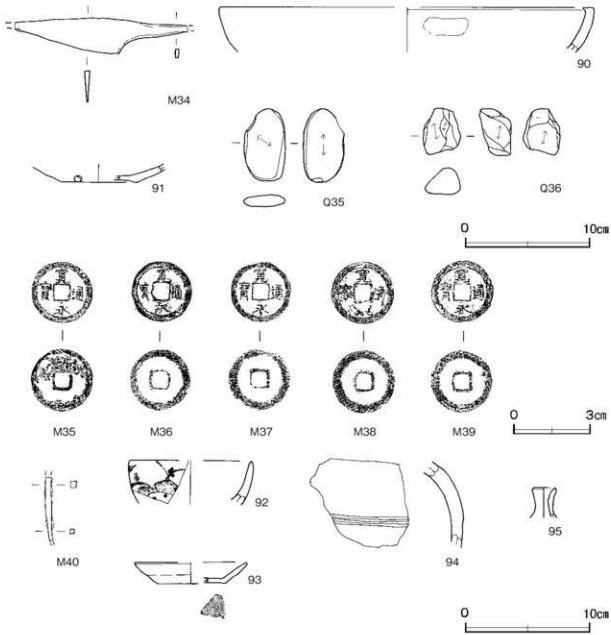
第58図　江戸時代の土坑実測図（6）



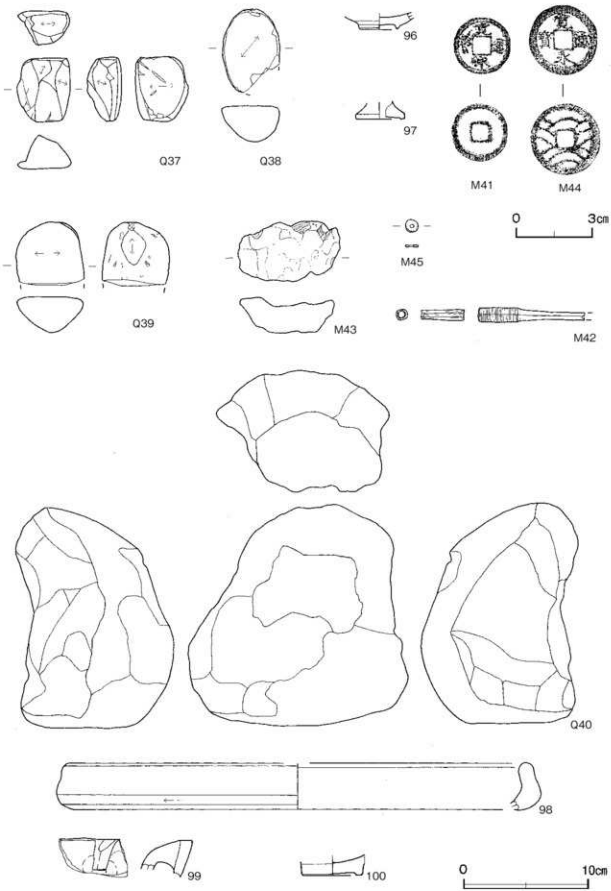
第59図　江戸時代の土坑実測図（7）



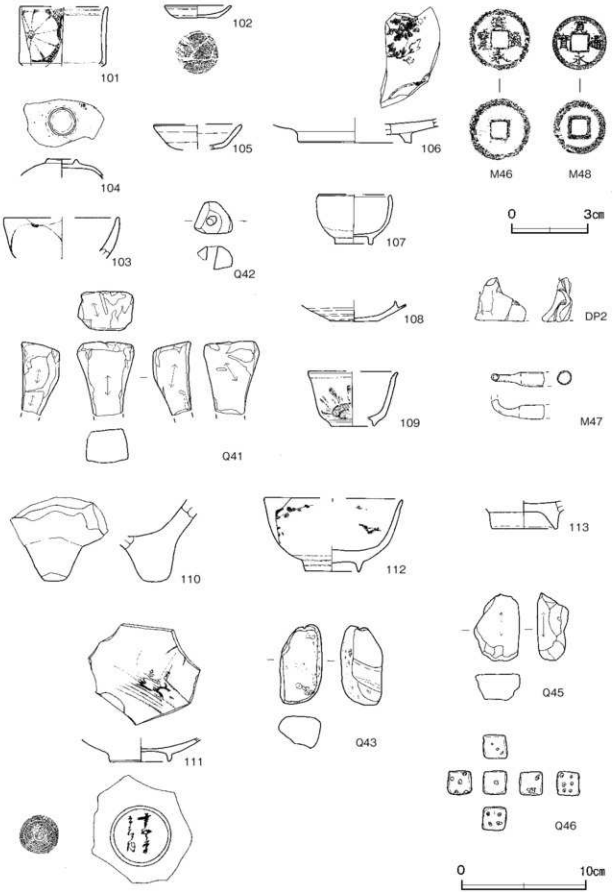
第60図　江戸時代の土坑実測図（8）



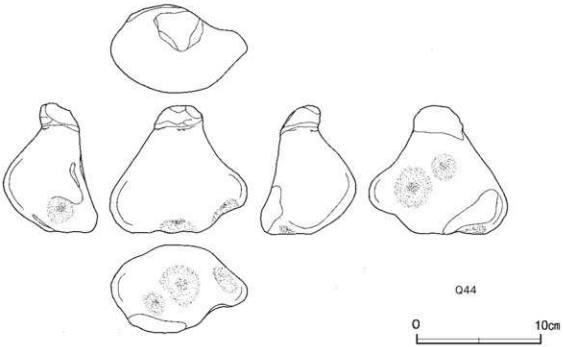
第61図　江戸時代の土坑出土遺物実測図（1）



第62図　江戸時代の土坑出土遺物実測図（2）



第63図　江戸時代の土坑出土遺物実測図（3）



第 64 図　江戸時代の土坑出土遺物実測図（4）

第 6 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	毬丁	(14.0)	2.8	0.4	(38.1)	鉄	先端部欠損　刃部断面逆三角形　把手部断面長方形	覆土中	

第 8 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	土師質土器	焙烙	[30.0]	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	外内面横ナデ　体部外面煤付着	覆土中	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
91	陶器	土瓶	－	(1.5)	[6.0]	緻密　褐灰	体部下端へラ削り　三足	－	不明	覆土中	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 35	砥石	5.7	3.2	0.9	20.4	砂岩	砥面 2 面	覆土中	
Q 36	砥石。	3.7	2.9	2.5	10.5	角閃石デイサイト	砥面 4 面。	覆土中	

第 18 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 35	寛永通寶	2.47	0.65	0.14	2.65	銅	1668	新寛永	覆土中	
M 36	寛永通寶	2.45	0.70	0.16	2.70	銅	不明	無背銭	覆土上層	
M 37	寛永通寶	2.47	0.65	0.15	2.63	銅	1668	新寛永　無背銭	覆土中	
M 38	寛永通寶	2.53	0.65	0.15	3.53	銅	不明	無背銭	覆土中	
M 39	寛永通寶	2.51	0.68	0.15	3.42	銅	1668	新寛永　無背銭	覆土上層	

第 22 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M40	釘	(5.1)	0.7	0.5	(5.0)	鉄	切釘　断面方形	覆土中	

第 23 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
92	磁器	中碗	[9.8]	(3.5)	－	緻密　灰白	染付　草花文	透明釉	肥前	覆土中	20%

第 25 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
93	土師質土器	小皿	[8.8]	1.7	[5.4]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	15%

第 38 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
94	陶器	大甕	－	(6.9)	－	緻密 オリーブ黄	外面施釉　肩部に三重の沈線	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	10%

第 40 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
95	陶器	油徳利	1.8	(2.4)	－	緻密　赤褐	外・内面施釉	錆釉	不明	覆土中	5%

第 47 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 37	砥石	5.1	4.2	1.8	62.9	砂岩	砥面 4 面	覆土中	
Q 38	砥石。	(6.6)	4.6	2.9	(33.7)	角閃石デイサイト	砥面 1 面。	覆土中	

第 54 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
96	陶器	中碗	－	(1.3)	3.0	緻密 にぶい黄橙	外・内面施釉　体部下端ヘラ削り	灰釉	京焼系。	覆土中	30%

番号	銭 種	径	孔縦	厚さ	重量	材 質	初鋳年	特 徴	出土位置	備 考
M 41	寛永通寶	2.30	0.73	0.12	2.56	銅	1668	新寛永　無背銭	底面	

第 64 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
97	磁器	仏飯器	－	(1.3)	[4.0]	緻密　にぶい橙	削り出し高台	透明釉	肥前	覆土中	5%

第 69 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器 種	長さ	幅	高さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 42	煙管	(8.5)	(1.1)	(1.1)	(10.7)	銅	吸口部　羅宇部残存	覆土中	PL11

第 84 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 39	砥石。	(5.1)	5.4	2.8	(38.8)	角閃石デイサイト	砥面２面。	覆土中	

第 85 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 43	鞆形鋤先	(4.9)	(8.0)	(3.0)	(141.7)	鉄	鋼面破損　上面浅く窪み。やや厚く錆化	覆土中	

第 97 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 44	寛永通寶	2.83	0.75	0.12	4.07	真鍮	1769	29 文銭　背十一波	覆土下層	PL.11

第 109 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器種	径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	不明	1.0	0.2	0.3	0.7	銅	部品の可能性あり	覆土中	

第 110 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 40	不明	(9.6)	(17.5)	17.5	(38.8)	角閃石デイサイト	底部平坦	覆土上層	

第 125 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	土師質土器	坩堝	[37.0]	3.7	[37.0]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	外・内面横ナデ　体部下端ヘラ削り　底部砂目	覆土中層	10%
99	土師質土器	坩堝	－	(3.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・**雲母**	黒褐	普通	外・内面横ナデ　体部外面煤付着　耳部貼付	覆土中	5%

第 126 号土坑出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
100	陶器	天目茶碗	－	(1.6)	4.7	緻密　浅黄橙	内面施釉	白釉	瀬戸美濃	覆土中	20%

第 136 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
101	磁器	小碗	[7.2]	(4.7)	－	緻密　灰白	染付　菊散らし	透明釉	肥前	覆土中	30%

第 147 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 41	砥石	(5.8)	4.5	3.1	(91.7)	砂岩。	砥面５面	覆土中	

第 161 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師質土器	小皿	5.2	1.0	3.1	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	100% PL10

第 162 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
103	磁器	中碗	[9.0]	(3.2)	－	緻密　灰白	染付　草花文	透明釉	肥前	覆土中	20%
104	磁器	蓋	－	(1.5)	－	緻密　灰白	染付	透明釉	瀬戸・美濃	覆土中	30%

第 163 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土師質土器	小皿	[7.0]	(2.0)		長石・石英・角閃石・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
106	陶器	中皿	－	(2.0)	[9.0]	緻密　灰白	鉄絵　草花文	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	20%

第 165 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 42	不明	2.6	3.0	1.8	(3.5)	角閃石デイサイト	穿孔	覆土中	

第 166 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
107	陶器	小坏	[5.6]	3.9	[3.0]	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	25%

第 167 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 46	寛永通貨	2.50	0.69	0.14	2.59	銅	1636	古寛永　無背銭	覆土中	

第 168 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
108	陶器	灯明受皿	－	(1.6)	[3.6]	緻密　淡黄	ロクロ成形　内面施釉 体部外面彫仕上　底部回転糸切り	灰釉	信楽系	覆土中	20%

第 175 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	土人形	(3.5)	(2.4)	(4.0)	(13.15)	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	座像　右半部残存	覆土中	

第 176 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
109	磁器	小碗	[7.0]	4.3	[3.4]	緻密　明緑灰	染付　草花文。	透明釉	瀬戸・美濃	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 47	煙管	(4.3)	1.1	(1.6)	(2.9)	銅	雁首部	覆土中	

第 187 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 48	寛永通寶	2.16	0.68	0.12	1.79	鉄	1738	無背銭	覆土中	PL11

第 191 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	瓦質土器	火鉢	－	(6.6)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	三足	覆土中層	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
111	陶器	小鉢	－	(1.9)	4.8	緻密　淡黄	鉄絵　楊梅山水文　底部に刻印有り 底部に墨書「東□倉」□□内」	灰釉	肥前系	覆土中層	20%
112	磁器	中碗	[10.8]	5.8	4.3	緻密　灰白	染付け　草花文	透明釉	肥前	覆土下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 43	浮子。	6.3	3.3	2.5	28.1	角閃石デイサイト	半円柱状の凹み	覆土下層	

第 205 号土坑出土遺物観察表（第 64 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 44	不明	10.2	10.9	7.5	585.9	砂岩。	凹部5か所　凹部内に錆が付着	覆土中	PL10

第 206 号土坑出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
113	陶器	中碗	－	(2.2)	5.2	緻密　浅黄	外・内面施釉	灰釉	京焼系。	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 45	砥石。	(5.4)	(3.5)	(2.0)	(30.5)	角閃石デイサイト	砥面2面。	覆土中	
Q 46	碁子	1.9	1.9	1.9	4.6	角閃石デイサイト	碁子目 1 － 6　浅い碁子の目	覆土中	PL10

表8　江戸時代の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	B 2j7	N－33°－W	円形	0.66 × 0.62	30	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器（焙烙），陶器（小椀），磁器（小椀），鉄製品（鎌）	本跡→HG 1 SK2との新旧関係は不明
2	B 2i5	N－54°－E	隅丸長方形	1.08 × 0.48	13	平坦	外傾	－	陶器（鉢類）	HG 1→本跡
5	C 2d7	N－30°－W	隅丸長方形	(0.98) × 0.86	27	平坦	外傾	人為	土師質土器（焙烙）	HG 1→本跡
6	C 2b9	N－53°－E	［楕円形］	1.54 × 1.18	30	平坦	外傾	人為	磁器（小椀），鉄製品（釘，刮丁）	本跡→HG 1 SK2との新旧関係は不明
8	B 2g3	－	円形	0.93 × 0.88	39	凹凸	外傾	人為	土師質土器（焙烙），陶器（土瓶），石器（砥石）	
9	C 2a6	N－41°－W	隅丸長方形	3.10 × 0.79	80	平坦	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），陶器（陶瓶，瓶類）	SK183・134・170，HG 1→本跡
10	B 2j7	N－56°－E	楕円形	1.05 × 0.95	60	凹凸	外傾	人為	土師質土器（小皿），陶器（灯明具），石器（砥石）	第3号方形墓穴遺構，HG 1→本跡
12	B 2i4	N－41°－W	楕円形	1.14 × 0.96	14	平坦	ほぼ直立	－	陶器（土瓶）	SE 1→本跡
14	B 2h3	N－39°－W	楕円形	1.20 × 1.04	55	平坦	外傾	人為	陶器（天目茶碗），石器（砥石）	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
15	C 2ε9	N－32°－W	隅丸長方形	1.70 × 0.76	86	凹凸	ほぼ直立	入為	土師質土器（坩堝），陶器（天目茶碗），磁器（碗類），土製品（鞴羽）	第5号方形墓穴遺構，HG 1→本跡
17	C 2ε6	N－69°－E	不整形	1.25 × 0.62	10	凹凸	外傾	入為	土師質土器（小皿），鉄製品（釘）	UP 3→本跡 →HG 1
18	B 2ι2	N－36°－W	隅丸長方形	1.60 × 0.80	42	凹凸	外傾	入為	陶器（天目茶碗，黒釉），銅製品（寛永通貨）	墓域の可能性あり
19	B 2ι6	N－40°－W	隅丸長方形	1.69 × 0.68	58	有段	外傾	入為	磁器（碗類）	本跡→HG 1
20	C 2ι6	N－51°－E	楕円形	0.98 × 0.82	16	傾斜	外傾	入為	土師質土器（坩堝）	UP 3→本跡 →HG 1
22	C 2ι6	N－50°－E	長方形	1.22 × 1.02	86	平坦	直立	自然入為	瓦質土器（坩堝），鉄製品（釘）	本跡→HG 1 第4と2の新旧関係は不明
23	B 2ι9	N－62°－E	長方形	1.22 × 0.84	66	平坦	外傾	入為	土師質土器（坩堝，要鞴），陶器（碗類，土瓶），磁器（碗類）	本跡→HG 1 SK108との新旧関係は不明
25	C 2ι7	N－89°－W	楕円形	0.92 × 0.77	32	凹凸	外傾	入為	土師質土器（小皿）	本跡→HG 1
35	C 2ε9	－	円形	1.50 × 1.50	43	平坦	ほぼ直立	入為	瓦質土器（坩堝），陶器（急須），磁器（小碗），石器（砥石）	本跡→HG 1 SK07との新旧関係は不明
38	C 2ε9	N－52°－E	隅丸長方形	1.15 × 1.06	54	凹状	ほぼ直立	入為	陶器（大甕，香炉）	SK39→本跡 →HG 1
39	C 2ι9	N－34°－W	隅丸長方形	2.21 × 0.72	49	凹凸	ほぼ直立	入為	陶器（小杯）	本跡→SK38, HG 1
40	C 2ε8	N－36°－W	隅丸長方形	2.10 × 0.70	32	平坦	外傾	入為	土師質土器（坩堝），陶器（油徳利），磁器（碗類）	本跡→SK64, HG 1
41	C 2ι8	N－33°－W	隅丸長方形	4.55 × 0.67	35	凹凸	外傾	入為	土師質土器（小皿），陶器（鼎脚）	第4・5号方形墓穴遺構→SK42→本跡→HG 1
42	C 2ι8	N－65°－W	－	－	－	－	外傾	－		第4号方形墓穴遺構→本跡→SK41, HG 1 SK41との新旧関係は不明
45	C 2ι9	N－38°－W	長方形	1.43 × 1.28	54	有段	直立	入為	土師質土器（小皿，擂），瓦質土器（坩堝），陶器（要鞴）	本跡→HG 1
47	C 2ι8	N－58°－E	隅丸長方形	1.76 × 0.66	58	凹凸	外傾	－	土師質土器（小皿），瓦質土器（坩堝），陶器（灯明皿），石器（砥石）	第1・3・4号方形墓穴群→SK51→SK53 SK51との新旧関係は不明
48	C 2ι8	－	円形	1.08 × 1.08	51	凹状	外傾	入為	陶器（小杯），磁器（小碗，土瓶），石器（砥石），鉄製品（釘，鋲頭）	第6号方形墓穴遺構，SK77, HG 1→本跡
53	B 2ι0	N－47°－E	隅丸方形	1.24 × 1.20	50	平坦	ほぼ直立	入為	土師質土器（要），陶器（天目茶碗，黒釉），磁器（鳥紋利）	SK78→本跡 →HG 1
54	C 2ι8	N－56°－E	隅丸長方形	1.70 × 0.83	48	凹凸	外傾	－	土師質土器（小皿，須恵甲），陶器（中碗），銅製品（寛永通貨）	第4号方形墓穴遺構→本跡→HG 1
60	C 2ι9	N－48°－E	隅丸長方形	1.14 × 0.78	20	平坦	ほぼ直立	入為	土師質土器（小皿），陶器（要鞴）	第7号方形墓穴遺構→本跡→HG 1
64	C 2ε8	N－34°－W	不整形	2.48 × 1.09	57	凹凸	外傾	入為	陶器（大鉢），磁器（碗類，仏飯器）	第5号方形墓穴遺構→SK60→65→本跡→HG 1 SK75との新旧関係は不明
65	C 2ε9	N－28°－W	隅丸長方形	2.33 × 0.49	54	凹凸	外傾	入為	陶器（黒釉），磁器（碗類）	第5号方形墓穴遺構→本跡→HG 1 SK67との新旧関係は不明
66	C 2ι8	N－32°－W	隅丸長方形	1.55 × 0.68	64	平坦	外傾	入為	瓦質土器，瓦，鉄製品	本跡→HG 1
67	C 2ε9	N－31°－W	隅丸長方形	1.90 × 0.79	67	平坦	外傾	－	土師質土器（坩堝），陶器（板鞴），磁器（大碗），瓦	本跡→HG 1 SK55・65・75との新旧関係は不明
69	C 2ι9	N－30°－W	［長方形］	1.32 × 1.14	63	平坦	外傾	入為	銅製品（煙管）	第5号方形墓穴遺構→本跡→HG 1
71	C 2ε0	N－57°－W	［隅丸長方形］	2.24 × (0.45)	67	有段	外傾	入為	陶器（擂鉢）	本跡→HG 1 SK72との新旧関係は不明
72	C 2ε0	N－57°－W	［隅丸長方形］	3.27 × 0.67	33	凹凸	外傾	入為		本跡→HG 1 SK71との新旧関係は不明
75	C 2ε9	N－28°－W	［隅丸長方形］	(0.47) × 0.49	(52)	－	外傾	入為		本跡→SK65, HG 1 SK67・68との新旧関係は不明
76	B 2ι0	－	［隅丸長方形］	1.26 × (0.52)	6	平坦	外傾	入為		第7号方形墓穴遺構→本跡→SK52, HG 1
77	C 2ι8	N－31°－W	［楕円形］	(1.09) × 1.13	32	凹状	外傾	入為	磁器（碗類），銅製品（不明鉄貨），自然遺物（魚骨）	第4号方形墓穴遺構→本跡→SK68, HG 1 SK68との新旧関係は不明
82	B 2ι7	－	円形	0.64 × 0.62	20	傾斜	外傾	入為		本跡→HG 1 SD 2との新旧関係は不明
84	B 2ι7	N－70°－W	楕円形	0.92 × 0.78	11	平坦	ほぼ直立	入為	陶器（擂鉢），石器（砥石）	本跡→HG 1
85	B 2ι7	N－25°－W	隅丸長方形	1.68 × 0.66	26	凹凸	外傾	入為	土師質土器（小皿，陶器（小碗，香炉，急須），輪形鍛冶滓	SK86→本跡→HG 1
86	B 2ι6	N－59°－E	楕円形	1.74 × 0.46	18	凹凸	外傾	入為	土師質土器（坩堝）	SK110→本跡 →SK85, HG 1
91	B 2ι8	N－79°－E	不整形	0.90 × 0.54	38	有段	外傾	入為	陶器（中鉢）	本跡→HG 1 SD 2との新旧関係は不明
97	B 2ε5	N－66°－W	隅丸長方形	2.00 × 0.60	10	凹凸	ほぼ直立	入為	石器（火打石），銅製品（寛永通貨）	SK105との新旧関係は不明
98	B 2ι8	N－27°－W	不整形	1.36 × 0.76	48	凹凸	外傾	入為	土師質土器（要鞴）	本跡→SD 2, HG 1 本跡→SK101, HG 1 SK101・102との新旧関係は不明
99	B 2ι7	N－56°－E	［楕円形］	(1.45) × (4.00)	14	凹凸	外傾	入為		本跡→SD 2, HG 1 SK100との新旧関係は不明
100	B 2ι7	N－15°－W	［隅丸長方形］	1.75 × (1.15)	24	平坦	外傾	入為	陶器（不明）	SK110→本跡 →SD 2, HG 1
101	B 2ι7	N－43°－W	［長方形］	1.98 × 0.82	26	平坦	外傾	－		本跡→SK104 SK97との新旧関係は不明
102	B 2ι6	N－49°－E	［隅丸長方形］	(1.37) × 1.00	18	凹凸	外傾	自然入為		SK99・102→本跡 →SK100・127, HG 1 HG 1との新旧関係は不明
103	B 2ι6	N－28°－W	［楕円形］	3.78 × 0.67	22	平坦	外傾	入為	土師質土器（要鞴）	SK105→本跡 →HG 1
104	B 2ε6	N－34°－W	隅丸長方形	2.15 × 0.86	22	平坦	外傾	－	陶器（不明）	本跡→SK104 SK97との新旧関係は不明
105	B 2ε5	N－45°－W	楕円形	1.44 × 1.03	11	凹状	外傾	入為		

番号	位置	長径(軸)×短径(軸)/m	深さ(cm)	平面形	長径(軸)×短径(軸)/m	深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
109	B 2b6	N－66°－E	[楕円形]	(3.20) × 0.76	18	皿状	外傾	－	人為	土師質土器（焙烙），磁器（碗類），銅製品（不明），瓦	本跡→SK 7, HG 1 SD 2・SK206・122・123 上の新旧関係は不明
110	B 2b7	N－52°－E	隅丸長方形	2.95 × 1.73	42	平坦	ほぼ直立	人為	石器（不明）		SK127→本跡→SK85・86・101・SD 2, HG 1 SD9・25 上の新旧関係は不明
116	C 2a8	N－62°－E	楕円形	0.86 × 0.70	12	平坦	ほぼ直立	人為	陶器（小坏）		本跡→HG 1
119	C 2a8	N－66°－E	楕円形	(0.52) × 0.49	10	平坦	外傾	人為			本跡→SK120, HG1
120	C 2a8	N－65°－E	方形	1.38 × 1.30	28	平坦	外傾	人為	土師質土器（焙烙），陶器（天目茶碗，瓶類），磁器（紅皿）	SK119→本跡→HG 1	
122	B 2b6	N－45°－E	[長方形]	(1.15) × (0.77)	20	凹凸	ほぼ直立	人為	陶器（瓶類），瓦	本跡→SK 7・123, HG 1 SD30 との新旧関係は不明	
123	B 2b6	N－47°－W	不整長方形	1.46 × 1.26	23	凹凸	外傾	人為	陶器（瓶類），瓦	SK122→本跡→SK 7, HG 1 SD30・22・31 との新旧関係は不明	
124	B 2j7	N－31°－E	[楕円形]	(1.27) × 1.23	39	平坦	外傾	人為	陶器（天目茶碗），石器（砥石），銅製品（煙管，不明銭貨）	第1号竪穴遺構→本跡→HG 1 SK 1 との新旧関係は不明	
125	B 2j7	N－56°－E	隅丸長方形	1.86 × 0.76	54	凹凸	ほぼ直立	人為	土師質土器（焙烙），瓦質土器（焙烙），陶器（瓶類），瓦	第3号方形竪穴遺構→本跡→HG 1 SD31 との新旧関係は不明	
126	B 2i7	N－35°－W	隅丸長方形	1.17 × (0.89)	60	平坦	外傾	人為	陶器（天目茶碗）	本跡→HG 1 SK126・PG 4 との新旧関係は不明	
127	B 2i6	N－61°－E	[楕円形]	(1.79) × (1.01)	21	平坦	外傾	人為		SD8→本跡→SK 16, HG 1 PG 4 との新旧関係は不明	
128	B 2i6	N－67°－E	隅丸長方形	(1.46) × 1.10	18	平坦	外傾	人為	陶器（灯明皿），磁器（碗類）	PG 4→本跡→HG 1 SK126 との新旧関係は不明	
131	B 2g5	N－40°－W	不整形	2.04 × 1.58	34	凹凸	外傾	人為	瓦質土器（焙烙），磁器（合子）	本跡→HG 1	
132	B 2j7	－	円形	1.22 × 1.22	27	平坦	外傾	人為		PG 4→本跡→SK128・146, HG 1	
133	B 2j6	N－13°－E	不整形	－	94	凹凸	外傾	人為	台石。	本跡→SK 9, HG 1 SK38・126 との新旧関係は不明	
134	C 2a6	N－43°－W	[隅丸長方形]	2.05 × 0.89	105	凹凸	外傾	人為		本跡→SK 9・HG 1 SK38・126 との新旧関係は不明	
135	B 2j6	N－29°－W	[隅丸長方形]	(0.86) × 1.05	32	平坦	外傾	人為		SK136→本跡→SK139, HG 1	
136	B 2j6	N－29°－W	[隅丸長方形]	0.68 × 0.58	66	凹凸	外傾	人為	土師質土器（焙烙），磁器（小椀，碗類）	本跡→SK135, HG 1 SK38・126 との新旧関係は不明	
139	B 2j6	N－37°－W	[長方形]	1.20 × 0.68	25	凹凸	外傾	人為	土師質土器（焙烙）	SK135→本跡→HG 1 SK38・126 との新旧関係は不明	
140	B 2i6	N－40°－W	[長方形]	(0.90) × 0.56	18	凹凸	外傾	－	陶器（瓶類）	SK145→本跡→HG 1	
144	B 2h5	N－63°－E	[楕円形]	(0.80) × (0.58)	15	平坦	外傾	－	陶器（天目茶碗）	本跡→HG 1 SK123・PG 1 との新旧関係は不明	
145	B 2i6	N－50°－E	楕円形	1.45 × 0.80	25	凹凸	外傾	人為		本跡→SK140, HG 1	
146	B 2j7	N－50°－E	円形	0.94 × 0.90	32	平坦	外傾	人為	土師質土器（焙烙）	SK132→本跡→SK118, HG 1	
147	C 2e6	N－59°－E	[隅丸長方形]	1.62 × 0.78	54	凹凸	外傾	人為	瓦質土器（焙烙），陶器（片口），石器（砥石）	HG 1→本跡 SD8・38 との新旧関係は不明	
148	C 2e6	N－55°－E	[隅丸長方形]	1.68 × 0.76	22	平坦	外傾	人為	磁器（碗類，蓋）	HG 1→本跡 SD7・38 との新旧関係は不明	
149	C 2b5	N－30°－W	[隅丸長方形]	(0.67) × (0.45)	48	傾斜	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），陶器（瓶類）	SK150→210→本跡→SK124, HG 1	
150	C 2b5	N－38°－W	[隅丸長方形]	0.43 × (1.37)	32	平坦	外傾	人為	土師質土器（焙烙）	SD9・21・23→本跡→SK151 との新旧関係は不明	本跡→SK150・SK149・152, HG 1 SK151 との新旧関係は不明
151	C 2b5	N－28°－W	[隅丸長方形]	(1.41) × (0.58)	35	平坦	外傾	－	土師質土器（焙烙）	SD1・15→本跡→HG 1 SK150 との新旧関係は不明	
152	C 2b5	N－51°－E	[楕円形]	(1.35) × (0.57)	12	平坦	外傾	人為		本跡→SK152, HG 1 SK151 との新旧関係は不明	
153	C 2b5	N－37°－W	[楕円形]	2.51 × 0.65	10	平坦	外傾	人為		SK151 との新旧関係は不明	
157	C 2e6	N－52°－E	[楕円形]	(1.24) × 1.18	36	凹凸	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），陶器（中椀），銅製品（不明銭貨），瓦	本跡→SK161, HG 1	
160	C 2e6	N－55°－E	[不整形]	1.22 × (0.96)	40	傾斜	外傾	人為	磁器（不明）	SK161→本跡→HG 1 SK48 との新旧関係は不明	
161	C 2e6	N－58°－E	[不整形]	1.67 × 1.50	32	凹凸	外傾	人為	土師質土器（小皿），磁器（碗類）	SK157→本跡→SK160, HG 1	
162	C 2e7	N－70°－E	[楕円形]	1.08 × (0.53)	38	凹凸	外傾	－	磁器（中椀，蓋類）	SC8→本跡→SC7, SC12 との新旧関係は不明	
163	C 2e7	N－58°－E	[楕円形]	(0.98) × 0.66	28	凹凸	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），陶器（碗類，中皿）	SC8→本跡→SC16, SC12 との新旧関係は不明	本跡・21・23→本跡→SC92・96・104, SC11・SC210・212・167 との新旧関係は不明
164	C 2e7	N－54°－E	[不整形]	(1.61) × (0.87)	36	凹凸	外傾	人為	土師質土器（焙烙），陶器（碗類，徳利）	本跡→SK164・213→本跡→HG 1	
165	C 2e6	N－58°－E	[隅丸長方形]	(2.96) × 0.78	60	平坦	外傾	人為	陶器（小椀，天目茶碗，瓶類）	SK164・213→本跡→HG 1	
166	C 2e7	N－34°－W	[隅丸長方形]	1.19 × 0.64	36	凹凸	外傾	人為	陶器（小坏，瓶類）	SK164→本跡→HG 1 SD22・23 との新旧関係は不明	
167	C 2e7	N－36°－W	[隅丸長方形]	2.00 × 0.60	74	凹凸	ほぼ直立	－	土師質土器（焙烙），陶器（灯明受皿），銅製品（寛永通貨）	本跡→HG 1 SK164・212 との新旧関係は不明	
168	C 2e6	－	不整形	－	62	凹凸	外傾	人為	陶器（灯明受皿）	本跡→HG 1 SK167 との新旧関係は不明	
173	C 2b6	N－64°－E	[隅丸長方形]	(1.36) × (1.03)	62	凹凸	外傾	人為	土師質土器（小皿），陶器（碗類）	SK175→本跡→SK176, HG 1 SK175 との新旧関係は不明	
174	C 2b6	－	－	－	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK173, HG 1 SK175・176・177 との新旧関係は不明	
175	C 2b6	N－35°－W	[隅丸長方形]	(2.62) × 0.84	20	平坦	外傾	－	陶器（碗類），土製品（土人形）	SK21・173・174・176・177・180, SD 6, HG 1 1 との新旧関係は不明	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
176	C 2b6	N－1°－E	[楕円形]	2.26 × 1.61	48	凹凸	外傾	人為	土師質土器(焙烙)，陶器(壺類)，磁器(小碗)，銅製品(煙管)	SK23・177→本跡→HG 1 SK25との新旧関係は不明
177	C 2b7	N－33°－W	[隅丸長方形]	(1.91) × (0.95)	36	平坦	外傾	人為	陶器(小坏)	本跡→176，HG 1 SK5&162・175・181上の新旧関係は不明
178	C 2b6	N－29°－W	[隅丸長方形]	1.80 × 0.55	54	傾斜	外傾	人為	土師質土器(小皿)，陶器(皿類)	SK29→本跡→PG 4，SK1 SK63との新旧関係は不明
179	C 2c5	N－60°－E	[隅丸長方形]	(1.61) × 1.30	68	傾斜	外傾	人為	土師質土器(焙烙)	本跡→SK29・PG 4，SK1 SK31との新旧関係は不明
183	C 2b6	N－55°－E	[隅丸長方形]	1.86 × 0.94	18	凹凸	外傾	－	土師質土器(焙烙)	本跡→HG 1 SK178との新旧関係は不明
184	B 2i5	－	不整形	－	15	平坦	外傾	－		本跡→SK185，HG 1
185	B 2i5	N－33°－W	隅丸長方形	2.32 × 0.76	72	平坦	外傾	人為	土師質土器(小皿，焙烙)	SK184→本跡→HG 1 SN 3，PG 1・4との新旧関係は不明
187	C 2a4	N－70°－W	[長方形]	(1.89) × 0.53	28	平坦	外傾	人為	銅製品(寛永通寶)	SK188→本跡
188	C 2a4	－	不整形	(3.49) × (0.83)	30	凹凸	外傾	人為	土師質土器(焙烙)	本跡→SK187
189	B 2d2	N－65°－E	隅丸長方形	1.24 × 0.69	26	平坦	外傾	人為	磁器(壺類)，骨粉	本跡→TM 1 墓坑の可能性あり
191	B 2d2	N－56°－E	不整形	2.84 × 2.30	54	凹凸	外傾	人為	土師質土器(小皿)，瓦質土器(火鉢)，陶器(中皿)，自然遺物(貝)	本跡→TM 1
192	C 2c8	N－36°－W	隅丸長方形	1.86 × 0.57	46	凹凸	外傾	人為	土師質土器(焙烙)	本跡→HG 1
196	C 2b7	N－39°－W	[長方形]	1.74 × 0.66	36	平坦	ほぼ直立	人為	石器(不明)	本跡→SK205，HG 1
199	B 1c0	N－45°－E	不整形	3.16 × 2.10	47	凹凸	外傾	人為		本跡→TM 1
202	B 2f1	N－33°－E	不整形	(7.10) × 3.38	133	傾斜	外傾	人為	土師質土器(焙烙)，陶器(中碗)，磁器(小碗)，銅製品(煙管)	
205	C 2c7	N－41°－W	長方形	1.34 × 0.58	42	平坦	ほぼ直立	人為	磁器(小碗)	SK196→本跡→HG 1 PG4との新旧関係は不明
206	B 2g4	N－60°－W	楕円形	1.85 × 1.58	62	凹凸	外傾	自然	土師質土器(焙烙)，陶器(中碗)，石製(紙石)，瓦質土器(壺・	SK207→本跡
207	B 2g4	N－48°－E	[不整形]	2.42 × 2.02	16	凹凸	ほぼ外傾	人為		本跡→SK206 PG 1との新旧関係は不明
208	B 2g3	－	円形	1.09 × 1.08	12	皿状	外傾	－	土師質土器(焙烙)	
210	C 2b5	N－24°－W	[隅丸長方形]	(0.71) × (0.27)	10	平坦	直立	－		本跡→SK149・150，HG 1
211	C 2b5	N－49°－W	[隅丸長方形]	(1.51) × (0.41)	－	－	外傾	－		本跡→HG 1 SK179・PG 4との新旧関係は不明
212	C 2c7	N－38°－W	[隅丸長方形]	(1.11) × (0.58)	40	凹凸	直立	－		本跡→HG 1 SK196・164・167との新旧関係は不明
213	C 2c7	N－34°－W	[隅丸長方形]	(1.38) × (0.53)	33	平坦	直立	－		本跡→SK163，HG 1 SK163・164・166との新旧関係は不明
215	C 2c7	N－46°－E	[楕円形]	(1.21) × (0.43)	23	凹凸	外傾	－		本跡→163・164，HG 1 SK162との新旧関係は不明
216	B 2i3	N－28°－W	楕円形	250 × 166	77	凹凸	外傾	人為	土師質土器(小皿，焙烙)，陶器片(天目茶碗)，石器(紙石)	SK11・2との新旧関係は不明

(7) 溝跡

第２号溝跡（第65・66図）

位置　調査区北西部から南東部にかけてのＡ１h0区～Ｂ２j8区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

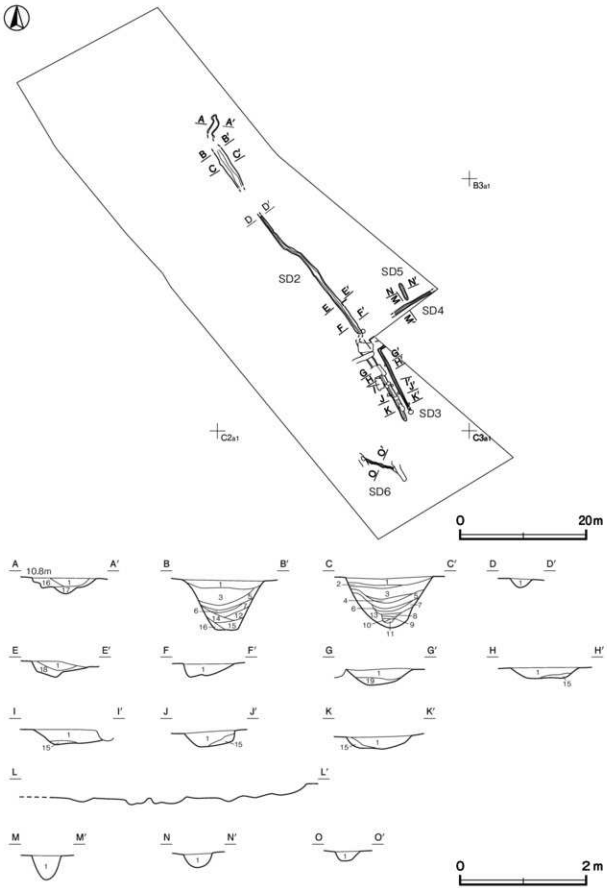
重複関係　第98・100・101号土坑，第１号整地層を掘り込み，覆土上面に第１号水塚が構築されている。第82・91・106・109・110号土坑，第４号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長さは57.76ｍで，Ｂ２j8区から北西方向（Ｎ－35°－Ｗ）へ直線的に延び，Ａ１i0区で北東方向（Ｎ－39°－Ｅ）へＬ字状に屈曲し，さらにＡ１h0区で北西方向（Ｎ－27°－Ｗ）へ屈曲している。規模は，上幅0.19～0.78ｍ，下幅0.07～0.40ｍで，確認面からの深さは13～79cmである。底は中央部が最も高く，北西部との比高は34cm，南東部との比高は10cmである。断面はＵ字状や逆台形で，壁は外傾している。

覆土　19層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　明灰褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
10　明灰褐色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量



第65図　第２～６号溝跡実測図

12	暗　褐　色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
13	褐　　色	ローム粒子多量，粘土ブロック少量	
14	にぶい褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
15	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	
16	褐　　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	
17	褐　　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
18	灰　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	
19	暗　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師質土器片３点（小皿２，焙烙１），陶器片21点（小坏１，碗類９，菊皿１，皿類３，擂鉢２，香炉４，小甕１），磁器片５点（中碗２，皿類１，仏飯器１，不明１），石器２点（砥石），銅製品１点（煙管），礫４点が，南東部の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から19世紀前半以降と考えられる。地境の溝として機能していたと考えられる。

第66図　第２号溝跡出土遺物実測図

第２号溝跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	土師質土器	焼塩壺	(6.7)	7.5	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部欠損	覆土上層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
115	陶器	小皿	11.0	2.6	6.0	緻密 灰オリーブ	内・外面口縁部施釉 体部下端ヘラ削り	灰釉	瀬戸・美濃	覆土上層	40%
116	磁器	中碗	9.8	5.2	4.0	緻密 明オリーブ灰	染付　丸の中に桐の葉	透明釉	肥前	覆土上層	60%　PL８
117	磁器	中碗	－	(3.7)	3.8	緻密　明緑灰	染付　草花文	透明釉	肥前	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q47	砥石	(6.6)	3.0	1.3	(43.4)	安山岩	砥面５面	覆土中	
Q48	砥石	(5.7)	(3.3)	1.6	(39.1)	砂岩	砥面４面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M49	煙管	(1.5)	1.4	－	(1.2)	銅	火皿部	覆土中	
M50	煙管	(3.8)	1.2	(2.1)	(5.4)	銅	雁首部	覆土上層	
M51	煙管	(1.7)	1.6	(1.2)	(2.4)	銅	火皿部	覆土上層	

第３号溝跡（第65図）

位置　調査区南東部のＢ２g7区～Ｂ２j8区，標高11ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層を掘り込んでいる。第81号土坑，第４号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びているため，長さは11.72 mしか確認できなかった。Ｂ２j8区から北西方向（Ｎ－28°－Ｗ）へ直線的に延び，Ｂ２g7区で北東方向（Ｎ－53°－Ｅ）へ屈曲している。規模は，上幅0.29～0.43 m，下幅0.15～0.22 mで，確認面からの深さは15～24cmである。底は，南東部から北西部へ向かって緩やかに傾斜し，南東部と北西部との比高は８cmである。断面はＵ字状で，壁は外傾している。

遺物出土状況　土師質土器片３点（焙烙），陶器片２点（碗類，不明），磁器片１点（碗類），石器１点（砥石）が覆土中から出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器や重複関係から19世紀前半以降と考えられる。第２号溝跡と至近距離で並走していることから，地境の溝と考えられる。

第４号溝跡（第65図）

位置　調査区中央部のＢ２e9区～Ｂ２f7区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層との新旧関係は不明である。

規模と形状　北東部が調査区域外へ延び，南西部が攪乱を受けているため，長さは6.83 mしか確認できなかった。Ｂ２e9区から南西方向（Ｎ－59°－Ｅ）へ直線的に延びている。規模は，上幅0.39～0.45 m，下幅0.07～0.17 mで，確認面からの深さは21～40cmである。北東部と南西部の比高はほぼ認められない。断面はＵ字状で，壁は外傾している。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），陶器片１点（碗類），磁器片２点（碗類，不明）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。機能は，地境の溝と考えられる。

第５号溝跡（第65図）

位置　調査区中央部のＢ２e8区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号整地層との新旧関係は不明である。

規模と形状　長さは3.01 mで，Ｂ２e9区から南東方向（Ｎ－26°－Ｗ）へ直線的に延びている。規模は，上幅0.39～0.59 m，下幅0.22～0.33 mで，確認面からの深さは25～40cmで，北西部から南東部へ向かって緩やかに傾斜している。底は中央部が一段下がって最も深く，北西部との比高は15cmである。断面はＵ字状で，壁は外傾している。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　灰　色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量

所見　時期は，隣接する第４号溝跡と直交していることから，第４号溝跡と同じ江戸時代と考えられる。地境の溝として機能していたと考えられる。

表9　江戸時代の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
2	A 1b0～B 2j8	N－35°－W N－29°－E N－27°－W	直線 屈曲	57.8	0.19～0.78	0.07～0.40	13～79	U字状 逆台形	外傾	人為	土師質土器（小皿，焙烙），陶器（小甕，擂鉢，小瓶，瓶類），磁器（中碗，仏飯器），石器（砥石），銅製品（煙管）	SB6・10・11, B5 1→SB6 SB32・91・138・139・141, P5 1との新旧関係不明
3	B 2g7～B 2j8	N－28°－W N－53°－E	直線 屈曲	(11.7)	0.29～0.43	0.15～0.22	15～24	U字状	外傾	－	土師質土器（焙烙），陶器（碗類），石器（砥石）	HG 1→本跡 SK81, P5 4との新旧関係は不明
4	B 2e9～B 2f7	N－59°－E	直線	(6.8)	0.39～0.45	0.07～0.17	21～40	U字状	外傾	－	土師質土器（焙烙），陶器（碗類），磁器（碗類）	HG 1との新旧関係は不明
5	B 2e8	N－26°－W	直線	3.01	0.39～0.59	0.22～0.33	25～40	U字状	外傾	－		HG 1との新旧関係は不明

(8)　整地層

第1号整地層（第3・67図）

位置　調査区南東部のB 2a5区～C 2e7区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　表土を除去した後，粘土ブロックを多量に含んだ層を広範囲に確認した。

重複関係　第1～8号方形竪穴遺構，第1～3号地下式坑，第6～8号粘土貼土坑，第1・6・9・10・15・17・19・20・22・23・25・35・38～42・45・47・53・54・60・64～67・69・71・72・75～77・82・84～86・91・98～104・109・110・116・119・120・122～128・131～136・139・140・144～153・157・160～168・173・174・176～179・183～185・187・192・196・205・210～213・215号土坑の上部に形成されており，第2・5・48号土坑，第2・3号溝跡に掘り込まれている。第7・13・21・24・31・36・44・52・57・59・62・63・70・74・78～81・83・88～90・93・94・106・108・117・118・129・142・143・170・175・181号土坑，第4～6号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

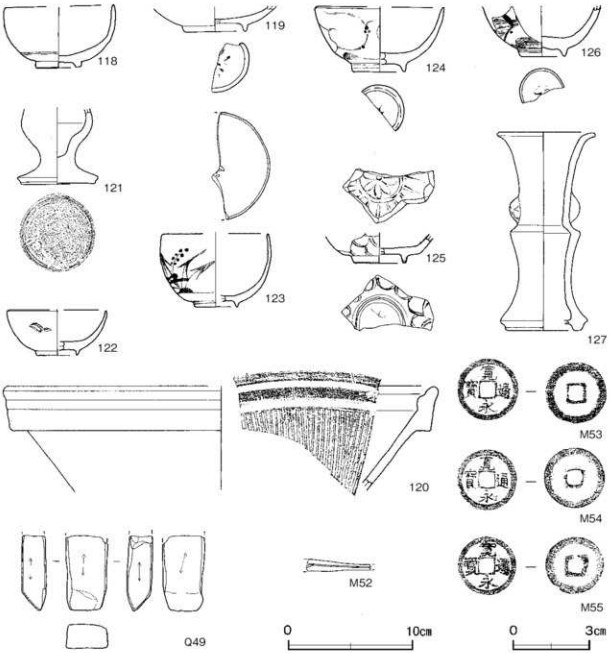
規模と形状　東部及び南部が調査区域外へ延びているため，南北55 m，東西32 mしか確認できなかった。層厚は，9～24cmである。

遺物出土状況　土師質土器片21点（小皿4，焙烙13，不明4），陶器片4点（小碗，小鉢，擂鉢，仏花瓶），磁器片26点（小碗5，中碗7，碗類11，小瓶1，瓶類1，不明1），青磁片1点（花瓶），石器6点（砥石1，不明5），銅製品4点（寛永通寶）が出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から18世紀後半から19世紀前半と考えられる。性格は，利根川の氾濫後の地均しによるものと考えられる。

第1号整地層出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
118	陶器	小碗	[8.6]	5.9	3.6	緻密　灰黄	外・内面施釉	灰釉	不明	覆土中	40%
119	陶器	小鉢	－	(1.9)	[5.0]	緻密　灰白	外・内面施釉　底部に墨書	灰釉	不明	覆土中	10%
120	陶器	擂鉢	[34.0]	(8.3)	－	緻密　赤灰	内面櫛目	－	堺・明石系	覆土中	5%
121	陶器	仏花瓶	－	(6.0)	5.7	緻密　黒	外面施釉　底部回転糸切り	黒釉	瀬戸・美濃	覆土中	70%
122	磁器	小碗	7.8	3.6	[3.2]	緻密　明緑灰	染付　高台部砂目	透明釉	不明	覆土中	45%
123	磁器	中碗	[8.6]	5.8	[3.4]	緻密　灰白	染付　草花文，虫文	透明釉	肥前	覆土中	40%
124	磁器	中碗	[10.2]	5.2	[4.2]	緻密　灰白	染付　草花文	透明釉	肥前	覆土中	40%
125	磁器	中碗	－	(2.3)	4.0	緻密　明緑灰	染付　二重網目文　二重輪菊花文	透明釉	肥前	覆土中	15%
126	磁器	中碗	－	(4.0)	3.6	緻密　明緑灰	染付　草花文	透明釉	肥前	覆土中	30%
127	青磁	花瓶	7.8	15.7	5.8	緻密 明オリーブ灰	耳部貼付　底部欠損	青磁釉	肥前	覆土中	70%　PL 9



第 67 図　第 1 号整地層出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 49	砥石	(6.0)	3.3	2.0	(65.7)	ホルンフェルス。	砥面 4 面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 52	煙管	(5.1)	1.0	1.0	(37.6)	銅	吸口部　接合面有り	覆土中	

番号	銭 種	径	孔幅	厚さ	重量	材 質	初鋳年	特 徴	出土位置	備 考
M 53	寛永通貨	2.47	0.65	0.12	2.99	銅	1668	新寛永 無背銭	覆土中	
M 54	寛永通貨	2.45	0.63	0.14	3.14	銅	1668	新寛永 無背銭	覆土中	
M 55	寛永通貨	2.35	0.59	0.13	2.50	銅	1636	古寛永 無背銭	覆土中	

3 その他の遺構と遺物

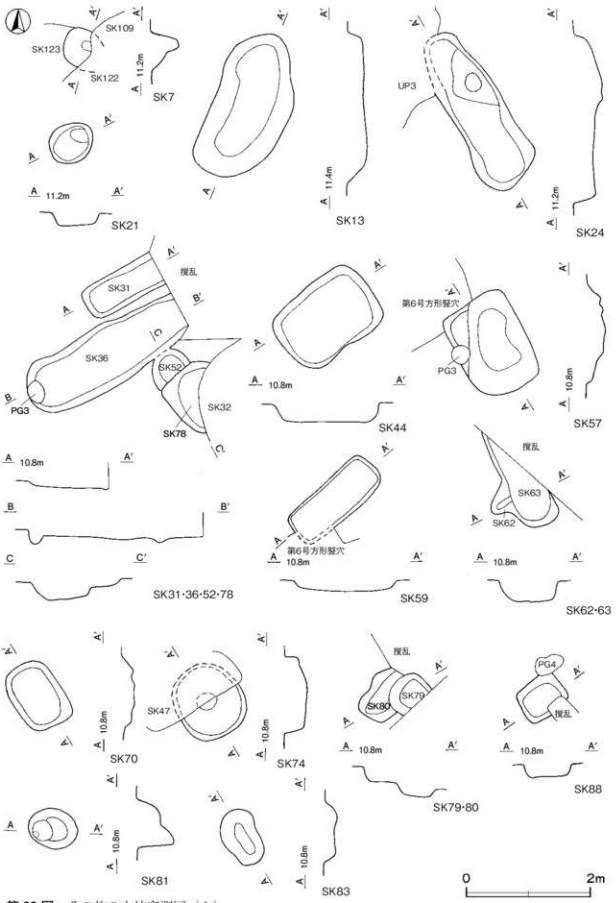
今回の調査で，伴う遺物が出土していないことから，時期が明らかでない土坑44基，溝跡1条，ピット群4か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑

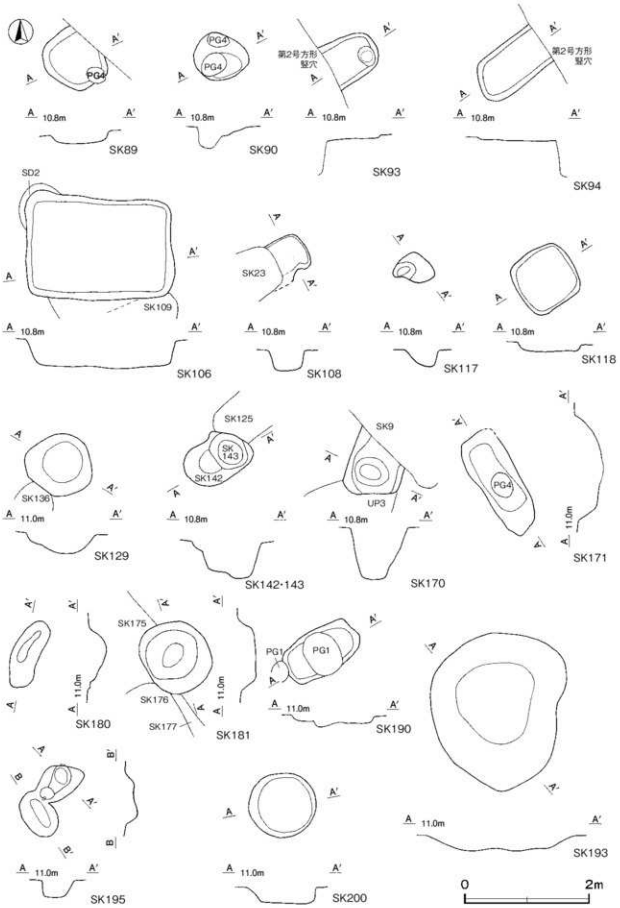
時期や性格が明らかでない土坑については，規模・形状等を実測図と一覧表で掲載する。

表10 その他の土坑一覧表

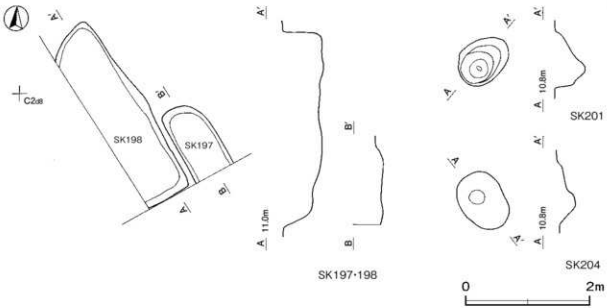
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
7	B 2ι6	N－68°－W	[楕円形]	0.60 × (0.48)	42	凹凸	緩斜	入為		SK39・12・25→本跡 HG 1との新旧関係は不明
13	B 2ε4	N－26°－E	不定形	2.38 × 1.20	24	凹凸	外傾	入為		
21	B 2ι6	N－62°－E	楕円形	0.75 × 0.66	16	平坦	外傾	入為		HG 1との新旧関係は不明
24	C 2ι6	N－29°－W	[不定形]	2.70 × 0.90	60	有段	外傾	入為		UP 3→本跡 SK23, SD 5, HG 1との新旧関係は不明
31	C 2ι0	N－62°－E	[長方形]	(1.28) × 0.56	12	凹凸	外傾	入為		HG 1との新旧関係は不明
36	C 2ι0	N－62°－E	[楕円形]	(2.79) × 0.94	14	凹凸	外傾	入為		本跡→PG 3 SX2, HG 1との新旧関係は不明
44	C 2ι9	N－50°－E	隅丸長方形	1.66 × 1.08	33	平坦	外傾	自然		HG 1との新旧関係は不明
52	C 2ι0	N－36°－W	[楕円形]	1.40 × 0.65	13	平坦	外傾	入為		SK28→本跡 SX8, HG 1との新旧関係は不明
57	C 2ι9	N－33°－W	隅丸長方形	1.55 × 1.15	25	凹凸	外傾	入為		第4号掘立遺構→本跡 PG 3, HG 1との新旧関係は不明
59	C 2ι9	N－50°－E	[長方形]	1.64 × 0.64	15	平坦	直立	入為		第6号方形墓穴遺構→本跡 HG 1との新旧関係は不明
62	B 2ι0	N－62°－E	[楕円形]	(0.47) × 0.32	34	－	外傾	自然		本跡→SK63 HG 1との新旧関係は不明
63	B 2ι0	N－26°－W	[楕円形]	(1.72) × 0.68	34	平坦	外傾	入為		SK62→本跡 HG 1との新旧関係は不明
70	C 2ι0	N－32°－W	隅丸長方形	1.10 × 0.76	18	凹凸	外傾	－		HG 1との新旧関係は不明
74	C 2ι6	N－31°－W	[楕円形]	1.19 × 1.09	39	凹状	直立	入為		第6号方形墓穴遺構・SK47→本跡 HG 1との新旧関係は不明
78	C 2ι0	N－28°－W	[楕円形]	(1.01) × (0.45)	31	平坦	外傾	入為		本跡→SK52 HG 1との新旧関係は不明
79	C 3ι1	N－51°－W	[隅丸長方形]	0.66 × (0.44)	54	緩斜	外傾	－		SK80, HG 1との新旧関係は不明
80	C 3ι1	N－43°－E	[不定形]	(0.88) × 0.40	24	平坦	直立	－		SK79, HG 1との新旧関係は不明
81	B 2ι8	N－61°－W	楕円形	0.78 × 0.62	63	有段	外傾	入為		SD 3, HG 1との新旧関係は不明
83	B 2ι8	N－26°－W	不定形	0.95 × 0.48	22	緩斜	外傾	入為		HG 1との新旧関係は不明
88	B 2ι8	N－50°－E	[長方形]	0.72 × 0.60	20	平坦	ほぼ直立	入為		PG 4, HG 1との新旧関係は不明
89	B 2ι8	N－42°－W	[楕円形]	1.00 × (0.82)	22	平坦	ほぼ直立	入為		PG 4, HG 1との新旧関係は不明
90	B 2ι8	N－81°－W	楕円形	0.88 × 0.72	14	平坦	直立	－		PG 4→本跡 HG 1との新旧関係は不明
93	B 2ι9	N－62°－E	[隅丸長方形]	(0.81) × 0.75	10	平坦	直立	－		第2号掘立遺構→本跡 HG 1との新旧関係は不明
94	B 2ι9	N－51°－E	[隅丸長方形]	(1.24) × 0.71	14	平坦	直立	－		第2号掘立遺構→本跡 HG 1との新旧関係は不明
106	B 2ι9	N－89°－W	長方形	2.36 × 1.60	45	平坦	外傾	入為		SK20, SD 2, HG 1との新旧関係は不明
108	B 2ι9	N－62°－E	不定形	0.70 × (0.54)	34	平坦	ほぼ直立	－		SK21, HG 1との新旧関係は不明
117	C 2ι8	N－38°－W	不定形	0.50 × 0.42	40	有段	外傾	入為		HG 1との新旧関係は不明
118	B 2ι7	－	隅丸方形	0.98 × 0.98	13	平坦	外傾	入為		SK132・146→本跡 HG 1との新旧関係は不明



第68図　その他の土坑実測図（1）



第69図　その他の土坑実測図（2）



第70図　その他の土坑実測図（3）

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
129	B 2 a6	N－87°－W	楕円形	1.08 × 0.98	30	皿状	外傾	人為		SK136，HG 1との新旧関係は不明
142	B 2 j7	－	円形	0.70 × 0.67	48	平坦	外傾	人為		SK143→本跡，HG 1との新旧関係は不明
143	B 2 j7	N－46°－W	楕円形	0.82 × (0.52)	55	平坦	ほぼ直立	人為		本跡→SK142，SK105，HG 1との新旧関係は不明
170	C 2 a6	N－20°－E	［長方形］	(0.94) × 0.88	82	凹凸	外傾	－		UP 3→本跡→SK 9，SK133・134HG 1との新旧関係は不明
171	C 2 b5	N－30°－W	不整長方形	1.75 × 0.72	40	外傾	皿状	人為		PG 4，HG 1との新旧関係は不明
180	B 2 j5	N－23°－E	不定形	1.16 × 0.43	31	傾斜	外傾	人為		
181	C 2 b7	N－29°－W	楕円形	1.18 × 1.05	38	平坦	外傾	人為		SK175・177，HG 1との新旧関係は不明
190	B 2 h3	N－55°－E	隅丸長方形	1.28 × 0.68	10	平坦	ほぼ直立	－		本跡→PG 1
193	B 1 b0	N－4°－E	不定形	2.52 × 2.10	24	凹凸	外傾	人為		
194	B 1 d8	N－54°－E	不定形	0.80 × 0.52	62	有段	外傾	人為		SK195との新旧関係は不明
195	B 1 d8	N－32°－W	楕円形	0.80 × 0.52	18	凹凸	外傾	人為		SK194との新旧関係は不明
197	C 2 d8	N－30°－W	［隅丸長方形］	(1.24) × 0.68	10	平坦	外傾	人為		HG 1との新旧関係は不明
198	C 2 d8	N－33°－W	［不整長方形］	3.06 × (0.90)	46	凹凸	外傾	人為		HG 1との新旧関係は不明
200	B 2 f4	－	円形	1.06 × 1.04	26	傾斜	外傾	人為		
201	A 2 j3	N－47°－E	楕円形	0.88 × 0.68	50	傾斜	外傾	人為		
204	B 2 e5	N－40°－W	楕円形	0.97 × 0.70	14	傾斜	外傾	－		

(2)　溝跡

第6号溝跡（第65図）

位置　調査区南東部のC 2 b6区～C 2 b8区，標高11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第24・42号土坑，第1号整地層と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第24号土坑から第42号土坑までの長さは，5.01 mである。C 2 b6区から南東方向（N－73°－W）へ直線的に延びている。規模は上幅0.40～0.21 m，下幅0.06～0.15 mで，確認面からの深さは14～30cmである。

溝底は，南東部から北西部へ向かって緩やかに傾斜し，南東部と北西部との比高は18cmである。断面はU字状で，壁は外傾している。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

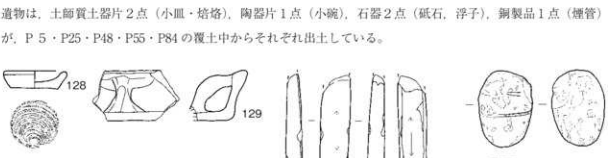
所見　時期は，特定できる土器が出土していないことから，不明である。性格は不明である。

(3)　ピット群

今回の調査で4か所のピット群を確認した。中央部から南東部に2か所，南東部に2か所が分布している。以下，文章と一覧表でそれぞれ掲載する。

第1号ピット群（第3・71図）

調査区の中央部から南東部の標高11mほど，B2h2～B2h7区にかけての東西173m，南北14.8mの範囲から，ピット102か所を確認した。平面形は長径19～155cm，短径13～95cmの円形や楕円形，及び不定形で，深さが7～100cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。出土遺物は，土師質土器片2点（小皿・焙烙），陶器片1点（小碗），石器2点（砥石，浮子），銅製品1点（煙管）が，P5・P25・P48・P55・P84の覆土中からそれぞれ出土している。



第71図　第1号ピット群出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
128	土師質土器	小皿	4.8	1.4	3.8	長石・石英・角閃石・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底面回転糸切り	P84覆土中	100% PL10
129	土師質土器	焙烙	－	(4.0)	－	長石・石英・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ナデ　耳部貼付　底部移目	P25覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
130	陶器	小碗	－	(3.4)	3.6	緻密　灰白	外・内面施釉　体部外面下端ヘラ削り　削り出し高台	白釉	不明	P5覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	砥石	(8.0)	2.4	1.3	(41.7)	安山岩。	砥面2面	P55覆土中	
Q51	浮子	6.1	4.3	3.0	28.6	角閃石デイサイト。	紐状の擦痕	P48覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 56	煙管	(5.7)	1.5	2.3	(5.09)	銅	雁首部	P55 覆土中	PL.11

第1号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
1	B 2g5	楕円形	59	×	50	−
2	B 2g5	楕円形	78	×	64	−
3	B 2g4	[不定形]	155	×	(88)	37
4	B 2h4	楕円形	72	×	53	35
5	B 2i3	楕円形	114	×	74	−
6	B 2j4	楕円形	48	×	43	58
7	B 2g5	不定形	80	×	68	−
8	B 2h3	楕円形	35	×	29	26
9	B 2h2	楕円形	53	×	42	39
10	B 2h2	楕円形	49	×	44	40
11	B 2i4	楕円形	104	×	58	−
12	B 2j3	楕円形	76	×	68	−
13	B 2j4	楕円形	43	×	34	27
14	B 2j4	円形	33	×	33	−
15	B 2j4	楕円形	44	×	26	−
16	B 2j4	楕円形	42	×	36	−
17	B 2i4	円形	29	×	29	−
18	B 2i4	不定形	87	×	68	92
19	B 2i3	円形	26	×	26	−
20	B 2i5	[不定形]	88	×	(57)	69
21	B 2i5	楕円形	53	×	38	−
22	B 2i4	楕円形	65	×	55	−
23	B 2h4	[隅丸長方形]	90	×	65	88
24	B 2h2	楕円形	40	×	28	37
25	B 2g3	不定形	43	×	35	−
26	B 2h4	不定形	−	×	−	54
27	B 2h4	楕円形	68	×	54	−
28	B 2g3	不定形	56	×	33	−
29	B 2g3	不定形	59	×	38	−
30	B 2h5	楕円形	110	×	95	100
31	B 2h5	円形	37	×	37	−
32	B 2h5	楕円形	39	×	33	−
33	B 2h5	不定形	65	×	51	−
34	B 2h5	楕円形	57	×	42	−
35	B 2h5	楕円形	55	×	45	−
36	B 2h5	円形	19	×	19	40
37	B 2h5	円形	26	×	26	84
38	B 2h4	楕円形	47	×	42	35
39	B 2h4	不定形	31	×	26	83
40	B 2g4	楕円形	81	×	67	84
41	B 2g4	円形	60	×	55	−
42	B 2h6	円形	38	×	36	−
43	B 2i6	楕円形	40	×	31	−
44	B 2h5	楕円形	46	×	40	51
45	B 2h2	楕円形	42	×	33	−
46	B 2h5	楕円形	47	×	40	−
47	B 2h2	不定形	51	×	45	−
48	B 2h4	[不定形]	(71)	×	54	80
49	B 2i3	円形	28	×	28	−
50	B 2h3	不定形	78	×	74	−
51	B 2j3	楕円形	124	×	84	80
52	B 2i4	不定形	88	×	78	−
53	B 2h5	[円形]	56	×	(41)	73
54	B 2h5	[円形]	(21)	×	25	50
55	B 2i2	楕円形	62	×	43	−
56	B 2h4	不定形	−	×	−	−
57	B 2i4	[円形]	25	×	(13)	34
58	B 2j4	[不定形]	62	×	(37)	78
59	B 2j4	[楕円形]	64	×	(38)	26
60	B 2j4	不定形	71	×	47	71
61	B 2i4	不定形	67	×	50	64
62	B 2i5	不定形	(67)	×	(35)	72
63	B 2i5	[楕円形]	59	×	(26)	24
64	B 2i5	円形	25	×	25	40
65	B 2i5	[不定形]	82	×	(58)	44
66	B 2i5	楕円形	37	×	26	22
67	B 2i5	楕円形	32	×	26	37
68	B 2h4	円形	28	×	27	16
69	B 2i5	[不定形]	130	×	(46)	50
70	B 2j4	円形	62	×	57	10
71	B 2g3	円形	49	×	48	8
72	B 2i5	不定形	68	×	37	60
73	B 2h3	不定形	38	×	34	9
74	B 2j4	円形	31	×	30	80
75	B 2i3	楕円形	58	×	42	48
76	B 2i3	[楕円形]	52	×	46	17
77	B 2i3	楕円形	82	×	60	34
78	B 2i3	[楕円形]	(58)	×	48	41
79	B 2i3	[不定形]	69	×	(49)	33
80	B 2i5	[円形]	(35)	×	(32)	54
81	B 2i3	[不定形]	(48)	×	44	41
82	B 2i4	楕円形	50	×	40	34

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
83	B 2i4	楕円形	58	×	47	7
84	B 2i4	楕円形	41	×	33	56
85	B 2i4	[楕円形]	(45)	×	36	41
86	B 2i4	[不定形]	(48)	×	38	55
87	B 2i4	[円形]	93	×	(25)	34
88	B 2i4	[楕円形]	36	×	(18)	42
89	B 2i4	[楕円形]	(36)	×	36	48
90	B 2h4	円形	33	×	31	18
91	B 2i4	[楕円形]	42	×	(37)	11
92	B 2i4	[円形]	47	×	(47)	12

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
93	B 2g4	楕円形	52	×	34	12
94	B 2h5	円形	36	×	35	33
95	B 2h6	[楕円形]	63	×	(46)	44
96	B 2i4	楕円形	42	×	34	59
97	B 2g4	楕円形	37	×	32	49
98	B 2h5	円形	28	×	28	50
99	B 2h5	円形	25	×	25	23
100	B 2h4	楕円形	54	×	45	21
101	B 2i5	不定形	(85)	×	60	59
102	B 2i5	[楕円形]	(75)	×	48	67

第2号ピット群（第3図）

調査区南東部の標高11mほど，B 2j8～C 2a7区にかけての東西7.2m，南北4.8mの範囲から，ピット5か所を確認した。平面形は長径34～55cm，短径28～45cmの円形または楕円形で，深さが19～49cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

第2号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
1	B 2j8	楕円形	55	×	45	19
2	B 2j8	円形	42	×	42	19
3	B 2j7	楕円形	34	×	28	19

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
4	C 2a7	円形	40	×	40	28
5	C 2a7	不整楕円形	46	×	40	49

第3号ピット群（第3図）

調査区南東部の標高11mほど，B 2j0～C 2c9区にかけての東西7.6m，南北11.6mの範囲から，ピット13か所を確認した。平面形は長径22～47cm，短径19～41cmの円形や楕円形，及び不定形で，深さが15～50cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

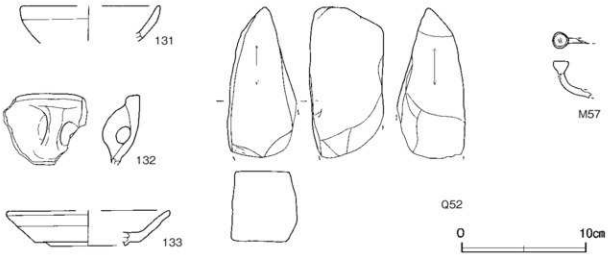
第3号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
1	C 2b9	楕円形	47	×	41	29
2	C 2b0	楕円形	30	×	27	46
3	C 2b0	楕円形	27	×	25	36
4	C 2a0	楕円形	43	×	28	17
5	C 2a0	楕円形	35	×	25	23
6	B 2j0	[楕円形]	40	×	[29]	23
7	B 2j0	不整楕円形	33	×	27	38

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
8	C 2a9	円形	29	×	29	－
9	C 2c8	楕円形	36	×	26	50
10	C 2a9	楕円形	33	×	28	－
11	C 2b0	円形	22	×	22	－
12	C 2b9	楕円形	26	×	19	22
13	C 2c9	円形	28	×	27	15

第４号ピット群（第３・72図）

調査区中央部から南東部の標高11ｍほど，Ｂ２i8～Ｃ２c7区にかけての東西19.8ｍ，南北28.1ｍの範囲から，ピット88か所を確認した。平面形は長径19～83cm，短径15～57cmの円形または楕円形で，深さが７～69cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。



第72図　第４号ピット群出土遺物実測図

第４号ピット群出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
131	土師質土器	小皿	[11.0]	(2.8)	－	長石・石英・角閃石・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	P38覆土中	20%
132	土師質土器	灯明皿	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	耳部貼付　外・内面ナデ　外面煤付着	P52覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
133	陶器	中皿	[13.0]	2.8	[5.8]	緻密 淡オリーブ	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	P61覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 52	砥石	(120)	(56)	5.9	555.9	ホルンフェルス？	２面の砥面	P15覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 57	煙管	(3.1)	1.4	3.0	(1.70)	銅	雁首部	P57覆土中	

第４号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
1	Ｂ２f7	楕円形	50	×	40	25
2	Ｂ２g9	楕円形	47	×	40	33
3	Ｂ２i8	円形	20	×	20	19
4	Ｂ２h8	楕円形	44	×	31	35
5	Ｂ２i8	円形	19	×	19	12
6	Ｂ２i8	楕円形	33	×	27	55
7	Ｃ２a8	不整形	54	×	47	－
8	Ｂ２i8	円形	35	×	35	45
9	Ｂ２i8	円形	37	×	33	33
10	Ｂ２h8	楕円形	38	×	26	45
11	Ｂ２i8	楕円形	70	×	44	69
12	Ｂ２i8	楕円形	30	×	27	23
13	Ｂ２h7	楕円形	33	×	29	47
14	Ｂ２i7	円形	33	×	33	63
15	Ｂ２i8	楕円形	30	×	26	42
16	Ｂ２h8	楕円形	46	×	36	25

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
17	B 2h8	不整楕円形	60	×	39	39
18	B 2h8	円形	38	×	36	45
19	B 2i9	不整形	50	×	24	61
20	B 2j9	不整楕円形	46	×	35	41
21	B 2j8	円形	23	×	23	55
22	B 2j8	[楕円形]	(48)	×	42	44
23	B 2h8	楕円形	33	×	26	36
24	B 2j8	[楕円形]	(31)	×	(26)	43
25	B 2j8	楕円形	40	×	33	59
26	B 2j8	[円形]	44	×	44	21
27	B 2j8	[楕円形]	26	×	23	55
28	B 2i9	楕円形	35	×	32	51
29	B 2g7	円形	31	×	31	27
30	B 2g7	[円形]	32	×	(17)	17
31	B 2j8	楕円形	39	×	30	64
32	B 2j8	円形	31	×	31	31
33	B 2g7	不整円形	32	×	32	49
34	B 2i7	不整楕円形	75	×	51	52
35	B 2j9	楕円形	58	×	27	49
36	B 2i9	円形	33	×	30	44
37	B 2h7	楕円形	39	×	32	54
38	B 2h8	円形	39	×	36	27
39	B 2h7	[楕円形]	(32)	×	28	32
40	B 2e8	円形	33	×	32	42
41	B 2g8	楕円形	23	×	15	33
42	C 2a8	楕円形	21	×	17	19
43	C 2a7	楕円形	33	×	26	34
44	C 2a7	円形	39	×	36	33
45	C 2a7	[円形]	(35)	×	33	35
46	C 2a7	楕円形	52	×	43	27
47	C 2a7	不整形	83	×	56	51
48	C 2a7	不整形	68	×	36	42
49	C 2a7	不整形	72	×	56	25
50	C 2a7	不整形	78	×	48	50
51	B 2h6	[円形]	28	×	(20)	23
52	B 2h7	楕円形	45	×	40	47

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
53	B 2h6	楕円形	52	×	46	48
54	B 2g7	[円形]	53	×	(52)	56
55	B 2j7	[楕円形]	49	×	(27)	34
56	B 2i6	楕円形	39	×	34	46
57	C 2a7	[楕円形]	(45)	×	32	41
58	B 2j7	[円形]	73	×	(46)	13
59	B 2j7	[円形]	37	×	(17)	7
60	C 2a8	楕円形	30	×	25	22
61	B 2i6	円形	31	×	28	54
62	B 2h6	円形	32	×	32	53
63	B 2h6	不整円形	60	×	55	48
64	B 2h6	円形	33	×	33	57
65	B 2i6	楕円形	54	×	37	32
66	B 2i6	楕円形	42	×	32	22
67	B 2i6	円形	36	×	34	38
68	C 2b6	不整円形	44	×	41	20
69	C 2b5	楕円形	44	×	37	30
70	C 2b5	不整円形	43	×	43	38
71	C 2b5	楕円形	50	×	43	44
72	C 2a5	円形	60	×	57	34
73	C 2a5	円形	42	×	42	39
74	C 2a6	楕円形	36	×	27	24
75	C 2b6	楕円形	46	×	31	18
76	C 2a6	楕円形	33	×	29	23
77	B 2j6	不定形	56	×	38	26
78	C 2c6	[楕円形]	22	×	(14)	−
79	B 2i6	楕円形	43	×	39	63
80	B 2j6	楕円形	35	×	25	40
81	B 2j6	楕円形	44	×	30	57
82	C 2c7	円形	25	×	23	20
83	C 2b7	円形	34	×	31	14
84	C 2a5	円形	26	×	26	14
85	C 2b6	円形	25	×	25	21
86	C 2b5	楕円形	28	×	25	26
87	C 2c5	[楕円形]	29	×	(13)	27
88	B 2i8	円形	30	×	28	20

表11　その他のピット群一覧表

番号	位置	範囲	規模 柱穴数	平面形	長径・(幅)(cm)	短径・(幅)(cm)	深さ(cm)	主な出土遺物	備考
1	B 2h2～B 2h7	東西 173 m 南北 148 m	102	円形・楕円形 不定形	19～155	13～95	7～100	土師質土器（小皿・坩堝）、陶器（小碗）、石器（紙石・浮子）	
2	B 2j8～C 2a7	東西 72 m 南北 48 m	5	円形・楕円形	34～55	28～45	19～49		
3	B 2j0～C 2c9	東西 76 m 南北 116 m	13	円形・楕円形	22～47	19～41	15～50		
4	B 2i8～C 2c7	東西 198 m 南北 238.1 m	88	円形・楕円形 不定形	19～83	15～57	7～69		

第4節 ま　と　め

1　はじめに

今回の調査で，室町時代の方形竪穴遺構8基，地下式坑3基，堀跡1条，江戸時代の掘立柱建物跡2棟，井戸跡3基，水塚1基，炉跡2基，粘土貼土坑5基，土坑121基，溝跡4条，整地層1か所などを確認した。当遺跡の性格は，室町時代における集落跡と城館跡，江戸時代の水塚を配置した屋敷跡と捉えられる。

ここでは，出土した土器・陶磁器と魚骨が出土した土坑，及び江戸時代の水塚と屋敷跡について，若干の考察を加えてまとめとする。

2　出土土器・陶磁器の器種組成について

今回の調査で出土した土器・陶磁器は，18世紀後半から19世紀前半に生産されたものを主体とし，総点数は1409点（34923.6g）にのぼる。その数については，以下に表で示した。なお，遺構外や表土中から出土した土器・陶磁器については，計測表に含めなかった。

表12　新田遺跡出土土器・陶磁器片数計測表

土師質土器　504点（11335.2g）										瓦質土器　176点（3891.9g）			
器種	小皿	火鉢	植木鉢	鬼瓦類	中甕	大甕	甕類	焙烙	鍋炉類	不明	火鉢	甕類	焙烙	不明
破片数（点）	143	2	3	1	6	4	8	275	10	52	3	2	151	20
総量（g）	621.4	23.0	155.8	133.1	294.1	1149.6	1100.6	5769.9	1308.7	779.0	23.0	38.7	3653.2	177.0

陶器　459点（14370.2g）														
器種	小坏	小碗	中碗	天目茶碗	碗類	蓋	小皿	中皿	鉢皿	皿類	灯明皿	小鉢	中鉢	大鉢
破片数（点）	18	11	13	22	48	2	6	15	1	29	23	1	12	1
総量（g）	167.3	228.9	462.1	371.8	306.3	19.6	134.0	628.7	5.5	343.6	394.9	36.9	14.1	29.7
器種	擂鉢	片口鉢	瓶鉢	鉢類	小壺	中壺	小瓶	中瓶	大瓶	土瓶	花瓶	仏花瓶	瓶類	小形甕
破片数（点）	6	11	38	20	2	7	2	4	10	7	1	1	30	3
総量（g）	345.6	1191.0	2955.5	2734.6	18.5	322.2	16.5	471.1	596.5	132.4	210.4	133.5	427.2	46.9
器種	甕類	香炉	油徳利	仏飯器	茶壺	燈徳利	急須	不明						
破片数（点）	21	12	1	2	1	1	2	75						
総量（g）	446.2	209.9	7.6	11.1	99.8	39.4	9.7	383.2						

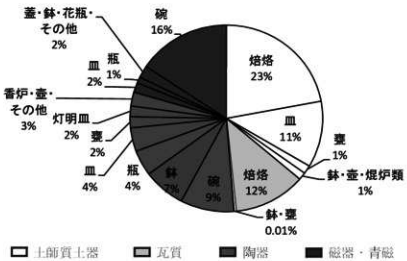
磁器　264点（5012.3g）														
器種	小坏	小碗	中碗	大碗	碗類	蓋	極小皿	小皿	皿類	中鉢	小瓶	中瓶	大瓶	土瓶
破片数（点）	1	54	39	4	97	6	1	10	10	3	1	1	1	1
総量（g）	23.5	960.9	1815.6	122.9	487.9	51.4	2.4	648.3	134.8	275.3	13.7	5.3	41.0	10.2
器種	瓶類	猪口	紅猪口	合子	仏飯器	燈徳利	不明							
破片数（点）	9	5	2	1	1	2	15							
総量（g）	90.2	63.6	6.5	6.6	19.1	41.5	191.6							

青磁　6点（314.0g）			
器種	小碗	碗類	花瓶
破片数（点）	1	2	1
総量（g）	37.1	25.6	236.8
器種	香炉	不明	
破片数（点）	1	1	
総量（g）	11.8	2.7	

組成比率を見ると，種別では土師質土器片が36％で最も多くを占めている。次いで陶器片が31％，磁器片が21％，瓦質土器片が12％となっている。器種別では，土師質土器の焙烙が23％で最も多く，瓦質土器の焙烙12％と合わせて，焙烙は全体の35％を占めている。

次に多いのが碗で，磁器が16％，陶器が9％で合わせて25％である。

碗の中で比率が高いのは，肥前磁器のいわゆる「くらわんか手」の碗で，低位階層向けで村落での出土量が多いとされる筒形碗[1]の出土量はあまり多くない。陶器の碗では，瀬戸・美濃系や京焼系と考えられる丸碗が一定量出土している。3番目に出土量が多いのは全体の17％を占める皿で，土師質土器が11％，陶器が4％，磁器が2％である。



第73図　出土土器・陶磁器の組成割合図

概観すると，在地産の焙烙や流通量の多い碗，皿など，庶民向けの食膳具・調理具で大部分を占めていることがわかる。

ここで，当遺跡で一番出土量の多い焙烙について，触れておきたい。当遺跡出土の焙烙は，その大半が平底で，口縁部と底部に粘土紐を貼り付けた内耳を持つ特徴がある。これらの一群の焙烙は，先に分類・研究がなされている「口縁部・体部が直に立ち上がる」と「底部と体部の接合部には指頭圧痕もしくはケズリがみられる」特徴を持つ一群[2]と同一の群として捉えることができる。この一群の出土域は上野・北武蔵が中心であるが，江戸川流域においてもその分布を確認できることが指摘されており[3]，江戸川に程近い場所に位置する五霞町の当遺跡での出土例は，それを補完するものと思われる。また，茨城県西部域では，先述した一群の焙烙が18世紀前後頃から出現していることが述べられている[4]。当遺跡の19世紀前半と考えられる第202号土坑からは，同形状の焙烙が出土しており，この形態の焙烙は茨城県西部域で19世紀前半頃，少なくとも18世紀後半までは存在していたと指摘できる。また，第202号土坑から出土した焙烙の一部には，利根川流域で多くの採取が可能な角閃石[5]を含むものが認められることから，本跡周辺を含む利根川流域でのいわゆる「在地」での製作・生産が行われていた可能性がある。

3　第35号土坑と第48号土坑出土の魚骨について

19世紀前半と考えられる第35号土坑と19世紀後半と考えられる第48号土坑からは，魚骨がそれぞれ141.7 g，394.6 gほど出土している。

第35号土坑から出土した魚骨は，マグロ類，タイ類，サメ類の他，同定できない魚類1種である。大半を占めているのはマグロ類の椎骨で，マグロ類の歯骨，主上顎骨も少数ながら散見される[6]。タイ類は歯骨あるいは前上顎骨，サメ類は椎骨をそれぞれ確認している[7]。これらの魚骨の出土状況は，まとまりなく，覆土全体から出土しているため，食されて解体された残骸が，廃棄されたものと考えられる。

第48号土坑からは，マグロ類の魚骨のみが出土している。第35号土坑同様，残存の良好な椎骨が大半を占めており，他に肋骨などの可能性がある細かな骨が散見される。ここで注目すべき点は，これらマグロ類の椎骨の1点に，解体痕が見受けられたことである。解体痕の断面は，滑らかであることから，包丁などの鋭利な鉄製の刃物を使用し，解体されたものと考えることができる。また，背鰭から腹部に向かって切断していることから，解体は輪切りにしたと考えられる[8]。

4　江戸時代の水塚と屋敷跡について

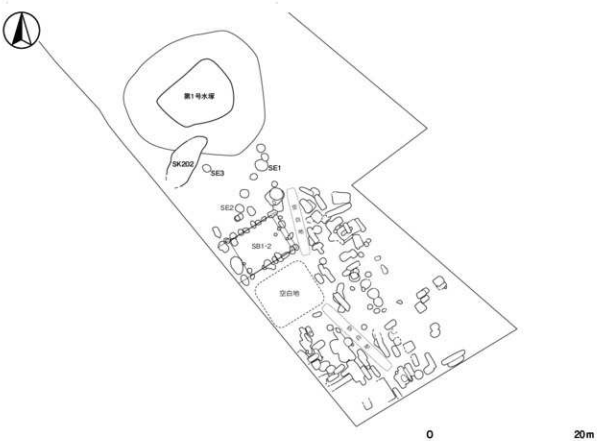
当遺跡で確認できた水塚は，調査区中央部に位置している。水塚より南東部での遺構数は多く，江戸時代の掘立柱建物跡や粘土貼土坑の他，土坑約120基を確認している。対照的に，水塚より北西部の遺構数は少

なく，室町時代の堀跡１条を除いて，時期判断のできない土坑が数基確認できる程度である。五霞町の利根川対岸に位置する千葉県野田市（旧関宿町）の水塚分布調査によれば，屋敷内における水塚の位置は，北西部に設けられる例が多いとされている[9]。これを踏まえた上で，当遺跡の水塚も屋敷内での北西部に位置していたものと捉えると，水塚より南東部の遺構群は，屋敷内における施設と考えられ，反対に水塚より北西部の遺構空白地は，屋敷外での屋敷林であったと考えられる。事実，江戸時代の確認面では，水塚より南東部の遺構密集地には地均しの際の整地層が形成されているのに対し，水塚より北西部では，ロームブロックや粘土ブロックが含まれない黒ボク土が広がっており，水塚周辺を境にして，南東を屋敷内，北西を屋敷外であることを裏付けていると判断できる。

水塚より南東部の遺構群には，水塚構築時期と同時期の18世紀後半の第１・２号掘立柱建物跡が位置しており，煮炊きを行う炉あるいは竈が設けられていることから，屋敷の母屋であった可能性が高い。また，第１・２号竪穴建物跡の南側には，建物よりもやや広い程度の遺構空白地が認められることから，中庭として利用されていたと考えられる。そのため，第１・２号掘立柱建物跡の出入り口部は南東部の平側であった可能性が高まるが[10]，今回の調査で立証することはできなかった。

水塚と第１・２号掘立柱建物跡の間には，第１～３号井戸跡が密集して位置していることが確認でき，水塚に近い屋敷の片隅に井戸が設置されていたことが伺える。また，第１・２号掘立柱建物跡のすぐ東側では，遺構が掘り込まれない南北に延びる空白地が見られることから，建物から井戸への通路があったことが想定できる。

掘立柱建物跡の東部から南東部にかけては，長方形を主体とした土坑群が確認でき，掘立柱建物跡とほぼ



第74図　江戸時代の遺構配置図　※水塚については昭和時代まで含まれる

同じ軸方向で掘り込まれている。これらの土坑の詳細な性格については不明であるが，覆土からは土器・陶磁器の破片が出土していることから，廃棄土坑と考えることができる。また，土坑一基からの出土遺物量が少ないことや，一度で埋め戻されている堆積状況であることから，物が破損した時々で捨てられた廃棄土坑であったと推測できる。なお，中庭と考えられる空白地の南東では，土坑が掘り込まれない空白地が北西・南東方向に延びて見られることから，屋敷地と外部とを結ぶ通路であった可能性がある。

これに対して水塚に接している第202号土坑は，確認できた範囲で長径7.10 m，短径3.38 m，深さ133 cmと規模が大きく，土器・陶磁器片だけで200点以上が出土していることからも，先述した廃棄土坑とは異なる特徴を持っている。また，覆土上層は，多量の砕かれた炭化した木材片で覆われており，特異な遺構と捉えられる。これらの特徴を考えると，本跡は，居住していた建物を廃絶した際に，使用していた日常雑器とともに，建物で使われていた建築材を焼却し，廃棄したものと推定することができる[11]。本跡は19世紀前半に位置付けられ，第1・2号掘立柱建物跡よりも時期が下るが，当遺跡では19世紀代と考えられる第3号井戸跡，第8号粘土貼土坑，第35・48号土坑が確認できており，調査区域外に19世紀代の生活を営んだ建物跡が存在するものと考えることができる。

以上のことから，当遺跡の屋敷跡は，18世紀代に水塚が伴う屋敷として建てられ，18世紀後半の第1・2号掘立柱建物の廃絶後に地均しによる整地が行われ，その後も19世紀後半まで屋敷として機能していたものと想定することができる。

5　おわりに

今回の調査により，18世紀後半から19世紀後半まで継続したものと考えられる水塚を所有した屋敷跡を明らかにし，利根川中流域で特徴的な水防建造物について，考古学的な見解を示すことができた。水塚は，近年の堤防の強化に伴って必要とされなくなり，急速に姿を消してしまっていると言われている[12]。本報告を通して，水塚が重要な歴史・文化遺産であることが伝えられ，文化財の保存継承につながることを願い，結びとしたい。

註

1）長佐古真也氏の「東京都の遺跡における江戸時代後期“庶民向け陶磁器”の一様相」によれば，筒形碗を「『守貞漫稿』に曰く「筒茶碗ワンハ下品用ス」の評の通り，村落域に最も多い」碗として論じている

2）両角まり氏の「内耳鍋から焙烙へ」での C 群Ⅲ類に該当するものと考えられる。

3）両角まり「内耳鍋から焙烙へ　－近世江戸在地系焙烙の成立－」『考古学研究』第42巻第4号（通巻168号）　1996年3月

4）白田正子「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳土器について　－つくば市古屋敷遺跡の出土例を中心にして－」『研究ノート　7号』財団法人茨城県教育財団　1998年6月

5）柴田徹「河原の石のCD岩石鑑定図鑑　改訂版」2005年2月

6）樋泉岳二「遺跡産魚骨同定の手引（Ⅱ）」『動物考古学』第5号　1995年11月

7）山崎京美・上野輝彌「硬骨魚類の顎と歯」2008年8月

8）江戸におけるマグロ類の出土例はあまり多くないが，新宿区細工町遺跡ではマグロの椎骨が出土しており，輪切りにされて運ばれてきたものと見解している。

9）a　逆井芳男「関宿町における水塚の研究Ⅱ」『研究報告』第3号　千葉県立関宿城博物館　1999年3月

b　ただし，論考によれば，全ての水塚とは言い切れず，江戸川に面した地区では屋敷の東側に設けられている例も見つか

っていると報告されている。

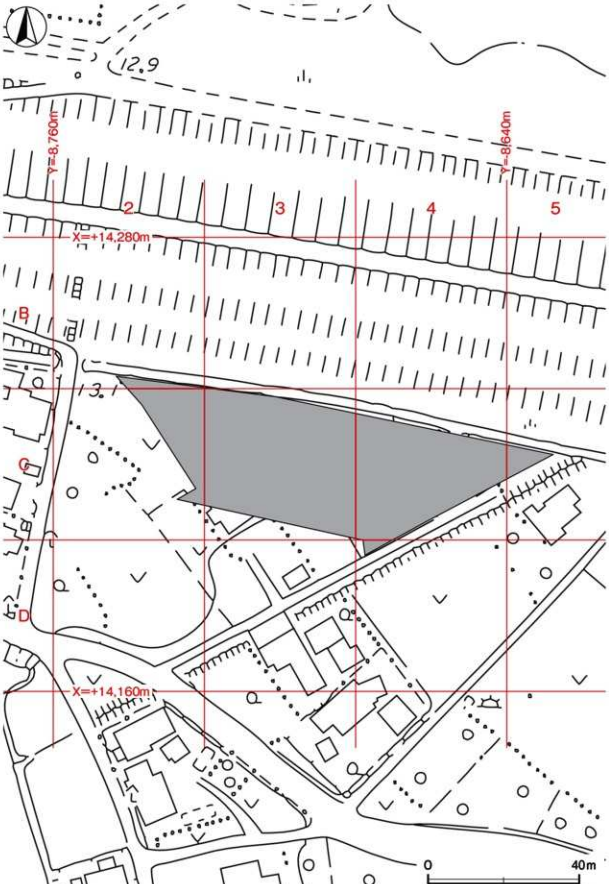
10)「水防建築「水塚」について　－板倉町の「水塚」調査中間報告－」によると，利根川中流域である板倉町では，母屋から北西あるいは真北に水塚が位置する割合が最も多いことが述べられている。これを踏まえれば，当遺跡の水塚は第１・２号掘立柱建物跡から北西に位置しており，類例からも第１・２号掘立柱建物跡は母屋である可能性は高いと言えるだろう。

11) 瓦吹堅氏の「廃穴からセトモノ－近世廃穴の調査例から－」(『茨城県史研究』89　2005年２月）によると，廃棄土坑が確認された「つくば市古屋敷遺跡や茨城町大戸下郷遺跡も，ともに居住していた家の廃絶によって使用していた日常雑器類である陶磁器類を穴を掘り込んで一括投棄して他の廃とともに焼却し，埋め戻した廃穴であると想定できる」とし，住居の廃絶によって陶磁器類が一括廃棄されることを論じている。なお，当遺跡の第202号土坑の覆土からは焼土ブロックを含んだ層を確認できず，壁面や底面も焼けていないことから，建築材と考えられる廃材は，別の場所で焼却されたものとみられる。また，出土した遺物は，火熱を受けていないことから，火災による日常雑器の一括廃棄ではないものと考えられる。

12) 加藤誠洋・松浦茂樹・宮田裕紀枝　「水防建築　「水塚」調査報告書」板倉町教育委員会　2004年３月

参考文献

・三輪茂雄　『石臼の謎』新装版　1977年７月
・滝口宏・谷川章雄・亀田駿一・富樫雅彦・後藤宏樹・野沢均・扇浦正義・加藤秀之・丹羽百合子・高橋伸二　「三栄町遺跡」1988年３月
・『古伊万里』「別冊太陽　№63」　1988年10月
・大橋康二　「肥前陶磁」「考古学ライブラリー　55」　1989年10月
・井汲隆夫・金子浩昌・小池裕子・大八木謙司・三木弘・原祐一・樹木真　「東京都新宿区　内藤町遺跡　－放射５号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書－　第Ⅱ分冊〈遺物編〉」　1992年３月
・金子浩昌　「第３節　新宿区細工町遺跡出土の動物遺存体」「東京都新宿区　細工町遺跡　－（仮称）新宿区立細工町高齢者在宅サービスセンター建設に伴う緊急発掘調査報　告書」新宿区厚生部遺跡調査会　1992年３月
・新宿区内藤町遺跡調査会　「新宿内藤町遺跡に見る　江戸のやきものと暮らし」　1993年７月
・中野晴久　「常滑・渥美」「概説　中世の土器・陶磁器」　1995年12月
・九州近世陶磁学会　「九州陶磁の編年　－九州近世陶磁学会10周年記念－」　2000年２月
・増尾富房　「江戸時代の銭貨・寛永通宝」「江戸文化の考古学」2000年８月
・江戸遺跡研究会　「図説　江戸考古学研究事典」　2001年４月
・玉里村立史料館　「特別展　近現代遺跡，発掘！」　2001年11月
・加藤誠洋　「水防建築「水塚」について　－板倉町の「水塚」調査中間報告－」「文化財調査研究誌　2001　vol. 6　波動」板倉町教育委員会　2001年11月
・永井久美男　「新版　中世出土銭の分類図版」　2002年４月
・川村満博　「茨城県南部を中心に見た12世紀後半～15世紀のロクロ成形かわらけについて」「研究ノート12号　平成14年度」2003年６月
・松本直人　「茨城県における方形竪穴遺構の集成」「年報24（平成16年度）」　2005年８月
・長佐古真也　「東京都の遺跡における江戸時代後期“庶民向け陶磁器”の一様相」「第19回　九州近世陶磁学会資料　江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通　（関東・東北・北海道編）」　2009年２月
・日本貨幣商協同組合　「日本貨幣カタログ　2014年版」　2013年12月



第 75 図　上原遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第76図　上原遺跡遺構全体図

第4章　上　原　遺　跡

第1節 調 査 の 概 要

上原遺跡は，猿島郡五霞町の北部に位置し，利根川右岸の標高約13ｍの台地上に立地している。調査面積は2,803㎡で，調査前の現況は宅地・雑種地である。今回の調査区は遺跡の東端部にあたり，周辺の地形から集落はさらに調査区西側に広がっているものと推測できる。

調査の結果，竪穴建物跡５棟（縄文時代），掘立柱建物跡３棟（江戸時代），井戸跡２基（江戸時代），掘込地業遺構１基（江戸時代），粘土貼土坑６基（江戸時代），土坑153基（縄文時代13，江戸時代７，時期不明133），溝跡７条（江戸時代４，時期不明３），ピット群４か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に12箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），土師質土器（小皿，中甕，焙烙），瓦質土器（擂鉢，火鉢，焙烙，煖炉），陶器（小坏，小碗，中碗，天目茶碗，小皿，中皿，擂鉢，小甕，中瓶，花瓶，香炉），磁器（小碗，中碗，大碗，蓋，小皿，中皿，猪口，大瓶），土製品（円筒埴輪，泥面子），石器（鏃，石臼，砥石），金属製品（鎌，釘，煙管，銭貨，銅線）などである。

第2節 基 本 層 序

調査区北西部（Ｃ２a9区）の台地平坦部にテストピットを設定し，基本土層（第77図）の観察を行った。

第１層は，黒褐色を呈する表土層である。焼土粒子・炭化粒子を少量，ローム粒子を微量含み，層厚は27～32cmである。

第２層は，にぶい黄褐色を呈する浅い埋没谷の覆土である。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含み，締まりは弱く，層厚は８～12cmである。

第３層は，褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は15～24cmである。

第４層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性は強く，締まりは普通で，層厚は21～45cmである。

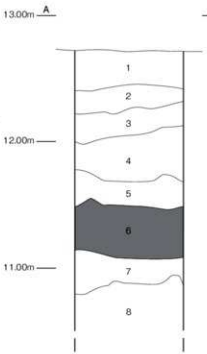
第５層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は19～40cmである。

第６層は，暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は35～42cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第７層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は13～46cmである。

第８層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため，層厚は不明である。

遺構は，第４層上面で確認している。



第77図　基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡５棟，土坑 13 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

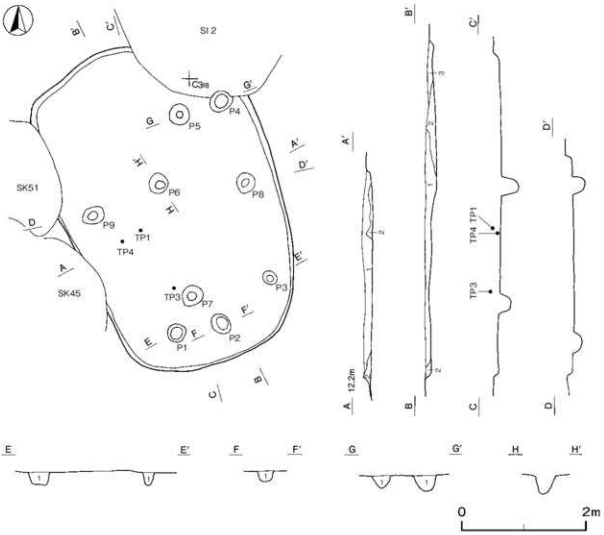
第１号竪穴建物跡（第 78・79 図）

位置 調査区中央部のＣ３e7 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第２号竪穴建物，第 45 号土坑に掘り込まれている。第 51 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 7.37 m，短径 3.53 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 19°－ Ｗである。壁は高さ９～ 12cmで，外傾している。

床 やや凹凸があり，硬化した範囲は認められない。



第 78 図 第１号竪穴建物跡実測図

ピット　9か所。P１～P４・P８・P９は深さ14～25cmで，環状に巡る配置から主柱穴と考えられる。P５～P７は深さ18～28cmで，性格不明である。

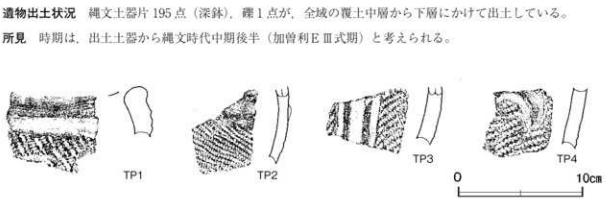
ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片195点（深鉢），礫1点が，全域の覆土中層から下層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第79図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図

第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP１	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子・雲母	橙	単節縄文RL→太い沈線	覆土中層	PL17
TP２	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	浅黄	単節縄文RL→隆帯による区画文	覆土中	
TP３	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→沈線が沿う隆帯による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中層	PL17
TP４	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文LR→隆帯による渦巻文	覆土下層	

第２号竪穴建物跡（第80図）

位置　調査区中央部のC３d7区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第58号土坑，第１号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径4.68ｍ，短径4.38ｍの円形で，長径方向はN－17°－Wである。壁は高さ５～20cmで，外傾している。

床　やや凹凸があり，硬化した範囲は認められない。

ピット　7か所。P１～P７は深さ12～30cmで，環状に巡る配置から主柱穴と考えられる。

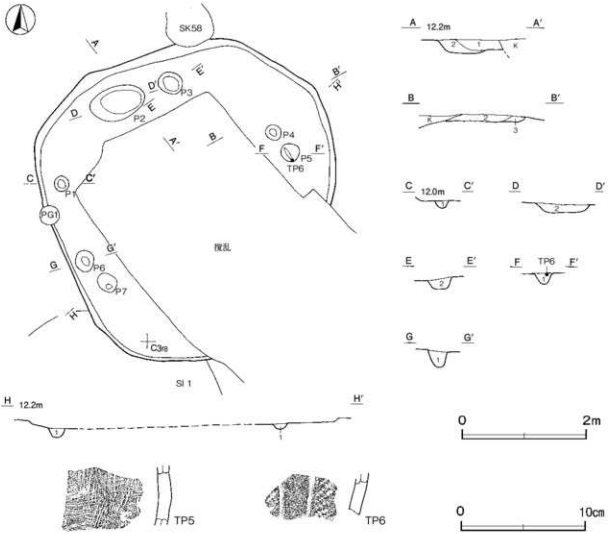
ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　3層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片36点（深鉢）が，全域の覆土下層や覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利E式期）と考えられる。



第80図　第２号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第２号竪穴建物跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP５	縄文土器	深鉢	長石・石英・角閃石・白色粒子	橙	横位の条線文→縦位の条線文	覆土中	
TP６	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文RL　沈線による懸垂文	覆土下層	

第３号竪穴建物跡（第81～83図）

位置　調査区中央部のＣ３d0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

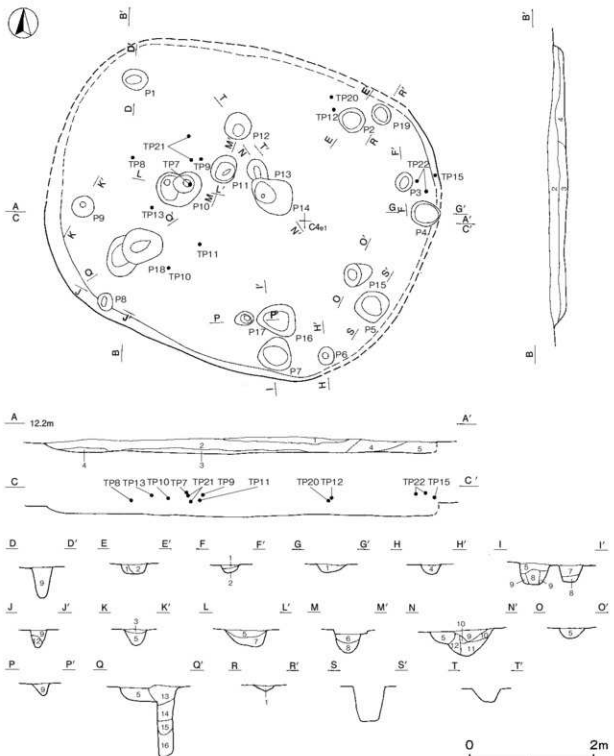
重複関係　第４号竪穴建物跡，第92・93・126号土坑を掘り込んでいる。第94号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径6.10ｍ，短径4.99ｍの楕円形で，長径方向はＮ－66°－Ｗである。壁は高さ14～20cmで，

外傾している。

床　平坦で，硬化した範囲は認められない。

ピット　19か所。P 1～P 9は深さ13～51cmで，環状に巡る配置から主柱穴と考えられる。P10～P19は深さ10～115cmで，性格不明である。第1～12層は，柱抜き取り後の堆積層である。



第81図　第3号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
4 極暗褐色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック微量
7 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
10 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
11 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
12 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
14 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
16 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

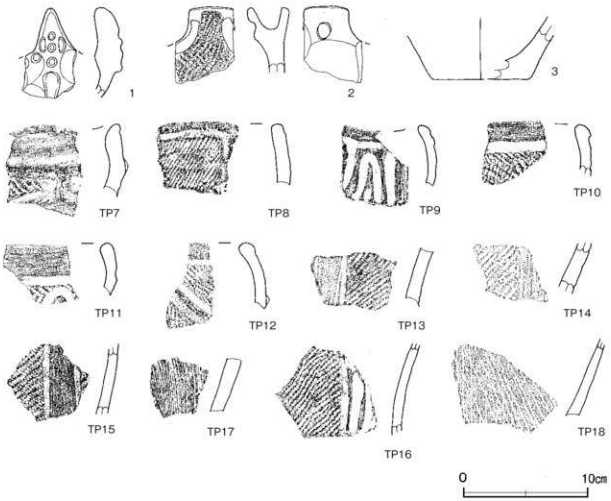
覆土 5層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

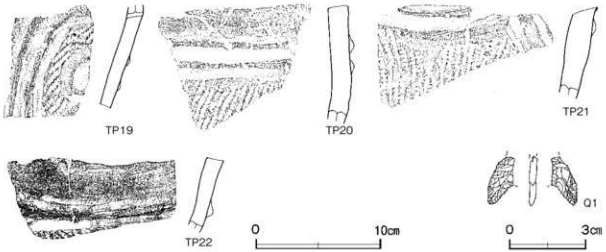
1 黒 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
4 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片531点（深鉢），石器4点（鏃），剥片8点（頁岩1，チャート7），礫3点が，全域の覆土上層から床面にかけて，及びP1・P2・P7・P10・P11・P16～P18の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第82図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 83 図　第３号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

第３号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 82・83 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	把手部　円形の刺突	覆土中	5％
2	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	把手部　単節縄文LR	覆土中	5％
3	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	[7.6]	長石・石英	明赤褐	普通	底部	覆土中	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→隆帯による区画文	覆土上層	PL.17
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英・角閃石・白色粒子	橙	単節縄文LR　沈線による区画文	覆土上層	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・	橙	太い沈線による文様を描出する	覆土上層	PL.17
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	単節縄文RL→太い沈線	覆土上層	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文RL→沈線	覆土上層	
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	単節縄文RL→隆帯	覆土上層	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土上層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明赤褐	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土上層	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→隆帯	覆土中	PL.17
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	縦位の条線文	覆土中	
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	斜位の条線文→縦位の条線文	覆土中	PL.17
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	単節縄文RL→隆帯による渦巻文	覆土中	PL.17
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	隆帯→単節縄文LR	覆土上層	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	単節縄文LR→隆帯→単節縄文RL	覆土上層	
TP22	縄文土器	鉢？	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	単節縄文RL→隆帯	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	剥	(1.9)	(1.0)	0.3	(0.6)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	覆土中	

第４号竪穴建物跡（第84・85図）

位置　調査区中央部のＣ４d1区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　炉床面まで削平されているため，炉とピットしか確認できなかった。

重複関係　第126号土坑を掘り込み，第３号竪穴建物，第85･94号土坑，第３号ピット群に掘り込まれている。第66号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　ピットの配置から，径5.00ｍほどの円形と推定できる。

炉　中央部北寄りに付設されている。長径100cm，短径76cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ19～21cmで，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

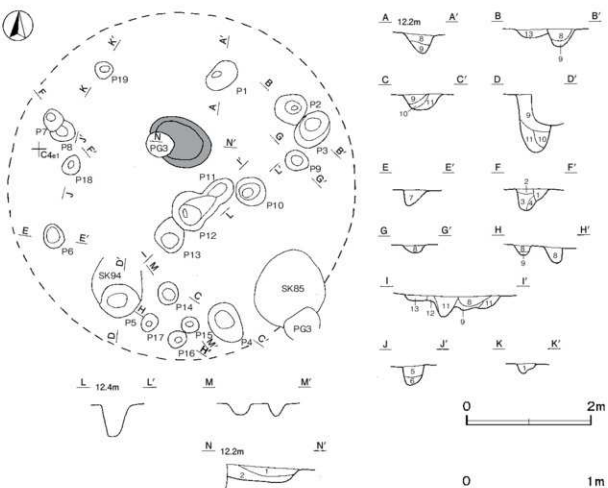
炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量　　2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

ピット　19か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ13～94cmで，環状に巡る配置から主柱穴と考えられる。Ｐ９～Ｐ19は深さ13～51cmで，性格不明である。第１～13層は，柱抜き取り後の堆積層と考えられる。

ピット土層解説

1　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
4　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

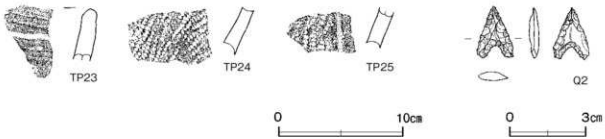


第84図　第４号竪穴建物跡実測図

9　褐　　色　ローム粒子中量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　暗　褐　色　ロームブロック微量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片51点（深鉢），石器1点（鏃），剥片4点（チャート），礫1点が，P2・P7・P11～P15の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第85図　第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	沈線	P13覆土中	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL	炉覆土中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	単節縄文RL　沈線による懸垂文	P7覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	鏃	2.1	1.5	0.4	0.6	赤チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	ピット覆土中	PL18

第5号竪穴建物跡（第86図）

位置　調査区中央部のC4和区，標高12mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　炉床面まで削平されているため，炉とピットしか確認できなかった。

重複関係　第1～3号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　P1から炉までの距離が2.26mほどであることから，炉を中心にした径4.52mほどの円形が推定できるが，詳細は不明である。

炉　長径118cm，短径84cmの楕円形を呈する地床炉である。深さ17cmの皿状に掘りくぼめ，第3～5層を埋め戻して炉床を構築しており，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

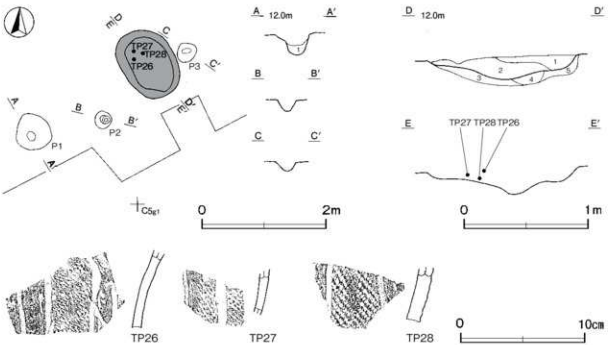
炉土層解説
1　明赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　明赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　3か所。P1は深さ35cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2・P3は深さ19cm・14cmで，性格不明である。第1層は，柱抜き取り後の堆積層と考えられる。

ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片10点（深鉢）が，炉の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第86図　第５号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第５号竪穴建物跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文LR→沈線による壁垂文→壁垂文間を磨り消し	炉覆土上層	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文LR→縦位の沈線	炉覆土中層	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	単節縄文LR→沈線による壁垂文→壁垂文間を磨り消し	炉覆土中層	

表13　縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径×短径（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉	石囲炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	C 3 e7	N－19°－W	楕円形	7.37×3.53	9～12	凹凸	－	6	－	3	－	－	自然	縄文土器（深鉢），礫	加曽利E Ⅲ式期	本跡→SI 2，SK45 SK51との新旧関係は不明
2	C 3 d7	N－17°－W	円形	4.68×4.38	5～20	凹凸	－	7	－	－	－	－	自然	縄文土器（深鉢）	加曽利E Ⅲ式期	SI 1→本跡 SK8 SI1との新旧関係は不明
3	C 3 d6	N－66°－W	楕円形	6.10×4.99	14～20	平坦	－	9	－	15	－	－	自然	縄文土器（深鉢），石器（磨），剥片	加曽利E Ⅲ式期	SI 4，SD2 SI1・13→本跡 SD91との新旧関係は不明
4	C 4 d1	－	［円形］	[5.00]×[5.00]	－	－	－	8	－	11	中央部 北寄り	－	－	縄文土器（深鉢），石器（磨），剥片	加曽利E Ⅲ式期	SK126→本跡→SI 3，SK85・91，PG 3 SK86との新旧関係は不明
5	C 4 f0	－	［円形］	(4.52)×(4.52)	－	－	－	1	－	2	中央部	－	－	縄文土器（深鉢）	加曽利E Ⅲ式期	SB 1～3→本跡

(2)　土坑

第24号土坑（第87図）

位置　調査区西部のＣ２e0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径2.49ｍ，短径0.89ｍの不整楕円形で，長径方向はＮ－19°－Ｅである。深さは27cm，底面

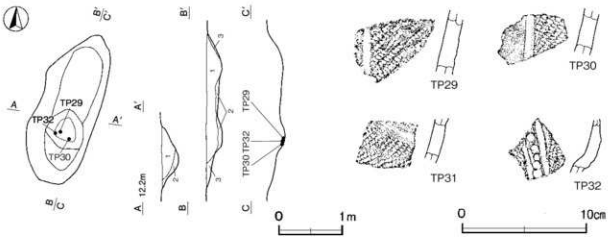
は段を有し，壁は外傾している。

覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量　　3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片17点（深鉢）が，中央部の覆土下層から底面にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第87図　第24号土坑・出土遺物実測図

第24号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土下層	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄褐	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	底面	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文LR→隆帯	覆土中	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を連続刺突	覆土下層	

第25号土坑（第88図）

位置　調査区西部のＣ２e0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

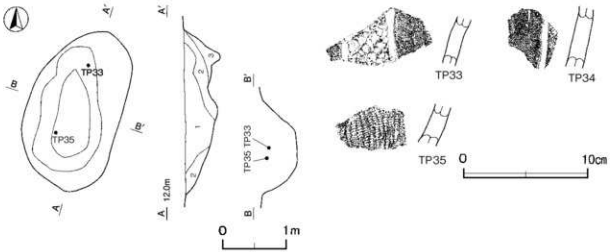
規模と形状　長径2.64ｍ，短径1.50ｍの楕円形で，長径方向はＮ－15°－Ｅである。深さは55cm，底面は凹凸があり，壁は外傾している。

覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量　　3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片33点（深鉢）が，全域の覆土上層や覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第88図　第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土上層	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明赤褐	単節縄文LR　懸垂文	覆土中	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明赤褐	単節縄文RL	覆土上層	

第39号土坑（第89図）

位置　調査区中央部のC３g6区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径0.68ｍ，短径0.62ｍの不整円形である。深さは20cm，底面は凹凸があり，壁は外傾している。

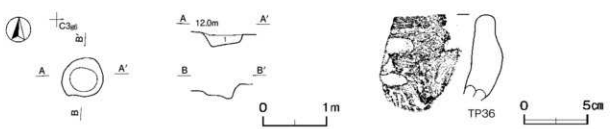
覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片９点（深鉢）が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利E式期）と考えられる。



第89図　第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	単節縄文LR→隆帯による区画文	覆土中	

第 42 号土坑（第 90 図）

位置　調査区中央部のＣ３f6 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

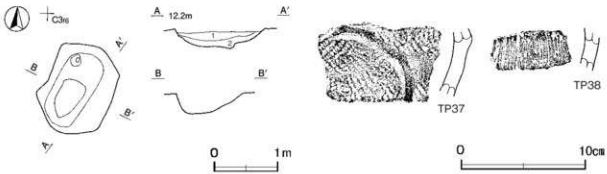
規模と形状　長軸 1.52 m，短軸 1.06 mの不定形で，長軸方向はＮ－ 32°－ Ｅである。深さは 32cm，底面は皿状で，壁は外傾している。

覆土　2 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量　　2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 15 点（深鉢）が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利Ｅ式期）と考えられる。



第 90 図　第 42 号土坑・出土遺物実測図

第 42 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文 RL 及び単節縄文 LR →隆帯による渦巻文。	覆土中	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	縦位の条線文	覆土中	

第 45 号土坑（第 91・92 図）

位置　調査区西部のＣ３f7 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.70 m，短径 1.52 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 5°－ Ｗである。深さは 22cm，底面は平坦で，壁は外傾している。

遺物出土状況　縄文土器片 23 点（深鉢）が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半(加曽利Ｅ式期）と考えられる。

第 91 図　第 45 号土坑実測図

第 92 図　第 45 号土坑出土遺物実測図

第 45 号土坑出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	太い沈線　単節縄文 LR　沈線による渦巻文。	覆土下層	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文 LR →太い沈線	覆土上層	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	単節縄文 RL	覆土上層	

第 49 号土坑（第 93 図）

位置　調査区中央部のＣ３f7 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 1.06 m，短軸 0.85 m の不定形で，長軸方向はＮ－57°－Ｗである。深さは 19cm，底面は皿状で，壁は外傾している。

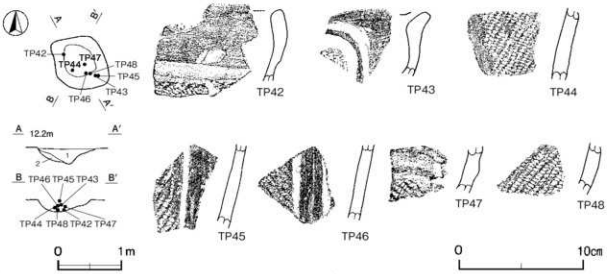
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片 24 点（深鉢），礫１点が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第 93 図　第 49 号土坑・出土遺物実測図

第 49 号土坑出土遺物観察表（第 93 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	太い沈線　単節縄文 LR	覆土下層	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐	単節縄文 RL →沈線が沿う隆帯による区画文	覆土中層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文RL　懸垂文	覆土下層	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文RL　沈線による懸垂文	覆土上層	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文LR→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中層	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文RL　隆帯による区画文	覆土中層	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	単節縄文LR	覆土下層	

第66号土坑（第94図）

位置　調査区中央部のC 4 e2区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第3号竪穴建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　径0.90 mほどの円形で，深さは88cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

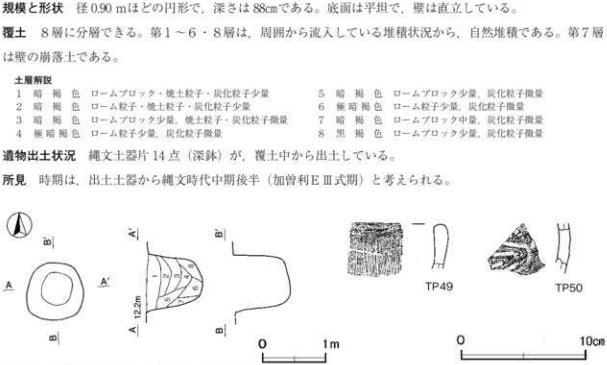
覆土　8層に分層できる。第1～6・8層は，周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。第7層は壁の崩落土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片14点（深鉢）が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利E Ⅲ式期）と考えられる。



第94図　第66号土坑・出土遺物実測図

第66号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	縦位の条線文	覆土中	
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	沈線　単節縄文RL	覆土中	

第67号土坑（第95図）

位置　調査区中央部のC 4 e2区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径1.12 m，短径0.82 mの楕円形で，長径方向はN－69°－Eである。深さは82cm，底面は凹凸があり，壁はほぼ直立している。

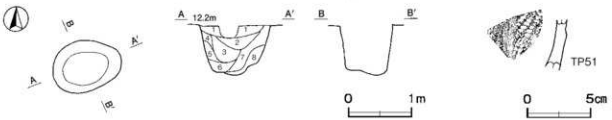
覆土　8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
8 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片12点（深鉢）が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第95図 第67号土坑・出土遺物実測図

第67号土坑出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	撚糸縄文 RLR	覆土中	

第69号土坑（第96・97図）

位置 調査区中央部のC4c2区，標高12mほどの台地平坦部に位置している。

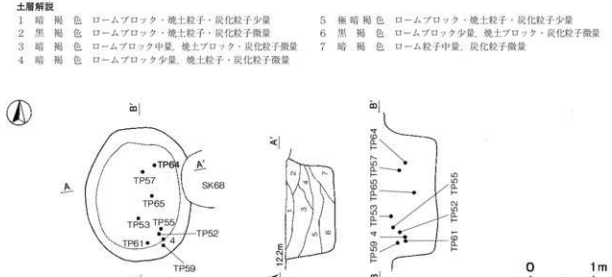
重複関係 第68号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.10m，短径1.68mの楕円形で，長径方向はN－2°－Eである。深さは76cm，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。第5～7層は，周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。第1～4層は，各層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

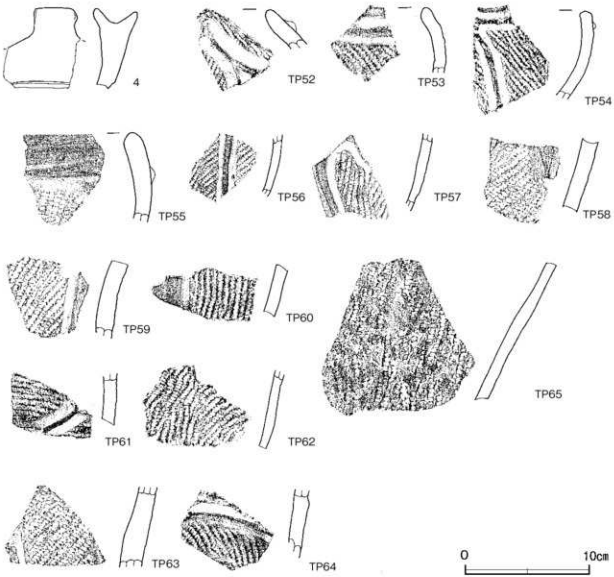
1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量



第96図 第69号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片324点（深鉢），礫5点が，全域の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第97図　第69号土坑出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	把手部	覆土上層	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	把手部　単節縄文LR　単節縄文RL　隆帯	覆土上層	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	浅黄	単節縄文RL→沈線が沿う隆帯	覆土上層	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明黄褐	単節縄文RL→沈線が沿う隆帯による区画文	覆土中	PL17
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	褐	単節縄文LR→隆帯	覆土上層	PL17
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	単節縄文RL→沈線による隆帯	覆土中	
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	単節縄文RL→沈線による渦巻文	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→隆帯	覆土中	
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による壁垂文→壁垂文間を磨り消し	覆土上層	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐	単節縄文LR→沈線による壁垂文→壁垂文間を磨り消し	覆土中	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	単節縄文RL→隆帯による区画文	覆土上層	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文RL	覆土中	
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	単節縄文RL→沈線による壁垂文→壁垂文間を磨り消し	覆土中	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	隆帯による区画文→単節縄文RL	覆土上層	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明黄褐	単節縄文LR。	覆土中層	

第92号土坑（第98図）

位置　調査区中央部のC 4 d1区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第3号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.17 m，短径1.01 mの不整楕円形で，長径方向はN－13°－Eである。深さは65cm，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

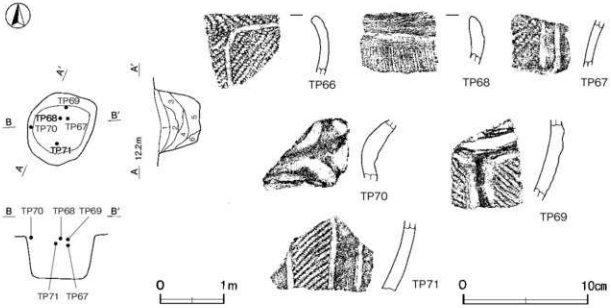
覆土　6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片76点（深鉢）が，全域の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利E Ⅲ式期）と考えられる。



第98図　第92号土坑・出土遺物実測図

第92号土坑出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文LR→沈線	覆土中	
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	磨滅　単節縄文RL　沈線による懸垂文	覆土上層	
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明褐	横位の沈線　縦位の条線文	覆土上層	
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	隆帯による区画文→単節縄文RL	覆土上層	
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	磨滅　隆帯	覆土上層	
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土上層	

第93号土坑（第99図）

位置　調査区中央部のＣ３e0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第３号竪穴建物に掘り込まれている。

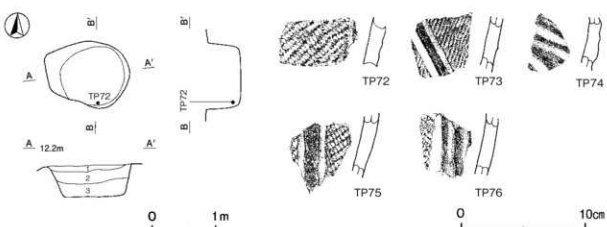
規模と形状　長径1.39ｍ，短径1.00ｍの不整楕円形で，長径方向はＮ－78°－Ｗである。深さは52cm，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

覆土　３層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片23点（深鉢）が，覆土下層や覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第99図　第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英	淡黄	単節縄文RL	覆土下層	
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文。	覆土中	
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	隆帯及び沈線による渦巻文。	覆土中	
TP75	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文LR→隆帯による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	

第 94 号土坑（第 100 図）

位置　調査区中央部のＣ４e1 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４号竪穴建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 1.15 m，短径 0.81 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 11°－Ｅである。深さは 53cm，底面は平坦で，壁は外傾している。

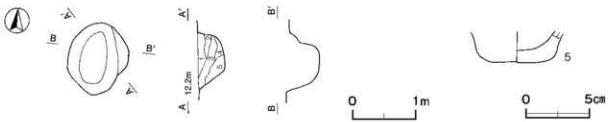
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利Ｅ式期）と考えられる。



第 100 図　第 94 号土坑・出土遺物実測図

第 94 号土坑出土遺物観察表（第 100 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　は　か	出土位置	備　考
5	縄文土器	深鉢	－	(25)	[60]	長石・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	底部	覆土中	5%

第 126 号土坑（第 101 図）

位置　調査区西部のＣ４d1 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第３号竪穴建物跡に掘り込まれている。覆土上面に第４号竪穴建物の炉が付設されている。

規模と形状　長径 1.54 m，短径 1.37 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－Ｅである。深さは 71cm，底面は平坦で，壁は外傾している。

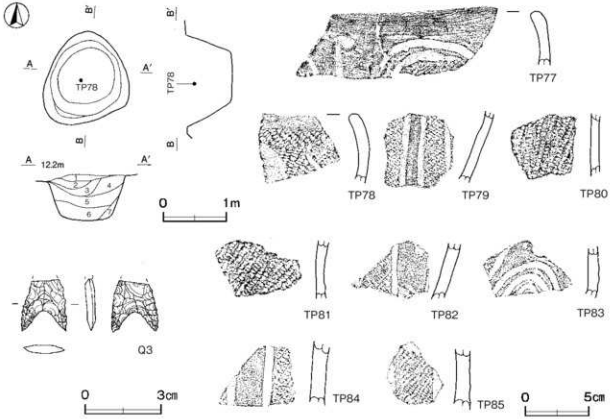
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
7　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 63 点（深鉢），石器１点（鏃），剥片１点（チャート），粘土塊１点が，覆土上層や覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第101図　第126号土坑・出土遺物実測図

第126号土坑出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	太い沈線による文様を描出	覆土中	
TP78	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	黄橙	単節縄文RL・単節縄文LR→沈線	覆土上層	
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	単節縄文LR	覆土中	
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文LR	覆土中	
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文LR，沈線による渦巻文	覆土中	
TP84	縄文土器	深鉢	長石・白色粒子	にぶい黄橙	単節縄文RL→沈線による懸垂文→懸垂文間を磨り消し	覆土中	
TP85	縄文土器	深鉢	長石	明褐	単節縄文RL→沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	錘	(2.1)	1.9	0.4	(1.4)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	覆土中	

表14　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
24	C 2e0	N－19°－E	不整楕円形	2.49 × 0.89	27	有段	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
25	C 2e0	N－15°－E	楕円形	2.64 × 1.50	55	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
39	C 3 g6	－	不整円形	068 × 0.62	20	凹凸	外傾	－	縄文土器（深鉢）	
42	C 3 f6	N － 32° － E	不定形	1.52 × 1.06	32	凱状	外傾	自然	縄文土器（深鉢）	
45	C 3 f7	N － 5° － W	不整楕円形	1.70 × 1.52	22	平坦	外傾	－	縄文土器（深鉢）	
49	C 3 f7	N － 57° － W	不定形	1.06 × 0.85	19	凱状	外傾	人為	縄文土器（深鉢），礫	
66	C 4 e2	－	円形	0.90 × 0.90	88	平坦	直立	自然	縄文土器（深鉢）	SI 3との新旧関係は不明
67	C 4 e2	N － 69° － E	楕円形	1.12 × 0.82	82	凹凸	直立	人為	縄文土器（深鉢）	
69	C 4 e2	N － 2° － E	楕円形	2.10 × 1.68	76	平坦	ほぼ直立	人為 自然	縄文土器（深鉢），礫	本跡→SK68
92	C 4 d1	N － 13° － E	不整楕円形	1.17 × 1.01	65	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢）	本跡→SI 3
93	C 3 e0	N － 78° － W	不整楕円形	1.39 × 1.00	52	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器（深鉢）	本跡→SI 3
94	C 4 e1	N － 11° － E	不整楕円形	1.15 × 0.81	53	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	SI 4との新旧関係は不明
136	C 4 d1	N － 38° － E	不整楕円形	1.54 × 1.37	71	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢），石器（鏃），剥片，粘土塊	本跡→SI 3・4

2　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，掘立柱建物跡３棟，井戸跡２基，掘込地業遺構１基，粘土貼土坑６基，土坑７基，溝跡４条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第102図）

位置　調査区東部のＣ４g9区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　北西平と庇の柱穴列を確認した。

重複関係　第５号竪穴建物跡を掘り込み，第３号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造　南部が調査区域外へ延びているため，桁行は４間で，梁行は不明である。桁行方向がＮ－53°－Ｅの北平に庇を有する北東・南西棟と推定できる。確認できた身舎の規模は，桁行7.4ｍ，梁行1.8ｍである。身舎の柱間寸法は，北桁行が東妻から1.7ｍ（5.7尺），1.8ｍ（６尺），1.8ｍ（６尺），2.1ｍ（７尺）と間尺にややばらつきがあるが，柱筋はＰ５を除いて揃っている。北平から北に1.6～1.8ｍ離れて，庇の柱穴列を確認した。庇の柱穴列の柱間寸法は，東から西に1.8ｍ（６尺），1.8ｍ（６尺），2.1ｍ（７尺），1.7ｍ（5.7尺）で配置されている。

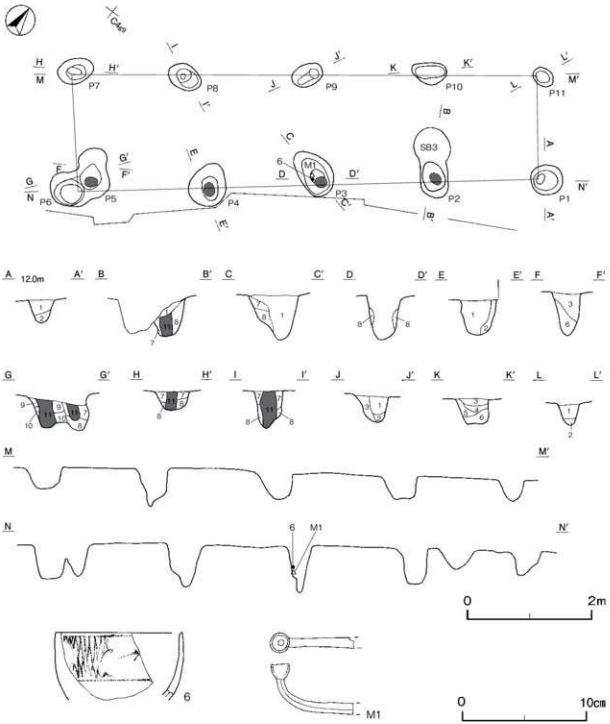
柱穴　11か所。身舎柱穴の平面形は円形または楕円形で，長径50～81cm，短径43～50cmである。深さは55～71cmである。庇の柱穴の平面形は円形または楕円形で，長径37～58cm，短径31～41cmである。深さは35～59cmである。第１～６層は柱抜き取り後の堆積層，第７～10層は掘方への埋土，第11層が柱痕跡である。Ｐ２～Ｐ５の底面で，柱の当たりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿，焙烙），陶器片２点（天目茶碗，碗類），磁器片２点（中碗，皿類），鉄滓５点，礫２点が，Ｐ３・Ｐ８の覆土中やＰ６の底面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀代と考えられる。



第 102 図　第 1 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
6	瓷器	中碗	[9.4]	(5.3)	－	緻密　明緑灰	波状文　雲文。	透明釉	肥前	P 3 覆土中層	30%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	煙管	(6.6)	1.5	4.0	(8.8)	銅	雁首部　接合部有り	P 3 覆土中層	PL.18

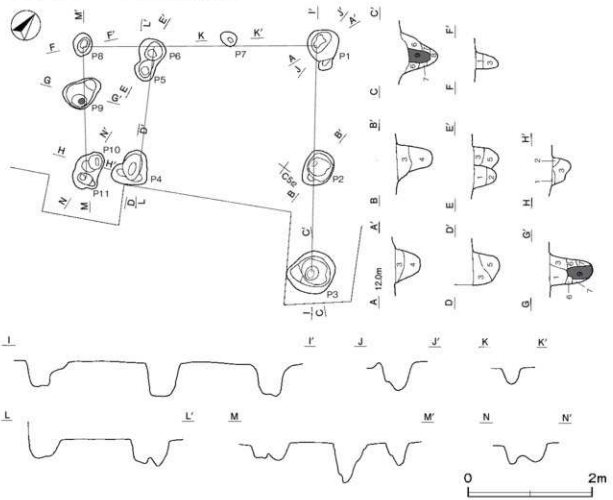
第２号掘立柱建物跡（第103図）

位置　調査区東部のＣ５e1 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南部が調査区域外へ延びているため，梁行は２間で，桁行は２間しか確認できなかった。側柱建物跡で桁行方向がＮ－37°－Ｗの北西･南東棟と推定できる。確認できた規模は，桁行 3.6 m，梁行 2.7 mである。柱間寸法は，梁行が東平から 1.5 m（５尺），1.2 m（４尺），東桁行が北妻から 1.8 m（６尺），1.8 m（６尺），西桁行が北妻から 1.8 m（６尺）とややばらつきがあるが，桁行は均等に配置され，柱筋はＰ７を除いてほぼ揃っている。西平から西に 0.9 ～ 1.1 m離れて，柱穴列を確認した。柱穴列の柱間寸法は，北から南に 0.8 m（2.7 尺），1.2 m（４尺）で配置され，庇の可能性があるが，詳細は不明である。

柱穴　11 か所。身舎柱穴の平面形は円形または楕円形で，長径 27 ～ 79cm，短径 23 ～ 68cmである。深さは 28 ～ 54cmである。柱穴列の柱穴の平面形は，円形または楕円形で，長径 35 ～ 60cm，短径 31 ～ 47cmである。深さは 24 ～ 62cmである。第１～５層は柱抜き取り後の堆積層，第６～８層は掘方への埋土，第９層が柱痕跡である。



第 103 図　第２号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師質土器片３点（不明），銅製品１点（不明），礫３点が，Ｐ９の覆土中から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。

第３号掘立柱建物跡（第104図）

位置　調査区東部のＣ４g9区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５号竪穴建物跡，第１号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南部が調査区域外へ延びているため，桁行は３間で，梁行は１間しか確認できなかった。桁行方向がＮ－53°－Ｅの北東・南西棟と推定できる。確認できた規模は，桁行5.6ｍ，梁行1.8ｍである。柱間寸法は，北桁行が東妻から1.8ｍ（６尺），1.7ｍ（5.7尺），2.1ｍ（７尺），東梁行が北平から1.8ｍ（６尺）と間尺にややばらつきがあるが，柱筋はほぼ揃っている。

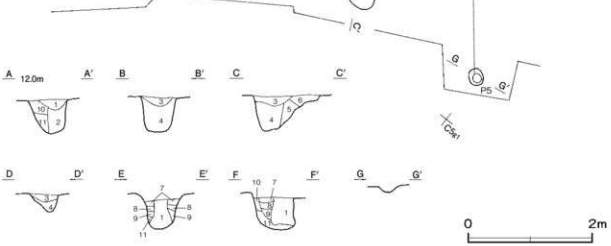
柱穴　５か所。平面形は円形または楕円形で，長径27～68cm，短径23～66cmである。深さは11～66cmである。第１～６層は柱抜き取り後の堆積層，第７～11層は掘方への埋土である。Ｐ１・Ｐ４の底面で，柱の当たりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
6　明　褐　色　ロームブロック中量
7　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　明　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
11　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），磁器片１点（碗類），鉄製品１点（不明）が，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４の覆土中からそれぞれ出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から18世紀代と考えられる



第104図　第３号掘立柱建物跡実測図

表15　江戸時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	棟行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
1	C 4 g9	N－53°－E	4×－	7.4×(1.8)	(13.3)	1.7～2.1	－	－	11	円形・楕円形	35～71	土師質土器（小皿），磁器（中碗）	18世紀代	SI 5→本跡→SB 3
2	C 5 e1	N－37°－W	(2)×2	(3.6)×2.7	(9.7)	1.8	1.2～1.5	[無柱]	11	円形・楕円形	24～62	土師質土器（不明）	江戸時代	SI 5→本跡
3	C 4 g9	N－53°－E	3×(1)	5.6×(1.8)	(10.1)	1.7～2.1	1.8	－	5	円形・楕円形	11～66	土師質土器（焙烙）	18世紀代	SI 5・SB 1→本跡

(2)　井戸跡

第1号井戸跡（第105・106図）

位置　調査区東部のC 4 e0区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認面の平面形は長径1.65 m，短径1.33 mの楕円形で，長径方向はN－12°－Wである。確認面から深さ0.59 mまで漏斗状に掘り込まれ，それ以下は径0.88 mほどの円筒状に掘り込まれている。深さ1.47 mまで掘り下げたが，湧水のために下部の調査を断念した。

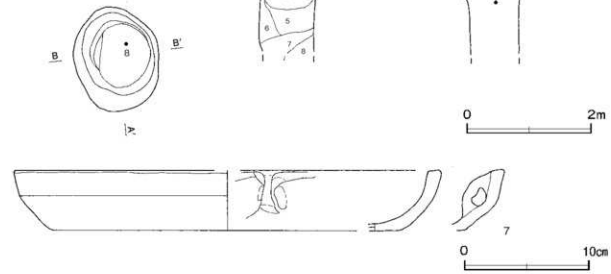
覆土　8層に分層できる。第3～8層は，多くの層にロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況であることから，埋め戻されている。第1・2層は，周囲から流入している堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

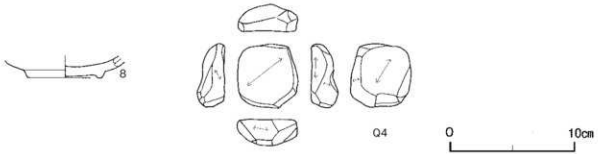
1　暗　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片2点（焙烙，不明），瓦質土器片1点（不明），陶器片2点（小皿，中皿），石器1点（砥石$_{B}$），鉄製品1点（不明），礫9点が，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。



第105図　第1号井戸跡・出土遺物実測図



第106図　第１号井戸跡出土遺物実測図

第１号井戸跡出土遺物観察表（第105・106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師質土器	焙烙	[34.0]	4.8	[27.6]	長石・石英・雲母・微密	明赤褐	普通	外・内面横ナデ　体部外面煤付着	覆土中	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
8	陶器	中皿	－	(1.8)	6.0	緻密　オリーブ黄	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃。	覆土中層	30％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q４	砥石。	5.0	4.8	2.2	35.3	角閃石デイサイト	砥面６面。	覆土中	

第２号井戸跡（第107図）

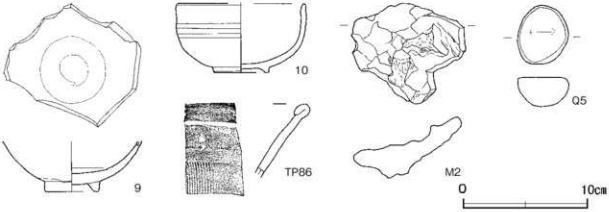
位置　調査区中央部のＣ３e0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　広範囲の撹乱を掘削した後，確認面より２ｍ以上下位で確認した。

規模と形状　崩落のおそれがあることから調査及び測量を断念したため，規模は不明であるが，平面形は円形であることを確認した。

遺物出土状況　土師質土器片５点（甕１，焙烙４），陶器片４点（中碗２，皿類１，擂鉢１），磁器片１点（碗類），石器１点（砥石。），鉄製品５点（不明），礫15点が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。



第107図　第２号井戸跡出土遺物実測図

第２号井戸跡出土遺物観察表（第 107 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
9	陶器	中碗	－	(4.1)	4.2	緻密 にぶい黄橙	外・内面施釉 見込輪禿	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	50% PL17
10	陶器	中碗	(10.0)	5.5	4.3	緻密 灰白	外・内面施釉	灰釉・鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土中	50% PL17

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
T186	陶器	擂鉢	－	－	－	緻密 暗褐	外・内面施釉	錆釉	瀬戸・美濃系	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石。	4.7	4.0	2.3	28.0	角閃石デイサイト	砥面１面。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	梅鉢薬冷	8.0	9.2	5.0	256.6	鉄	鞭部破損。上面は浅く凹み，わずかに発泡	覆土中	PL18

表 16　江戸時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	C 4 e0	N－12°－W	楕円形	1.65 × 1.33	(147)	－	掘方状 円筒状	自然 入為	土師質土器（坩堝），陶器（小皿，中皿），鐵	
2	C 3 c0	－	（円形）	－		－	－	－	土師質土器（鍋，坩堝），陶器（中碗，擂鉢）。	

(3)　掘込地業遺構

第１号掘込地業遺構（第 108 ～ 110 図）

位置　調査区中央部のＣ３g4 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　表土を除去した後，長軸 11 m，短軸６mほどの暗褐色土の構築土範囲を確認した。構築土上面や本跡周辺での礎石や礎石据付穴，及び柱穴は確認できなかった。

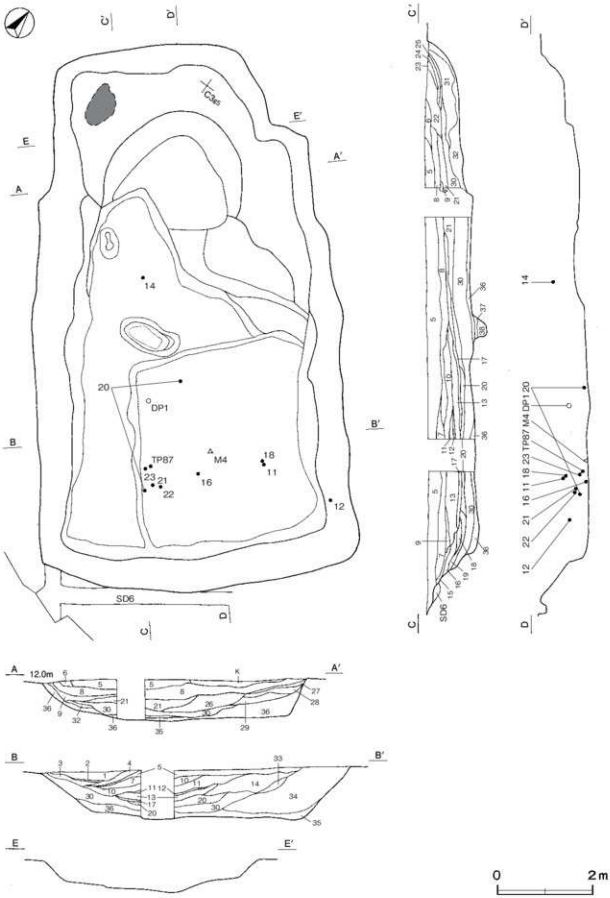
重複関係　第６号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 11.43 m，短軸 6.45 mの不整長方形で，長軸方向はＮ－ 40 °－ Ｗである。深さは 94cmで，底面は段を有している。

構築土　38 層に分層できる。第 23 ～ 38 層を埋め戻した後，黒色土や黒褐色土を主体とした第２～ 21 層を突き固めて構築しており，特に第 19 ～ 21 層の締まりは強い。

構築土解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・砂粒微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　黒　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
17　黒　褐　色　黒色土粒子多量，ローム粒子微量
18　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
19　黒　褐　色　黒色土粒子多量
20　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
21　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
22　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック微量
23　暗　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子微量
24　暗　褐　色　砂粒中量，ロームブロック・炭化粒子微量
25　灰黄褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子微量
26　暗　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
27　にぶい褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

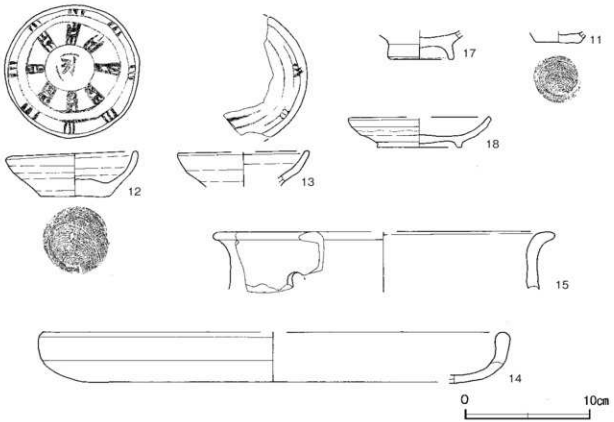


第108図　第1号掘込地業遺構実測図

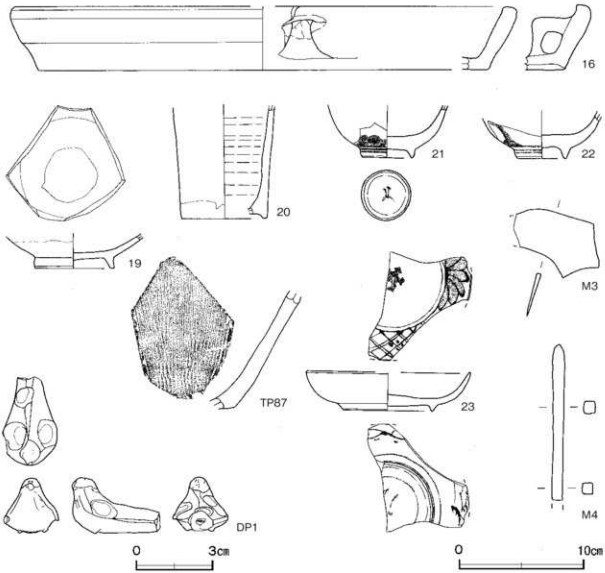
28　暗　褐　色　ローム粒子微量
29　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
30　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
31　黒　褐　色　砂粒少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
32　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
33　暗　褐　色　ロームブロック少量
34　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
35　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒微量
36　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
37　黒　褐　色　黒色土粒子中量
38　黒　褐　色　黒色土粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師質土器片55点（小皿4，中甕3，甕類1，焙烙29，焜炉類4，不明14），瓦質土器片8点（焙烙5，焜炉1，不明2），陶器片31点（小坏1，小碗1，中碗4，碗類1，小皿2，中皿1，擂鉢4，鉢類2，中瓶2，花瓶1，瓶類2，小甕1，甕1，急須$_{B}$1，香炉1，不明6），磁器片32点（小碗10，中碗10，碗類5，蓋1，小皿1，中皿1，皿類$_{B}$1，大瓶2，猪口1），土製品4点（土笛1，竈鍔1，不明2），石器2点（砥石$_{B}$，台石$_{B}$），鉄製品9点（鎌1，釘2，小柄$_{B}$2，不明4），銅製品5点（銭貨1，銅線3，不明1），鉄滓3点，瓦片6点，被熱した礫2点，礫59点が，東半部の覆土中層や下層を中心に出土している。12は，東コーナー部の壁際から出土し，内面に輪宝が墨書されていることから，地鎮具として掘方中に埋納されたものと考えられる。11・12・16・18・20～23・TP87・DP 1・M 4は覆土下層から中層にかけて出土していることから，廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，掘方中の出土土器が18世紀後半と考えられることから，機能していたのは18世紀後半以降と考えられる。性格は，土を何層にも突き固めていることや，地鎮具としての輪宝墨書土器が出土していることから，建屋の基礎地業と考えられる。重量物を収納するための倉などの上屋が建っていたものと想定できるが，詳細は不明である。



第109図　第1号掘込地業遺構出土遺物実測図（1）



第 110 図　第 1 号掘込地業遺構出土遺物実測図（2）

第 1 号掘込地業遺構出土遺物観察表（第 109・110 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土師質土器	小皿	－	(0.9)	3.6	長石・石英	黒褐	普通	底部回転糸切り	覆土中層	40%
12	土師質土器	小皿	10.1	3.6	5.2	長石・石英・角閃石	橙	普通	輪宝墨書　錆部先端潰滅　側部二重円　側部直線による表現　鍛部二重円　鍛部内に**寿**（拾遺第大日如来.）	覆土中層	100%　PL17
13	土師質土器	小皿	[10.4]	(2.8)	－	長石・石英・角閃石・赤色粒子	にぶい橙	普通	輪宝墨書　錆部及び側部残存	覆土中	30%
14	土師質土器	焙烙	[36.8]	4.0	[36.5]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ　体部外面煤付着　底部砂目	覆土上層	5%　PL17
15	土師質土器	低卓脚	[17.2]	(4.6)	－	長石・石英・角閃石・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面口縁部煤付着　穿孔	覆土中	10%
16	瓦質土器	焙烙	[39.8]	5.0	[35.8]	長石・石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子	黄灰	普通	外・内面横ナデ　体部外面煤付着　底部砂目　耳部貼付	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
17	陶器	中碗	－	(2.4)	4.9	緻密　明黄褐	外・内面施釉	灰釉	唐津系	覆土中	30%
18	陶器	小皿	[11.0]	2.4	6.6	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	50%　PL17
19	陶器	中皿	－	(2.8)	6.3	緻密　灰白	外・内面施釉　見込輪禿	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	30%
20	陶器	花瓶	－	(9.1)	[6.8]	緻密　浅黄	外面施釉	白釉	不明	覆土下層	20%
21	磁器	中碗	－	(4.2)	4.0	緻密　灰白	草花文　底部に文様有り	透明釉	肥前	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
22	磁器	中碗	－	(3.7)	4.0	緻密　灰白	草花文	透明釉	肥前	覆土中層	30%
23	磁器	中皿	[13.0]	3.2	[7.0]	緻密　灰白	微意文　草花四方襷文　五弁花 底部に文様有り	透明釉	肥前	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
TP87	陶器	擂鉢	－	－	－	緻密　赤	外面横位のヘラ削り 12本で1単位の擂目	－	堺・明石系	覆土下層	

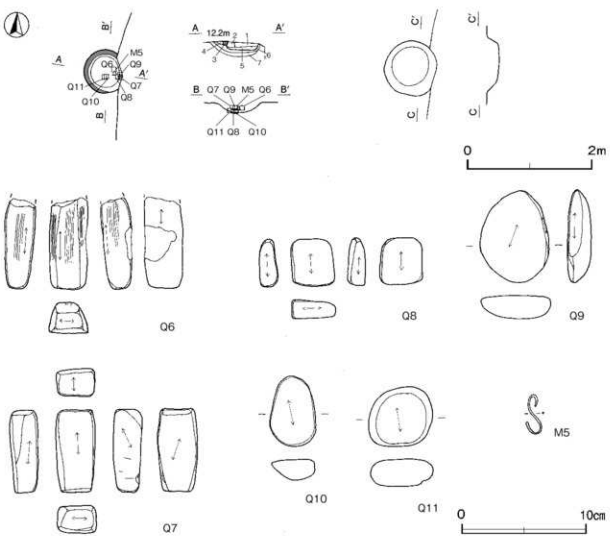
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	鳥笛	3.5	2.2	2.2	6.2	緻密	橙	中空　上下型合わせ　透明釉　陶質	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	鍵	(6.8)	(5.4)	0.4	(29.0)	鉄	断面逆三角形	覆土中	
M 4	不明	(12.4)	0.8	1.0	(62.9)	鉄	断面方形　先端部欠損	覆土下層	

(4) 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑（第111図）

位置　調査区中央部のC 3d9区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。



第111図　第1号粘土貼土坑・出土遺物実測図

規模と形状　粘土の内側は，径0.70 mほどの円形である。深さは9 cmで，底面は皿状である。掘方の規模は，径0.85 mほどの円形である。深さは24cmで，底面は皿状である。掘方の底面と壁面に厚さ10～18cmの灰褐色土や黄橙色土を埋土した後，厚さ3～10cmの粘土を壁面に貼り付けている。

覆土　2層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第3層は貼られた粘土層で，第4～7層は掘方への埋土である。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　灰　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　にぶい橙色　ローム粒子・鉄分多量，炭化粒子・粘土粒子微量
7　黄　橙　色　ローム粒子・鉄分多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片2点（小皿），陶器片4点（中碗1，碗類2，火入れ。1），石器18点（砥石），鉄製品3点（小柄。1，不明2），銅製品4点（銭貨1，銅線3），礫5点が，底面から覆土下層にかけて出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，出土土器から18世紀以降と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。

第1号粘土貼土坑出土遺物観察表（第111図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	(7.3)	3.1	2.4	(78.7)	凝灰岩。	砥面5面	覆土下層	
Q 7	砥石	6.6	3.2	2.4	82.0	安山岩。	砥面6面	覆土下層	
Q 8	砥石	3.8	3.5	1.5	28.4	安山岩。	砥面5面	覆土下層	
Q 9	砥石。	7.4	5.6	1.9	43.4	角閃石デイサイト	砥面2面。	覆土下層	
Q 10	砥石。	5.6	3.7	1.6	15.2	角閃石デイサイト	砥面1面。	底面	
Q 11	砥石。	4.7	5.1	2.2	33.2	角閃石デイサイト	砥面1面。	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	銅線	3.2	1.2	0.2	0.6	銅	S字状	覆土下層	PL18

第2号粘土貼土坑（第112図）

位置　調査区中央部のC 4e1区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

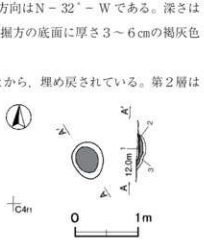
規模と形状　粘土の内側は，長径0.61 m，短径0.50 mの楕円形で，長径方向はN－32°－Wである。深さは4 cmで，底面は皿状である。掘方の深さは16cmで，底面は皿状である。掘方の底面に厚さ3～6 cmの褐灰色土を埋土した後，厚さ3～5 cmの粘土を底面に貼り付けている。

覆土　単一層である。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第2層は貼られた粘土層で，第3層は掘方への埋土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　灰　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

所見　時期は，遺構の形状から江戸時代と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第112図　第2号粘土貼土坑実測図

第４号粘土貼土坑（第113図）

位置　調査区中央部のＣ４g4区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状　粘土の内側は，径1.09ｍほどの円形である。深さ４cmで，底面は皿状である。掘方は，径1.11ｍほどの円形である。深さは34cmで，底面は平坦である。掘方の底面と壁面に厚さ８～20cmの灰褐色土や褐色土を埋土した後，厚さ15～27cmの粘土を壁面や底面に貼り付けている。

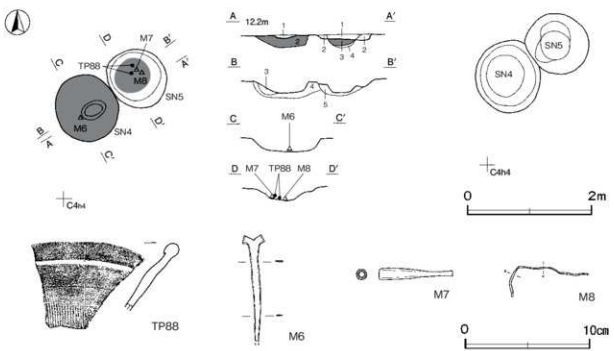
覆土　単一層である。ロームブロックや焼土ブロック，粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第２層は貼られた粘土層で，第３・４層は掘方への埋土である。

土層解説

1	灰	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量	4	褐	色	ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐	灰	色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量				
3	灰	褐	色	砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量				

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），石製品１点（板碑ｶ），鉄製品３点（釘１，不明２），銅製品２点（銭貨，笄ｶ），礫８点が，底面や覆土中から出土している。Ｍ６は底面から出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，遺構の形状や出土土器から江戸時代と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第113図　第４・５号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第４号粘土貼土坑出土遺物観察表（第113図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ６	笄ｶ	(8.4)	1.7	0.1	(2.8)	銅	断面長方形　先端部欠損	底面	

第５号粘土貼土坑（第113図）

位置　調査区中央部のＣ４g4区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.80ｍ，短径0.80ｍほどの不整楕円形で，長径方向はＮ－31°－Ｗである。深さ９㎝で，底面は皿状である。掘方の規模は，径1.00ｍほどの円形である。深さは53㎝で，底面は皿状である。掘方の底面と壁面に厚さ６～16㎝の灰褐色土や褐色土を埋土した後，厚さ６～13㎝の粘土を底面に貼り付けている。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第３層は貼られた粘土層で，第４・５層は掘方への埋土である。

土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　褐　灰　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片５点（焙烙），陶器片４点（碗類３，擂鉢１），磁器片３点（中碗１，碗類２），鉄製品１点（釘ｎ），銅製品５点（煙管１，銭貨２，銅線２），礫７点が覆土下層や覆土中から出土している。TP88・Ｍ７・Ｍ８は覆土下層から出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。

第５号粘土貼土坑出土遺物観察表（第113図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
TP88	陶器	擂鉢	－	－	－	長石　灰褐	外・内面施釉	錆釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	高さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｍ７	煙管	5.8	0.8	0.8	7.1	銅	吸口部	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｍ８	銅線	(6.3)	(2.2)	0.1	(0.9)	銅	断面円形	覆土下層	

第６号粘土貼土坑（第114図）

位置　調査区東部のＣ４i5区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　粘土を貼った底面が露出した状況で確認した。

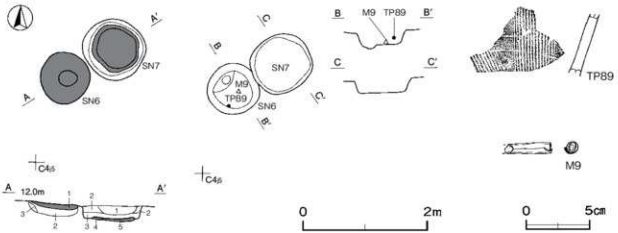
規模と形状　径0.80ｍほどの円形である。深さ12㎝で，底面は皿状である。掘方の規模は，径0.80ｍほどの円形である。深さは25㎝で，底面は段を有している。掘方の底面と壁面に厚さ８～11㎝の褐色土や黒褐色土を埋土した後，厚さ８㎝の粘土を底面に貼り付けている。

掘方土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片６点（焙烙），陶器片３点（中碗１，擂鉢２），磁器片２点（碗類，不明），土製品１点（不明），銅製品４点（煙管１，銭貨３），礫４点が出土している。

所見　時期は，出土土器から 18 世紀以降と考えられる。底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第 114 図　第６・７号粘土貼土坑，第６号粘土貼土坑出土遺物実測図

第６号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 114 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
TP89	陶器	擂鉢	－	－	－	微密　暗赤褐	外・内面施釉　18 本で１単位の擂目	錆釉	堀戸・美濃産	掘方傾築土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	煙管	(3.8)	1.0	1.0	(3.6)	銅	雁首部　接合部有り　火皿部欠損	掘方傾築土中	

第７号粘土貼土坑（第 114 図）

位置　調査区東部のＣ４i5 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　径 0.90 mほどの円形である。深さ 19cm で，底面は皿状である。底面の壁際には，幅 11 ～ 17cm，深さ４～６cmの溝が環状に巡っている。掘方の規模は，径 0.90 mほどの円形である。深さは 28cm で，底面は平坦である。掘方の底面に厚さ３～８cmの粘土を底面に貼り付けている。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から，埋め戻されている。第４・５層は貼られた粘土層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・砂粒少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
4　灰　白　色　粘土ブロック中量
5　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），陶器片２点（碗類，不明），磁器片１点（碗類），鉄製品２点（釘），礫５点が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から江戸時代と考えられる。底面の壁際を巡る溝は，樽などを据えた痕跡と考えられ，底面に粘土が貼り付けられていることから，水甕や樽などを置いた肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。

表17　江戸時代粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	C 3d9	－	円形	0.70 × 0.70	24	皿状	外傾	人為	土師質土器（小皿），陶器（中碗），石器（砥石），鋼製品（銭貨）	
2	C 4e1	N－32°－W	楕円形	0.61 × 0.50	4	皿状	外傾	人為		
4	C 4g4	－	円形	1.09 × 1.09	4	皿状	外傾	人為	土師質土器（焙烙），鉄製品（釘），鋼製品（銭貨），礫	本跡→SN 5
5	C 4g4	N－31°－W	不整楕円形	1.80 × 0.80	9	皿状	外傾	人為	土師質土器（焙烙），陶器（擂鉢），瓦器（中碗），鋼製品（煙管，銭貨）	SN 4→本跡
6	C 4i5	－	円形	0.80 × 0.80	12	皿状	外傾	－	土師質土器（焙烙），陶器（中碗，擂鉢），鋼製品（煙管，銭貨）	
7	C 4i5	－	円形	0.90 × 0.90	19	皿状	外傾	人為	土師質土器（焙烙），鉄製品（釘），礫	

(5)　土坑

当時代の土坑7基を確認した。そのうち，第85号土坑については文章で説明し，その他の土坑については，遺構実測図と遺物実測図，及び一覧表を掲載する。

第85号土坑（第115図）

位置　調査区中央部のC 4e2区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第4号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第3号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.27 m，短径1.14 mの楕円形で，長径方向はN－3°－Eである。深さは26㎝で，底面は皿状で硬化している。掘方は，長径1.27 m，短径1.26 mの円形である。深さは54㎝で，底面は中央部が凹んでいる。

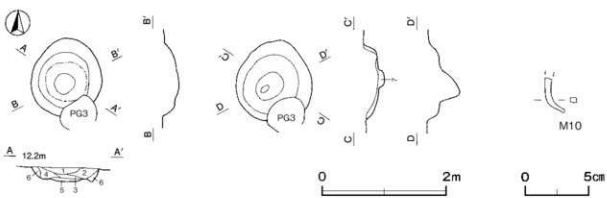
覆土　6層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第7層は掘方への埋土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
5　灰　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片1点（焙烙），鉄製品1点（釘）が，覆土中から出土している。

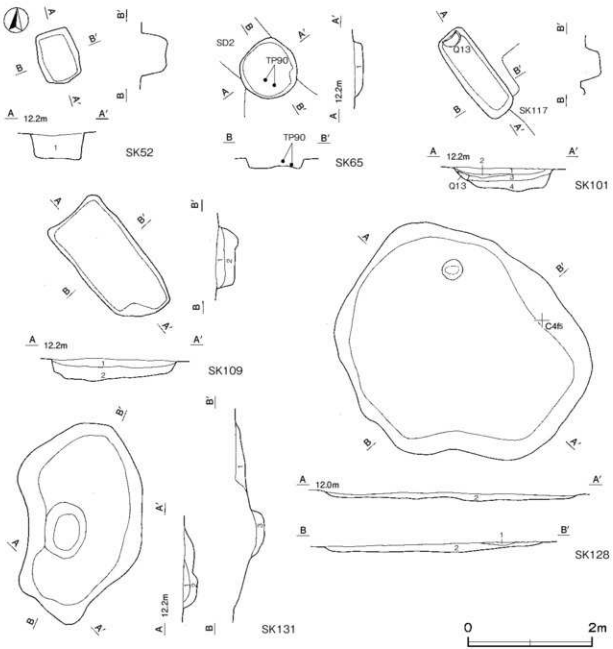
所見　時期は，遺構の形状や出土遺物から江戸時代と考えられる。粘土貼土坑と同様に底面が硬化していることから，肥溜め跡，あるいは溜め井跡の可能性がある。



第115図　第85号土坑・出土遺物実測図

第85号土坑出土遺物観察表（第115図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	釘	2.8	0.5	0.4	6.1	鉄	切釘　断面方形	覆土中	



第116図　江戸時代の土坑実測図

第52号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

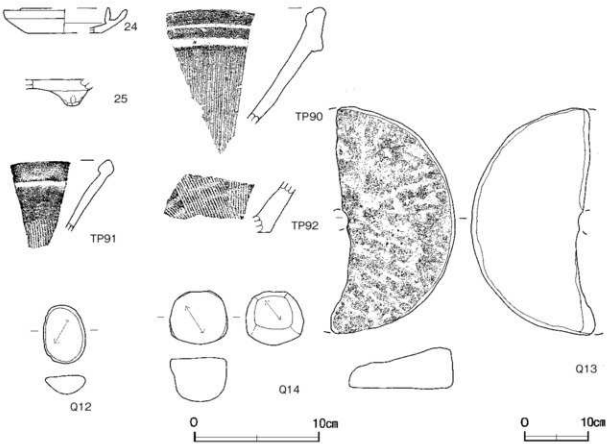
第65号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第101号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第 109 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 128 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量



第 117 図　江戸時代の土坑出土遺物実測図

第 52 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
24	陶器	灯明受皿	[9.8]	2.0	[5.6]	緻密　赤褐	外・内面施釉	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土中	5％

第 65 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
TP90	陶器	擂鉢	－	－	－	緻密 にぶい赤褐	内面擂目	－	堺・明石系	覆土下層～ 中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 12	砥石。	4.6	3.3	1.4	11.8	角閃石デイサイト	砥面 1 面。	覆土中	

第 101 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	石臼	(36.0)	(19.8)	6.4	(3865.0)	安山岩	上臼　芯受け残存　溝磨滅　凹み部二次転用。	覆土上層	
Q 14	砥石。	4.2	4.6	3.5	44.6	角閃石デイサイト	砥面２面。	覆土中	

第 109 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	瓦質土器	火鉢	－	(2.2)	－	長石・石英	オリーブ灰	普通	三足貼付後，ケズリ調整	覆土中	5％

第 128 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
TP91	陶器	擂鉢	－	－	－	緻密 にぶい赤褐	外・内面施釉	鉄釉	瀬戸・美濃産	覆土中	

第 131 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
TP92	陶器	擂鉢				緻密 にぶい赤褐	外・内面施釉 沙木で１単位の擂り目	鉄釉	瀬戸・美濃産	覆土中	

表 18　江戸時代の土坑一覧表

番号	位置	長径（軸）方向	平面形	規模 長径（軸）×短径（軸）m	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
52	C 3 c9	N－15°－W	長方形	0.84 × 0.66	38	平坦	ほぼ直立	人為	陶器（灯明受皿）	
65	C 3 d9	－	円形	0.98 × 0.92	15	凹凸	外傾	人為	陶器（擂鉢）	本跡→SD 2
85	C 4 e2	N－3°－E	楕円形	1.27 × 1.14	26	皿状	－	人為	土師質土器（焙烙），鉄製品（釘）	SI 4→本跡 PG 3との新旧関係は不明
101	C 4 g3	N－39°－W	長方形	1.54 × 0.56	30	凹凸	外傾	人為	土師質土器（焙烙），陶器（天目茶碗），石器（石臼）	SK117・118との新旧関係は不明
109	C 4 h3	N－38°－W	不整長方形	2.04 × 1.02	30	凹凸	外傾	自然	土師質土器（小皿，焙烙），瓦質土器（火鉢，焙烙），鉄製品（釘）	
128	C 4 f4	N－53°－W	不整形	3.97 × 3.57	11	凹凸	外傾	人為	陶器（擂鉢），磁器（徳利）	
131	C 4 b4	N－19°－E	不整形	3.23 × 2.24	45	凹凸	外傾	自然	土師質土器（焙烙），陶器（擂鉢，中皿）	

(6)　溝跡

第１号溝跡（第 76・118 図）

位置　調査区西部から中央部にかけてのＣ２f9 区～Ｃ３b7 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 91・95・96 号土坑，第３号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南西部，及び北東部が調査区域外へ延びているため，長さは 35.04 mしか確認できなかった。Ｃ２f9 区から北東方向（N－55°－E）へ直線的に延びている。規模は，上幅 1.74 ～ 2.92 m，下幅 0.46 ～ 1.16 mで，確認面からの深さは 67 ～ 77㎝である。溝底は中央部から南西部へ向かって緩やかに傾斜し，中央部と南西部との比高は 21㎝である。断面は逆台形で，壁は外傾している。

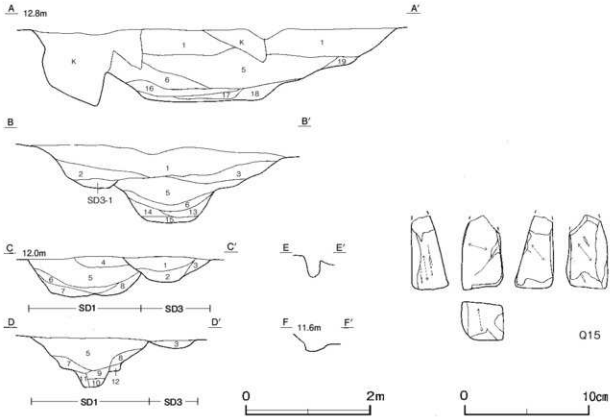
覆土　19 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。第１～３層は，第１・３号溝跡が埋没した後の窪みに堆積した自然堆積土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
5 黒 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
7 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
8 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
9 黒 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック微量
10 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
11 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
12 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
13 暗 褐 色 ロームブロック少量
14 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
15 暗 褐 色 ロームブロック微量
16 極暗褐色 ロームブロック中量
17 褐 色 ロームブロック中量
18 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
19 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片405点（深鉢），瓦質土器片2点（不明），陶器片6点（碗類1，擂鉢1，甕3，甕類1），鉄製品1点（鎌$_{\pi}$），石器1点（砥石），石製品7点（板碑$_{\pi}$），鉄滓1点，被熱した礫2点，礫10点が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や遺構の形状から江戸時代と考えられる。機能は，地境の溝と考えられる。



第118図 第1・3号溝跡，第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第118図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(5.9)	3.3	3.0	(71.0)	安山岩。	砥面5面	覆土中	

第３号溝跡（第76・118図）

位置　調査区西部から中央部にかけてのＣ２f0区～Ｃ３b6区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号溝跡を掘り込み，第91・95号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西部が調査区域外へ延び，北東部が攪乱を受けているため，長さは29.40ｍしか確認できなかった。Ｃ２f0区から北東方向（Ｎ－55°－Ｅ）へ直線的に延びている。規模は，上幅0.73～1.39ｍ，下幅0.33～0.53ｍで，確認面からの深さは14～41cmである。底は南西部から中央部へ向かって緩やかに傾斜し，南西部と中央部との比高は35cmである。断面はＵ字状で，壁は外傾している。

覆土　３層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片95点（深鉢），瓦質土器片２点（擂鉢），陶器片１点（甕），木製品１点（不明），剥片２点（チャート），礫１点が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や第１号溝跡と並走していることから，江戸時代と考えられる。機能は，地境の溝と考えられる。

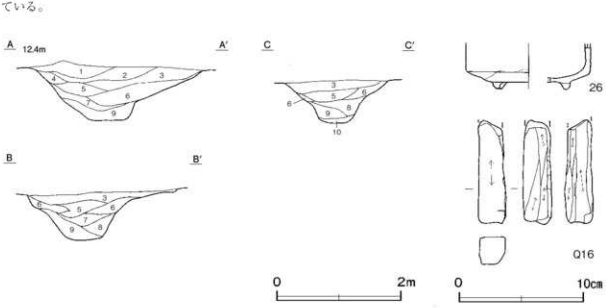
第５号溝跡（第76・119図）

位置　調査区東部のＣ４c4区～Ｃ４f6区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第130号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　北西部が調査区域外へ延びているため，長さは14.48ｍしか確認できなかった。Ｃ４c4区から南東方向（Ｎ－33°－Ｗ）へ直線的に延びている。規模は，上幅0.96～2.36ｍ，下幅0.40～0.60ｍで，確認面からの深さは68～76cmである。溝底は南東部から北西部へ向かって緩やかに傾斜し，南東部と北西部との比高は10cmである。断面は逆台形で，壁は外傾している。

覆土　10層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



第119図　第５号溝跡・出土遺物実測図

土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子多量，炭化粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片17点（深鉢），土師質土器片7点（小皿1，焙烙6），瓦質土器片2点（焙烙），陶器片9点（小坏2，中碗3，皿類1，香炉1，香炉$_{脚}$1，不明1），磁器片6点（小碗1，碗類4，皿類1），石器1点（砥石），石製品3点（板碑$_{身}$），礫6点が出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から江戸時代と考えられる。機能は，地境の溝と考えられる。

第5号溝跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
26	陶器	香炉	～	(3.6)	(6.6)	緻密　灰白	外・内面施釉　三足貼付	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 16	砥石	(8.2)	2.2	3.3	(66.3)	安山岩。	砥面5面	覆土中	

第6号溝跡（第76・120図）

位置　調査区中央部のC 3i5区～D 4a2区，標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第143号土坑を掘り込み，第62・142号土坑，第1号掘込地業遺構に掘り込まれている。第140・144号土坑，第7号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　南西部と南東部が調査区域外へ延びているため，長さは34.94 mしか確認できなかった。D 4a2区から北西方向（N－38°－W）へ直線的に延び，C 3g9区で南西方向（N－55°－E）へ屈曲して直線的に延び，C 3i5区で3方向に分岐している。規模は，上幅0.20～0.70 m，下幅0.10～0.34 mで，確認面からの深さは20～22cmである。溝底は北東部から南西部へ向かって緩やかに傾斜し，北東部と南西部との比高は34 cmである。断面は逆台形で，壁は外傾している。

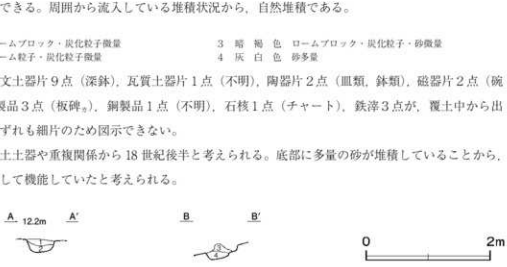
覆土　4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・砂微量
4　灰　白　色　砂多量

遺物出土状況　縄文土器片9点（深鉢），瓦質土器片1点（不明），陶器片2点（皿類，鉢類），磁器片2点（碗類，紅猪口），石製品3点（板碑$_{身}$），銅製品1点（不明），石核1点（チャート），鉄滓3点が，覆土中から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や重複関係から18世紀後半と考えられる。底部に多量の砂が堆積していることから，排水などの水路として機能していたと考えられる。



第120図　第6号溝跡実測図

表19　江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模 長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	C 2ゆ－C 3b7	N－55°－E	直線	(35.04)	1.74～2.92	0.46～1.16	0.67～0.77	逆台形	外傾	人為	陶器（擂鉢、甕）、石器（砥石）、鉄滓	本跡→SK91・95・96、SD 3
3	C 2ゆ－C 3b6	N－55°－E	直線	(29.40)	0.73～1.39	0.33～0.53	0.14～0.41	U字状	外傾	自然	瓦質土器（擂鉢）、陶器（甕）	SD 1→本跡→SK91・95
5	C 4c4～C 4d6	N－33°－W	直線	(14.48)	0.96～2.36	0.40～0.60	0.68～0.76	逆台形	外傾	人為	土師質土器（小皿）、瓦質土器（焙烙）、陶器（小杯）	SK130 との新旧関係は不明
6	C 3ふ～D 4a2	N－38°－W N－55°－E	L字状 屈曲	(34.94)	0.20～0.70	0.10～0.34	0.20～0.22	逆台形	外傾	自然	磁器（紅猪口）	SK31→溝→SD 32、SK40・41、SD 7との新旧関係は不明

3　その他の遺構と遺物

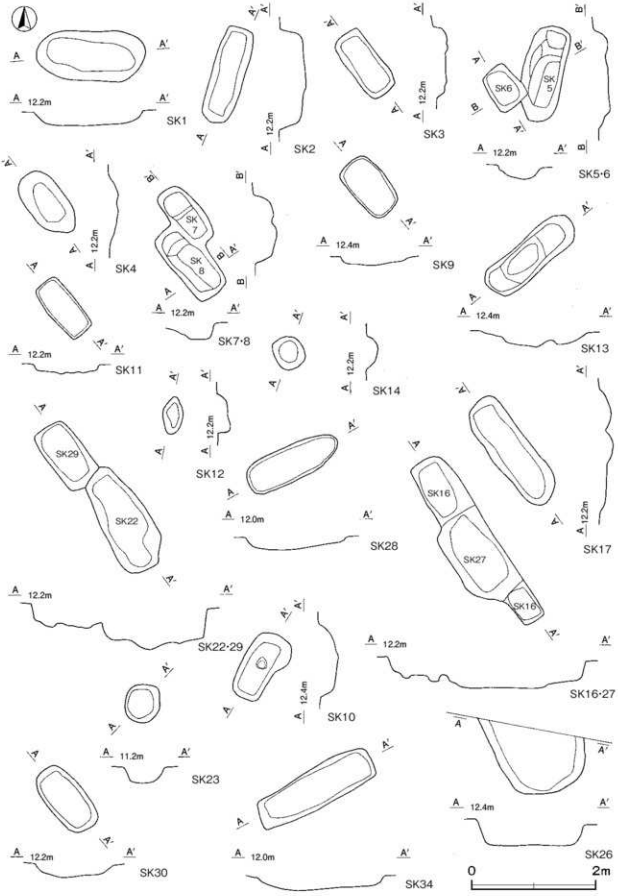
今回の調査で，伴う遺物が出土していないことから，時期や性格が明らかでない土坑133基，溝跡3条，ピット群4か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　土坑

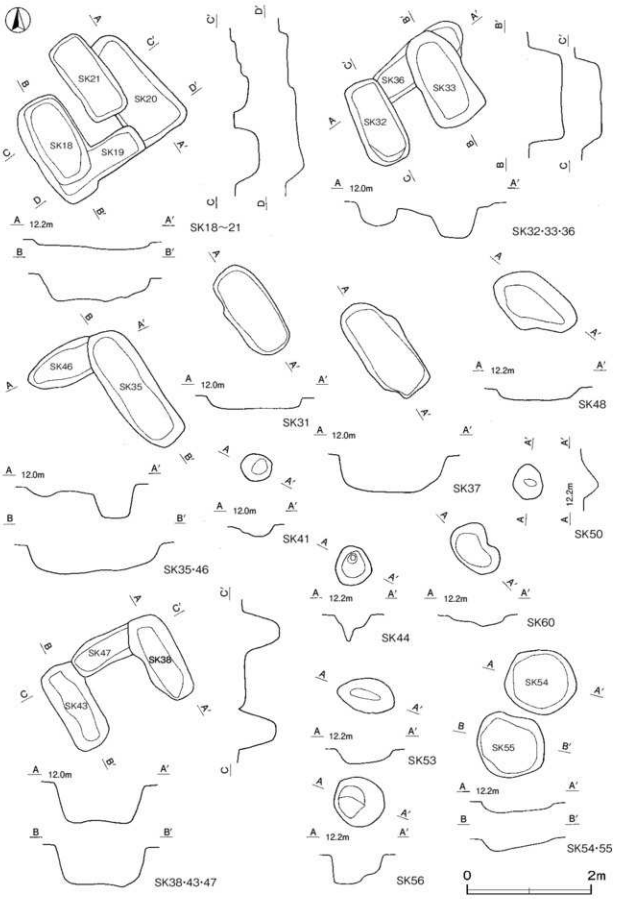
時期や性格が明らかでない土坑については，規模・形状等を実測図と一覧表で掲載する。

表20　その他の土坑一覧表

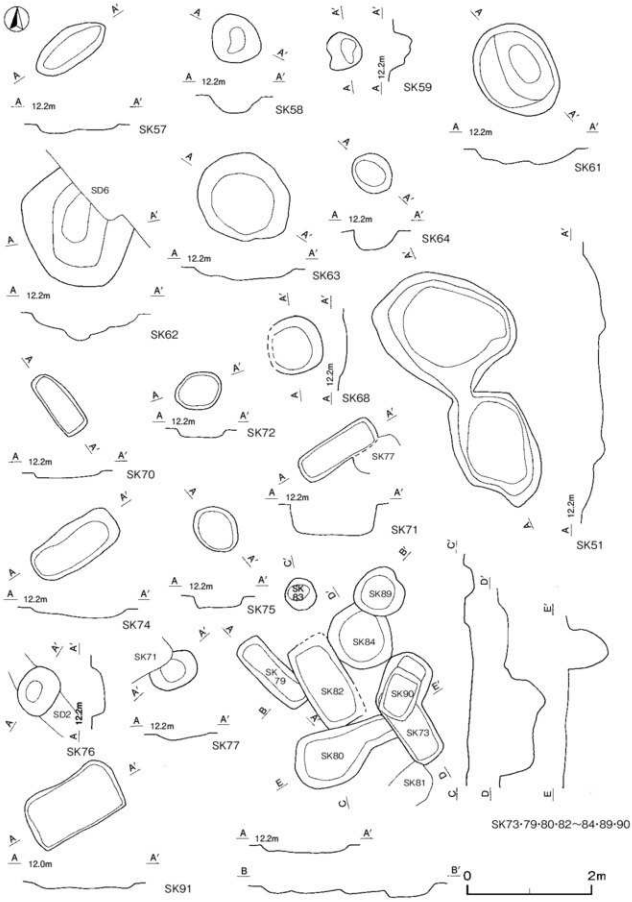
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	C 2a8	N－87°－E	楕円形	1.76 × 0.82	21	平坦	外傾	人為		
2	C 2b8	N－15°－E	長方形	1.59 × 0.53	40	有段	ほぼ直立	人為		
3	C 3b1	N－54°－E	長方形	1.11 × 0.54	18	凹凸	ほぼ直立	人為	銅製品（不明）	
4	C 3b1	N－39°－W	楕円形	1.24 × 0.60	14	凹凸	外傾	－		
5	C 2a0	N－15°－E	楕円形	1.58 × 0.64	20	凹凸	外傾	人為		SK 6との新旧関係は不明
6	C 2a0	N－31°－W	長方形	0.69 × 0.54	16	凹凸	外傾	人為		SK 5との新旧関係は不明
7	C 2a0	N－37°－W	長方形	1.05 × 0.54	37	凹凸	ほぼ直立	人為		本跡→SK 8
8	C 2a0	N－37°－W	長方形	1.30 × 0.62	26	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	縄文土器（深鉢）	SK 7→本跡
9	B 2j6	N－41°－W	長方形	1.02 × 0.58	14	凹凸	ほぼ直立	－		
10	C 3b1	N－31°－E	不整長方形	1.18 × 0.54	35	有段	外傾	人為		
11	C 2a0	N－40°－W	長方形	1.02 × 0.50	14	凹凸	ほぼ直立	－		
12	C 2a0	N－6°－E	不整楕円形	0.62 × 0.35	18	凹凸	ほぼ直立	自然		
13	C 3b2	N－52°－E	楕円形	1.68 × 0.55	24	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
14	C 3a3	－	円形	0.58 × 0.54	18	皿状	外傾	－		
16	C 2b0	N－35°－W	長方形	3.05 × 0.66	30	凹凸	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢）、陶器（甕）、瓦	SK27→本跡
17	C 2b0	N－38°－W	隅丸長方形	1.94 × 0.64	22	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
18	C 2b0	N－28°－W	不整長方形	1.75 × 0.83	37	平坦	外傾	自然	陶器（擂鉢）	SK19との新旧関係は不明
19	C 3b1	N－57°－E	〔長方形〕	(1.50) × 0.49	20	平坦	ほぼ直立	人為		SK30→本跡 SK31との新旧関係は不明
20	C 3b1	N－41°－W	〔隅丸長方形〕	1.88 × 0.92	13	平坦	ほぼ直立	－	銅製品（銭貨）	本跡→SK19・21
21	C 2b0	N－34°－W	長方形	1.36 × 0.64	24	平坦	直立	人為		SK20→本跡
22	C 2a0	N－30°－W	不整長方形	1.38 × 0.82	68	凹凸	直立	人為	縄文土器（深鉢）	SK29→本跡
23	C 2d0	N－43°－E	楕円形	0.65 × 0.59	24	平坦	ほぼ直立	－	縄文土器（深鉢）	
26	C 3a4	N－28°－W	〔楕円形〕	(1.67) × (1.42)	38	平坦	外傾	自然 人為		
27	C 2b0	N－35°－W	〔不整長方形〕	(1.51) × (0.84)	50	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	本跡→SK16
28	C 3e1	N－65°－E	不整楕円形	1.58 × 0.53	23	平坦	外傾	－	縄文土器（深鉢）	
29	C 2e9	N－33°－W	〔長方形〕	(1.14) × 0.62	42	凹凸	外傾	人為		本跡→SK22



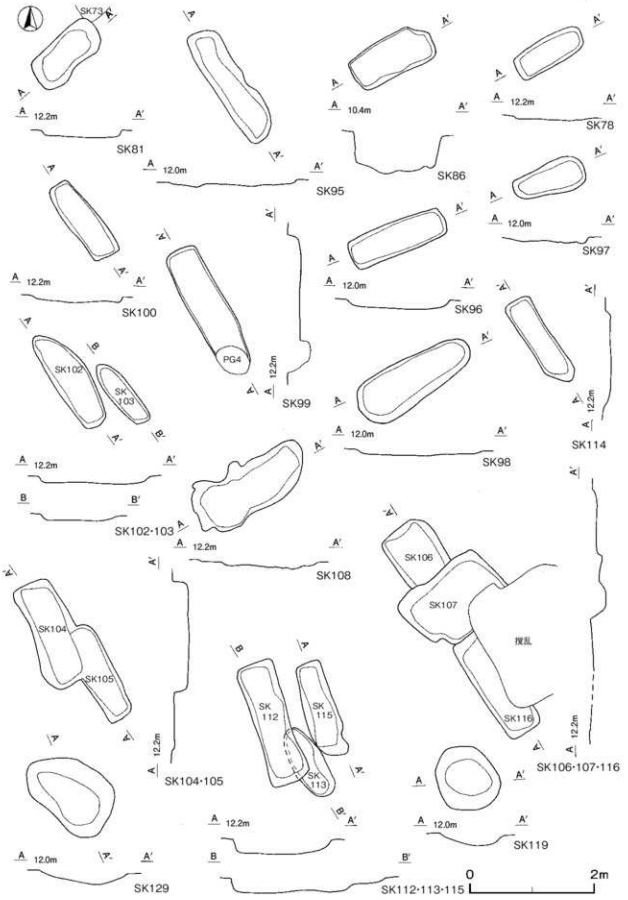
第121図　その他の土坑実測図（1）



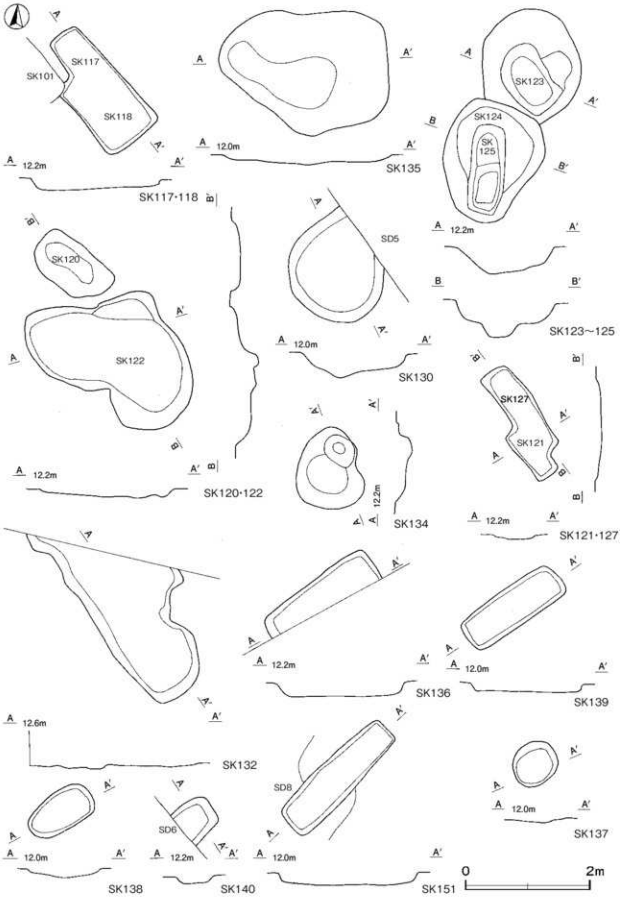
第122図　その他の土坑実測図（2）



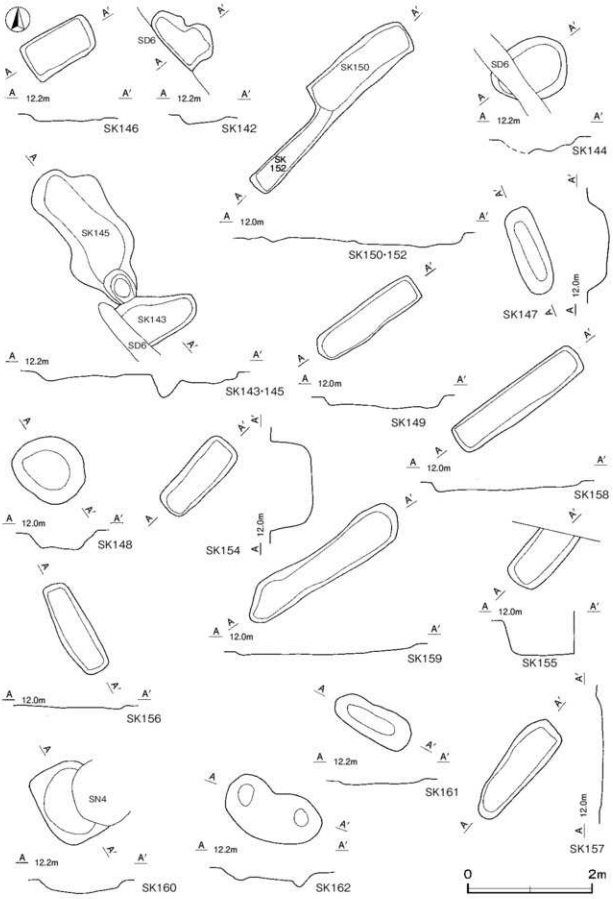
第123図　その他の土坑実測図（3）



第124図　その他の土坑実測図（4）



第125図　その他の土坑実測図（5）



第126図　その他の土坑実測図（6）

番号	位置	長径（軸）方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
30	C 2a0	N－37°－W	隅丸長方形	1.18 × 0.62	17	平坦	外傾	－		
31	C 3f3	N－33°－W	隅丸長方形	1.56 × 0.76	28	平坦	直立	人為		
32	C 3g2	N－28°－W	隅丸長方形	1.42 × 0.66	35	平坦	外傾	人為		SK36との新旧関係は不明
33	C 3f2	N－26°－W	不整長方形	1.58 × 0.86	55	平坦	ほぼ直立	人為		SK36との新旧関係は不明
34	C 3e2	N－63°－E	長方形	2.00 × 0.63	20	平坦	外傾	人為		
35	C 3g1	N－32°－W	隅丸長方形	2.12 × 0.76	42	凹状	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	SK46→本跡
36	C 3f2	N－51°－E	［楕円形］	(1.56) × 0.64	22	傾斜	外傾	－	縄文土器（深鉢）	SK32・33との新旧関係は不明
37	C 3g2	N－39°－W	不整長方形	1.70 × 0.82	62	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
38	C 3g1	N－31°－W	不整長方形	1.44 × 0.68	60	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	SK47との新旧関係は不明
41	C 3h3	－	円形	0.50 × 0.46	25	凹状	外傾	自然	縄文土器（深鉢）	
43	C 2g0	N－35°－W	長方形	1.48 × 0.60	66	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢）	SK47との新旧関係は不明
44	C 3f5	N－25°－E	楕円形	0.64 × 0.58	44	凹状	外傾	－		
46	C 3g1	N－65°－E	［楕円形］	(1.04) × 0.64	10	平坦	外傾	－		本跡→SK35
47	C 2g0	N－60°－E	［長方形］	(1.10) × 0.50	52	平坦	外傾	－		SK38・43との新旧関係は不明
48	C 3h7	N－63°－W	不整楕円形	1.42 × 0.86	25	平坦	ほぼ直立	人為		
50	C 3d9	N－5°－E	楕円形	0.62 × 0.48	35	傾斜	外傾	－		
51	C 3f7	N－23°－W	不定形	4.05 × 1.95	35	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢），陶器（大甕）	
53	C 3c9	N－73°－W	楕円形	0.94 × 0.56	25	平坦	外傾	自然	縄文土器（深鉢）	
54	C 3c9	－	円形	1.10 × 1.06	14	凹状	外傾	人為	縄文土器（深鉢），磁器（碗類）	
55	C 3c9	－	円形	1.20 × 1.10	20	傾斜	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
56	C 2d0	N－70°－W	楕円形	0.84 × 0.75	56	有段	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢），礫	
57	C 3e7	N－55°－E	楕円形	1.30 × 0.56	12	凹状	外傾	自然		本跡→SD 2
58	C 3d8	－	円形	0.85 × 0.78	28	凹凸	外傾	人為		SI 2との新旧関係は不明
59	C 3f9	N－33°－W	不整円形	1.11 × 1.09	30	凹凸	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢）	
60	C 3i7	N－42°－W	不整楕円形	0.87 × 0.69	17	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
61	C 3h8	N－48°－W	楕円形	1.61 × 1.29	26	有段	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
62	C 4j1	N－29°－E	不整楕円形	1.84 ×（1.78）	47	凹凸	外傾	人為	縄文土器（深鉢），磁器（碗類）	SD 6→本跡
63	C 3g0	N－55°－W	楕円形	1.60 × 1.38	30	凹凸	外傾	自然	縄文土器（深鉢）	
64	C 3g0	N－49°－W	楕円形	0.72 × 0.60	32	凹状	ほぼ直立	－		
68	C 4c2	－	［円形］	0.93 ×（0.75）	12	凹状	外傾	－	縄文土器（深鉢）	SK69→本跡
70	C 4e2	N－37°－W	長方形	1.10 × 0.46	8	平坦	外傾	人為		
71	C 4d3	N－57°－E	長方形	1.38 × 0.48	38	平坦	直立	人為	縄文土器（深鉢），石器（敲），磁器（小碗），鉄滓	SK77との新旧関係は不明
72	C 4c3	N－65°－E	楕円形	0.76 × 0.61	15	平坦	ほぼ直立	－		
73	C 4e2	N－34°－W	長方形	1.41 × 0.57	58	凹凸	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢），銅製品（銭貨），礫	本跡→SK90 第8・9土との新旧関係は不明
74	C 4d2	N－56°－E	隅丸長方形	1.54 × 0.69	16	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	
75	C 4f2	N－56°－E	楕円形	0.82 × 0.67	17	平坦	ほぼ直立	人為	石器（砥石）	
76	C 3e9	N－33°－E	楕円形	0.80 × 0.64	24	傾斜	外傾	人為		SD 2との新旧関係は不明
77	C 4d3	N－52°－E	楕円形	0.80 × 0.54	15	凹状	外傾	人為		SK71との新旧関係は不明
78	C 4e2	N－58°－E	長方形	1.20 × 0.49	5	平坦	直立	－		
79	C 4d2	N－44°－W	［長方形］	1.36 × 0.47	12	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢）	SK82との新旧関係は不明
80	C 4e2	N－64°－E	不定形	(1.69) × 0.91	6	平坦	外傾	－	縄文土器（深鉢），陶器（碗類）	SK82→本跡 第2・8土との新旧関係は不明
81	C 4e2	N－48°－E	隅丸長方形	1.25 × 0.65	10	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器（坩堝），陶器（碗類，擂鉢），鉄製品（鎌）	SK73との新旧関係は不明
82	C 4d2	N－30°－W	［長方形］	(1.48) × 0.76	14	平坦	外傾	人為	縄文土器（深鉢），鉄製品（釘）	本跡→SK80 第7・8土との新旧関係は不明
83	C 4d2	－	円形	0.50 × 0.50	16	平坦	ほぼ直立	人為	鉄製品（不明）	
84	C 4d2	－	円形	1.03 × 0.98	15	凹状	外傾	人為		SK82・89との新旧関係は不明
86	C 4d3	N－58°－E	不整長方形	1.39 × 0.67	74	凹凸	ほぼ直立	人為	縄文土器（深鉢），土師質土器（小鍋）	
89	C 4d2	－	円形	0.82 × 0.78	20	凹状	ほぼ直立	自然		SK84との新旧関係は不明

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
90	C 4 e2	N－25°－E	隅丸長方形	(1.10) × 0.75	28	有段	外傾	人為	縄文土器(深鉢)，土師質土器(焙烙)	SK73→本跡 SK80との新旧関係は不明
91	C 3 d3	N－60°－E	長方形	1.62 × 0.90	11	平坦	外傾	－	縄文土器(深鉢)	
95	C 2 g0	N－33°－W	不整長方形	2.07 × 0.58	13	凹凸	外傾	人為		SD 1・2→本跡
96	C 3 e1	N－72°－E	長方形	1.61 × 0.53	7	平坦	はぼ直立	－		SD 1→本跡
97	C 3 f1	N－74°－E	不整楕円形	1.19 × 0.57	11	凹凸	外傾	－	縄文土器(深鉢)	
98	C 3 f1	N－57°－E	楕円形	2.03 × 0.76	8	平坦	外傾	－		
99	C 4 g2	N－30°－W	[長方形]	(1.72) × 0.60	16	平坦	直立	人為	土師質土器(小皿，焙烙)，陶器(碗類)	PG 4との新旧関係は不明
100	C 4 g3	N－35°－W	長方形	1.40 × 0.48	10	平坦	直立	－		
102	C 4 h3	N－34°－W	不整長方形	1.72 × 0.60	9	平坦	外傾	－	土師質土器(焙烙)	
103	C 4 h3	N－38°－W	不整長方形	1.20 × 0.40	11	緩斜	外傾	－		
104	C 4 g2	N－27°－W	[長方形]	1.73 × 0.74	18	平坦	はぼ直立	人為	縄文土器(深鉢)，銅製品(銭貨)	本跡→SK105
105	C 4 g2	N－29°－W	[長方形]	1.62 × 0.66	4	平坦	はぼ直立	人為		SK104→本跡
106	C 4 f3	N－37°－W	[長方形]	(0.96) × 0.84	7	平坦	直立	人為		本跡→SK107
107	C 4 f3	N－52°－E	不整長方形	1.56 × 1.06	27	凹凸	外傾	人為	礫	SK106→本跡 SK115との新旧関係は不明
108	C 4 f3	N－50°－E	不定形	1.98 × 0.96	12	凹凸	外傾	人為	陶器(擂鉢)	
112	C 4 f2	N－20°－W	長方形	1.98 × 0.65	26	平坦	外傾	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→SK113
113	C 4 f2	N－32°－W	[楕円形]	(1.22) × 0.50	10	平坦	直立	人為		SK112→本跡 SK115との新旧関係は不明
114	C 4 h3	N－35°－W	不整長方形	1.55 × 0.44	10	平坦	外傾	－	石器(火打石。)	
115	C 4 f2	N－20°－W	不整長方形	1.52 × 0.54	24	平坦	外傾	人為	銅製品(銭貨)	SK113との新旧関係は不明
116	C 4 g3	N－32°－W	[長方形]	1.80 × 0.62	7	平坦	外傾	－	縄文土器(深鉢)	SK107との新旧関係は不明
117	C 4 g3	N－38°－W	[長方形]	2.06 × 0.58	15	平坦	はぼ直立	人為		SK101・118との新旧関係は不明
118	C 4 g3	N－38°－W	[長方形]	1.42 × (0.23)	12	平坦	はぼ直立	人為		SK101・117との新旧関係は不明
119	C 4 f3	－	円形	1.01 × 1.03	23	皿状	外傾	－		
120	C 4 d4	N－51°－W	不整楕円形	1.33 × 0.76	11	皿状	外傾	－		
121	C 4 g3	N－37°－W	[長方形]	0.96 × 0.32	4	平坦	はぼ直立	－		SK127との新旧関係は不明
122	C 4 d4	N－71°－W	不定形	2.87 × 2.16	38	凹凸	外傾	－		
123	C 4 d4	N－11°－E	[楕円形]	(1.74) × 1.61	40	凹凸	外傾	人為	土師質土器(焙烙)	本跡→SK124
124	C 4 e4	N－1°－E	楕円形	1.95 × 1.65	33	平坦	外傾	人為	縄文土器(深鉢)，土師質土器(焙烙)	SK123→本跡 →SK125
125	C 4 e4	N－1°－E	長方形	1.80 × 0.60	75	有段	外傾	人為	土師質土器(焙烙)，石器(砥石)，鉄製品(釘)，礫	SK123・124→本跡
127	C 4 g3	N－37°－W	[長方形]	1.60 × 0.52	10	平坦	はぼ直立	人為	縄文土器(深鉢)	SK121との新旧関係は不明
129	C 4 f3	N－52°－W	不整楕円形	1.55 × 1.07	18	皿状	外傾	自然		
130	C 4 e5	N－15°－E	[楕円形]	(1.79) × 1.57	19	凹凸	外傾	人為	縄文土器(深鉢)	SD 5との新旧関係は不明
132	C 4 e4	N－15°－E	[不定形]	(3.50) × (1.65)	23	凹凸	外傾	人為	陶器(中碗)	
134	C 4 j2	N－9°－E	不定形	1.32 × 1.10	16	凹凸	外傾	人為	縄文土器(深鉢)，土師質土器(焙烙)	
135	C 4 i2	N－83°－W	不定形	2.74 × 2.00	20	緩斜 凹凸	外傾	人為	鉄製品(釘)	
136	C 4 j3	N－56°－E	[長方形]	2.00 × (0.60)	25	平坦	外傾	－	陶器(碗類，鉢類)，磁器(碗類)	
137	C 4 i5	N－41°－E	楕円形	0.80 × 0.68	5	皿状	外傾	－	鉄製品(釘)	
138	C 4 i6	N－56°－E	隅丸長方形	1.11 × 0.62	14	皿状	外傾	自然		
139	C 4 h6	N－54°－E	長方形	1.26 × 0.62	10	平坦	はぼ直立	－		
140	C 3 h0	N－51°－E	[長方形]	(0.60) × 0.60	11	平坦	外傾	－		SD 6との新旧関係は不明
142	C 4 i1	N－49°－E	[不定形]	1.10 × (0.65)	15	凹凸	外傾	人為		SD 6→本跡
143	C 3 g9	N－58°－E	不整楕円形	(1.12) × 0.85	18	凹凸	はぼ直立	－	陶器(鉢)	本跡→SD 6 SK145との新旧関係は不明
144	C 3 h0	N－82°－E	[楕円形]	1.22 × 1.00	22	凹凸	外傾	－		SD 6との新旧関係は不明
145	C 3 g9	N－34°－W	不定形	2.44 × 1.13	32	有段	外傾	人為		SK143との新旧関係は不明
146	C 4 g4	N－57°－W	長方形	1.19 × 0.67	10	平坦	はぼ直立	人為		
147	C 4 e8	N－23°－W	隅丸長方形	1.43 × 0.60	34	平坦	外傾	人為	土師質土器(焙烙)，磁器(碗類)	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
148	C 4e8	N－79°－W	楕円形	1.21 × 1.07	31	凹凸	外傾	自然	鉄製品（不明）	
149	C 4g6	N－54°－E	長方形	1.88 × 0.52	20	平坦	外傾	－	縄器（鍋類），礫	
150	C 4g6	N－53°－E	［長方形］	1.58 × 0.70	24	凹凸	外傾	－		SK152との新旧関係は不明
151	C 4g6	N－46°－E	長方形	2.19 × 0.64	19	平坦	ほぼ直立	－		SD 8とのの新旧関係は不明
152	C 4g6	N－43°－E	［長方形］	1.71 × 0.40	6	凹凸	外傾	－		SK150との新旧関係は不明
154	C 4d9	N－42°－E	長方形	1.44 × 0.60	64	平坦	ほぼ直立	人為		
155	C 4d9	N－42°－E	［長方形］	(1.10) × 0.62	50	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器（坩堝），陶器（碗類），縄器（鍋類），鉄製品（釘）	
156	C 4e6	N－30°－W	長方形	1.58 × 0.60	4	平坦	外傾	－		
157	C 4g6	N－41°－E	不整長方形	1.80 × 0.64	8	平坦	外傾	－		
158	C 4f5	N－51°－E	長方形	2.36 × 0.56	8	平坦	外傾	－		
159	C 4g5	N－55°－E	不整楕円形	2.84 × 0.66	12	平坦	外傾	－	陶器（擂鉢）	
160	C 4g3	N－29°－W	［楕円形］	1.28 × (0.92)	20	皿状	外傾	－		SX 4との新旧関係は不明
161	C 4f3	N－62°－W	楕円形	1.35 × 0.59	5	平坦	外傾	－		
162	C 4f4	N－70°－W	不整楕円形	1.62 × 0.93	31	凹凸	外傾	－		

(2) 溝跡

第２号溝跡（第76・127図）

位置　調査区中央部のＣ３b7区～Ｃ３f0区，標高12ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第57・65号土坑を掘り込んでいる。第76号土坑・第１号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　北西部が攪乱を受けているため，長さは19.60ｍしか確認できなかった。Ｃ３b7区から南東方向（Ｎ－34°－Ｗ）へ直線的に延びている。規模は，上幅0.60～1.55ｍ，下幅0.22～0.68ｍで，確認面からの深さは３～８cmである。北西部と南東部の比高は認められない。断面はＵ字状で，壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片７点（深鉢），礫１点が覆土中から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，特定できる土器が出土していないことから，不明である。機能は，地境の溝と考えられるが，詳細は不明である。

第127図　第２号溝跡実測図

第７号溝跡（第 76・128 図）

位置　調査区中央部のＤ４a2 区～Ｃ４h5 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号溝跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

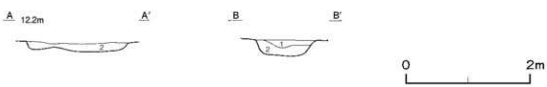
規模と形状　長さは 14.80 mで，Ｃ５a2 区から北東方向（Ｎ－55°－Ｅ）へ直線的に延び，Ｃ４h5 区で立ち上がっている。規模は，上幅 1.00 ～ 1.68 m，下幅 0.40 ～ 1.36 mで，確認面からの深さは 13 ～ 27cmである。溝底は中央部から北東部へ向かって緩やかに傾斜し，中央部と北東部との比高は 14cmである。断面は逆台形で，壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢），土師器片１点（坏），土師質土器片４点（焙烙１，不明３），陶器片３点（碗類１，不明２），磁器片１点（碗類），鉄製品１点（釘$_{6}$）が覆土中から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，特定できる土器が出土していないことから，不明である。機能は，地境の溝と考えられるが，詳細は不明である。



第 128 図　第７号溝跡実測図

第８号溝跡（第 76・129 図）

位置　調査区東部のＣ４h4 区～Ｃ４f6 区，標高 12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 151 号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

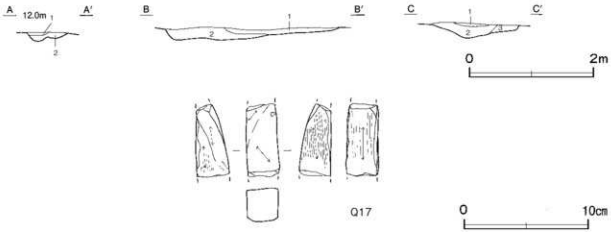
規模と形状　長さは 10.15 mで，Ｃ４h4 区から北東方向（Ｎ－37°－Ｅ）へ延び，Ｃ４f6 区で立ち上がっている。規模は，上幅 0.37 ～ 2.80 m，下幅 0.14 ～ 2.45 mで，確認面からの深さは 15 ～ 25cmで，南西部と北東部の比高は認められない。断面は浅いＵ字状で，壁は外傾している。

覆土　３層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），土師質土器片２点（焙烙），陶器片４点（碗類，大皿$_{7}$，皿類，擂鉢$_{8}$），磁器片２点（碗類），石器３点（砥石），礫１点が覆土中から出土している。

所見　時期は，特定できる土器が出土していないことから，不明である。機能は，地境の溝と考えられるが，詳細は不明である。



第129図　第8号溝跡・出土遺物実測図

第8号溝跡出土遺物観察表（第129図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 17	砥石	(5.8)	2.6	2.6	(61.0)	凝灰岩。	砥面5面	覆土中	

表21　その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
2	C 3b7～C 3 h	N～34°－W	直線	(19.60)	0.60～1.55	0.22～0.68	3～8	U字状	外傾	自然	縄文土器（深鉢），礫	SK57・65→本跡 SX 12とは関係不明
7	D 4 g2～C 4 h5	N－55°－E	直線	14.80	1.00～1.68	0.40～1.36	13～27	逆台形	外傾	自然	縄文土器（深鉢），土師器（坏），土師質土器（坩堝）。	SD 6との新旧関係は不明
8	C 4h4～C 4 f6	N－37°－E	蛇行	10.15	0.37～2.80	0.14～2.45	15～25	U字状	外傾	自然	縄文土器（深鉢），土師質土器（坩堝），石器（砥石）	SK151との新旧関係は不明

(3)　ピット群

今回の調査で4か所のピット群を確認した。中央部に3か所，東部に1か所が分布している。以下，文章と一覧表でそれぞれ掲載する。

第1号ピット群（第76図）

調査区中央部の標高12mほど，C 2 g0～C 3 c8区にかけての東西32.8 m，南北18.2 mの範囲から，ピット19か所を確認した。平面形は長径24～53cm，短径24～46cmの円形または楕円形で，深さが13～67cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

第1号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)				ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	C 2 g0	円形	24	×	24	31	5	C 3 g4	円形	44	×	42	21
2	C 2 g2	円形	47	×	46	13	6	C 3 g6	楕円形	40	×	35	27
3	C 3 f4	楕円形	35	×	30	18	7	C 3 g8	楕円形	50	×	38	23
4	C 3 g4	楕円形	33	×	26	19	8	C 3 g7	円形	38	×	38	26

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
9	C 3 f2	円形	42	×	40	57
10	C 3 g7	円形	43	×	40	21
11	C 3 g6	円形	26	×	26	31
12	C 3 g6	円形	26	×	24	25
13	C 3 h3	楕円形	33	×	24	36
14	C 3 g8	楕円形	53	×	28	14

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
15	C 3 e7	円形	34	×	32	15
16	C 3 d7	楕円形	44	×	38	13
17	C 3 d7	円形	36	×	35	67
18	C 3 c8	円形	42	×	42	18
19	C 3 e7	円形	34	×	32	20

第３号ピット群(第 76 図)

調査区中央部の標高 12 mほど，Ｃ４d3 ～Ｃ４f1 区にかけての東西 6.5 m，南北 7.5 mの範囲から，ピット 11 か所を確認した。平面形は長径 22 ～ 65cm，短径 19 ～ 55cmの円形または楕円形，及び不定形で，深さが 10 ～ 54cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

第３号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
1	C 4 e1	円形	51	×	47	21
2	C 4 e2	円形	60	×	55	16
3	C 4 f2	楕円形	36	×	28	20
4	C 4 f2	楕円形	58	×	43	44
5	C 4 f2	楕円形	62	×	46	18
6	C 4 e2	円形	26	×	24	18

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
7	C 4 d3	不定形	22	×	20	54
8	C 4 f1	楕円形	27	×	22	8
9	C 4 f1	楕円形	23	×	19	10
10	C 4 e1	[円形]	(24)	×	23	10
11	C 4 e2	[楕円形]	60	×	(52)	37

第４号ピット群(第 76 図)

調査区中央部の標高 12 mほど，Ｃ４f2 ～Ｃ４h3 区にかけての東西 6.3 m，南北 7.6 mの範囲から，ピット 9 か所を確認した。平面形は長径 28 ～ 56cm，短径 22 ～ 44cmの円形または楕円形で，深さが 21 ～ 60cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

第４号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
1	C 4 h3	楕円形	40	×	34	60
2	C 4 f3	楕円形	52	×	44	31
3	C 4 f3	楕円形	29	×	24	21
4	C 4 f2	楕円形	32	×	22	43
5	C 4 g4	楕円形	29	×	24	23

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			
			長径	×	短径	深さ
6	C 4 g2	楕円形	31	×	24	23
7	C 4 g2	楕円形	56	×	40	52
8	C 4 f2	円形	28	×	28	31
9	C 4 g3	楕円形	50	×	44	48

第５号ピット群（第 76 図）

調査区東部の標高 12 m ほど，Ｃ４e9 ～Ｃ４g6 区にかけての東西 11.2 m，南北 6.4 m の範囲から，ピット７か所を確認した。平面形は長径 22 ～ 38cm，短径 20 ～ 34cm の円形または楕円形で，深さが 22 ～ 55cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期・性格ともに不明である。

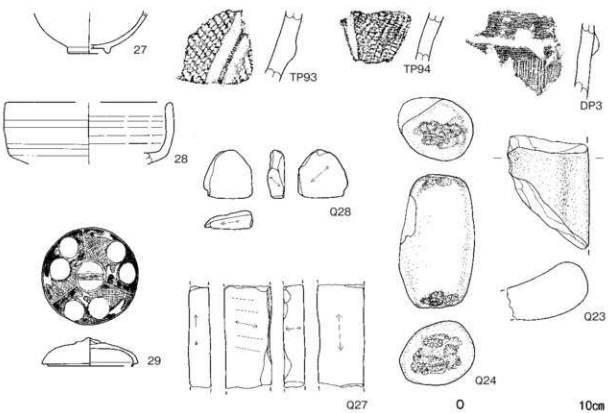
第５号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	×	短径	深さ
1	Ｃ４f9	楕円形	38	×	34	40
2	Ｃ４e9	円形	28	×	26	24
3	Ｃ４f9	楕円形	22	×	20	30
4	Ｃ４f9	楕円形	30	×	22	22
5	Ｃ４g8	円形	22	×	22	55
6	Ｃ４f7	楕円形	37	×	26	32
7	Ｃ４f7	円形	32	×	32	40

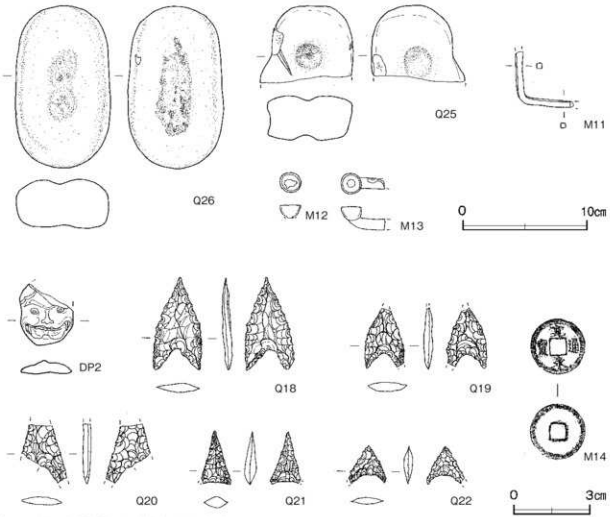
表 22　その他のピット群一覧表

番号	位置	範囲	規模 柱穴数	平面形	長径・(軸)(cm)	短径・(軸)(cm)	深さ (cm)	主な出土遺物	備考
1	Ｃ２g9 ～Ｃ３c8	東西 32.8 m 南北 18.2 m	19	円形・楕円形	24 ～ 53	24 ～ 46	13 ～ 67		
3	Ｃ４d3 ～Ｃ４f1	東西 6.5 m 南北 7.5 m	11	円形・楕円形・不定形	22 ～ 65	19 ～ 55	10 ～ 54		
4	Ｃ４f2 ～Ｃ４h3	東西 6.3 m 南北 7.6 m	9	円形・楕円形	28 ～ 56	22 ～ 44	21 ～ 60		
5	Ｃ４e9 ～Ｃ４g6	東西 11.2 m 南北 6.4 m	7	円形・楕円形	22 ～ 38	20 ～ 34	22 ～ 55		

(4)　遺構外出土遺物（第 130・131 図）



第 130 図　遺構外出土遺物実測図（１）



第 131 図　遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表（第 130・131 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
27	陶器	中皿	－	(3.4)	[3.3]	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	京焼系	表土	30%
28	陶器	香炉	[13.4]	(4.9)	－	緻密　浅黄	外面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	表土	50%
29	磁器	蓋	7.7	2.3	－	緻密　明緑灰	丸文　網目文	透明釉	肥前	表土	100%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	単節縄文LR→沈線を伴う隆帯	SK91 覆土中	
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	単節縄文RL　沈線	SK91 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	泥面子	(2.5)	2.2	0.6	(2.7)	長石・石英	にぶい橙	苔子面　鬼。	SK124 覆土中	
DP 3	円筒埴輪	－	－	1.2	－	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙	外面ハケ目調整　凸帯部貼付　凸帯部横ナデ 内面ヘラナデ	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 18	鏃	3.7	2.0	0.4	2.4	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	SK71 覆土中	PL18
Q 19	鏃	(2.4)	1.6	0.4	(1.2)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	表土	
Q 20	鏃	(2.4)	(1.8)	0.3	(1.3)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 21	鏃	2.1	(1.2)	0.4	(0.7)	チャート	平基無茎鏃　両面押圧剥離	SD－1 覆土中	PL.18
Q 22	鏃	1.5	(1.5)	0.4	(0.4)	黒曜石	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	表土	PL.18
Q 23	石錐	(9.0)	(6.5)	(4.6)	(289.3)	安山岩	表面磨り痕	表土	
Q 24	敲石	10.7	6.0	5.1	462.8	安山岩	敲打痕２か所	表土	PL.18
Q 25	凹石	(6.1)	7.5	3.5	(235.3)	安山岩	凹部２か所　２面に磨り痕	表土	
Q 26	凹石	12.8	7.7	4.0	592.8	安山岩	凹部３か所　２面に磨り痕	表土	PL.18
Q 27	砥石	(8.2)	3.8	1.7	(92.6)	砂岩。	砥面４面	SK125 覆土中	
Q 28	砥石。	3.9	3.9	1.4	16.8	角閃石デイサイト	砥面３面。	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 11	釘。	－	0.5	0.5	(9.0)	鉄	断面方形	SI－1 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 12	煙管	1.7	1.6	1.1	(1.8)	銅	火皿部	表土	
M 13	煙管	(3.5)	1.6	1.8	(3.5)	銅	雁首部	表土	PL.18

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M14	寛永通寶	2.23	0.64	0.11	2.34	銅	1668	新寛永	表土	

第４節　ま　と　め

1　はじめに

今回の調査では，縄文時代の竪穴建物跡５棟，土坑13基，江戸時代の掘立柱建物跡３棟，井戸跡２基，堀込地業遺構１基，粘土貼土坑６基，土坑７基，溝跡４条などを確認した。これにより，当遺跡は主に縄文時代の集落跡と江戸時代の屋敷跡であることが捉えられた。

ここでは，特筆できる縄文時代の竪穴建物跡と土坑について，及び地鎮祭祀が行われたと考えられる第１号掘込地業遺構と出土した輪宝墨書土器について，若干の考察を加えてまとめとしたい。

2　縄文時代の竪穴建物跡と土坑について

確認できた縄文時代の遺構は，いずれも中期後半の加曽利Ｅ式期に帰属するもので，竪穴建物跡５棟，土坑13基である。竪穴建物跡は，第１号竪穴建物跡と第２号竪穴建物跡が重複し，また，第３号竪穴建物跡と第４号竪穴建物跡が重複しており，調査区中央部で密集するように位置している様子が伺える。それぞれの竪穴建物跡の周辺には，同時期の土坑が隣接して掘り込まれており，それぞれ関連あるものと想定できる。

第３・４号竪穴建物跡周辺の第66・67・69・92～94号土坑は，それぞれ規模や形状が類似し，特徴として円筒状の形状や底面が平坦であることが挙げられる。また，深さが52～88cmと深いことから，これらの土坑は，縄文時代中期後半における貯蔵穴と考えることができる。重複関係や位置などから，第３号竪穴建物跡には第66･94号土坑，第４号竪穴建物跡には第92･93号土坑がそれぞれ付属していたものと捉えられる。第67・69号土坑も第３・４号竪穴建物跡に近接する位置であることから，同様の竪穴建物跡に付属する貯蔵穴と考えられる。なお，第１・２号竪穴建物跡の南西には，建物跡とほぼ同時期の第39・42・45・49号

土坑が密集しており，第３・４号竪穴建物跡と貯蔵穴のセット関係を伺わせるものであるが，これらの土坑の形状は浅く，壁が外傾しているなど異なった特徴を示しており，貯蔵穴であるかの判断はできなかった。

第126号土坑は，覆土上面に第４号竪穴建物跡の炉が付設される特異な土坑である。この類例は，埼玉県伊奈町原遺跡で確認されている[1]。第126号土坑と同じ時期と考えられる原遺跡の第16号住居跡では，深鉢を炉に据えているもので，その下に径約90×80cm，深さ60cmの掘り込みを持つことから，炉を構築する際の掘方として捉えられている[2]。これを踏まえると，当遺跡の第126号土坑についても第４号竪穴建物跡における炉の掘方と捉えることが可能で，また，第４号竪穴建物跡の炉については土器埋設炉であった可能性がある。

3　第１号掘込地業と出土した輪宝墨書土器について

ここでは，今回の調査で確認できた第１号掘込地業遺構，及びそこから出土した輪宝墨書土器について，若干の考察を行うものとする。

まず，掘込地業遺構の性格を理解するため，遺構から出土した輪宝墨書土器についての観察を行う。出土した輪宝墨書土器は合計２点で，１点は東コーナー部の壁際から，もう１点は覆土中から出土している。他の遺物の大半が破片で出土しているが，東コーナー部から出土した輪宝墨書土器はほぼ完形の状態で，正位で出土していることを考えると，この輪宝墨書土器は埋納されたものと考えることができる。覆土中から出土した輪宝墨書土器は，口縁部の破片であった。ほぼ完形で出土した輪宝墨書土器は，土師質土器の小皿で，口径10.1cm，器高3.6cm，底径5.2cmを計測し，同時代の小皿と比べて器高が高く，口縁部から底部にかけて丸みを持つ特徴を有している。底部には回転糸切り痕を残し，内面全体に輪宝文様が墨で描かれている。輪宝文様は，輞部を二重の円，輻部を直線，轂部を二重の円によって表現している。轂部内には，胎蔵界大日如来の可能性が考えられる梵字が墨書きされている。輪宝墨書土器は，全国の城館跡や屋敷跡から出土することが知られている[3]。第１号掘込地業遺構から出土した輪宝墨書土器は，輪宝文様が簡略化されている。先の研究によると，簡略化された輪宝を描く墨書土器は江戸時代を中心とした年代観が与えられており[3]，18世紀後半以降と考えられる第１号掘込地業遺構の時期ともおおよそ合致している。

輪宝墨書土器は，地鎮祭祀で使われる土器として，江戸の屋敷跡や寺社跡などでの出土例が確認されている[4]。また，地鎮祭祀で使われる土師質土器の小皿は，２枚一組の合わせ口の状態で出土することが多い[5]。今回の第１号掘込地業遺構で確認できた２点の輪宝墨書土器についても，合わせ口の状態で埋納された可能性があるが，１点は破片での出土であることから，詳細についてはわからない。

次に，第１号掘込地業遺構についてであるが，規模は長軸11.43 m，短軸6.45 m，深さ94cmと他の遺構と比べて大きく，平面形は不整長方形を呈している。構築土は38層に分層でき，暗褐色土や黒褐色土を主体とした土砂を壁際から流れ込むように埋め戻した後，中央部を中心に黒色土や黒褐色土を主体とした土砂を何層にも突き固めて構築している。輪宝墨書土器は，東コーナー部の壁際において，流れ込むようにして埋め戻された覆土中から出土しており，覆土を埋め戻している途中で埋納されたものと考えられる。また，何層にも突き固められた層は，重量ある上屋を建てる際の版築と考えられ，構築建物には瓦葺きの重量ある蔵などを推測できるが，礎石列や柱穴列を確認することはできなかった。

以上のことから，本跡から出土した輪宝墨書土器は，蔵などの建造物を建てる際の地鎮祭祀で使われたものと考えられる。

4　おわりに

今回の調査によって，当遺跡が縄文時代中期後半の集落跡と江戸時代の屋敷跡であることが明らかとなり，縄文時代の竪穴建物跡と土坑のセット関係，江戸時代の地鎮祭祀について若干の考察を行い，その遺構の性格について多少言及することができた。これにより，それまで知られていた五霞町の史実について，補完あるいは新たな視点を持たすことができれば，幸いである。

註

1）村田章人　「原／谷畑　上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告」『財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　Ⅰ』第179集　1997年1月

2）『財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第179集によると，第16号住居跡の覆土から出土した土器片と，炉下の掘方と考えられる掘り込みから出土した土器片が接合したことが報告されている。それにより，報告書では住居廃絶時に二次的に構築された「擬製的な炉」の可能性が述べられている。なお，当遺跡の第4号竪穴建物跡出土の土器片と第126号土坑から出土した土器片については，接合関係は認められなかった。

3）a　池田敏宏　「輪宝墨書土器に関する基礎的考察　－墨書輪宝文様の検討－」『研究紀要』第17号　2009年3月

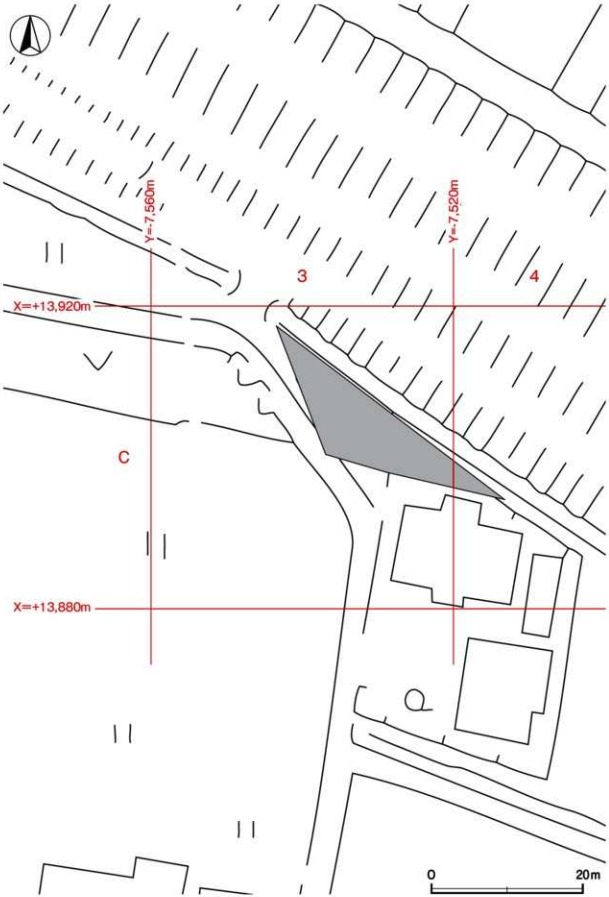
b　論文中の「Ⅱ群Ａ２類」に相当し，編年では16世紀後葉から19世紀後半にかけての年代が位置付けられている。この文様表現の特徴として，「金属製輪宝の模倣度は弱いものの，「輪宝形」に簡略・表象化＝輪宝文様の定型化をはかった点で，本意匠（デザイン）の持つ意義は大きい」と指摘されている。

4）小林謙一　「埋められたカワラケ」『江戸在地系土器の研究　Ⅴ』　2002年5月

5）「埋められたカワラケ」によると，地鎮祭祀で使われる土師質の小皿には，密教関連の輪宝の他に，風水と関連のある方位等が墨書されている例が報告されている。

参考文献

・鈴木道之助　『図録・石器入門事典（縄文）』　1991年2月
・坂詰秀一　『仏教考古学事典』　2003年5月
・埼玉県庄和町教育委員会　『庄和町史編さん資料（十一）　石造物Ⅰ－南桜井地区の調査－』　2004年3月
・和田清典　吹野富美夫　浅野和久　荒蒔克一郎　駒澤悦郎　『宮後遺跡２　やさしさのまち「桜の郷」整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告』第240集　2005年3月
・江原英　「縄紋中期後半における住居諸形態の観察　－栃木県内の加曽利ＥⅢ式期を中心として－」『研究紀要』第13号　2005年3月
・小林達雄　『総覧　縄文土器』　2008年6月
・駒澤悦郎　成島一也　作山智彦　「大谷貝塚　国道125号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第317集　2009年3月
・小川貴行　「石川西遺跡　茨城空港テクノパーク整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第321集　2009年3月



第 130 図　殿山塚調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第5章　殿　　山　　塚

第1節 調 査 の 概 要

殿山塚は，猿島郡五霞町の北部に位置し，利根川右岸の標高約 12 mの台地上に立地している。調査面積は187㎡で，調査前の現況は宅地・畑地である。

調査の結果，塚１基（江戸時代），土坑９基（江戸時代），溝跡１条（江戸時代）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ(60 × 40 × 20cm)に３箱出土している。主な遺物は，縄文土器(深鉢)，土師器(甕)，須恵器（高台付坏），土師質土器（小皿，焙烙），瓦質土器（火鉢，焙烙），陶器（中碗，天目茶碗，灯明皿，中鉢，擂鉢，大瓶，土瓶，急須），磁器（小碗，中碗，大碗，蓋，小皿，中皿，猪口），青磁（香炉），石器（砥石，硯，手水鉢），鉄製品（煙管，寛永通寶），銅製品（寛永通寶），瓦などである。

第2節 基 本 層 序

調査区東部（Ｃ３e8 区）の台地平坦部にテストピットを設定し，基本土層（第 133 図）の観察を行った。

第１層は，黒褐色を呈する河川の氾濫による堆積層である。炭化物・ローム粒子を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 12 ～ 18cmである。

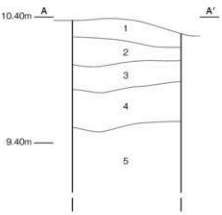
第２層は，黒褐色を呈する河川の氾濫による堆積層である。ロームブロック・炭化物を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 10 ～ 23cmである。

第３層は，暗褐色を呈する河川の氾濫による堆積層である。ロームブロックを少量，炭化粒子を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 18 ～ 22cmである。

第４層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 29 ～ 32cmである。

第５層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強い。下部は湧水のため未掘で，層厚は不明である。

遺構は，第１層上面で確認している。



第 133 図　基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

1　江戸時代の遺構と遺物

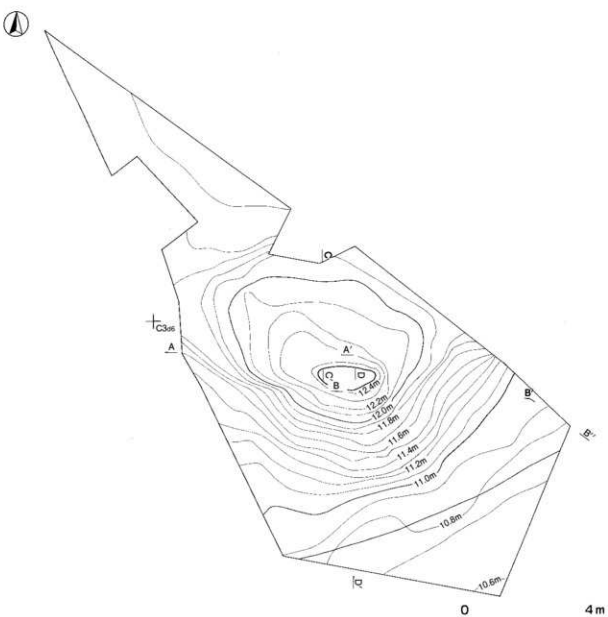
当時代の遺構は，塚1基，土坑9基，溝跡1条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 塚

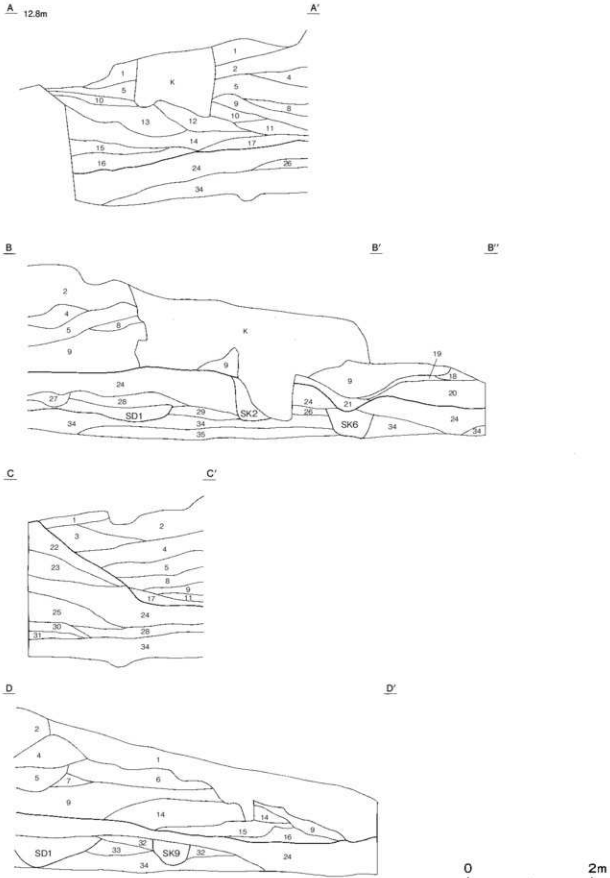
第1号塚（第134～139図）

位置　調査区中央部のC3a5～C4g2区にかけての，標高12mほどの台地平坦部に位置している。

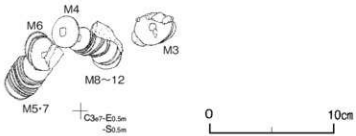
重複関係　第1～9号土坑，第1号溝跡の上部に構築されている。



第134図　第1号塚実測図（1）



第135図　第1号塚実測図（2）



第136図　第1号塚実測図（3）

規模と形状　東部が調査区域外へ延び，西部は現代の道路に削平されているため，短径は8.5 m，長径は12.1 mしか確認できなかった。形状は不定形で，高さは176cmである。

構築土　21層に分層できる。ロームブロックや粘土粒子を含んだ堤防の盛土と考えられる黒褐色土や暗褐色土，及び灰黄褐色土の上部に，暗褐色土やにぶい黄褐色土，及び褐色土の第1～21層を積み上げて構築している。第1層は近代以降の盛土，第2～21層は江戸時代の構築時の盛土で，第35層は旧表土である。第22～25層は，ロームブロックが含まれた黒褐色土や暗褐色土を突き固めていることから，利根川の堤防の可能性がある。第26・28～34層は河川の氾濫による自然堆積層と考えられる。第27層は小範囲の炭化物が中量含まれた層であることから，塚構築以前の土坑の可能性もあるが，詳細は不明である。

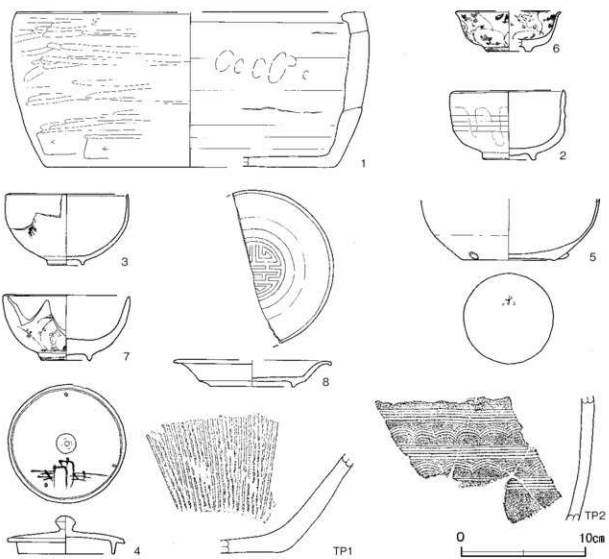
構築土解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
12　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・粘土粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
15　灰黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物微量
16　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
18　にぶい黄褐色　ローム粒子微量
19　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
20　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
21　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
22　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
23　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
24　灰黄褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
25　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
26　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
27　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック微量
28　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子微量
29　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
30　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
31　黒　褐　色　炭化粒子微量

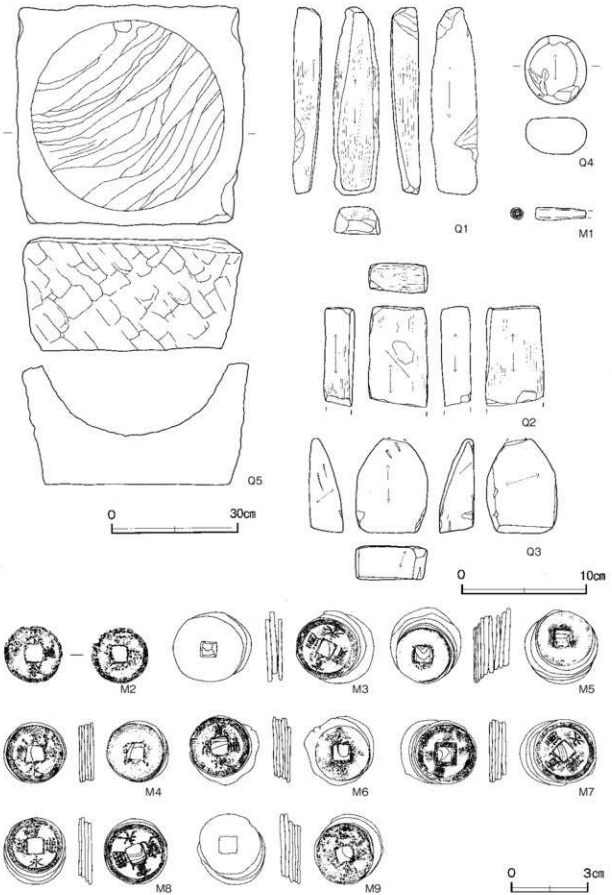
32　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
33　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
34　黒　褐　色　粘土粒子微量
35　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片55点（小皿3，甕5，甕類12，焙烙15，焜炉類9，不明11），瓦質土器片8点（火鉢5，焙烙3），陶器片56点（中碗11，天目茶碗1，碗類6，土瓶蓋1，皿類6，中鉢3，擂鉢6，鉢類7，大瓶1，瓶類6，甕。1，急須2，不明5），磁器片48点（小碗1，中碗8，大碗1，碗類23，蓋1，小皿1，中皿2，瓶類3，煙口1，香炉1，急須。1，不明5），青磁片2点（碗類），石器10点（砥石6，砥石。1，手水鉢1，不明2），鉄製品8点（鎌。1，不明7），銅製品51点（煙管1，銭貨3，寛永通寶47），瓦5点，礫3点が，構築土中から出土している。45枚の銭貨が連なった緡銭は，南部の塚構築土下から出土し，埋納した掘り込みが確認できなかったことから，塚の構築以前に置かれたものと考えられる。

所見　時期は，出土遺物から19世紀代と考えられる。性格は，調査区周辺に文化10年（1813年）の年号が刻まれた念仏供養塔や文政13年（1830年）の年号が刻まれた十九夜塔が安置されていることから，それとの関連が考えられるが，詳細は不明である。緡銭は，塚の構築以前に置かれたと考えられることから，塚を構築する際に地鎮などの祭祀が行われていた可能性がある。



第137図　第1号塚出土遺物実測図（1）



第138図　第1号塚出土遺物実測図（2）

第 139 図　第 1 号墳出土遺物実測図（3）

第 1 号墳出土遺物観察表（第 137 ～ 139 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	瓦質土器	火鉢	[27.7]	12.4	[23.0]	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黑	普通	体部外面横位のヘラ削り後、横位のヘラ磨き　体部上端内面強い指ナデ　体部内面指頭圧痕　底部移目	構築土中層	50%　PL20

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
2	陶器	中碗	8.8	5.6	4.2	緻密　灰白	外・内面施釉　銅錆	灰釉	瀬戸・美濃	構築土中層	90%　PL20
3	陶器	中碗	[9.6]	5.2	2.8	緻密　灰白	外・内面施釉	灰釉	京焼系	構築土中	40%　PL20
4	陶器	土瓶蓋	7.5	3.1	－	緻密　にぶい黄橙	外面施釉　淵香文。	灰釉	益子系	構築土中	100%　PL20
5	陶器	甕。	－	(4.9)	7.2	緻密　灰黄	外面施釉　三足貼付　底部外面に「赤」の墨書	柿釉	不明	構築土中層	30%
6	磁器	小碗	[8.4]	3.3	[3.6]	緻密　灰白	花唐草文	透明釉	瀬戸・美濃	構築土中	30%
7	磁器	中碗	[10.1]	5.2	3.8	緻密　オリーブ灰	草花文	透明釉	肥前	構築土中	50%　PL20
8	磁器	小皿	[12.6]	2.1	[6.6]	緻密　灰白	見込字模様	透明釉	瀬戸・美濃	構築土中	50%　PL20
TP 1	陶器	擂鉢	－	－	－	緻密　明赤褐	内面櫛目	－	堺・明石系	構築土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	土師質土器	焙炉類	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい赤褐	外面櫛書文	構築土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	14.9	3.7	2.2	149.4	凝灰岩。	砥面 4 面	構築土中	
Q 2	砥石	(7.9)	4.7	2.4	(163.5)	砂岩。	砥面 5 面	構築土中	
Q 3	砥石	(7.5)	5.7	2.7	(162.7)	砂岩	砥面 4 面	構築土中	
Q 4	砥石。	5.6	5.0	3.0	42.5	角閃石デイサイト	砥面 1 面。	構築土中	
Q 5	手水鉢	52.6	52.2	27.9	不明	安山岩。	外面工具による荒削りの痕跡　内面工具による削りの痕跡	構築土中	

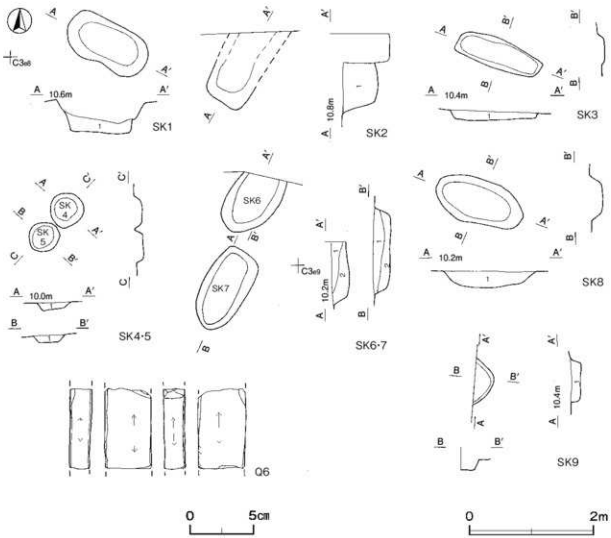
番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	煙管	(5.0)	1.0	1.0	(3.1)	銅	吸口部	構築土中	

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M 2	寛永通寶	2.43	0.6	0.11	1.52	銅	1636	古寛永　鐚銭の一部	構築土中層	
M 3	銭貨	－	－	0.70	9.55	鉄 銅	1739 1668	1・2 枚目鉄銭　3 枚目新寛永	構築土中層	
M 4	銭貨	－	－	0.60	11.90	銅	1636	1 枚目古寛永　2 ～ 5 枚目銅銭	構築土中層	
M 5	銭貨	－	－	1.48	22.71	銅 鉄	－ 1739	1 ～ 4 枚目銅銭　5・6 枚目鉄銭　7 枚目銅銭 8 枚目鉄銭　9 枚目銅銭	構築土中層	
M 6	銭貨	－	－	0.78	12.50	銅 鉄	1739 －	1 枚目寛永通寶（磨滅謝著）　2・3 枚目銅銭 4 ～ 5 枚目鉄銭　6 枚目銅銭	構築土中層	PL20
M 7	銭貨	－	－	0.69	12.52	銅 鉄	1739 1668	1 枚目銅銭　2 枚目鉄銭　3 枚目銅銭 4 枚目新寛永	構築土中層	
M 8	銭貨	－	－	0.51	12.66	銅	－ 1636	1 枚目寛永通寶（磨滅謝著）　2・3 枚目銅銭 4 枚目古寛永	構築土中層	PL20
M 9	銭貨	－	－	0.90	15.48	鉄 銅	1739 －	1 枚目鉄銭　2 ～ 5 枚目銅銭 6 枚目寛永通寶（磨滅謝著）	構築土中層	
M10	寛永通寶	2.40	0.60	0.10	2.48	銅	1636	古寛永　鐚銭の一部	構築土中層	

番号	銭　種	径	孔幅	厚さ	重量	材　質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M11	寛永通貨	2.39	0.60	0.11	2.35	銅	－	磨滅顕著　縁銭の一部	構築土中層	
M12	銭貨	－	－	1.09	12.74	銅 鉄	1636 1739	1枚目古寛永　2枚目銅銭　3枚目鉄銭 4枚目銅銭　5枚目古寛永。	構築土中層	
M13	寛永通貨	2.37	0.69	0.14	2.58	銅	1668	新寛永	構築土中	
M14	寛永通貨	2.49	0.58	0.18	2.87	銅	1636。	古寛永。	構築土中	

(2)　土坑

当時代の土坑9基を確認した。これらの土坑については，遺構実測図と遺物実測図，土層解説，及び一覧表を掲載する。



第140図　江戸時代の土坑，第6号土坑出土遺物実測図

第1号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第2号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第3号土坑土層解説
1　黒　褐　色　砂粒中量，ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

第4号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量

第5号土坑土層解説
1　灰　白　色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

第6号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量

第７号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子微量

第８号土坑土層解説
1　灰　白　色　粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量

第９号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第６号土坑出土遺物観察表（第 140 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q６	砥石	(6.4)	3.8	1.7	(78.1)	砂岩	砥面４面	構築土中	

表 23　江戸時代の土坑一覧表

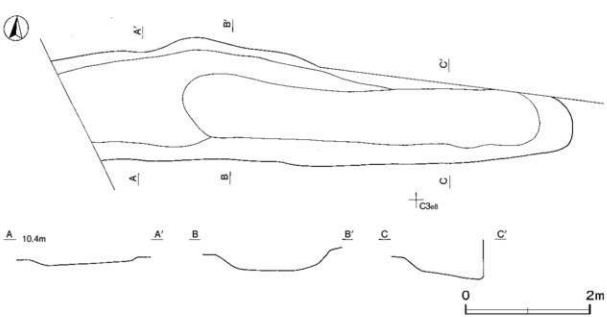
番号	位置	長径（軸）方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ（cm）					
1	Ｃ３d8	Ｎ－62°－Ｗ	楕円形	1.38 × 0.66	24	平坦	外傾	－		本跡→ＴＭ１ 第６土坑出土遺物
2	Ｃ３d8	Ｎ－30°－Ｅ	〔隅丸長方形〕	(1.28) × 0.73	54	平坦	外傾	人為		本跡→ＴＭ１
3	Ｃ３e8	Ｎ－70°－Ｗ	隅丸長方形	1.38 × 0.48	14	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器（幼児）	本跡→ＴＭ１
4	Ｃ３e8	－	円形	0.54 × 0.50	10	平坦	外傾	－		本跡→ＴＭ１
5	Ｃ３e8	－	円形	0.50 × 0.50	12	平坦	外傾	人為		本跡→ＴＭ１
6	Ｃ３d8	Ｎ－33°－Ｅ	〔楕円形〕	(1.10) × 0.75	27	平坦	外傾	自然	土師質土器（鉢類）， 縄文（晩期）	本跡→ＴＭ１
7	Ｃ３e8	Ｎ－29°－Ｅ	楕円形	1.34 × 0.68	26	平坦	外傾	自然	礫	本跡→ＴＭ１
8	Ｃ３e8	Ｎ－68°－Ｗ	楕円形	1.48 × 0.70	28	皿状	外傾	－		本跡→ＴＭ１
9	Ｃ３e7	Ｎ－８°－Ｅ	〔隅丸長方形〕	(0.72) × (0.30)	16	平坦	ほぼ直立	人為		本跡→ＴＭ１

(3)　溝跡

第１号溝跡（第 141 図）

位置　調査区中央部のＣ３d6 区～Ｃ３d8 区，標高 11 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号塚を掘削後に確認した。



第 141 図　第１号溝跡実測図

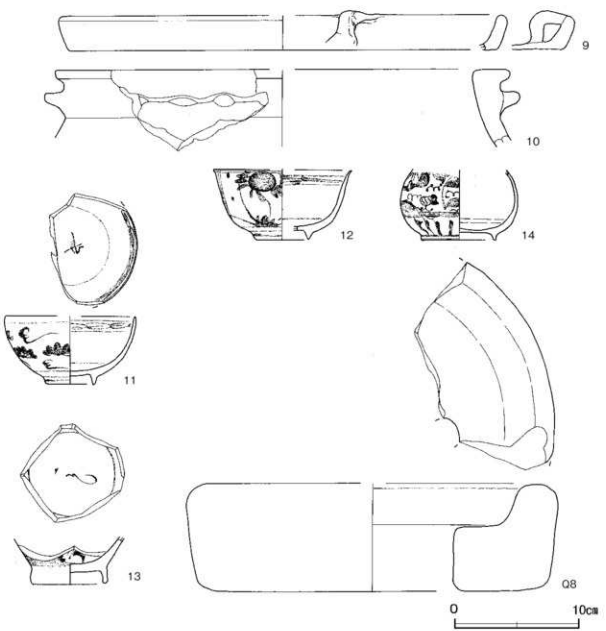
規模と形状　西部が調査区域外へ延びているため，長さは8.29 mしか確認できなかった。C 3d6区から東方向（N－90°－E）へ直線的に延び，C 3d7区で立ち上がっている。規模は，上幅1.71～1.98 m，下幅0.88～1.53 mで，確認面からの深さは11～40cmである。溝底は西部から東部へ向かって緩やかに傾斜し，西部と東部との比高は21cmである。断面は逆台形で，壁は外傾している。

所見　時期は，形状や19世紀代と考えられる第1号塚が構築される以前に掘り込まれていたことから，19世紀以前の江戸時代と考えられる。機能は，地境の溝と考えられるが，詳細は不明である。

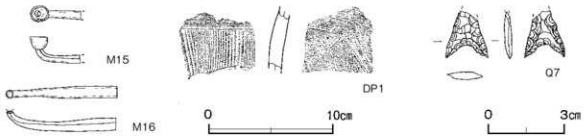
2　その他の遺構と遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。

(1)　遺構外出土遺物（第142・143図）



第142図　遺構外出土遺物実測図（1）



第143図　遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表（第142・143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師質土器	焙烙	[35.2]	2.8	[34.0]	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面横ナデ　外面煤付着　耳部貼付　底部砂目	表土中	10%
10	土師質土器	風炉。	[36.0]	(6.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	指頭圧痕による波状の凸帯を貼付	表土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
11	磁器	中碗	[10.4]	5.4	3.8	緻密　灰白	松葉文様　見込『寿』の略字。	透明釉	瀬戸・美濃	表土中	50%　PL20
12	磁器	中碗	[10.8]	5.6	[4.2]	緻密　灰白	菊草花文様	透明釉	瀬戸・美濃	表土中	30%
13	磁器	中碗	－	(3.9)	[5.8]	緻密　明緑灰	草花文	透明釉	肥前	表土中	30%
14	磁器	瓶類	－	(5.6)	6.0	緻密　明緑灰	花唐草文　縞	透明釉	肥前	表土中	30%　PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	円筒埴輪	－	－	1.2	48.5	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	外面ハケ目調整　内面ハケ目調整後強いナデ	表土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	鏃	(1.9)	1.7	0.3	(0.7)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧調整	表土中	
Q 8	石臼	[36.0]	(8.4)	8.6	(7133.3)	安山岩。	上臼　供給口一部残存　主溝及び副溝磨滅	表土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	煙管	(4.0)	1.3	(1.9)	(3.9)	銅	雁首部	表土中	
M16	煙管	(8.8)	1.0	(1.0)	(8.3)	銅	雁首部　火皿部欠損　接合部有り	表土中	

第4節　ま　と　め

今回の調査で，江戸時代の塚1基，土坑9基，溝跡1条を確認した。塚は旧堤防跡と考えられる斜面部に盛土したもので，規模は確認した範囲で，長径12.1 m，短径8.5 m，高さ176cmで，平面形は不定形である。構築土は21層に分層でき，構築土以下は黒褐色土や暗褐色土を突き固めた堤防と考えられる層が確認できた。また，その下には黒褐色土を主体とした河川の氾濫による堆積層が広がり，さらにその下では旧表土を確認することができた。塚の構築土は，ロームブロックを含み，固く突き固められている。時期は，出土遺物から19世紀代と考えることができる。出土した遺物は，陶器や磁器の碗，砥石のほか，塚南部の構築土の下からは，45枚の寛永通寶を連ねた緡銭が出土している。周辺に掘り込まれた様子が伺えないことから，塚の構築直前に置かれたものと考えられ，塚を築く際の地鎮等の祭祀に伴う可能性がある。

塚の周辺には，念仏供養塔と考えられる文化10年（1813年）の年号が刻まれた如意輪観音像や，文政13年（1830年）の年号が刻まれた十九夜塔が安置されている。塚の構築時期と同時代であるため，その関連を推測することはできるが，石造物は後世に動かされている可能性が高いため[1]，今回の調査では明らかにすることはできなかった。

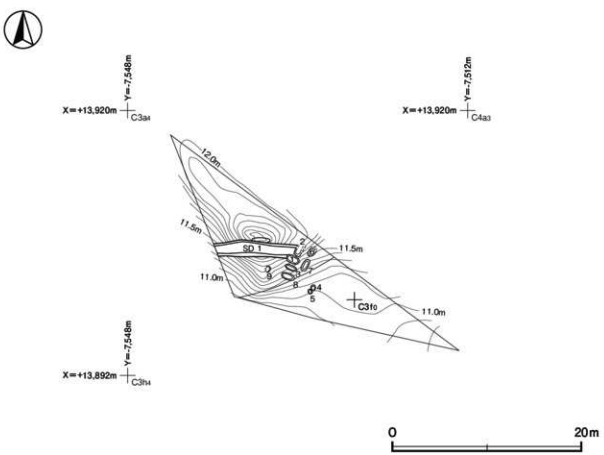
上記の堤防と考えられる構築土に覆われた第6・9号土坑及び第1号溝跡と，構築土を掘り込んでいる第2号土坑が確認できたことから，同じ第1号塚の構築以前の遺構でも，時期差が生じていることがわかる。このことは，当遺跡が極僅かな期間での土地利用ではなく，江戸時代における長期的な土地利用を行っていたものと考えられる。

註

1）近隣住民の話では，調査区周辺の石造物を集めて一か所に安置したという話を頂いている。

参考文献

・花野井均　『庄和町史編さん資料（十一）　石造物Ⅰ－南桜井地区の調査－』　2004年3月



第144図　殿山塚遺構全体図

付　　章

上原遺跡で確認された粘土貼土坑の分析及び新田遺跡で確認された堀跡の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　はじめに

五霞町に所在する上原遺跡と新田遺跡は，ともに利根川中流域の右岸に広がる猿島台地北西端部付近に相当する標高 12 mほどの台地上に位置する。この付近の台地の形成年代は，詳細な確認はされておらず，先の研究では酸素同位体ステージ5c-5aとされている[1]。これは武蔵野台地のM1 面からM2面に対比されることから，猿島台地はおよそ 10 ～ 8 万年前頃に形成された台地と考えられる。

上原遺跡では，江戸時代の掘立柱建物跡や土坑などが確認されている。本報告では，江戸時代の粘土貼土坑の覆土を対象とし，寄生虫卵分析及び土壌理化学分析（リン酸・カルシウム分析）を行い，その性格に関わる資料を作成する。

新田遺跡では，中世の方形竪穴遺構や地下式坑，江戸時代の掘立柱建物跡や土坑などが確認されている。本報告では，中世の堀跡における覆土中のテフラを確認し，遺構の構築年代に関わる情報を得るものとする。

2　上原遺跡で確認された粘土貼土坑の分析

(1)　試料

試料は，江戸時代の粘土貼土坑のSN 6 とSN 7 の底面直上の覆土から，それぞれ 1 点ずつ採取された土壌の計 2 点である。発掘調査の所見によれば，両遺構ともに径約 1 m，深さ 25 ～ 28cmを測る土坑であり溜め井跡，肥溜め跡の性格が考えられている。

SN 6 の試料は暗褐色を呈するシルト質の土壌であり，現生と思われる植物根が含まれる。SN 7 の試料は黄褐を呈する砂質の土壌で，目立った含有物は認められない。

(2)　分析方法

ア　寄生虫卵分析

試料 10cc を正確に秤り取る。これを水酸化カリウムによる泥化，篩別，重液（臭化亜鉛，比重 2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し，寄生虫卵及び花粉を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり，グリセリンで封入してプレパラートを作製し，400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉化石について同定・計数する。同定は，当社保有の現生標本の他，寄生虫卵は佐伯ほか（1998）[2]，斉藤・田中（2007）等[3]を，花粉化石は島倉（1973）[4]，中村（1980）[5]等を参考にする。

結果は，寄生虫卵については堆積物 1 cc あたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として，花粉化石については堆積物 1 cc あたりに含まれる個数，及び同定・計数結果の一覧表として表示する。寄生虫卵数，及び花粉数については有効数字を考慮し，10 の位を四捨五入して 100 単位に丸める。また，100 個体未満は「<100」で表示する。花粉化石群集については散布図も表示し，図中の木本花粉は木本花粉総数を，草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として，百分率で出現率を算出し図示する。

イ　土壌理化学分析

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法，カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解－原子吸光法[6]に従った。以下に各項目の操作工程を示す。

a　分析試料の調製

試料を風乾後，土塊を軽く崩して2㎜の篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし，分析に供する。また，風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し，0.5㎜篩を全通させ，粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については，105℃で4時間乾燥し，分析試料水分を求める。

b　リン酸，カルシウム含量

粉砕土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し，はじめに硝酸（HNO_3）約10mlを加えて加熱分解する。放冷後，過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後，水で100mlに定容し，ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し，リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し，干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(3)　結果（表1，図1）

ア　寄生虫卵分析

SN 6及びSN 7のいずれからも，寄生虫卵は確認されなかった。なお，いずれの試料からも花粉化石を確認したが，1ccあたり100個体未満であった。

花粉化石についてみると，かろうじて定量解析が出来る程度の産出が認められた。花粉化石の保存状態はSN 6では比較的良好～普通程度で，SN 7では全体的に悪い。花粉化石群集はいずれの試料も類似し，木本花粉ではマツ属が優先する。その他ではモミ属，ツガ属，スギ属，サワグルミ属，コナラ属コナラ亜属などが認められる。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し，キク亜科等を伴う。また，SN 6からは栽培種であるベニバナ属も僅かであるが確認された。

表1　寄生虫卵分析結果

種　類	SN 6 粘土貼土坑覆土	SN 7 粘土貼土坑覆土
寄生虫卵数（個/cc）	0	0
花粉・胞子数（個/cc）	<100	<100
木本花粉		
マキ属	2	–
モミ属	1	8
ツガ属	2	8
マツ属複維管束亜属	54	34
マツ属（不明）	38	57
スギ属	2	2
ヤマモモ属	1	–
サワグルミ属	3	1
クマシデ属－アサダ属	1	–
ハンノキ属	1	–
コナラ属コナラ亜属	2	2
エゴノキ属	1	–
草本花粉		
イネ科	42	27
カヤツリグサ科	1	1
アカザ科	1	1
キンポウゲ科	1	1
アリノトウグサ属	–	2
オミナエシ属	–	1
ベニバナ属	1	–
キク亜科	7	10
タンポポ亜科	–	1
不明花粉		
不明花粉	5	3
シダ類胞子		
イノモトソウ属	–	1
他のシダ類胞子	28	113
合　計		
木本花粉	108	112
草本花粉	53	44
不明花粉	5	3
シダ類胞子	28	114
合計（不明を除く）	189	270

1）寄生虫卵数，花粉・胞子数については，10の位を四捨五入して100単位に丸めている。
2）<100：100個体未満。

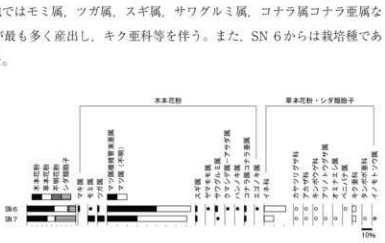


図1.　粘土貼土坑覆土の花粉化石群集

木本花粉は木本花粉総数，草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。○●は1％未満を示す。

イ　土壌理化学分析（表2）

リン酸含量は，SN 6で13.5P_2O_5mg/gを示し，SN 7でそれよりやや低い約6.2P_2O_5mg/gである。カルシウム含量は，SN 6で約4.2CaOmg/gを示し，SN 7でそれよりもやや高い約7.5CaOmg/gを示す。

(4) 考察

SN 6 と SN 7 のいずれの試料からも，寄生虫卵は確認できなかった。寄生虫卵の分解に対する抵抗性は花粉化石と同程度とされている[7]。花粉化石の産状をみると，いずれの試料からも確認できるが，堆積物 1 cc 当たりの個数は 100 個体未満と極めて少ない。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合，元々取り込まれる花粉量が少なかった，あるいは，取り込まれた花粉が消失した，という 2 つの可能性がある。花粉化石の保存状態をみると，SN 6 では比較的良好であるが，SN 7 では全体的に悪い。また，確認できた花粉も生産量の多い種類やある程度分解が進んでも同定可能な種類である。一般的に花粉の堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合，花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされる[8]。粘土貼土坑の深さは 25 ～ 28cm 程度であることから，土坑内は好気的環境であったと考えられる。以上の点から，確認できた花粉化石は分解の影響を受けていると推測でき，寄生虫卵も分解の影響を受けて消失した可能性がある。

表 2　土壌理化学分析結果

道構	試料名	土性	土色	P_2O_5 (mg/g)	CaO (mg/g)
SN 6	粘土貼土坑覆土	SiCL	10YR3/3褐	13.50	4.20
SN 7	粘土貼土坑覆土	LS	2.5Y5/3黄褐	6.21	7.52

備考
(1) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
SiCL… シルト質埴壌土（粘土 15 ～ 25%，シルト 45 ～ 85%，砂 0 ～ 40%）
LS… 壌質砂土（粘土 0 ～ 15%，シルト 0 ～ 15%，砂 85 ～ 95%）
(2) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
(3) P_2O_5：リン酸含量　CaO：カルシウム含量

一方，土壌中に普通に含まれるリン酸含量，いわゆる天然賦存量については，いくつかの報告事例[9]があるが，これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約 3.0P_2O_5mg/g 程度である。また，人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では 5.5P_2O_5mg/g という報告例があり[10]，当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では 6.0P_2O_5mg/g を越える場合が多い。カルシウムの天然賦存量については普通 1 ～ 50CaOmg/g と言われ[11]，含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。

これらの事例と比較すると，今回の試料については特にリン酸含量において，天然賦存量の上限を大きく超える値であることがわかる。SN 6 と SN 7 はともに土坑内のリン酸が富化される要因があった可能性が高い。リン酸の富化される要因として，人間も含めた動物遺体あるいは人間も含めた動物の排泄物などの可能性がある。上述したように，今回の分析では寄生虫卵を確認することができなかったが，分解してしまった可能性もあり，粘土貼土坑が便槽であった可能性がある。また，リン酸富化の要因が人間の遺体であれば墓坑で，動物遺体であれば墓坑または貯蔵穴などの可能性もある。現時点では，土坑の性格をこれ以上特定することはできないが，今後の類例の検出と分析事例の蓄積により，さらに具体的な推定のできることが期待される。

なお，確認できた花粉化石は，上述のように土坑内に花粉が取り込まれにくい状態であった可能性があり，確認できた花粉化石も分解の影響を受けていると推測できる。したがって，当時の周辺植生を正確に反映していない可能性があるが，このことを考慮した上で土坑埋没時の古植生について述べる。

本本類の産状をみると，マツ属が優先する。この内，亜属まで同定できたものは全てマツ属複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く，他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能であるほか，極端な陽樹であることから伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類である。マツ属の急増は日本各地で知られ，その原因は自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためで[12]，関東地方では約 2,000 ～ 1,000 年前とされる[13]。SN 6 と SN 7 が機能していた江戸時代には，遺跡周辺でもマツ属などからなる二次林が広く存在していた可能性がある。また，サワグルミ属，クマシデ属，アサダ属，ハンノキ属，コナラ属コナラ亜属などは，渓谷沿いや河畔などに生育する種が含まれることから，利根川などの周辺河川沿いやその集水域に生育していたものに由来すると思われる。また，周辺の森林にはマキ属，モミ属，ツガ属，スギ属等の針葉樹，ヤマモモ属，エゴノキ属などの広葉樹も生育していたことが窺える。

草本植生では，イネ科，キク亜科が多く認められる。これらは開けた明るい場所に生育する「人里植物」を多く含む分類群で，カヤツリグサ科，アカザ科，キンポウゲ科，タンポポ亜科など，同様の生育環境を示すものが確認される。よって，これらは遺跡内やその周囲の草地植生に由来すると思われる。なお，SN 6から栽培種であるベニバナ属の花粉が確認され，当時の周辺での利用が窺える。

3　新田遺跡で確認された堀跡の分析

(1)　試料（図2）

試料は，第1号堀跡のBラインとされる断面の堀跡覆土から採取された5点の土壌である。発掘調査の所見によれば，第1号堀跡は，調査区北西部で確認された上幅約3.0m，深さ約1.3mの箱堀状を呈する堀跡で，底面や壁際にピットも確認され，中世の堀跡となる可能性が指摘されている。

Bラインでは，上位より1～5，7～14，16・17の順に分層された覆土層が確認されている。試料は，これらのうち，2層，4層，5層，12層，16層の各層から2点ずつ採取されている。試料番号は，層名に－1，－2を付している。今回の分析では，試料番号2－1，4－1，5－1，12－1，16－1の5点を選択した。いずれの試料も，黒褐色を呈する土壌いわゆる黒ボク土で，試料番号12－1と16－1は砂質であり，他の試料はシルト質である。

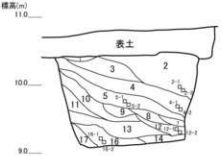


図2　第1号堀跡　Bラインの覆土層断面及び試料採取位置
図中の番号は層名，□は試料採取位置と試料番号

(2)　分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り，水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し，上澄みを流し去る。この操作を繰り返して得られた砂分を乾燥させた後，実体顕微鏡下にて観察する。観察は，テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし，その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

(3)　結果（表3）

5点の試料からは軽石が確認でき，スコリア及と火山ガラスは認められなかった。軽石は，試料番号12－1から多量，試料番号16－1と5－1から中量，試料番号4－1と2－1から少量含まれている。軽石は，最大径2.5mm前後で，灰褐色～淡褐灰色を呈した発泡がやや不良～やや良好のものが主体を占めている。また，極めて微量の淡褐灰色を呈した発泡良好の軽石も含まれ，他に斜方輝石の斑晶を包有するものも認められる。

(4)　考察

5点の試料から確認できた軽石は，同様の特徴を呈することから，全て同一のテフラに由来すると考えられる。軽石の特徴と新田遺跡の地理的位置から，確認できた軽石は，平安時代末の天仁元年（AD1108年）に浅間火山から噴出した浅間Bテフラに由来するものである[14]。

第1号堀跡の覆土層における軽石の産状から，覆土層中にAs-Bの降下堆積層を認められず，As-Bの軽石を含んだ黒ボク土が繰り返し堀内に流れ込んだ状況が推定できる。したがって，堀の構築は，As-Bの降下堆積した12世紀初頭以降の年代であったと考えられる。ただし，堀底直上の16層からすでに中量程度の軽石が

確認できることから，As-B 降灰以後それほど時間の経っていない時期に掘り込まれた可能性がある。このことは，第 1 号堀跡を中世の堀とする発掘調査の所見と整合すると言える。

表3　テフラ分析結果

遺構名 断面名	層位	試料 番号	スコリア	火山ガラス	軽石		
			量	量	量	色調・発泡度	最大 粒径
第 1 号堀跡 B ライン	2	2-1	−	−	＋＋	GBr ～ pBrG･sb ～ sg(opx)>>pBrG･g(opx)	2.0
	4	4-1	−	−	＋＋	GBr ～ pBrG･sb ～ sg(opx)>>pBrG･g(opx)	2.5
	5	5-1	−	−	＋＋＋	GBr ～ pBrG･sb ～ sg(opx)>>pBrG･g(opx)	2.0
	12	12-1	−	−	＋＋＋＋	GBr ～ pBrG･sb ～ sg(opx)>>pBrG･g(opx)	2.7
	16	16-1	−	−	＋＋＋	GBr ～ pBrG･sb ～ sg(opx)>>pBrG･g(opx)	2.2

凡例　－；含まれない，(+)；きわめて微量，＋；微量，＋＋；少量，＋＋＋；中量，＋＋＋＋；多量．
GBr: 灰褐色，pBrG: 淡褐灰色．
g: 良好，sg: やや良好，sb: やや不良，b: 不良，(opx): 斜方輝石斑晶包有，最大粒径は mm.

註

1）貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編　2000 『日本の地形 4　関東・伊豆小笠原』 東京大学出版会 349 頁

2）佐伯秀治・升秀夫・早川典之　1998 『臨床検査シリーズ　寄生虫鑑別アトラス－オールカラー版－』 株式会社メディカルサイエンス社　162 頁

3）斉藤崇人・田中義文　2007 「寄生虫卵殻の形態分類　徳永重元博士献呈論集」 パリノ・サーヴェイ株式会社　407-416 頁

4）島倉巳三郎　1973 『日本植物の花粉形態，大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第 5 集　60 頁

5）中村純　1980 『日本産花粉の標徴　Ⅰ Ⅱ（図版）大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』 第 12・13 集　91 頁

6）「土壌標準分析・測定法委員会編」 1986 「土壌標準分析・測定法」 博友社　354 頁

7）黒崎直・松井章・金原正明・金原正子　1993 「糞便堆積物の分析　－特に寄生虫卵分析について－」 日本文化財科学会第 10 回大会研究発表要旨集　日本文化財科学会　115 頁

8）a　中村純　1967 「花粉分析」 古今書院　232 頁
　b　徳永重元・山内輝子　1971 「花粉・胞子　化石の研究法」 共立出版株式会社　50-73 頁
　c　三宅尚・中越信和　1998 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態，植生史研究」 6・15-30 頁

9）a　Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M　1980 「土壌の化学，岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳」 学会出版センター　309 頁
　b　川崎弘・吉田澪・井上恒久　1991 「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量，農林水産省　農林水産技術会議事務局編」 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発　23-27 頁
　c　天野洋司・太田健・草場敬・中井信　1991 「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量，農林水産省農林水産技術会議事　務局編　土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」 28-36 頁

10）註 9 b に同じ

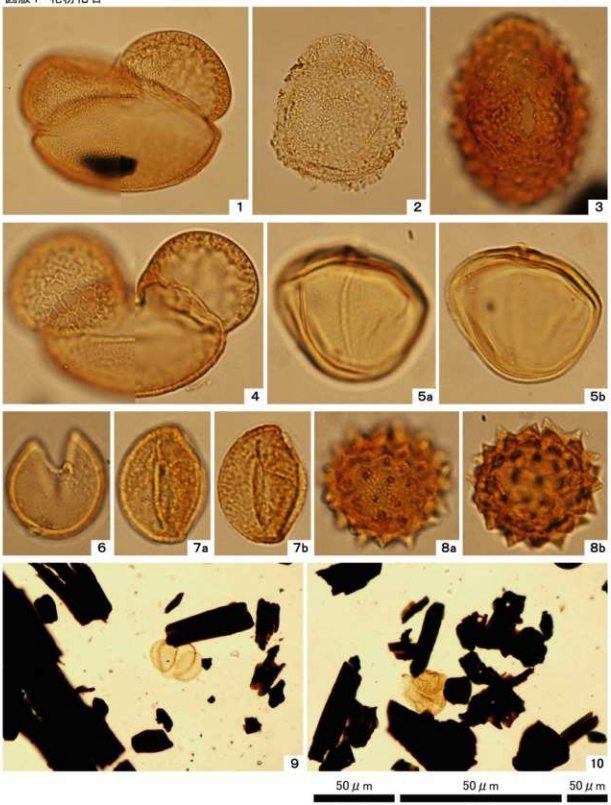
11）藤貫正　1979 「カルシウム，地質調査所化学分析法」 52・57-61. 頁

12）波田善夫　1987 「くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究－松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の攪乱とその動態について－　資料集」 日本自然保護協会　41-49 頁

13）内山隆　1998 「関東地方の植生史」 安田　喜憲・三好　教夫（編著）『図説　日本列島植生史」 朝倉書店　73-91 頁

14）新井房夫　1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層」 考古学ジャーナル 157　41-52 頁

図版1　花粉化石



1. モミ属(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
2. ツガ属(上原遺跡　SN7; 粘土貼土坑覆土)
3. ベニバナ属(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
4. マツ属(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
5. イネ科(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
6. スギ属(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
7. コナラ属コナラ亜属(上原遺跡　SN7; 粘土貼土坑覆土)
8. キク亜科(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
9. 分析プレパラートの状況(上原遺跡　SN6; 粘土貼土坑覆土)
10. 分析プレパラートの状況(上原遺跡　SN7; 粘土貼土坑覆土)

写　真　図　版

新　田　遺　跡
上　原　遺　跡
殿　　山　　塚

新田遺跡出土陶磁器

第1号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第2号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第3号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第4号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第5号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第6号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第１号地下式坑
完　掘　状　況

第1号方形竪穴遺構
第２号地下式坑
完　掘　状　況

第３号地下式坑
完　掘　状　況

第 1 号 堀 跡
完 掘 状 況

第2号掘立柱建物跡
遺 物 出 土 状 況

第2号掘立柱建物跡
土 層 断 面

第１・２号
掘立柱建物跡
完掘状況

第１号水塚
確認状況

第１号水塚
土層断面

第 1 号 水 塚
建造物確認状況

第8号粘土貼土坑
遺物出土状況

第 48 号 土 坑
遺物出土状況

第202号土坑
完掘状況

第2・3号溝跡
完掘状況

調査区南東部
完掘状況

第２号掘立柱建物跡，第48・202号土坑，第１号水塚，第２号溝跡出土陶磁器

SK 202-71

SK 202-70

TM 1-23

SK 202-77

SK 202-68

HG 1-127

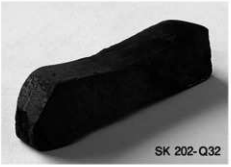
TM 1-35

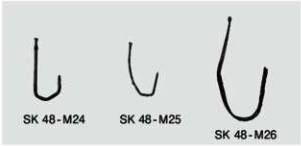
SK 202-84

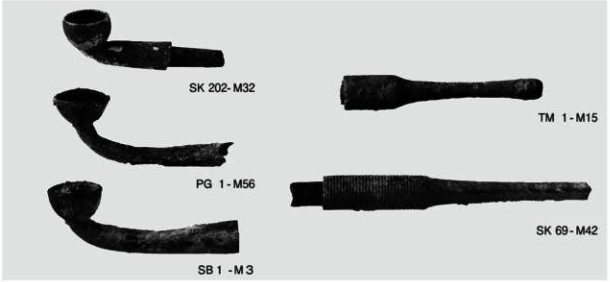
SK 202-72

第202号土坑，第１号水塚，第1号整地層出土陶磁器

第２号掘立柱建物跡，第161・202・205・206・216号土坑，第１号ピット群出土遺物



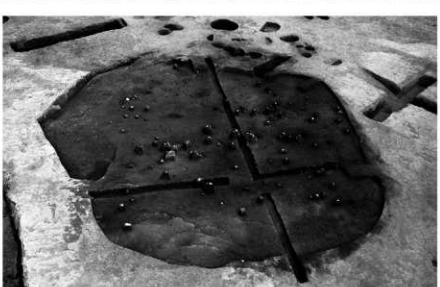




第１・２号掘立柱建物跡，第１号水塚，第48・69・97・187・202号土坑，第１号ピット群出土遺物

第1号竪穴建物跡
遺物出土状況

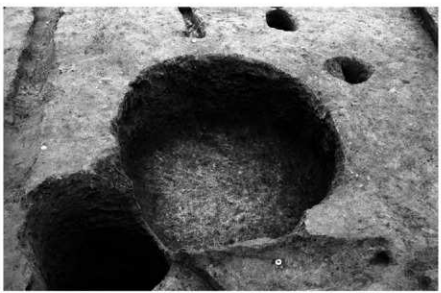
第1・2号
竪穴建物跡
完掘状況



第3号竪穴建物跡
遺物出土状況

第 3・4 号
竪穴建物跡
完 掘 状 況

第 66 号 土 坑
完 掘 状 況



第 93 号 土 坑
完 掘 状 況

第１号井戸跡
完　掘　状　況

第１号掘込地業遺構
遺物出土状況

第１号掘込地業遺構
完　掘　状　況

第７号粘土貼土坑
完　掘　状　況

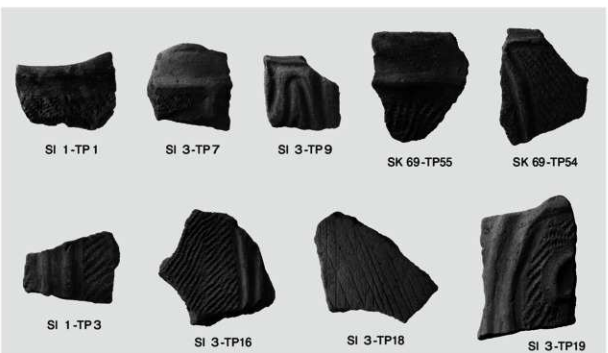
第 65 号　土　坑
遺物出土状況

第 101 号　土　坑
遺物出土状況

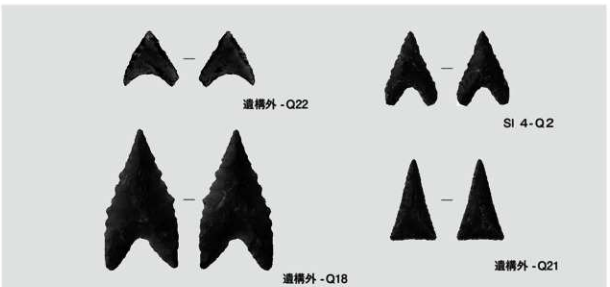
第１号溝跡
完　掘　状　況

第５号溝跡
遺物出土状況

調査区西部
土坑集中範囲
完　掘　状　況



第１・３号竪穴建物跡，第２号井戸跡，第69号土坑，第１号掘込地業遺構出土土器・陶器

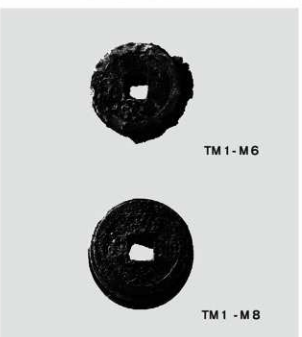


第４号竪穴建物跡，第１号掘立柱建物跡，第２号井戸跡，第１号粘土貼土坑，遺構外出土遺物

第　1　号　塚
確　認　状　況

第　1　号　塚
土　層　断　面

第　1　号　塚
土　層　断　面



第 1 号塚，遺構外出土遺物

抄　　録

ふりがな	しんでんいせき　かんばらいせき　とのやまづか
書名	新田遺跡　上原遺跡　殿山塚
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書3
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第395集
著者名	佐藤一也
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029－225－6587
発行日	2015（平成27）年3月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
新田遺跡	茨城県猿島郡五霞町 大字山王山字新田361－1番地ほか	08542 － 072	36度 6分 38秒	139度 45分 47秒	11 m	20130701 ～ 20131031	2,461 ㎡	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う事前調査
上原遺跡	茨城県猿島郡五霞町 大字小手指字上原2141－1番地ほか	08542 － 024	36度 7分 42秒	139度 44分 11秒	12 m	20130401 ～ 20130630	2,803 ㎡	
殿山塚	茨城県猿島郡五霞町 大字大福田字殿山837－1番地ほか	08542 － 071	36度 7分 32秒	139度 44分 58秒	11 m	20130701 ～ 20131031	187 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新田遺跡	集落跡	室町	方形竪穴遺構　8基 地下式坑　3基 堀跡　1条	土師質土器（小皿），陶器（片口鉢，甕），銅製品（咸平元寶）	
		江戸	掘立柱建物跡　2棟 井戸跡　3基 水塚　1基 炉跡　2基 粘土貼土坑　5基 土坑　121基 溝跡　4条 整地層　1か所	土師質土器（小皿・焙烙・中甕），瓦質土器（焙烙・火鉢），陶器（小坏・中皿・灯明皿・片口鉢・擂鉢・大瓶・仏花瓶・油徳利），磁器（中碗・小皿・仏飯器），青磁（花瓶），土製品（土人形），石器（石臼・砥石・賽子），金属製品（鎌・釘・煙管・銭貨・釣針・包丁・銅線），椀形鍛冶滓	
		時期不明	土坑　44基 溝跡　1条 ピット群　4か所		
上原遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡　5棟 土坑　13基	縄文土器（深鉢），石器（鏃）	
		江戸	掘立柱建物跡　3棟 井戸跡　2基 掘込地業遺構　1基 粘土貼土坑　6基 土坑　7基 溝跡　4条	土師質土器（小皿・焙烙・中甕），瓦質土器（火鉢・焙烙），陶器（小坏・中碗・小皿・灯明受皿・擂鉢・花瓶・香炉），磁器（中皿・大瓶・紅猪口），土製品（土笛・鷹鍔），石器（石臼・砥石），鉄製品（鎌・釘），銅製品（煙管・銭貨・銅線）	
		時期不明	土坑　133基 溝跡　3条 ピット群　4か所		
殿山塚	塚	江戸	塚　1基	土師質土器（小皿・焙烙），瓦質土器（火鉢），陶器（中鉢・大瓶），磁器（猪口・香炉），石器（手水鉢），鉄製品（鎌），銅製品（緡銭）	
	集落跡	江戸	土坑　9基 溝跡　1条		

要約	新田遺跡では，18世紀後半から19世紀後半にかけての水塚を伴う屋敷跡を確認し，多量の土器や陶磁器が出土した。上原遺跡では，縄文時代中期後半の竪穴建物跡と周辺に配置される貯蔵穴を確認し，江戸時代の掘込地業遺構からは輪宝墨書土器が出土した。殿山塚では，寛永通寶を連ねた緡銭が出土している。

印　刷　仕　様

編　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7
		Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5.5
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	６×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類　EPSON ES－10000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　刷	印刷所へはAdobe InDesign CS5.5でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第395集

新　田　遺　跡
上　原　遺　跡
殿　山　塚

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書３

平成27（2015）年　3月13日　印刷
平成27（2015）年　3月16日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http://www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社高野高速印刷
〒310－0853　水戸市平須町1822－122
TEL　029－305－5588